

日本国憲法

初谷良彦

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

法と国家は人間のためにある。憲法は、このような法の目的と国家の責務を明らかにしようとするものである。なるべく具体的な現実の問題と関連させて説明したり、裁判例などにも触れ、憲法はわれわれの生活の中に入り込んでいる身近な、確かな存在であることを実感できるようにしたい。

【授業計画】

- 第1回 近代国家と憲法
- 第2回 日本国憲法制定の経緯
- 第3回 日本国憲法の基本原理
- 第4回 人権の歴史
- 第5回 人権の内容・享有主体
- 第6回 人権規定の効力
- 第7回 生命・自由・幸福追求権
- 第8回 法の下での平等
- 第9回 信教の自由と政教分離
- 第10回 表現の自由
- 第11回 人身の自由と刑事手続
- 第12回 国会・内閣
- 第13回 司法制度
- 第14回 地方自治
- 第15回 期末試験

【評価方法】

主として単位認定試験の成績によって評価する。

【テキスト】

憲法講義Ⅰ（第2版）（初谷良彦著 成文堂）

【参考文献・資料】

授業の際、随時紹介する。

民主主義と人権

初谷良彦

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

民主主義の根本原則は人権（人間としての権利）の尊重にある。人権の理想と実現が民主主義のあり方と人間の生き方に大きく影響する。民主主義の制度と仕組みについて、人権を保障する法律やその実態にふれながら、現代の課題として講義する。

【授業計画】

- 第1回 民主主義の歴史（ペリクレスからウィルソンまで）
- 第2回 近代民主主義の変容（市民社会から大衆社会へ）
- 第3回 現代民主主義の問題点
- 第4回 国家の正統性について
- 第5回 国家と社会契約の思想
- 第6回 議会制民主主義の歴史
- 第7回 議院内閣制と大統領制
- 第8回 多数決原理と民主主義
- 第9回 代議制民主主義と選挙制度
- 第10回 現代の民主主義体制
- 第11回 人権総論
- 第12回 人間の尊厳と人権
- 第13回 障害者の国務請求権
- 第14回 少数者の人権
- 第15回 平等権

【評価方法】

主として単位認定試験の成績によって評価する。

【テキスト】

概説 デモクラシーと国家（初谷良彦他 成文堂）

【参考文献・資料】

講義の際、随時紹介する。

哲学的人間論

高畑祐人

1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

東西の著名な哲学者の古典的な哲学論にふれながら、現代社会がかかえる諸課題についていかに対応し、対処すべきかについて講義をする。

【授業計画】

今日の環境問題は、人間と自然の関わり方の問題である。つまり、近代以降、技術の力で自然を自分たちのために改造し続けて来たことの問題である。そして、自然への関わり方は、「自然観」によって規定されている。だから、自然との関わり方・自然観は、人間の生き方を反映している。自然との関わり方を考え直すことが、人間の善い生き方を考えることにもなるのである。ところで近代的な自然科学的な自然観の以前に自然観の長い歴史が知的遺産として横たわっている。そこから学ばない手はない。そこで、この講義では西洋哲学の歴史の中の主な哲学者の思想を「自然」の概念を手がかりにして通覧し、「自然とのよりよい関わり方＝人間のより善い生き方」の本質的要素を考えてみたい。

1. なぜ自然の哲学か
2. 神話的自然観—ギリシャ神話におけるプロメテウス観の移り変わり—
3. ソクラテス以前の自然哲学—タレスからアナクサゴラスまで—
4. ソフィストとソクラテス・プラトン
5. アリストテレス
6. デカルト
7. カント
8. シェリングとロマン主義的自然観
9. 進化論的自然観

【評価方法】

学期末の筆記試験あるいはレポート、授業への参加態度などで総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献・資料】

西洋哲学史 上・下（シュヴェーグラー 岩波文庫）
 西洋哲学史（岩崎武雄 有斐閣）
 哲学の原風景（荻野弘之 NHKライブラリー）
 野生の歌が聞こえる（レオポルド 講談社学術文庫）
 エマソン論文集 上（エマソン 岩波文庫）

生命倫理学

加藤太喜子

1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

生命科学の進歩と発達に伴い、倫理的・法的・社会的視点の重要性が指摘されるようになった。新旧さまざまな問題を挙げながら、依拠する規範のあり方をともに考えたい。

【授業計画】

次の主な項目に従って授業を展開する。

1. 生命倫理学の成り立ち
2. インフォームド・コンセント
3. 脳死と移植医療
4. 生殖医療
5. 代理母
6. 人工妊娠中絶
7. 出生前診断
8. 優生思想とは
9. よりよい自己決定に向けて

【評価方法】

レポート及び期末に行う筆記試験により評価する。

【テキスト】

授業中に指示する

【参考文献・資料】

優生学と人間社会（米本昌平他著 講談社現代新書）
 クローン人間（粥川準二著 光文社新書）

宗教的人間論

磯部 隆

1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

世界には数多くの宗教があるが、現在、さまざまな問題を起こしている。宗教の持つ本来の役割と意味について、人間の生きざまという観点から講義する。

【授業計画】

第一回は授業概要の具体的な説明を行ないます。

第二回以降は、テキストに既して、宗教の問題を考えます。本年度はとくに儒教と宗教との関係について考えてみたいと思います。孔子から始まる儒教は、天という観念を中心にして独特な宗教意識をもち、民間の呪術や鬼神信仰と対立してきました。そうした伝統のもつ意味を考えたいと思います。

さらに、本年度は、儒教を原始仏教との比較で考えます。仏教をめぐっては東洋における「宗教的人間」を語るができないからです。

【評価方法】

毎回の出席状況を基本とします。

【テキスト】

1. 積尊の歴史の実像 (磯部隆著 大学教育出版)
2. 孔子と古代オリエント (磯部隆著 大学教育出版)

ジェンダーと社会Ⅰ

北仲千里

1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

男らしさ、女らしさは最近大きく変わってきています。しかし、現在でも人生の始まりから最後まで、雨が降った時さす傘の色からくしゃみの大きさまで、その人の性別によって大きな違いが出てしまうことも事実です。また、男女の差異と平等は、今日大きな社会問題にもなっています。この講義では、社会学的な見方をベースに「男であること、女であること」や家族、そしてセクシュアリティにまつわるテーマを考えていきます。

【授業計画】

まず最初にジェンダーという考え方についてとりあげます。そのことと家族に関するテーマは深く関係しています。また性別の問題と性(セクシュアリティ)の問題は、深く関わり合い、私たちの心のどこか深い部分、自己意識にまで影響を及ぼしているといえるかもしれません。そうしたテーマをビデオを見たり、統計で確かめたり、新聞を読んだりしながら2・3週ずつ取り上げていきます。

- テーマ1 ジェンダーとは何か
「ジェンダー」概念1 身体の違いとジェンダー
「ジェンダー」概念2 「差別」と「区別」
- テーマ2 ジェンダーと結婚・家族
(1) 「専業主婦」の社会学
(2) 結婚と社会
(3) 家庭の中のジェンダー
(4) 家族をめぐる社会問題
- テーマ3 働くこと、働かないこととジェンダー
(1) 男女の賃金と働き方
(2) 家事労働と職業労働
- テーマ4 セクシュアリティの社会学
(1) 性の規範とジェンダー
(2) レイプやストーカー犯罪と社会
(3) セクシュアル・ハラスメント
(4) 同性愛は異常かそれとも純粋な愛か

【評価方法】

講義中に数回行うミニレポートと、期末の試験との両方で評価します。単なる「出席点」というのはありません。期末試験の際は、持ち込み自由とします。

【テキスト】

教科書は指定しません。毎回プリントを配布します。

【参考文献・資料】

女性学・男性学～ジェンダー論入門～ (伊藤公雄・國信潤子著 有斐閣)
新訂 ジェンダーの社会学 (江原由美子・山田昌弘著 放送大学テキスト)

現代社会と倫理

大野波矢登

1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

民主主義社会と自由主義社会は人々に多くの権利を保障しているが、それは人々がモラルや義務を守ることを前提としている。現代社会の守るべき倫理と課題について講義する。

【授業計画】

科学技術の進歩によってもたらされた現代の社会問題を、ビデオ等の資料を使って紹介し、その解決のためにわれわれは何をすべきかを考える。

1. 倫理的視点から見た現代の社会問題
2. 倫理学の概念と理論に関する若干の考察
3. 倫理学理論の応用 (道徳的意思決定の方法)
4. 社会の安全性と科学技術者の責任
クローン技術はどのように応用されるべきか?
5. 環境倫理の主張
自然保護は何をめざしているのか?
6. インターネット時代の倫理
知的財産は誰のものか?
7. 内部告発と社会の浄化
内部告発は行なうべきか?

【評価方法】

小レポート(3、4回授業時に書いてもらう予定)と期末レポートの成績によって評価する。

【テキスト】

特に指定しない。プリントを配布する。

【参考文献・資料】

入門講義 倫理学の視座 (新田孝彦著 世界思想社)
先端技術と人間 21世紀の生命・情報・環境 (加藤尚武著 NHKライブラリー)
環境と倫理 自然と人間の共生を求めて (加藤尚武編 有斐閣アルマ)

ジェンダーと社会Ⅱ

中島美幸 山下智恵子

オムニバス 1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

ジェンダーの観点から文学作品を分析することによって、〈女/男〉の規範がどのようにテキストにおこまれているかを読み解き、さらにテキストがどれほど現実の女と男の生と性を規定してきたかを検証する。

(中島美幸兼任講師) 「女性の表現」の観点から日本文学を歴史的に跡づける。特に近代以降の女性表現については外国の女性文学と比較しつつ読み解いていく。

(山下智恵子兼任講師) 現代の文学作品を中心に、家族、母娘などの人間関係を、ジェンダーの視点から検証する。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 〈ことば〉とジェンダー
- 第3回 〈書く女〉の登場 (1)
- 第4回 〈書く女〉の登場 (2)
- 第5回 女性を描く男性作家のまなざし (1)
- 第6回 女性を描く男性作家のまなざし (2)
- 第7回 母と娘の物語 (1)
- 第8回 母と娘の物語 (2)
- 第9回 家族の物語
- 第10回 文学の政治性
- 第11回 文学と映像文化
- 第12回 まとめ

*内2回は山下智恵子担当。他は中島美幸担当。

【評価方法】

出席状況、毎回の感想、学期末のレポートを総合して評価する。

【テキスト】

なし。随時、プリントを配布する。

【参考文献・資料】

講義の中でその都度紹介する。

女性学・男性学

中島美幸

1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

男女についての定説化した知識、それによって作り出された役割、人格の内部に及ぶ性別化の影響とその結果生まれる病理などについて、さまざまな事例や理論を紹介し検討する。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 女性学・男性学の誕生
- 第3回 男女をめぐる国際比較
- 第4回 作られる「女らしさ」「男らしさ」
- 第5回 恋愛と結婚
- 第6回 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ
- 第7回 女性と労働
- 第8回 男性と労働
- 第9回 家族をめぐる諸問題(1)
- 第10回 家族をめぐる諸問題(2)
- 第11回 将来展望・男女のライフスタイル
- 第12回 まとめ

【評価方法】

毎回の授業の感想と中間レポート(2～3回)の内容、さらに学期末テストで総合的に評価する。

【テキスト】

なし。随時、プリントを配布する。

【参考文献・資料】

講義の中でその都度紹介する。

大衆文化論

岡本信也

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

現在は大衆化社会と言われ、文化にもまた大衆に愛され、大衆に浸透したものが社会で高い地位を占めている。大衆化社会の中で流行しているさまざまな文化について考察し講義する。

【授業計画】

- 第1回 大衆文化の成立について。大正・昭和初期の新聞・ラジオ・映画などに現れた文化を見る。
- 第2回 モダン都市の文化現象を考える。洋装化しはじめる衣風俗、喫茶店や食堂(デパート)など。
- 第3回 戦後の大衆文化のはじまり。アメリカン・ファッションと風俗。
- 第4回 映像とイメージ。テレビと家庭電化製品の普及、マンガ、イラストの隆盛。
- 第5回 大量生産システムとデザイン。浪費され続けるデザイン。
- 第6～8回 身近な暮らしを見つめて、文化とは何かを考える。外食風俗をめぐって。身体のおしゃれをふりかえって。住み方についてなどを具体的に考えてみる。
- 第9回 現代の風俗・生活を観察することから、文化創造となる問題点を発見する。流行と習慣。
- 第10回 続いて、風俗・生活の観察から課題の設定をする。情報と日常生活について。
- 第11回 自由討議「市民文化とは何か」
- 第12～13回 テマごとに報告(形式は随時)する。

【評価方法】

出席状況と報告書の内容によって評価する。

【参考文献・資料】

しぐさの日本文化(多田道太郎著 筑摩書房)
戦後日本の大衆文化史(鶴見俊輔著 岩波書店)
超日常観察記(岡本信也・靖子著 情報センター出版局)

暮らしの法律

辻田芳幸

1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

私たちの生活に身近な法律問題について考察する。たとえば、とても有益な発明の結果である製品がよく売れて会社が大量に儲けた場合、発明者である従業員の見返りはどうあるべきか。ブランドのマークを勝手に付けた商品(いわゆるコピー商品)はどうしていけないのだろうか。またネット上に他人が作成した写真や音楽をアップロードするときの注意点、さらにはネット上で商品を購入するときの注意点などについて解説したい。本講義ではできるだけ具体例を挙げながら話を進めたいと考えている。

【授業計画】

- 第1回 導入(情報社会と知的財産・契約)
- 第2回 特許というシステム
- 第3回 著作権というシステム
- 第4回 Webへの写真掲載と肖像権
- 第5回 インターネット上の名誉毀損
- 第6回 オンラインショッピングと契約法
- 第7回 オンラインショッピングと契約法
- 第8回 インターネット犯罪
- 第9回 著作権ビジネス
- 第10～12回 その他の問題点

【評価方法】

出席状況、試験の結果などを総合的に考慮する

文化人類学

稲村哲也

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

人間は無意識のうちに、生れ育った文化によって自己が形成される。世界の民族の生活や価値観の多様性と共通性を知り、文化とは何かを考える。

【授業計画】

- この授業では、教授者が設立に携った野外民族博物館や、現地調査を行った様々な民族・社会の事例を取りあげて比較しながら、世界の民族文化の多様性の基底に通じる共通性、規則性、モデルなどを分析する。とくに、生業形態、家族と親族、結婚、宗教と儀礼などを考察する。
- 1～2: アメリカ先住民: 先住民からみたアメリカの歴史、北西海岸インディアン、ナバホ族などの文化
 - 3～4: 南米先住民: インカ帝国とスペインによる征服、ケチュア族の文化、日本人のペルーへの移住など
 - 5: 日本の先住民: アイヌの歴史と文化と現状
 - 6～7: 遊牧民の文化: モンゴル、アラブの遊牧民の生活と文化など
 - 8～9: 身内と他人(家族・親族、婚姻、カーストなど): 中国漢民族の家族と親族、インドの家族とカースト制度
 - 10～11: 宗教と儀礼: ネパールの仏教とヒンドゥー教を中心に
 - 12～13: 人の一生と通過儀礼: 成人式、結婚式、葬式など

【評価方法】

授業中に適宜提出してもらうショート・レポート(平常点)、学期中に実施する小テスト、および学期末にリトルワールドを見学して書くレポートによる

【テキスト】

リトルワールド・ガイドブック(野外民族博物館リトルワールド)

【参考文献・資料】

授業時に適宜、配布、紹介する。

比較文化論

文 嬉眞

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

国際化が進み、世界の異文化が日本に入り、日本の文化も世界に伝わるようになった。世界の文化の特徴をあげ、日本の文化との比較を考察しながら、異文化交流についても講義する。

【授業計画】

本講義では、主に「日本の文化」に焦点を当て考えることにする。特に、外国人（見る側）が日本という異文化（見られる側の文化）と直接触れた際、どのように評価（表現方法）・認識したかを考察し、その考察からなぜそのような評価・認識があらわれるかを分析する。そして、得られた分析によって外国人（見る側）がもつ「文化」を再分析する。すなわち、外国人（見る側）が「異文化」（見られる側の文化）を見るまなざしに関して考察することによって、自文化（見る側の文化）を再認識するだろう。

1. 異文化との理解・誤解に関する一般的な概論
2. 異文化交流史における本講義の位置付け
3. 前近代の外国人（見る側）における「日本認識」および外国人（見る側）がもつ「文化」に関する考察
4. 近・現代の外国人（見る側）における「日本認識」および外国人（見る側）がもつ「文化」に関する考察
5. 異文化としての「日本文化論」

【評価方法】

1. 出席、受講態度、講義時の課題等で全体の50%を評価する。
2. 学期末レポートで残る50%を評価する。

【テキスト】

講義の中で随時、配布する。（必ず事前に読んでおくこと）

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

国際政治論

若松孝司

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

国際関係は冷戦時代の東西対決時代から、協力時代へと変化し、グローバル化が進んでいる。しかし、民族・宗教・地域などの対決と紛争は今も絶えない。国際政治の実情を具体的事象にふれながら講義する。

【授業計画】

以下の項目について講義を行う。

- 1) 冷戦とは何か
- 2) パレスチナ・イスラエル問題
- 3) 北朝鮮とはどんな国なのか
- 4) 誰がフセインをつくったか
- 5) アメリカ合衆国とテロリズム
- 6) わかりにくいアジア情勢
- 7) 民族紛争

【評価方法】

出席と筆記試験によって成績評価を決定する。詳細は講義のはじめに説明する。

【テキスト】

特に指定しない。講義は配布資料にしたがってすすめる。

【参考文献・資料】

特に指定しない。

国際交流論

ブイ トルン

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

国際化時代といわれる現代社会は、さまざまな形で国際交流や国際協力が行われている。最近ではNPOやNGOの台頭と活躍がめざましい。国際交流の現状と国際協力の実態などについて講義する。

【授業計画】

1. ガイダンス、国際交流に関わる用語解説
2. 国際交流・国際協力活動とは
3. 国際交流・国際協力活動の領域
 - (1) 海外との交流
 - ・ 姉妹都市交流
 - ・ 青少年交流
 - ・ 文化・芸術交流
 - ・ NGOの国際協力活動
 - ・ 自治体の国際協力活動
 - (2) 多文化共生
 - ・ 自治体と外国籍住民
 - ・ NPOと外国籍住民
 - (3) 異文化理解
 - ・ 国際理解セミナー
 - ・ JETプログラム
 - ・ 地球市民教育
4. 国際文化交流と草の根交流
5. 国際交流・国際協力活動の新課題
 - ・ 事業評価
 - ・ IT戦略

【評価方法】

単位認定試験の成績と出席状況との総合評価による

【テキスト】

国際交流・協力活動入門講座1「草の根の国際交流と国際協力」
(毛受敏浩編著 明石書店)

初めての外国語1（ドイツ語）

藤井たぎる

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

ドイツ語の基礎を学び、初歩的な語学力を身につけ、ドイツの文化への関心を高める。ヨーロッパの中でも独特なものを持つドイツ・オーストリアの歴史・文化についても学び、地理的な位置付けや風土を理解し、違いを共に生きる認識を深める。

【授業計画】

授業はパートナー練習を中心にして、現在（および未来）のことがらに関する表現練習を行います。

学習する主な項目は、以下のとおりです。

- (1) 自己紹介、他人の紹介の練習
- (2) 数字に関する練習（ビンゴ・ゲームつき）
- (3) 冠詞の用法と表現練習
- (4) 名詞・人称代名詞の用法と表現練習
- (5) 動詞・助動詞の用法と表現練習

その他、ビデオやCDを使ってヒアリング、場面理解、会話理解などの練習をします。このクラスでは、受講生のみなさんは毎回、ペアを組んでもらいます。積極的に参加して下さい。ドイツ語の知識を増やすことがねらいではありません。使いものにならないドイツ語ならいくら知識があっても宝の持ち腐れなのです。使いものになるドイツ語をマスターしましょう。上手な発音である必要はさらさらありませんが、理解される発音でないという意味がありません。きちんと正確に発音できる言葉が増えていくにつれて、ヒアリング能力も確実に向上します。

【評価方法】

試験の成績と受講生の授業中の積極性の両面から総合的に評価する。

【テキスト】

行ってらっしゃい! (西村祐子/Rudolf Petrik 著 朝日出版社)

初めての外国語2 (フランス語)

清水ベアトリックス

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

ヨーロッパの文化や近代精神の発祥の地ともいわれるフランスの旅に行ってみませんか？イラストや写真が多い教科書の「はじめてのパリ」が首都のパリでの様々な発見への旅先案内人になりながら実際の旅にも役に立つフランス語を覚えるような内容を盛り込んでいます。会話とコミュニケーションを中心にフランスの慣習を述べながらすぐ使えるフランス語を楽しく学びます。

【授業計画】

毎回、担当教員（フランス人）が文法と語彙のメインポイントをしっかりと説明した後、楽しい会話の練習をしたいと思います。様々なシチュエーションによる必要な単語や表現を覚えて、身に付くまでクラス全員と一緒に練習を繰り返して、喫茶店での注文の仕方、メトロの乗り方、道の尋ね方、電話のかけ方、デパートの使い方、お土産の買い方などを学びます。

【評価方法】

定期試験を重視するが、出席率、受講態度なども考慮に入れる。

【テキスト】

Partir pour Paris (はじめてのパリ) (大津俊克・瀧川広子・藤井宏尚著 朝日出版社)

初めての外国語4 (スペイン語)

木下まりあ

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

スペイン語の基礎を学び、初歩的な語学力を身につけ、スペイン語への関心を高める。世界でも屈指の言語圏を持つスペインの歴史と文化的影響について学び、独特の風土について理解し、違いを共に生きる認識を深める。

【授業計画】

講義方式による。授業中、適宜プリントを配布する。

1. スペイン語とスペイン語圏の世界
2. スペイン語のアルファベット、音節、アクセント
3. 挨拶、自己紹介の仕方
4. 名詞の性数、定冠詞と不定冠詞
5. 形容詞 (性数の一致)
6. 人称代名詞、ser動詞とestar動詞
7. 数詞と時刻の表現
8. スペイン語の手紙の書き方
9. 旅行に役立つスペイン語会話
10. まとめ

【評価方法】

筆記試験またはレポートに出席状況を加味して評価。

【テキスト】

授業中に指示。

日本と外国の歴史1 (日本)

岩口和正

1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

社会のもっとも基礎的な構造のひとつである家族や親族関係は、時代とともに大きく変貌してきました。そして、このような変貌こそが歴史の最も大きな変動要因のひとつとなっているものです。そこで、日本歴史における家族や親族関係の特徴・変遷の意味について、東アジア諸国のそれとも比較しながら、政治制度や経済制度とのかかわりを中心に考えます。

【授業計画】

- (1) 戸と戸籍と姓
- (2) 明治民法の成立と日本近代の「家制度」
- (3) 婚姻の諸形態1<妻問婚の特徴>
- (4) 婚姻の諸形態2<婿取婚と嫁取婚の成立>
- (5) 前近代日本社会における離婚法と密懐法の展開
- (6) イエの成立と展開1 貴族社会とイエ
- (7) イエの成立と展開2 開発領主とイエ
- (8) イエの成立と展開3 主従制と家長長制の展開
- (9) 東アジア諸国の家族・親族制度と日本

【評価方法】

成績評価は学期末の試験で起こいます。

【テキスト】

使用しません

【参考文献・資料】

授業の中で別途に紹介いたします

日本と外国の歴史2 (郷土)

秦達之

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

東海地方が戦国統一の舞台になったのは周知の事実だが、その後の歴史については意外に知られていない。東西の文化を巧みに吸収した近世・近代について、一見地味だが、重要な事件や人物を取上げ、受験時の暗記の歴史から脱皮し、考え、楽しみ、哀しみつつ、生きるための歴史を目指したい。

【授業計画】

一回一話の読み切り、いや、語り切りで、さまざまなテーマ・内容を取上げる。通史ではないので、時代の前後を往き来する。その時代を生きた人びとの鼓動が聞こえてくるようなものにしたいが、果してうまくいきますか、どうか？

内容は、「尾張のキリシタンたち」「元禄名古屋の世相」「伊勢湾の漂流民たち」「江戸時代の農民運動」「名古屋とその周辺の山車(だし)」「渡辺崋山とその周辺」「お札降り」と「ええじゃないか」「戦争と女性」「モルフィと廃娯運動」「新聞記者・市川房枝」「シーメンス事件と太田三三郎海軍大佐」その他。私自身の研究と共に、他の地道な研究成果も積極的に取上げたい。

こちらで一回毎の史料を用意し、それにもとづいて講義する。必要に応じてビデオ、スライドも使用。出席票に感想を書いて貰い、受講者の声を聞く工夫をしている(受講者もぜひご協力を)。

【評価方法】

出席状況(特に厳しいので注意!)と単位認定試験の成績などによるが、毎時間最後に感想を書いて貰い、参考にしている。

【参考文献・資料】

- 愛知県の百年(塩沢君夫・斎藤勇・近藤哲生共著 山川出版社)
愛知県の歴史(三鬼清一郎編 山川出版社)
東海・近代へのまなざし(都築亨・大嶋光義編 中部日本教育文化会)

日本と外国の歴史3 (東洋)

土屋 洋

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

東洋、特に中国を中心とした東アジア地域やその歴史を概説し、通史を学ぶ。日本は中国や朝鮮半島と歴史的・文化的に関係が深く、相互に影響を強く受けていることについても認識を深めたい。

【授業計画】

1. 期間計画指示・授業内容の説明
2. 歴史学とは何か? : 歴史リテラシーを身につけよう
3. 現代中国の雰囲気を知ろう
4. アジアを考えるということ : 日本においてアジアの歴史を学ぶとは?
5. 中国近現代史への眼差し : 歴史観の諸相
6. 中国の近代 : 「近代」という時代をどう考えるか?
7. 中国の近代と日本 : 東アジアの近代を日本との関係から考える
8. 近代日本の中国観
9. 日中戦争を考える : 南京事件をめぐる歴史認識の溝
10. 「文革」、「改革開放」、「六四」 : 東西冷戦構造の狭間で
11. 「台湾」という問題
12. 現代中国と日本 : 特に歴史認識問題をめぐって
13. 21世紀の日本、中国、東アジア

【評価方法】

中間レポートと期末レポート(人数によってはテスト)、および随時課后感想・意見等の提出状況によって評価する。

【テキスト】

基本的に毎回レジュメを配布する。

【参考文献・資料】

授業中に提示する。

地域コミュニティ論

安藤純子

1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

現代社会は都市化が進み、地域社会と人々のかかわりが希薄になっている。人々の生活にとって地域社会の果たす役割と問題点について具体例にふれて講義する。

【授業計画】

1. イントロダクション
2. 地域社会の歴史と構造 1
3. 地域社会の歴史と構造 2
4. コミュニティの概念
5. コミュニティの組織論
6. 地方分権とコミュニティ
7. コミュニティとネットワーク 1
8. コミュニティとネットワーク 2
9. コミュニティ活動と実践例 1
10. コミュニティ活動と実践例 2
12. まとめ

【評価方法】

定期試験と出席率など総合的に評価する。

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

日本と外国の歴史4 (西洋)

北村陽子

1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

ヨーロッパ、アメリカ合衆国を中心とした西洋の歴史を概説する。近代以降の日本にも影響を与えた「国民国家」が形成される過程を追い、「国民意識」とは何かについて理解を深める。

【授業計画】

1. はじめに—国民国家とは何か
2. 近代国民アイデンティティ形成の前段階
 - (1) 「個人」の覚醒 : ルネサンス
 - (2) 「他者」の認識 : 大航海時代
 - (3) 普遍性の否定 : 宗教改革
3. イギリスの国民国家
 - (1) イギリス国教会の成立と絶対主義国家
 - (2) 二つの市民革命—「イングランド」から「イギリス」へ
 - (3) パクス・ブリタニカ—ジェントルマンが支える「大英帝国」の時代
4. アメリカ合衆国の国民国家
 - (1) 対イギリス独立革命
 - (2) フロンティア開拓時代の「他者」認識
 - (3) 奴隷制と南北戦争
5. フランスの国民国家
 - (1) ルイ14世治下における絶対主義の確立
 - (2) フランス革命とナポレオン
 - (3) 「国民」の創出—「単一にして不可分のフランス」成立
6. ドイツの国民国家
 - (1) 三十年戦争とプロイセン・オーストリアの絶対主義
 - (2) 対ナポレオン解放戦争と諸国民の春
 - (3) ビスマルクによる「ドイツ」統一
7. おわりに—20世紀のナショナリズムと国民国家

【評価方法】

成績評価は、出席と学期末テストにより総合的に行う。

【テキスト】

とくに定めない。

【参考文献・資料】

- 国民国家とナショナリズム(谷川稔 山川出版社)
- 国民国家を問う(歴史学研究会編 青木書店)
- その他講義中に指示する。

東アジアの生活と文化

楊 衛平

1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

日本は東アジアに位置し、歴史的にも東アジアの影響を強く受けている。日本と関係の深い近隣の国を中心にその生活や文化について講義する。

【授業計画】

1. 中国の少数民族の構成
2. 儒教、仏教と道教の相異
3. 中国の年中行事
4. 南北食文化の比較
5. 中医学と西洋医学
6. 気の文化と気功術
7. 飲茶の文化と歴史
8. 伝統美術と映画
9. 少数民族の音楽
10. 少数民族の服装
11. 中国人の姓の色々
12. 中国の名勝物語
13. 中国人と日本人の考え方の相異

【評価方法】

出席状況とレポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

- 中国人・文字・暮らし(李順然 東方書店)
- 中国仏・道・儒教史話(劉克蘇 河北大学出版社)
- 中国伝統文化導論(劉榮興 河北大学出版社)

ビジネスの世界

伊藤義明

1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

会社の組織やマネジメント、人の働き方、法律を含む社会のあり方など「ビジネスの世界」は21世紀に入り大きく変化しつつあります。

“Free, Fair, Global”の3つのキーワードをもちいて、その変化の全体像を具体的事例を挙げながら学習します。特にFinancial Literacyの重要性も学習します。

第一区分では“ビジネスを取り巻く環境変化”を、第二区分では“環境変化に適応する企業組織”を、第三区分では現在“社会から求められる企業経営”について、「日本経営品質賞基準」を参考に学習します。

(Q&Aを重視しますので学生の積極的な発言を期待します。)

【授業計画】

- 第1講 Introduction：ビジネスモデルと日本の国際競争力
- 第2講 企業活動の環境変化
- 第3講 Free, Fair, Global—規制緩和と自己責任
- 第4講 制度変革と企業活動
- 第5講 企業を取り巻く社会システムの変化
- 第6講 環境、労働市場、金融市場の進化とFinancial Literacyなど
- 第7講 市場（マーケット）について
- 第8講 企業の組織（その1）
- 第9講 ビジネスとは何か？会社とは何か？（その法的要件）
- 第10講 企業の組織（その2）
- 第11講 組織の分解と再編、財務の重要性
- 第12講 企業のマネジメント
- 第13講 主要産業の動向
- 第14講 求められる企業経営：「日本経営品質賞基準」と「Malcolm Baldrige National Quality Program」
- 第15講 マネジメント：リーダーシップと企業の社会的責任
- 第16講 市場と顧客本位の経営—企業戦略：人材、プロセス、情報
- 第17講 総括（テストと評価）

【評価方法】

学期末テストの成績で評価（出席率は成績に反省させない）

【テキスト】

ビジネスの世界（伊藤義明著（印刷予定））

【参考文献・資料】

特になし、新聞を読むことが望ましい。

健康とくすり

永井慎一

1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

現在の日本は飽食の時代といわれ、運動不足やストレス過多のため、くすりの助けがなければ健康の維持が難しい。病気とくすりについて正しい知識を学び、くすりの効き方と副作用について理解を深める。

【授業計画】

- 第1回 受講生に、すべての授業で学ぶ内容をまとめた「病気とくすりについて」の知識調査を実施後、医薬品業界と最近の傾向、新薬開発にかかわる動物実験と治験について解説
- 第2～3回 くすりの基礎知識として、投与方法と生体内運命、受容体拮抗薬と酵素阻害薬、危険なくすりの飲み合わせ、医薬分業、徐放薬など2回にわたり解説
- 第4回 くすりの正しい知識のすべてを、イラスト入りの質問形式でわかりやすく教える
- 第5～6回 近年発売されたビルなどの生活改善薬をはじめ、繁用される一般用医薬品（OTC）500種と医師が処方する医療用医薬品200種を薬効別に解説
- 第7回 頭痛、生理痛の原因物質と治療薬のメカニズム
- 第8回 アトピー性皮膚炎、花粉症の発症メカニズムとくすりの効き方
- 第9回 病気の早期発見に役立つ成人病検査値の見かたと最新の画像診断法
- 第10～13回 成人病検査で見つかる生活習慣病を中心に、高血圧、ガン、糖尿病、エイズなどの発症原因と最先端の医療用医薬品が効くくみを解説

【評価方法】

レポートの内容と出席授業時間数で評価する。

【テキスト】

プリントを毎回配布し講義する。

【参考文献・資料】

初回授業で紹介する。

メンタルヘルス

長谷川純子

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

複雑な現代社会において、こころの病はもはや人ごとではない。なぜ多くの人のこころが病んでいくのだろうか。そもそも“こころ”とは一体何なのだろうか。この授業では、こころに影響を及ぼす様々な要因について、主に心理学モデルや幾つかの事例などをもとに論じながら、こころの健康（メンタルヘルス）について考える。

【授業計画】

- 1. こころの構造～心理モデル
- 2. こころの病～歴史・分類・症状
- 3. こころの発達
- 4. パーソナリティからこころを考える
- 5. ストレスのメカニズムとコーピング
- 6. ライフスタイルと健康
- 7. 病と性格・行動パターン
- 8. 脳とこころ～認知障害から見たこころの風景
- 9. 社会の変化がもたらすこころの問題
- 10. こころの病を解決するために～心理療法
- 11. こころの健康を考える～セルフケアを中心に

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

なし。プリント配布。

メンタルヘルス

太田龍朗

1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

今や子供から大人まで、多くの人々が心を病んでいるといわれている。

心の病は少年期や青年期など世代に特有のものから、時代や社会に要因のあるものもある。臨床的事例をふまえてメンタルヘルスを考える。

【授業計画】

- 概論：第1回 心の病：その歴史
- 第2回 精神症状のとらえ方
- 第3回 精神障害の種類と分類
- 第4回 ライフサイクルと心：性格、発達と加齢
- 各論：第5回 青年期、思春期にはじまる統合失調症
- 第6回 感情の障害としての躁うつ病（気分障害）
- 第7回 ストレスとその反応：神経症と心身症
- 第8回 やまらない、止まらない：薬物依存
- 第9回 眠りと食と性の偏り：睡眠、摂食、性障害
- 第10回 大人とは異なる児童・小児の障害
- 第11回 老人と高齢者の病：器質性障害
- 総論：第12回 病を前にして：治療、面接、カウンセリング
- 第13～14回 心の健康に向けて：地域社会、制度と活動
- 第15回 期末試験

【評価方法】

おもに期末試験の成績とレポート提出によって総合的に評価する。

【テキスト】

改定 大学生のための精神医学（高橋俊彦・近藤三男編 岩崎学術出版社）

【参考文献・資料】

精神を病むということ（秋元波留夫・上田敏著 医学書院）
図解雑学 心の病と精神医学（景山任佐著 ナツメ社）

ライフサイクルと健康

鶴原香代子

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

人間は年齢に伴い体型も変化し、健康も害しやすくなる。ライフサイクルにあわせた運動と健康の維持について、身近な問題をとりあげて講義する。

【授業計画】

- | | |
|--------|---|
| 第1～4回 | 現代社会における健康の諸問題
ライフサイクルと健康
大学生活と健康
生活習慣の修正 |
| 第5～8回 | 運動不足とその影響
ウエイトコントロール
運動・スポーツと疾病予防
発汗と水分・栄養補給
疲労とその予防・回復 |
| 第9～12回 | 身体の仕組みと働き
大学生の体格・体力
心と体の変化
運動・スポーツの効果と安全性
運動処方 |
| 第13～終了 | ライフスタイルと健康
まとめ |

【評価方法】

授業内の課題レポートによって評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に適宜 指示する。
資料としてプリントの配布、ビデオを利用する。

スポーツ科学

鶴原香代子

1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学ぶ。テニス、ゴルフ、バドミントンなどの各種スポーツをはじめ、ストレッチ体操・トレーニングなど、運動の基礎的技術を習得することに努める。

【授業計画】

スポーツの特性を理解し、自身の能力や体力にふさわしいスポーツ実践の大切さを認識するため、以下の計画で実施する。

- 第1回 教室にてガイダンスを行う。
授業の進め方、種目や施設・用具について理解する。
- 第2回～最終授業
カロリーカウンター（万歩計）を利用して運動量を知り、自己管理の能力を身につける。
基本的動作から実践的な練習をすることにより各種スポーツの特性を理解し、技能と知識を身につける。
前半は、主にニュースポーツ（ミニテニス、ソフトバレー、ユニホック、インディアンカ、フライングディスク等）を展開する。
また、ソフトバレーからバレーボールへと発展していくことも考えている。
後半は、卓球を展開する。
- 1～2. 導入、ラケットテイング
フォアハンド、バックハンド
 - 3～4. サーブとレシーブ
ゲームの進め方
フォーメーションと戦術
 - 5～最終授業
ゲーム（ダブルス、シングルス、審判）
スキルテスト

【評価方法】

出席状況（50%）、学習意欲（30%）、種目理解度（20%）により総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に適宜指示する。

健康と運動

鶴原香代子

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

【授業計画】

生涯にわたってスポーツを実践していくためには、学生時代のスポーツ経験が重要だと言われている。そこで本授業では、バドミントンの基本的技能とゲーム形式を取り入れた実践的な練習をすることにより、生涯にわたって親しめるような技能や知識を身につける。

- 第1回 教室にてガイダンスを行う
・授業の進め方、施設・用具について理解する。
・バドミントンの特徴や歴史的ゲームの追体験を行う（VTR）
- 第2～3回 シュトルに慣れる
・ラケットテイング
・ストローク練習（アンダーハンド、サイドハンド、オーバーヘッド）
- 第4～7回 ラケットワークとフットワーク
・遠くへ飛ばす（サーブからハイクリア）
・ネット際に落とす（ドロップ、ヘアピン）
・攻撃に結びつける（ドライブ、ッシュ、スマッシュ）
・ハーフコートでの簡単ミニゲーム（シングルス）
- 第8～11回 フォーメーションと戦術
・サーブ（コースを決めて打ち分ける）
・ゲームの進め方（ルールの理解・審判）
・ゲーム（シングルス・ダブルス）の実践
- 第12～最終授業まで
ダブルス・ゲーム（リーグ戦）
スキルテスト

【評価方法】

出席状況（50%）、グループワークと参加態度（30%）、種目の理解と技能の習得（20%）により総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に適宜 指示する。

現代社会と福祉

見平 隆

1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

現代社会において、なぜ「福祉」が必要なのか。当然のように「福祉」ということばが一般化しているが、そもそも「福祉とは何なのか」を考えると現代社会のしくみが見えてくる。人々が生活を営むには「福祉」は避けられない問題であるが、「福祉はいかにあるべきか」という課題と解決策は難しい問題でもある。現代社会の福祉について具体的事例にふれながら講義する。

【授業計画】

1. 現在の生活から社会の現状を知る
2. ライフサイクルと福祉の関わりを考える
3. 日本と世界の福祉の歴史をふり返る
4. 日本と世界の福祉の現状を知る
5. 現代社会の福祉をめぐる問題を考える
6. これからの福祉の課題を考える

一つのテーマについて1回から数回講義するが、授業についての質問、感想などを適宜出してもらい、授業に反映したい。配布プリントを講義ノートとして使ってもらおう。

【評価方法】

定期試験の結果および授業で指示した課題提出により評価する。出席率は受験資格にはしない。

【テキスト】

講義プリントを授業計画にそって配布する。

【参考文献・資料】

授業中に紹介する。

ボランティア論

矢島洋子

1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

ボランティアは今や新しい時代を生きて行くための行動様式のひとつになっている。ボランティア先進国アメリカの実例にふれながら、ボランティアの成り立ち、その存在意義や方法論などについて講義する。

【授業計画】

1. ボランティアの思想
2. イギリスのボランティア
3. アメリカのボランティア (1)
4. アメリカのボランティア (2)
5. アメリカのボランティア (3)
6. 日本のボランティアの変遷
7. 特定非営利活動促進法 (NPO法)
8. 日本のボランティア活動 (1) 災害とボランティア
9. 日本のボランティア活動 (2) 高齢者とボランティア
10. 日本のボランティア活動 (3) 障害者とボランティア
11. 日本のボランティア活動 (4) 難民とボランティア
12. 日本のボランティア活動 (5) 開発とボランティア
13. ボランティアの課題

ビデオの活用や当事者による講義も予定している。ボランティアを具体的に理解できる授業を心がけたい。

【評価方法】

出席、授業中の提出物 30%。
期末レポート 70%。

【テキスト】

使用しない。適宜、資料などを配布する。

【参考文献・資料】

- ボランティア学を学ぶ人のために (内海成治他編 世界思想社)
- フィランソロピーの思想：NPOとボランティア (林雄二郎他 日本経済評論社) 他

手話・点字

堀 正和

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

手話・点字について聴覚障害者や視覚障害者のコミュニケーションや文化におけるその役割や歴史と実践的技術・方法論を講義する。

【授業計画】

1. 視覚障害概要
2. 視覚障害者のコミュニケーション方法
3. 点字の概要
4. 点字演習
5. 聴覚障害概要
6. 聴覚障害者のコミュニケーション方法
7. 手話の概要
8. 手話演習

【評価方法】

点字や手話の読み取りや表現のテストにより行う。

【テキスト】

点訳のしおり・点字器付き (日本点字図書館) 及び
手話教室入門 (全日本ろうあ連盟出版局)

スポーツ文化論

勝部篤美

1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

スポーツが文化であることを歴史的社会的事実から論証し、スポーツの生成、発展、衰退に関する諸要因について考え、現代社会における「人間性復権」について展望する。

【授業計画】

1. スポーツは遊びから出発し、技能を追求する。
2. スポーツは競争と協力の両面をもち、フェアプレイの精神によって成り立つ。
3. スポーツには富と閑暇が関係し、社会生活と関係が深い。
4. スポーツには教育、政治、科学が関係する。
5. スポーツは地理的環境に影響されることが大きい。
6. スポーツは「強いもの」から「弱いもの」へと対象を拡げつつある。
7. スポーツは「強いこと」から「美しいこと」へと対象を拡げつつある。
8. スポーツは今や人間性の復権へ向って進む。

【評価方法】

単位認定試験の成績と出席状況によって評価する。

【テキスト】

使用せず。参考図書は授業のとき指示する。

生き物の世界

服部一三

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

地球上には多種・多様な動物や植物が生存しているが、それぞれ進化しながら今日の生態系を成している。動物や植物の分類、分布、食性などの基礎知識を学ぶとともに、自然環境保護の視点を視野に入れながら、生き物の世界について講義する。

【授業計画】

- | | |
|---------|-------------------------------|
| 第1回 | 1. 生物界の分類 |
| 第2-6回 | 2. 生物の進化 |
| | 3. 植物と人の関わり |
| | 1) 農耕の始まり |
| | 2) 世界の農耕文化 |
| | 3) 日本農耕文化の起源と発展 |
| | 4. 人が手を加えた植物-作物 |
| | 1) 作物とは? |
| | 2) 世界の作物の起源 |
| 第7-8回 | 5. 作物改良の原理と方法 |
| | 1) 作物改良の原理 |
| | (1) メンデルの法則-遺伝学 |
| | (2) 遺伝の物質的基礎 |
| 第9回 | 2) 作物の改良方法 |
| 第10回 | 6. バイオテクノロジー |
| 第11-12回 | 1) バイオテクノロジーとは? |
| | 2) 作物の改良とバイオテクノロジー |
| | (1) 細胞・組織培養 |
| | (2) 遺伝子操作 |
| | (3) バイオテクノロジーで得られた作物をいかに考えるか? |
| | (1) 倫理 |
| | (2) 安全性 |

【評価方法】

受講資格についてはあえて問わないが、成績評価には出席点を重視し、単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【参考文献・資料】

下記の書籍を参考書籍として使用するが、テキストなどを作成して講義を進めるので、特に買い求める必要はない。
生物的自然と人間 (平田豊著 開成出版)

生き物の世界

鹿島英佑 瀬川正夫

オムニバス 1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

地球上には多様・多様な動物や植物が生存しているが、それぞれ進化しながら今日の生態系を成している。動物や植物の分類、分布、食性などの基礎知識を学ぶとともに、自然環境保護の視点を視野に入れながら、生き物の世界について講義する。

【授業計画】

〔植物コース〕第1回～第7回

都会の中心部に近いところで残された学校周辺の自然林や、東山植物園における野外植物の学習、及び温室植物等の学習を中心に授業を行う。

植物に関する基礎的な知識と実際の植物との触れ合いにより、生き物の不思議さや美しさを学ぶと共に、人と自然との関わりに興味を持つことにより、自然環境保全の重要性を学習する。又、小さな自然の一つといわれている身近かでの植物の活用をも学習する。

〔動物コース〕第8回～第15回

動物の分類、分布、食性などの基礎的な知識を学び、さらに、学校での動物飼育管理、人畜共通感染症、野生動物保護、自然環境の保全の重要性を学習する。

野外学習では、東山動物園で動物の行動や習性を学ぶとともに、動物との触れ合いを体験することにより生命の尊さを学ぶ。

【評価方法】

出席状況およびテストによる。

【テキスト】

不要

人類と宇宙

安野志津子

1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

宇宙観の始まり、星の生と死、地球の生成と進化など、日進月歩の宇宙の科学の課題をふまえて、人類にとっての宇宙についても考察する。

【授業計画】

一地球のまわり、太陽系、銀河系を知り、宇宙を身近に引き寄せるために

1. 宇宙観の変遷
2. 宇宙を観測する手段
3. 太陽系を探る
4. 星の世界
5. 銀河から宇宙へ
6. 宇宙の始めと未来

毎回プリントを配布し、講義を主とするがその内容を中心としたOHP、ビデオ等も利用する。また、講義に関連した質問を出してもらい次回に解答する。なお、随時ホットな話題も取り入れたい。

【評価方法】

基本的には、期末テスト（配布プリント、ノート持ち込み可）によるが、出席状況も考慮して判定する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

- (1) 宇宙論のすべて（池内了 新書館）
- (2) 星と宇宙の物理学読本（並木雅俊 丸善）
- (3) 見えてきた宇宙の神秘（野本陽代 草思社）
- (4) 太陽 一その素顔と地球環境との関わり（ケネス.R.ラング著 渡辺亮・桜井邦朋訳 シュプリンガー・フェアラーク東京）

環境保護論

田部一史

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

現在、地球規模で自然破壊・環境破壊が進んでいる。自然を守り環境を保護する立場から、生物とそれをとりまく外的環境の問題点を、身近な例をあげて講義する。

【授業計画】

- 第1講 序論：自然に学ぶ
- 第2講 森林破壊：森はいのちの母である
- 第3講 砂漠化：世界は水を失いつつある
- 第4講 地球温暖化と異常気象：人為による地球の異常
- 第5講 大気汚染と酸性雨：自然も文明も溶かし去る
- 第6講 フロンとオゾンホール：降りそそぐ有害紫外線
- 第7講 いのちのしくみ1：細胞レベル
- 第8講 いのちのしくみ2：個体レベル
- 第9講 環境汚染とがん：人工化学物質の氾濫
- 第10講 環境ホルモン：いのちのつながりを絶つ
- 第11講 生態系のバランス：人の手で壊される自然
- 第12講 生命の多様性：大量絶滅
- 第13講 環境保護：いのちと自然を守る

【評価方法】

出席状況、レポートおよび単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

使用せず。必要に応じてプリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

食品の科学

来住準一

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

基礎的な科学と食品の科学とのかかわり、食品の持つ機能や性質、貯蔵などを学び、食品酵素の関係や科学物質としての理解を深め、多様化した食生活や加工食品の氾濫の中で生活に役立つ講義をする。

【授業計画】

淑徳花子さんは健康に人一倍関心をもつ大学生、赤ん坊からお年寄りまでがそろって大家族の一員です。一緒に淑徳家の食卓をのぞいて見ませんか。普段何げなく食べている食品にスポットをあて、氾濫する情報の中で、あなたの食生活を見直すヒントを提供します。講義では毎回2つの類似した食品を提示し、受講者にその1つを選択してもらいます。なお、テーマによりVTR視聴や簡単な実験を実施します。

1. 食情報選択のヒント：リスクvs.ハザード
2. トースト：バターvs.マーガリン（実験）バターをつくろう
3. 水：ミネラルウォーターvs.水道水
4. 学生食道：洋食vs.和食（実験）人造いくらをつくろう
5. ガム：グリーンガムvs.キシリトールガム（実験）むし歯になり易さ度チェック
6. 紅茶飲料：ティオvs.ジャワティ（実験）お酒の強さ度チェック
7. 牛肉：近江牛vs.近江和牛
8. レタス：減農薬vs.低農薬
9. パナナ：フィリピンvs.台湾
10. 牛乳：ホモvs.ノンホモ（消費期限vs.賞味期限）
11. 機能性食品：健康食品vs.トクホ
12. 環境ホルモン：母乳vs.人工乳
13. 健康常識クイズ

【評価方法】

出席（20%）、毎回の提出物（60%）、期末レポート（20%）。学習のフィードバックのため、毎回の提出物には質問などへの回答やコメントを書いて返却します。

【テキスト】

テキスト使用せず、プリントを適宜配布します。

暮らしの化学

永井慎一

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

私たちの生命や健康で豊かな暮らしは化学の力で支えられている。日々の暮らしにかかわる物質や現象を、事例をあげながら化学の目で学ぶ。

【授業計画】

生命と健康の化学、豊かな暮らしの化学、身近な現象の化学、環境・資源・エネルギーの化学、日用雑貨の化学、ホルモンと生体の化学、くすりと作用の化学、毒とくすりの化学、生老病死の化学、未来をひらく化学などの分野から数例をあげ、図やイラストを多用しながらこれはなぜ？どうして？という[素朴な疑問]に答える。また、かつてマスコミやテレビコマーシャルを賑わしたヒット商品のカラクリを化学的に解説、化学のおもしろさや楽しさを学ぶ。さらに、病院・診療所でうける検査値の見かたと最先端医療についても紹介する。

【評価方法】

レポートの内容と出席授業時間数で評価する。

【テキスト】

毎回プリントを配布。

【参考文献・資料】

初回授業で紹介。

文学1（日本）

堀尾幸平

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

日本の文学史について概説し、日本文学の特徴や外国文学の影響などについてもふれる。古典から近・現代までの著名な作品や名作も鑑賞し、日本文学への興味と関心を高める。

【授業計画】

1. 文学とは何か
2. 明治期の文学
3. 坪内逍遙、二葉亭四迷
4. 三輪弘忠、巖谷小波
5. 大正期の文学
6. 小川未明、鈴木三重吉
7. 千葉省三、浜田廣介
8. 少年詩、童謡、金子みすゞ
9. 昭和期の文学
10. 佐藤紅緑、江戸川乱歩
11. 宮澤賢治
12. 新美南吉、坪田謙治
13. 平成期の文学
14. 創作方法理論
15. 試験

【評価方法】

定期試験、レポート、出席状況等によって総合的に評価する。

【テキスト】

新日本児童文学論（堀尾幸平著 中日文化 2,200円）

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

文学2（中国）

河井昭乃

1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

中国の歴史と文化は古く、その影響は世界に与えているが、特に日本文学が受けたものは大きい。中国の代表的な古典を中心に紹介し、鑑賞するとともに、中国文学への興味と関心を高めたい。

【授業計画】

1. 外国古典文学として漢詩・漢文を読む
2. 漢字の特徴
3. 中国における「詩」の誕生
4. 古詩から近体詩へ
5. 近体詩の形式；押韻・平仄・対句
6. 代表的作家の作品の鑑賞；李白・杜甫・白居易
7. 中国における「歌枕」；西域・長江流域・長安洛陽

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合評価する。

【テキスト】

授業中に適宜プリントを配布する。

【参考文献・資料】

参考書・資料は、必要に応じて授業中に提示する。

文学3（欧米）

隈井清臣

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

西洋の文学史や文学思潮を概説し、特にイギリス文学・アメリカ文学を中心に代表的な作品について紹介し、鑑賞して、外国の文学への興味と関心を高める。

【授業計画】

- | | |
|--------|--------------------|
| 第1回 | 受講に関するガイダンスと参考書目紹介 |
| 第2回 | 欧米の文学の特長について |
| 第3～6回 | 小説について |
| 第7～8回 | 詩について |
| 第9～11回 | 劇について |
| 第12回 | 散文について |
| 第13回 | 結びと推薦書目紹介 |

【評価方法】

作品を読んで提出するレポート70%、出席状況20%、授業の参加状況10%、計100%で評価する。

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

現代英米文学作品解説（稲村松雄著 北星堂書店）
英米文学の名作を知る本（渡辺恵子編 研究社）
現代の英米作家100人（木内徹他編著 鷹書房弓プレス）

現代の芸術1 (書道)

小川晃治

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代の芸術としての書道の意味と意義について概説し、中国や日本の名筆についても鑑賞する。書写は楷書・行書・草書などを書作し、技法の向上をはかり、現代社会に於ける文字、書の美について考え、書道への関心を高める。

【授業計画】

講義、実技を一日の時間内に進める。前後期共通の為、各時代の書美、他の美術、文学の対比についての講義は概論とする。現代社会に於ける書美と、日本人の美意識を探究することを基準として進める。

【評価方法】

レポート二種、実技作品、学習態度、出欠状況などによる。

【テキスト】

担当者の小文、古典法帖。

現代の芸術3 (美術)

藤井健仁

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代芸術としての美術の意味と意義や東西の流派を概説し、西洋や日本の名画についても鑑賞する。写生などの実作の実技指導も行い、美術や絵画への興味と関心を高める。

【授業計画】

前半

キュビズム、ダダイズム、シュルレアリスム、ポップアート等、現代美術のムーブメントをそれぞれの時代背景と照らし合わせながら講義する。

後半

小彫刻を制作することによって、表現が立ち現れる地点を体験する。教材として(樹脂パテ)等を各自が購入する。

【評価方法】

授業内で提出する制作物、レポートを重視する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

なし

現代の芸術2 (音楽)

志水博子

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代芸術としての音楽の意味と意義について概説し、洋楽・邦楽の名曲についても鑑賞する。音楽に関する基礎や知識を学び、歌唱力や鑑賞力の向上をはかり、音楽への関心を高める。

【授業計画】

- 第1回 名演奏家によるオペラのビデオ鑑賞
- 第2回 声の出るしくみを知る
- 第3回 腹式呼吸と身体のつかい方の練習
- 第4回 ビデオ鑑賞
- 第5回 発声練習と歌唱
- 第6回 ビデオ鑑賞
- 第7・8回 ピクニックや集会でのやさしいハーモニーの楽しみ方練習
- 第9～12回 各自の課題による実技発表とアドバイス

【評価方法】

授業内での実技演奏(各自の得意とする歌唱又は楽器の演奏、アンサンブル可)と出席状況

【テキスト】

楽譜プリントは配布

現代の芸術4 (映画)

吉村英夫

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代芸術としての映画の意味と意義を概説し、映画の歴史についてもふれ、名作を鑑賞する。ヨーロッパやアメリカ映画などとの比較の視点から日本映画の特徴などを講義し、映画への興味と関心を高める。

【授業計画】

ミュージカル映画の楽しさを味わおう。たとえばミュージカル映画の代表的傑作『雨に唄えば』は、映画の歴史の教科書のような側面をもっている。映画の歴史がはじまって現在は約110年だが、大きなヤマは二つあった。一つは映画が「音」を持ったことで、サイレントからトーキーの出現である。二つは「色」を持ったことであり、白黒からカラーになったことである。『雨に唄えば』はミュージカルの歌と踊りに酔いながら、同時に1927年のトーキー出現という映画技術の決定的革新についても教えてくれる映画である。

参考上映する作品として検討中のもの

- * 『ウエスト・サイド物語』
 - * 『ロミオとジュリエット』
 - * 『キス・ミー・ケイト』
 - * 『雨に唄えば』
 - * 『バリの恋人』
 - * 『掠奪された七人の花嫁』
 - * 『トップ・ハット』
 - * 『プラス!』
 - * 『ザッツ・エンタテインメント』
 - * 『コーラライン』その他
- 木曜日昼食時に「映画雑談会」を有志で実施する。

【評価方法】

*学期末のテスト *随時提出のレポート *出席 *テキストは使用しない

【テキスト】

なし。ただし、随時、講座通信『Limelight』を配布。4年前から続いており、これは講座生とつくる楽しい交流の広場。

現代の芸術4 (映画)

HIGH, Peter B.

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

映画の意味と意義を概説し、映画の歴史についてもふれ、名作を鑑賞する。アメリカ映画を題材として使って、映画芸術とは何かを考察

【授業計画】

授業のやり方としては、映画(全体又は部分)を見終わってから教室で、ディスカッションを行った後、各自、次の授業までに自分の分析を短い文章(原稿用紙2・3枚程度)にまとめて提出する。

課題:「古典ハリウッド映画」の表現手法

今学期、四つの映画を分析対象とする:

- 1) 「駅馬車」(STAGECOACH, 1939年作品、監督: John Ford)
- 2) 「マルタの鷹」(MALTESE FALCON, 1941年作品、監督: John Huston)
- 3) 「市民ケーン」(CITIZEN KANE, 1941年作品、監督: Orson Welles)
- 4) 「第三の男」(THE THIRD MAN, 1949年作品、監督: Carol Reed)

現代の芸術4(映画)の学期末評価は3つの宿題に基づく(学期末試験はなし):

- 宿題1: 「マルタの鷹」の対極的分析の図(文章化する必要はない)
宿題2: 「市民ケーン」の対極的分析(原稿用紙3-4枚の文章)
宿題3: 「第三の男」の対極的分析(原稿用紙3-4枚の文章): この三つ目の宿題は学期末試験として扱われる

*今学期学ぶこと:

- 1) 映画分析のための技術:
 - a. セグメンテーション(SEGMENTATION=映画を見ながら、ノーツの取り方)
 - b. 対極的分析法(映画ドラマにおける対立。競争、衝突などに焦点を絞って、ドラマの構造を分析すること)
- 2) 典型的なハリウッド映画(1930年代から現在の「スター・ウォーズ」や「ターミネーターIII」等)にいたるまでのスタイルとストーリーの語り方:
 - a. 「因果的關係」とドラマの盛り上げ方
 - b. FABULA(ファビュラ) = 観客が頭の中で作る「映画のストーリーの世界」対SUZHET(シュージェット、つまり「プロット」) = 画面から与えられた(「映画のストーリーの世界」を作るための)「材料」や「ヒント」
 - c. ハリウッド映画はどうやって「リアリズム」の感覚を作り上げるのか
 - d. ハリウッド映画を見ている時に、どうして観客は「自分が映画を見てるんだ」ということを忘れるのか
- 3) ハリウッド映画におけるGENRE(ジャンル)の役割

【評価方法】

出席と宿題によって、評価される

【テキスト】

テキストはありません。教材は適時配布します。

現代の芸術5 (演劇)

海上宏美

1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

現代芸術としての演劇の意味と意義について概説し、ヨーロッパや日本の演劇の歴史についてもふれる。内外の代表的な演劇について解説し、演劇への興味と関心を高める。

【授業計画】

1. 現代芸術としての演劇は多様であるため、演劇を軸としながら国内外のダンス、パフォーマンス、アートを重要な参照項として見ていく。
2. 身体を用いる表現であるため現代の思想やジェンダーとも切り離して考えることはできないので、その関わりを探っていく。
3. 戯曲=テキストの存在が演劇にとって大きな要素なので、演劇における戯曲=テキストの位置の変遷を概説する。
4. 演劇が行われる「劇場」というものがどのような時代思潮を具現しているものなのかを、ヨーロッパと日本の劇場を比較しつつ検討する。
5. 演技というものを身体と言語の関係から見直し、演技というものの在り方を歴史的視点から批評的に見ていく。

授業は上演ビデオや参考スライドを鑑賞しながら進めていく。

【評価方法】

レポートの提出と出席状況で評価する。また、実際に劇場等で上演される現代の上演芸術(演劇に限定しない)を見ることを求める。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献・資料】

授業内で適宜指示する。

伝統芸能

安田文吉

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

日本の伝統芸能である歌舞伎を中心に、能・狂言・人形浄瑠璃(文楽)も併せて、その歴史や文化的意義について講義し、実演・ビデオなどによる鑑賞と研究も行う。

【授業計画】

1. 芸能とは
2. 芸能の発生
3. 民俗芸能・伝統芸能
4. 歌舞伎の成立 I
5. 歌舞伎の成立 II
6. 歌舞伎の女方
7. 歌舞伎の荒事
8. 歌舞伎の和事
9. 歌舞伎の舞台
10. 地芝居の楽しみ
11. 能・狂言
12. 人形浄瑠璃(文楽)
13. 日本伝統芸能の特色と意味

猶、御園座十月の「十八代目中村勘三郎襲名披露吉例顔見世」興行、名古屋芸能文化会主催の伝統芸能公演(十二月)などの鑑賞と研究を行う。

【評価方法】

レポート

【テキスト】

歌舞伎入門(おうふう)
歌舞伎のたのしみ(北白川書房)

【参考文献・資料】

その都度紹介する

現代マナー論

犬飼詠映

1～4年 土1 選択 2単位

【授業の概要】

人間関係の円滑や親和を保つために必要な基本的マナーを学ぶ。身近な実例をとりあげて講義する。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
マナーとは
- 第2回 第一印象の重要性
- 第3回 好印象の鍵を握る5つのポイント
- 第4回 効果的表現方法(1)
- 第5回 敬語と言葉遣い
- 第6回 気持ちが変わる会話術
- 第7回 電話応対
- 第8回 訪問と来客応対
- 第9回 文書のマナー
- 第10回 慶弔マナー
- 第11回 効果的表現方法(2)
- 第12回 セルフプロデュース

【評価方法】

出席状況、受講態度、試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

授業中にその都度指示する。

文章表現

青木 健

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

マルチメディアの発達で文章を書く機会が少なくなっているため、自らの意思を文章で表現することが苦手な人も増えている。文章を作り、書くために必要な基礎知識や構成について具体例を示しながら講義する。

【授業計画】

- 第1回 人は言葉の織物である。(伝達と表現1)
第2回 現代の口語表現について。(伝達と表現2)
第3回～12回
例文をテキストに、文章の構成、表現技法、語法、リズム、形容修辭法など具体的に講義。
この間に
課題を3回提出し、短文(2～3枚、400字詰)を書かせ、そこから文章表現についての共通の問題点を抽出して講評する。

【評価方法】

出席状況、3回の提出原稿などを基準として評価する。

【テキスト】

高校生のための文章読本(筑摩書房) 参考書籍は授業中に数冊指示します。

メディア表現

鎌田基子

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

情報化社会の発達と技術の進歩で、さまざまなメディアが新しい表現を生み、文化を形成している。現在あるメディアの構造と伝達の仕組みやかかわりについて、講義と実践をまじえながら考察する。

【授業計画】

1. どこからどこまでがメディアなのか
 2. 「編集」がもつ創造力
 3. 「伝える」と変化する
 4. 人を動かす力
 5. 自分との対話
 6. 「コンセプト」の功罪
 7. 共感する/させる
 8. 心を開かなければならないとき
- ほぼ毎回WORK SHOPを行なう。一項目に関する講義が複数回にわたる場合もあるので、極力遅刻、欠席のないよう注意してもらいたい。
状況により、可能であればゲストを招いての授業も計画する。

【評価方法】

レポートによる。

【テキスト】

テキストは使用せず、資料を配布する。

生涯学習論

五島敦子

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代は生涯学習の必要性和重要性が強く説かれている。社会の構造が複雑になるとともに高齢化社会も進む中で、生涯学習の意義と学び方について、身近な事例をふまえて講義する。

【授業計画】

- 1 生涯学習の理念
- 2 発達段階と発達課題
- 3 高齢期の課題と学習支援
- 4 職業人の学習機会
- 5 ボランティアとNPO
- 6 大学開放の進展
- 7 男女共同参画社会に向けた学習支援
- 8 生涯学習政策の動向と課題

【評価方法】

レポート、授業内課題、出席状況による総合評価

【テキスト】

テキストとしては使用しない

【参考文献・資料】

新しい時代の生涯学習(関口礼子他編著 有斐閣アルマ)
生涯学習の展開(香川正弘他編著 ミネルヴァ書房)

一般心理学

青柳眞紀子

1～4年 夏Ⅱ 選択 2単位

【授業の概要】

心理学の研究対象と研究方法を明らかにし、行動科学としての心理学を展望する。心理学の一般的方法論や心理学の各領域における基礎的知識を概説する。

【授業計画】

1. ガイダンス、心理学とは
2. 無意識の世界,1
3. 無意識の世界,2
4. ストレスとタイプA性格
5. 錯視の不思議
6. 学習,1
7. 学習,2
8. パーソナリティ,1
9. パーソナリティ,2
10. 対人関係,1
11. 対人関係,2
12. 集団の心理

【評価方法】

試験の成績、レポート、出席状況などから総合的に評価する。

【テキスト】

随時資料を配布する。

一般心理学

加藤智宏

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

心理学の研究対象と研究方法を明らかにし、行動科学としての心理学を展望する。心理学の一般的方法論や心理学の各領域における基礎的知識を概説する。

【授業計画】

- 知覚と感覚
- ノンバーバルコミュニケーション
- 愛着
- アイデンティティ
- 学習と記憶
- 忘却と変容
- 防衛機制と無意識
- 心理療法
- 心理テスト
- 個人・社会・環境

以上について、それぞれ1～2回の講義を予定しています。

また応用分野として、環境心理学や犯罪心理学についても紹介していく予定です。

【評価方法】

出席状況と試験の成績によって総合的に評価します。

【テキスト】

使用しません。授業中に資料を配付します。

政治学

西尾林太郎

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

政治体制や政治制度について概括的に学びながら、現実の政治の動態を日本と諸外国と比較しながら学習する。時事問題や日常的な話題にもふれつつ講義を進める。

【授業計画】

- 国内政治と国際政治
 - 国際社会とは？
 - 国民国家、ナショナリズム、外国為替、国際貢献
 - トランス・ナショナル現象、相互依存性の増大
 - イスラム原理主義とグローバルスタンダード
- 古典的デモクラシーとマス・デモクラシー
 - 市民社会と大衆社会
 - 立法国家と行政国家
- 現代の政治過程
 - 政治と利益団体、NPO
 - 選挙、官僚、議会
 - マスメディアとマスコミュニケーション
 - 議会制デモクラシー
- 戦後国際社会と日本の政治
 - 冷戦構造と55年体制
 - 利権の構造

【評価方法】

試験（配布資料と自筆ノートのみ持込可）と出席状況による。

【テキスト】

暮らしから考える政治（姜尚中著 岩波ブックレットNo.564）

【参考文献・資料】

授業においてその都度、指示する。

経済学

細野義晴

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

経済の仕組みと役割について、マクロ経済とミクロ経済の双方の視点から基礎的知識を学ぶ。日常生活や時事問題としての経済的事象についてもふれ、経済学を身近なものにする。

【授業計画】

- 経済のしくみの全体像
マクロの経済とミクロの経済、GDP統計のしくみ、有効需要と乗数のメカニズム、など。
- 日本の経済と景気
日本経済の発展と構造変化、日本の景気変動、など。
- 個人のくらしと経済
個人の消費行動とその理論、消費と貯蓄、など。
- 企業の経済活動
企業の生産・投資活動とその理論、需要・供給とモノの値段、失業とインフレーション、など。
- 政府の経済活動
財政のしくみと役割、わが国の財政事情と財政政策、など。
- 金融のしくみと経済
お金と金融機関の役割、中央銀行の役割と金融政策、金融のビッグバン、など。
- 日本と世界の経済
経済のグローバル化と国際収支、国際金融市場と外国為替相場の変動、国際機関の役割、欧州の通貨統合、など。

【評価方法】

単位認定試験の成績に出席状況を加味して評価する。

【テキスト】

使用しない（資料配布）。

【参考文献・資料】

- 入門の入門 経済のしくみ（大和総研著 日本実業出版社）
- 入門 経済学（伊藤元重著 日本評論社）

数学

岡田克彦

1～4年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

数学は膨大な体系を持つ学問体系であるが、主要な分野の入門的、基礎的な事項を解説する。日常生活や他の学問分野はさまざまな数学の恩恵を受けて成り立っているため、例えば、物理学と数学との関連、日常体験と数学の関連性といったことにもふれてみたい。

【授業計画】

以下の各項目について説明し、演習を行う。

- 確率
- 統計、偏差値
- ベクトル
- 微分
- 積分
- 物理学への応用

【評価方法】

課題及び試験で評価する。

【テキスト】

特に使用しない。随時プリントを配布する。

生物学

多田萬里子

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

生物の発生、生命、形態、生態、生理、分類など、生物学の各分野の基礎を概説する。身近な生物学的諸問題についてもふれ、生活に役立つ生物学を講義する。

【授業計画】

1. 生物の歴史
2. 生物の多様性
3. 生命の単位
生体を構成する物質
細胞の構造と機能
4. 代謝：生命維持のエネルギー
5. からだのなかの情報系
6. 恒常性の維持：ホメオスタシス
7. 個体の発生、生殖と分化
8. 遺伝情報の伝達 遺伝子の働き
9. 生体防御機構 血液のはたらき
10. 生命を操作する技術
遺伝子組み換え食品、クローン動物
11. 生物と環境

【評価方法】

出席状況、授業内小テスト、期末テストを総合して評価する

【テキスト】

特に定めない
講義の要旨はプリントを配布する

【参考文献・資料】

受講者の理解度をもとに、適宜紹介する。

物理学

坂井貞彦

1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

人間の生命に関する分野を除く、自然現象を、数量的、法則的に把握し、普遍的な法則や原理を見つけ出すという物理学の基礎を学ぶ。身近な現象の中から物理学的な観察や視野を持てる力を涵養する。

【授業計画】

講義方式による。実験は行わない。テキスト及び授業中に配布するプリントの記述のうち基本的なものを説明し、物理学への関心を高める。

- 1 はじめに
- 2 運動と力、力学的エネルギー
- 3 振動と波動、光と電磁波
- 4 もののかたち、圧力、強さ
- 5 流れ、層流と乱流、カオス
- 6 熱とエネルギー、熱機関
- 7 電気と磁気
- 8 相対性理論
- 9 量子力学、粒子性と波動性
- 10 素粒子、電子・陽子・光子・中間子・ニュートリノ、クォーク

【評価方法】

おもに期末試験（筆記）による。（毎回欠席を調査する。欠席回数が多い場合は受験資格を失う。）期中にレポートを提出させた場合は、成績評価に反映させる。

【テキスト】

入門ビジュアルサイエンス・物理のしくみ（小暮陽三 日本実業出版社）

統計学

下木戸隆司

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

さまざまな情報が氾濫している現代社会は、情報処理の手段として統計学は不可欠である。統計学の基本的な概念と手法を講義し、社会統計が現代社会にどのようにかかわっているか、いかに必要かを講義する。

【授業計画】

- ・データの性質と基礎統計量
連続量と離散量、平均、分散、度数分布表、相関
- ・確率変数と確率分布
確率、正規分布、二項分布、ポワソン分布
- ・母集団と標本
無作為抽出、不偏推定値、中心極限定理
- ・統計的推測
点推定、区間推定、大数の法則
- ・統計的検定の考え方
仮説検定、棄却域、過誤確率
- ・統計的検定の実例
t検定、分散分析、カイ二乗検定

授業は基本的に上記の順で行うが、受講者の理解や関心にあわせて内容が変化することもある。

【評価方法】

定期試験の他、課題レポートが課されることもある。成績はこれらの結果から総合的に評価する。

【テキスト】

とくに指定はしない。

【参考文献・資料】

随時授業で紹介を行う。

実用日本語演習（生活実用文）

大西和美

2・3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

日常生活における手紙・挨拶文・依頼文・案内文等の実用的な文章表現の、基本的な形式と表現を演習形式で学ぶ。

【授業計画】

- 第1～2回 ことばの知識
- 第3～6回 敬語
- 第7～9回 手紙文
- 第10～11回 文の書き方
- 第12～13回 小論文

なお、第7～13回は平行して自己表現について学び、順次短時間の発表を行う。

【評価方法】

出席状況、受講態度、課題提出、小テストなどによる。

【テキスト】

新「ことば」シリーズ2 問答編「言葉に関する問答集—敬語編—」（文化庁）

その他、適宜プリントを配布する。

英語コミュニケーション2 (Listening I)

横関美津紀 SUTHONS, Philip 他

1年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

短いフレーズを中心とした英語を正確に聞き取れるようになるための基礎的な能力を、LL教材を用いて演習形式で身につける。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、基礎的なリスニング力を養成することがこの授業の目標である。この目標を達成するために、音声教材、CALLシステムなどを活用し、以下の内容で授業を進める。

1. 英語のリズムとイントネーションの習得
2. 連結・脱落・同化などの聞き取り
3. ディクテーション
4. シャドーイング
5. 短文・長文の暗唱
6. ペア・プラクティス

様々な場面における対話や応答、状況説明などの聞き取りを通じて、語彙の増強と基本的な英語表現の習得も図る。

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進捗についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

英語コミュニケーション1 (TOEIC I)

山田久美子 DYCUS, David C. 他

1年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

就職などでも考慮されることが多い国際コミュニケーション英語能力テストTOEICに向けての基礎的な能力を、文法や語彙など基本事項に重点を置いて身につける。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、文法や語彙などの基本事項の整理を行うのがこの授業の目標である。この目標を達成するために、この授業では、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システムALC NetAcademy（アルクネットアカデミー）を活用して、文法や語彙などの基本事項を再確認し、その定着を図る。具体的には、以下のよう

1. 受講生による演習問題への解答
2. 授業担当者による問題解説
3. 演習問題を利用したディクテーション、シャドーイング、ペア・プラクティスなど
4. Speed ListeningとSpeed Reading機能を活用した速聴・速読練習
5. 確認テストの実施

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進捗についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

英語コミュニケーション3 (Listening II)

石橋千鶴子 SUTHONS, Philip 他

1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

英語をより正確に聞き取り、パラグラフや会話文の要点を把握できるようになるための発展的な能力を、LL教材等を用いて演習形式で身につける。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、会話文・説明文などの内容を正確に把握できるリスニング力を養成することがこの授業の目標である。この目標を達成するために、さまざまな音声教材、CALLシステムなどを活用し、以下の内容で授業を進める。

1. 英語のリズムとイントネーションの習得
2. 連結・脱落・同化などの聞き取り
3. 数字・地名の聞き取りと、日本人英語学習者が発音・聞き取りを不得手としている音の練習
4. ディクテーション
5. シャドーイング
6. 短文・長文の暗唱
7. ペア・プラクティス

授業で取り上げた教材を、何度も繰り返し声に出して発音する練習を通じて、英語らしいリズムとイントネーションの習得とともに、語彙力と表現力も身につける。英語を頭の中で日本語に置き換えるのではなく、英語を英語として聞き理解できるようになるために、大量・高速の英語を聞く。

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進捗についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

英語コミュニケーション4 (Reading I)

福本明子 STEPHENSON, Brett 他

1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

英文の内容を早く、正確に読みとれる能力を身につけるために、さまざまなタイプの英文を多読・速読する。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、英文の内容を早く、正確に読みとれるようになることがこの授業の目標である。具体的には、1分あたり150語以上のスピードで英文を読み、英語を日本語に訳すのではなく、英語を英語として読み、分からない単語があっても前後の文脈から意味を推測し、パラグラフごとの要点を把握するための訓練を行う。速読の訓練には、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システムALC NetAcademy (アルクネットアカデミー) のSpeed Reading機能も活用する。授業は以下の内容で進める。

1. 社会・経済、世界の情報、自然科学、文化、広告文などの実用的な英文などさまざまな分野の英文の読解
2. 語彙力の増強
3. 文法事項の整理
4. 練習問題・確認テストなど

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進捗についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

英語コミュニケーション5 (TOEIC II)

太田晶子 DYCUS, David C. 他

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

就職などでも考慮されることが多い国際コミュニケーション英語能力テストTOEICに向けての発展的な能力を身につけ、英語の総合力を高めることを目標とする。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、リスニング力とリーディング力を総合的に向上させることがこの授業の目標である。この目標を達成するために、この授業では、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システムALC NetAcademy (アルクネットアカデミー) を活用して、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。具体的には、以下のように授業を進める。

1. 受講生による演習問題への解答
2. 授業担当者による問題解説
3. 演習問題を利用したディクテーション、シャドーイング、ペア・ブランクテキストなど
4. 確認テストの実施

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進捗についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

英語コミュニケーション6 (Oral Communication I)

WILLIAMS, Allen D. 他

2年 前期 選択 2単位

【Course Content】

ネイティブ・スピーカーの教員によって、実用英会話の基礎的な力を身に付ける。

This course aims to develop students' basic English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas. Topics commonly included in TOEIC tests will be used as themes for these oral encounters.

Reading, Writing and Listening tasks will be used only as preparation for oral activities. For example, dialogues and role plays may be used to set the scene for further discussion. The dialogues may be text based or student designed (i.e. homework) .

【Schedule】

Topics will include such things as: Office Conversations, Travel Situations, Talking about Occupations, On the Telephone, Eating out and other TOEIC type situational conversations.

【Assessment】

25% Attendance
25% Homework
50% Class-work/Participation/Tests

【Textbooks】

To be announced

英語コミュニケーション7 (Oral Communication II)

HARRIS, Richard S. 他

2年 後期 選択 2単位

【Course Content】

ネイティブ・スピーカーの教員によって、実用英会話の応用的な力を身に付ける。

This pre-intermediate course aims to further develop students' English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas. Topics commonly included in TOEIC tests will be used as themes for these oral encounters.

Reading, Writing and Listening tasks will be used only as preparation for oral activities. For example, dialogues and role plays may be used to set the scene for further discussion. The dialogues may be text based or student designed (i.e. homework) .

【Schedule】

Topics will include such things as: Leisure and Recreation, The Weather, Advertising, Commuting and Transportation, Banking and Shopping.

【Assessment】

25% Attendance
25% Homework
50% Class-work/Participation/Tests

【Textbooks】

To be announced

英語コミュニケーション8 (Reading II)

隈井清臣 CURRAN, Beverley 他

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

さまざまなタイプの英文の内容を正しく把握できるように、英文精読のトレーニングを行う。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、目的に応じた英文の読み方があることを知り、ある程度まとまった長さの英文を読みとれるようになることがこの授業の目標である。パラグラフごとの要点を把握し、異なるパラグラフが論理的にどのような関係にあるのか、筆者の主張・論点・メッセージは何かを理解する必要がある。授業は以下の内容で進める。

1. 長文の大意把握
2. 語彙力の増強
3. 文法事項の整理
4. 練習問題・確認テストなど

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

ASU TOEIC I G

鈴木久子

2～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。最高期に2コマ（I、IIの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回に2単位とする。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業計画】

第1回 オリエンテーションおよび模擬演習

第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト

- ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
- ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
- ・演習（文法問題・Reading・リスニング）（30分）
- ・問題解説（25分）

第15回 模擬テスト

*宿題 読解演習・文法問題（60分×7日）＝毎回7時間相当分

（合計 7時間×13回＝91時間）

リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分

（合計 7時間×13回＝91時間）

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

ASU TOEIC I H

鈴木久子

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。最高期に2コマ（I、IIの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回に2単位とする。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業計画】

第1回 オリエンテーションおよび模擬演習

第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト

- ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
- ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
- ・演習（文法問題・Reading・リスニング）（30分）
- ・問題解説（25分）

第15回 模擬テスト

*宿題 読解演習・文法問題（60分×7日）＝毎回7時間相当分

（合計 7時間×13回＝91時間）

リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分

（合計 7時間×13回＝91時間）

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

ASU TOEIC II G

PUDWILL, Larry A.

2～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。半期に2コマ（I、IIの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回に2単位とする。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業計画】

第1回 オリエンテーションおよび模擬演習

第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト

- ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
- ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
- ・演習（リスニング・Reading）（30分）
- ・問題解説（25分）

第15回 模擬テスト

*宿題 読解演習・文法問題（60分×7日）＝毎回7時間相当分

（合計 7時間×13回＝91時間）

リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分

（合計 7時間×13回＝91時間）

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

ASU TOEIC II H

PUDWILL, Larry A.

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「ASU TOEIC I」、ネイティブスピーカー担当の「ASU TOEIC II」から成る。半期に2コマ（I、IIの両科目を受講した場合）、4年間続けて履修できる。週1回に2単位とする。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。毎回、授業外での読解演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションおよび模擬演習
第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト
- ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
 - ・前回の宿題で間違いが多かった点の解説（15分）
 - ・演習（リスニング・Reading）（30分）
 - ・問題解説（25分）
- 第15回 模擬テスト
- *宿題 読解演習・文法問題（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計 7時間×13回＝91時間）
- リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分
（合計 7時間×13回＝91時間）

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示（外国語教育センターの掲示板）を参照のこと。

上級英語セミナー 2005 A

難波豊子 CURRAN, Beverley

2～4年 前期 選択 4単位

【授業の概要】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。（ただし、1年生および編入生（1年目）は前期開講の本科目「上級英語セミナー2005A」は受講できない。）

【授業計画】

各担当教員の授業の計画は以下の通りである。詳細は、1回目の授業で説明される。このほか、ゲストスピーカーによる授業も適宜、実施される。（CURRAN, Beverley助教授）受講生が選択したさまざまなトピックについてのディスカッションを通して、英語運用能力の総合的な向上を図る。（難波豊子兼任講師）スラッシュ・リーディングによって英文を頭から情報処理する練習、英文メッセージを短時間で把握する練習、分かりやすい日本語の検討、逐次通訳・同時通訳の訓練などを通して、英語運用能力の総合的な向上を図る。

【評価方法】

月曜日5限（担当教員：難波豊子）、木曜日5限（担当教員：CURRAN, Beverley）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの授業において、日常の授業態度、宿題に対する姿勢などにより総合的に評価し、それらの評価の平均をこの科目の評価とする。

【テキスト】

授業中に配布、指示する。

上級英語セミナー 2005 B

難波豊子 CURRAN, Beverley

1～4年 後期 選択 4単位

【授業の概要】

この科目は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。多様な授業活動を通して語彙力を増強し、総合的英語運用能力の強化を目指す。学期末のTOEIC受験およびその得点アップが期待される。各自、到達度・進捗度を確認することが望ましい。4年間続けて履修できる。

【授業計画】

各担当教員の授業の計画は以下の通りである。詳細は、1回目の授業で説明される。このほか、ゲストスピーカーによる授業も適宜、実施される。（CURRAN, Beverley助教授）受講生が選択したさまざまなトピックについてのディスカッションを通して、英語運用能力の総合的な向上を図る。（難波豊子兼任講師）スラッシュ・リーディングによって英文を頭から情報処理する練習、英文メッセージを短時間で把握する練習、分かりやすい日本語の検討、逐次通訳・同時通訳の訓練などを通して、英語運用能力の総合的な向上を図る。

【評価方法】

月曜日5限（担当教員：難波豊子）、木曜日5限（担当教員：CURRAN, Beverley）の両方の授業への出席が必要である。それぞれの授業において、日常の授業態度、宿題に対する姿勢などにより総合的に評価し、それらの評価の平均をこの科目の評価とする。

【テキスト】

授業中に配布、指示する。

中国語読解 1 A

大森信徳 河井昭乃 楊 衛平

1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

身近な実用読解文を多くとりあげた教材を通じて中国語の初級段階を総合的に学習し、中国語の文法面・表現面における全体像がつかめるような基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の2級に受かることを目標に定め、〈中国漢語水平考試大綱〉に規定された400～900前後の語彙力と70項目の文法力を身につける。このことで、中国語の平易な文章の読解が可能になると同時に、履修翌学期からHSK試験対策コースである〈HSK基礎コースA〉〈HSK基礎コースB〉の履修が可能になる。

【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 母音、数字、挨拶
3. 疑問文、形容詞述語文
4. 子音、声調、曜日表現
5. 省略疑問文、疑問詞疑問文
6. 音節、勧誘表現
7. 動詞述語文、指示代名詞
8. 我姓松本。自己紹介
9. 介詞“和”、副詞“也”“都”
10. 我的家庭。所有・存在の“有”、名詞述語文
11. 部分否定文、感嘆表現、変調と軽声
12. 我们的大学。介詞“给”“在”
13. 名詞の修飾表現
14. 我的一天。時の表現、方向補語
15. まとめ

【評価方法】

出席、平常点、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語読解 1 A 2 (愛知淑徳大学中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語読解 1 B

大森信徳 河井昭乃 曹 志偉

1～4年 前期・土 1 選択 2単位

【授業の概要】

講義の内容等とカリキュラム上の位置づけは〈中国語読解 1 A〉とほぼ同じであるが、中国語学習に対して特に関心を示す学生に対して週2回の受講を可能にするため設定された講義である。ただし、文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が〈中国語読解 1 A〉と異なっている教材を使用する。このことで、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにすることを図る。

【授業計画】

読解に必要な、基礎的な表現や文法事項を、特に日本人の苦手な部分に重点を置いて、半期にわたって講義する。

- | | |
|------|--------------|
| 第一課 | 発音 (1) |
| 第二課 | 発音 (2) |
| 第三課 | 発音 (3) |
| 第四課 | 発音 (4) |
| 第五課 | 人称代名詞・“是” |
| 第六課 | 指示代名詞・数詞・量詞 |
| 第七課 | 形容詞と形容詞述語文 |
| 第八課 | 動詞述語文 |
| 第九課 | “有”・年月日 |
| 第十課 | 場所・時間・数量 |
| 第十一課 | 前置詞 (介詞)・“了” |
| 第十二課 | 能願動詞 |

【評価方法】

出席、平常点、期末試験。

【テキスト】

愛知淑徳大学生のための中国語読解 1 B (中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語会話 1 A

大森信徳 河井昭乃 曹 志偉 楊 衛平

1～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

分かりやすい実用会話文を多くとりあげた教材を通じて、中国語の初級段階を総合的に学習し、中国語の音声面・表現面における全体像がつかめるような基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の2級に受かることを目標に定め、HSK試験センターより出された〈中国漢語水平考試大綱〉に規定された400～900前後の語彙力と70項目の文法力を身につける。このことで、一般的な挨拶・自己紹介などが可能になると同時に、履修翌学期からHSK試験対策コースである〈HSK基礎コースA〉〈HSK基礎コースB〉の履修が可能になる。

【授業計画】

初めて中国語を学ぶ学生を対象に日常会話表現の習得を目指す。

- | | |
|------|----------|
| 第一課 | 発音 (1) |
| 第二課 | 発音 (2) |
| 第三課 | 発音 (3) |
| 第四課 | 発音 (4) |
| 第五課 | あいさつ表現 |
| 第六課 | 時間の表し方 |
| 第七課 | 年齢を言う |
| 第八課 | 家庭を語る |
| 第九課 | 自分の家を語る |
| 第十課 | 学校について語る |
| 第十一課 | 趣味について語る |
| 第十二課 | 中国へ行く |

【評価方法】

出席、平常点、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

愛知淑徳大学生のための中国語会話 1 A・2 (中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語会話 1 B

大森信徳 河井昭乃 曹 志偉

1～4年 前期・土 II 選択 2単位

【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは〈中国語会話 1 A〉とほぼ同じであるが、中国語学習に対して特に関心を示す学生に対して週2回の受講を可能にするため設定された講義である。ただし、文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定などが〈中国語会話 1 A〉と異なっている教材を使用する。このことで、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにすることを図る。

【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 今天星期几? 曜日と疑問詞利用の疑問文
3. 我很高兴。省略疑問文、形容詞述語文
4. 我学习中文专业。能願動詞“能”
5. 现在幾点? 時間表現、語助動詞“了”
6. 我的家庭。介詞“在”
7. 谈天气。天気表現、選択疑問文、感嘆文、
8. 邀请。仮定文、反復疑問文、部分否定文
9. 中間テスト
10. 我的大学。伝聞の表現
11. 找手机。目的語位置換えの“把”、結果補語“到”
12. 喜欢什么? 過去の経験表現「V+“过”」
結果や程度表現「V+“得”」
13. 帮我。能願動詞“会”
14. 假期做什么? 結果補語“好”
15. まとめ

【評価方法】

出席、平常点、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語会話 1 B (愛知淑徳大学中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語読解 2

大森信徳 河井昭乃 楊 衛平

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

読解学習を通じて中国語の全体像がつかめる基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の3級に受かることを目標に定め、〈中国漢語水平考試大綱〉に規定された900～1500前後の語彙量と140項目の文法力を身につける。HSK試験対策のためには〈HSK基礎コースA〉か、〈HSK基礎コースB〉と並行した履修が望ましく、基礎能力の深度を深めるためには〈中国語会話2〉と並行した履修が望ましい。

【授業計画】

1. 就要放暑假了。語気助詞“了”、介詞“和”
2. 伝聞の表現、能願動詞“想”“要”
3. 暑假回家的一天。完了の表現、結果補語“到”
4. 使役の表現“让”
5. 鈴木一家。能願動詞“会”“能”
6. 過去の経験表現「V+“过”」
7. 我家的照片。動作の進行・状態の持続などの表現「V+“着”」
8. 介詞“离”、連動文
9. 终于习惯了。感嘆表現2
10. 自己の意見表示
11. 我做了一个梦。動作の進行表現の「“在”+V」、程度補語と可能補語
12. 副詞用法の“地”
13. 我太幸福了。目的語位置換えの“把”、比較の表現、受身文
14. 春暇の計画。未完了の表現、許諾の表現
15. まとめ

【評価方法】

出席、平常点、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語読解1A2（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語会話 2

大森信徳 河井昭乃 楊 衛平

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

主として、身近で分かりやすい実用例文を多くとりあげた会話学習を通じて、中国語の音声面・文法面・表現面における全体像がつかめるような基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の3級に受かることを目標に定め、HSK試験センターより出された〈中国漢語水平考試大綱〉に規定された900～1500前後の語彙量と140項目の文法力を身につける。履修後は、旅先での中国語による買い物などが可能になる。

【授業計画】

中国語会話1をクリアした学生が、さらに深く生きた中国語を話せるようになることを目指す。学生が、中国に留学している気分で学習できるように配慮した。

- | | |
|------|------------|
| 第一課 | 部屋を借りる |
| 第二課 | 換金する |
| 第三課 | 道を尋ねる |
| 第四課 | 交通機関を利用する |
| 第五課 | 市場での買い物の仕方 |
| 第六課 | デパート |
| 第七課 | ホテル |
| 第八課 | 郵便局 |
| 第九課 | 電話 |
| 第十課 | 中国人宅に訪問する |
| 第十一課 | レストラン |
| 第十二課 | スピーチの仕方 |

【評価方法】

出席、平常点、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

愛知淑徳大学生のための中国語会話1A・2（中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK基礎コースA ※聴解中心

河井昭乃 曹 志偉

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

履修後、HSK基礎試験の2級か3級に受かることを目標に定めた授業である。試験で要求される400～1500前後の語彙量とその語彙量に対応する文法力を身につける。

【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと、練習問題を解いて、練習問題について解説する。各課の文法のポイントは下記の通りである。

1. “了”や“过”の使い方など
2. “时点”の言い方や“时段”の言い方など
3. “小时”や“钟头”の使い方など
4. “方位词表”について
5. “多会儿”や“哪会儿”の使い方など
6. “该”や“应该”の使い方など
7. 介詞の“朝”、“向”と“往”の使い方
8. 比較表現について
9. “是字句”について
10. “愿意”や“想”の使い方など
11. “趋向补语”について
12. “复合趋向补语”である“下来”や“下去”などの意味について
授業の予習としてホームページを利用することができる。

【評価方法】

出席、平常点、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK基礎A（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK基礎コースB ※読解中心

大森信徳 河井昭乃 曹 志偉 陳 惠貞

1～4年 後期・春Ⅱ 選択 2単位

【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは〈HSK基礎コースA〉とほぼ同じであるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が〈HSK基礎コースA〉で用いる教材と異なっている教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと、練習問題を解いて、練習問題について解説する。各課の文法のポイントは下記の通りである。

1. “我”と“你”；“左右”と“前后”など
2. “是”；“语气助词”の“吗”と“呢”など
3. “了”；“形容词谓语句”など
4. “动词+过”と“形容词+过”；“在”など
5. “数量补语”；“头”と“面”など
6. “有字句”；结构助词“地”など
7. “量词的重叠”；“把字句”など
8. “从”と“离”；“一边～一边～”など
9. “都”と“一共”；“程度补语”など
10. “被字句”；“在・正・正在”など
11. “趋向补语”；“多么”など
12. “复合趋向补语”；“是～还是～”など
授業の予習としてホームページを利用することができる。

【評価方法】

出席、平常点、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK基礎B（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語読解 3

大森信徳 河井昭乃

2～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

読解中心のテキストを用い、更なる意欲で中国語の表現の学習に励み中国語文の読解力と理解力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初等試験の4級に受かることにねらいを定め、1500～2000前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。HSK試験対策のためには<HSK初等コースA>か、<HSK初等コースB>と並行した履修が、中国語コミュニケーションの深度を深めるためには<中国語会話3>と並行した履修が望ましい。

【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 应该感谢谁。
3. 一件小事。
4. 生日宴会。
5. 中国人的问候语。
6. 在中国过春节。
7. 修自行车的张师傅。
8. 自行车上的宝宝座儿。
9. 雨披。
10. 服装与色彩。
11. 逛商场。
12. 一个特别的“村”
13. 学汉语趣事。
14. まとめ
15. 復習・テスト

【評価方法】

出席、平常点、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

愛知淑徳大学のための中国語読解3（中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

教場で指示すること、関連参考文献のプリント提出など。

中国語会話 3

曹志偉

2～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

第二外国語として一年間ほど中国語を学んできた学習者が、生活において日常的に取りあげられる話題を中心に構成された会話のテキストを用い更なる意欲で中国語の表現の学習に励み、中国語によるコミュニケーション能力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初等試験の4級に受かることにねらいを定め、1500～2000前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。履修後は家族生活・大学生活などについて語る事ができる。

【授業計画】

中国語会話2を履修した学生が、さらに高度な内容について、中国語で円滑に会話が行えるようになることを目指す。

【評価方法】

期末試験、出席状況、平常点から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語会話3（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK 初等コースA ※聴解中心

大森信徳 曹志偉

2～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

履修後、HSK初等試験の4級に受かることを目標に定めた授業である。試験で要求される1500～2000前後の語彙量とそれに相応する文法力をマスターしていく。

【授業計画】

各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時には練習問題を解くこととその解説を中心にして、実践能力の向上をめざす。予習を課すこともあり、履修者の積極的な学習が要求される。

学習のベースとしては、学習者の理解に合わせて一課を一回ないし二回の授業で進めていく。

【評価方法】

期末試験、出席状況、平常点から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK初等A（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK 初等コースB ※読解中心

大森信徳 河井昭乃 曹志偉 湯海鵬

2～4年 前期・土Ⅱ 選択 2単位

【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは<HSK初等コースA>とほぼ同じであるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が<HSK初等コースA>で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

【授業計画】

各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時には練習問題を解くこととその解説を中心にして、実践能力の向上をめざす。予習を課すこともあり、履修者の積極的な学習が要求される。

学習のベースとしては、学習者の理解に合わせて一課を一回ないし二回の授業で進めていく。

【評価方法】

期末試験、出席状況、平常点から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK初等B（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語読解 4

大森信徳 河井昭乃

2～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

読解中心のテキストを用い、更なる意欲で中国語の表現の学習に励み、中国語の読解力と理解力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初・中等試験の5級に受かることにねらいを定め、2000～2500前後の語彙力とそれに相応する文法力を身につける。HSK試験対策のためには<HSK中等上級コースA>か、<HSK中等上級コースB>と並行した履修が、中国語コミュニケーションの深度を深めるためには<中国語会話4>と並行した履修が望ましい。

【授業計画】

1. 接続詞の使い方、用途など。“虽然～但是”など。
2. 連動文の構成。主語+動詞フレーズ1+動詞フレーズ2。
3. 動詞の繰り返しの構造。AA式：说说；A-A式：说一说等等。
4. 挨拶の言葉。“打招呼、问候语”などの基本と応用。
5. 構造助詞の使い方。“的、地、得”の使い方、それぞれの違い。
6. 名量詞と動量詞の区別。“一个小时”和“一小时”。
7. 「宝宝」からの連想ゲーム。“宝贝、宝座、珠宝、心肝宝贝”。
8. 疑問文のイロハ。“吗、呢、是吗、是不是、是～不是”。
9. 副詞のポイント。“又、再、也、都、一直、已经”。
10. 方向動詞の使い方。“上、下、出、回、来、去”を中心に。
11. 語気副詞の応用。“可、更不用说、真的”。
12. 形容詞と副詞の用例。“差不多”の使い方などを。
13. 比較の方法。“最、更、比、跟～一样”の使い方と区別。
14. 特殊な動詞述語文。“连动式文、兼语式文、把和被の用例”。
15. まとめ

【評価方法】

出席、平常点、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

愛知淑徳大学生のための中国語読解4（中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

教場で指示すること、関連参考文献のプリント提示など。

中国語会話 4

曹志偉

2～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

一年半ほど中国語を学んできた学習者が、生活において日常的に取りあげられる話題を中心に構成された会話のテキストを用い更なる意欲で中国語の表現の学習に励み、中国語によるコミュニケーション能力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK初・中等試験の5級に受かることにねらいを定め、2000～2500前後の語彙力とそれに相応する文法力を身につける。履修後は趣味生活・地域社会などについて語る事ができる。

【授業計画】

中国語会話3を履修した学生が、さらに高度な内容について、中国語で円滑に会話が行えるようになることを目指す。

【評価方法】

期末試験、出席状況、平常点から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語会話4（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK 中等上級コースA ※聴解中心

大森信徳 曹志偉

2～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

履修後、HSK初・中等試験の5級に受かることを目標に定めた授業である。ねらいの試験で要求される2000～2500前後の語彙力とそれに相応する文法力をマスターしていく。

【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと、練習問題を解いて、練習問題について解説する。学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を一回ないし二回の授業で進めていく。

【評価方法】

期末試験、出席状況、平常点から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK中等上級A（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK 中等上級コースB ※読解中心

大森信徳 河井昭乃 曹志偉 杜英起

2～4年 後期・春Ⅱ 選択 2単位

【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは<HSK中等上級コースA>と大同小異であるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が<HSK初等コースA>で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと、練習問題を解いて、練習問題について解説する。学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を一回ないし二回の授業で進めていく。

【評価方法】

期末試験、出席状況、平常点から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK中等上級B（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語作文 1

3・4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

第二外国語として2年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心にして習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、みずから平易な中国語文章が書けることにねらいをさだめる。さらに、HSK中等試験の6級または7級に受かることを目標にし、2500～3500前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。

HSK 中等高級コース 1 A ※聴解中心

3・4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

履修後、HSK中等試験の6級または7級に受かることを目標に定めた授業である。ねらいの試験で要求される2500～3500前後の語彙量とそれに相応する文法力をマスターしていく。

HSK 中等高級コース 1 B ※読解中心

3・4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは<HSK中等高級コース1A>と大同小異であるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が<HSK中等高級コース1A>で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ること理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

同時通訳入門 1

3・4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

第二外国語として2年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心にして習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、初歩的な同時通訳ができる実力を養成する。ねらいは、高度な中国語の運用能力を身につけ、実社会で中国語を使った仕事ができることに定める。さらに、HSK中等試験の6級または7級に受かることを目標にし、2500～3500前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。

中国語作文 2

3・4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

2、5年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心にして習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、中国語の一般的な文章が書けることにねらいを定める。さらに、HSK中等試験の7級または8級に受かることを目標にし、3500～4000前後の語彙量とそれに相応する文法項目を身につける。履修後は、友人・知人への略式手紙、中国官公署向けの書類作成、中国語による日記・メモの作成などが可能になる。

HSK 中等高級コース 2 A ※聴解中心

3・4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

履修後、HSK中等試験の7級または8級に受かることを目標に定めた授業である。ねらいの試験で要求される3500～4000前後の語彙量とそれに相応する文法力をマスターしていく。

HSK 中等高級コース 2 B ※読解中心

3・4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは<HSK中等高級コース2A>と大同小異であるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講可能を図るため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が<HSK中等高級コース2A>で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ること理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

同時通訳入門 2

3・4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

2、5年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心にして習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、平易な同時通訳ができる実力を養成する。ねらいは、高度な中国語の運用能力を身につけ、実社会で中国語を使った仕事ができることに定める。さらに、HSK中等試験の7級または8級に受かることを目標にし、3500～4000前後の語彙量とそれに相応する文法項目を身につける。HSK試験対策のためには<HSK中等高級コース2A>か、<HSK中等高級コース2B>と並行した履修が、中国語表現の深度を深めるためには<中国語作文2>と並行した履修が望ましい。

韓国・朝鮮語入門

李 正子 キム ソヨン パク ヨンソン

1～4年 前・後期 選択 4単位

【授業の概要】

ハングル (韓国・朝鮮の文字) の習得、発音のトレーニング、基礎文法の理解など、韓国・朝鮮語の入門段階を総合的に学習し、韓国・朝鮮語の文字・音声・表現における全体像がつかめる能力を養成する。入門段階における集中学習の効果 (韓国・朝鮮語は日本語と文法構造がほとんど同じなので、効果的に学習すれば1年間で高校3年の英語力程度の力をつけることができる) をねらい、週2回の履修になっている。

【授業計画】

基礎的な名詞および動詞や形容詞を中心とする500語程度の基本語彙、60項目ほどの基礎文法を身につけ、それを用いた短いハングル文の読み書きおよび聞き取り、そして簡単な意思表示と会話上の運用などを可能にする。

第1回	授業の概要説明、韓国・朝鮮語の概説
第2回～第5回	ハングルの読み書き1～4、まとめ 1) 基本母音字 (10個)、挨拶1 2) 基本子音字1 (平音9個)、挨拶2 3) 基本子音字2 (激音5個)、名詞1 4) 合成子音字 (濃音5個)、名詞2
第6回～第8回	ハングルの読み書き5～7 1) 合成母音字1 (4個)、形容詞1 2) 合成母音字2 (7個)、形容詞2 3) 終声子音字 (7種)、叙述格助詞「이다」
第9回～第10回	発音のルールとトレーニング1・2、動詞1・2、表現練習、まとめ
第11回～第12回	尊敬形 (합쇼체) 平叙文・疑問文1・2、動詞1・2
第13回～第14回	尊敬形 (합쇼체) 否定文、動詞3・4、まとめ
第15回	中間試験
第16回～第17回	上称形 (하쇼체) 平叙文・疑問文および否定文、連結語尾1・2
第18回～第20回	1) 勧誘および命令文、転成語尾1 2) 禁止および不可能文、変則活用1、転成語尾2 3) 漢数詞、書き取り、表現練習、まとめ
第21回～第23回	1) 略对上称形 (하계체)、転成語尾3 2) 平常形 (해례체)、先語末語尾1 3) 曖昧形 (반말체)、先語末語尾2
第24回～第24回	1) 変則活用2、先語末語尾3 2) 固有数詞、表現練習、まとめ
第26回	単位認定試験

【評価方法】

出席状況、授業のための準備状況、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

韓国語入門 (曹述燮)

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国・朝鮮語読解1

キム ソヨン

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

身近でわかりやすい実用読解文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の基礎過程を総合的に学習し、基礎的な韓国・朝鮮語を読み、書き、理解し、表現する能力を養成する。

【授業計画】

名詞、動詞や形容詞、そして冠詞や副詞などの1,000語程度の基本語彙、120項目ほどの文法力を身につけ、基礎的な単語で短い文章が書けること、ある程度辞書が使えること、そして韓国語能力試験の1級、ハングル能力検定試験の4級に受かることを目指す。

第1回	授業の概要説明、前期の復習
第2回	サッカーがお好きですか、過去の経験の敬語体、理由・原因の表現、単純否定表現と不可能表現
第3回	明日は何をされますか。意志・意図・計画の表現、願望の表現、勧誘の表現
第4回	喫茶店で。「으」変則、仮定の表現、選択・許容の表現、命令・提案・要求の表現
第5回	韓国料理屋で。「하」変則、前置きや状況の表現、逆接の表現、助数詞
第6回	道をたずねる。「은」変則、案内の表現、義務・必要性の表現、比較・対照の表現
第7回	中間試験
第8回	地下鉄の駅で。「은」変則、可能・能力の表現、不可能・無能力の表現、排除の表現、推量・可能性の表現
第9回	タクシーに乗る。前後関係の表現、意図・予定の表現、決定の意の表現、依頼・要求の表現
第10回	郵便局に行く。用言の連体形
第11回	約束を交わす。状態変化の表現、感動・独白・感想の表現、同時進行の表現
第12回	天気、引用・伝聞の表現、可能性への推測の表現、確認あるいは同意の表現
第13回	単位認定試験

【評価方法】

出席状況、授業のための準備状況、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

韓国語中級 (李昌圭 白帝社)

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国・朝鮮語会話1

李 正子

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

使用頻度の多い実用会話体の文章を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の基礎過程を総合的に学習し、基礎的な韓国・朝鮮語を聞き取り、理解し、応対する能力を養成する。

【授業計画】

名詞、動詞や形容詞、そして冠詞や副詞などの1,000語程度の基本語彙、120項目ほどの文法力を身につけ、初歩的な語句を用いてのハングル会話を楽しむと同時に、韓国語能力試験の1級、ハングル能力検定試験の4級に受かることを目指す。

第1回	授業の概要説明、こんにちは (안녕하세요?)
第2回	韓国は初めてですか (한국은 처음입니까?)
第3回	ここが寮です (여기가 숙사예요.)
第4回	3月2日からです (3월 2일부터예요.)
第5回	どこで売っていますか (어디에서 팔아요?)
第6回	MTって何ですか (MT가 뭐예요?)
第7回	韓国の歌、表現練習、まとめ、中間テスト
第8回	スタンドランプを見せてください (스탠드 좀 보여주세요.)
第9回	一杯飲みましょう (술 한잔 해요.)
第10回	大学生活はどうですか (학교생활은 어때요.)
第11回	よく聞けば勉強になります (자주 들으면 공부가 되지요.)
第12回	誕生パーティをしましょう (생일 파티를 합시다!)
第13回	単位認定試験

【評価方法】

出席状況、授業のための準備状況、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

初歩の韓国語会話1 (曹述燮・李正子・金賢珍)

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国語能力試験対策1

キム ソヨン

1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

韓国語能力試験の1級あるいはハングル能力検定試験の4級に合格することを目標に定めた授業である。ねらいの試験に必ず合格するために、既出問題および新出予想問題のドリル式練習、ポイントの解説、語彙・文法リストの作成などで構成される。

【授業計画】

ねらいの試験で要求される1,000語程度の基本語彙とその語彙量に相当する120項目ほどの文法力を着実に身につけるために、発音と表記、文法、動詞、読解と表現などを模擬試験をとおして習得していく。聞き取り、書き取りの練習も平行する。

第1回	授業の概要説明、前期の復習 完全制覇5級・挨拶言葉1
第2回	挨拶言葉2、ハングルのカタカナ表記
第3回	日本語のハングル表記、基本語彙と文法1
第4回	基本語彙と文法2、尊敬形と上称形の活用、各種助詞
第5回	漢数詞と固有数詞、助数詞、疑問詞
第6回	韓国語の短文作成および聞き取り、表現練習、まとめ、中間テスト
第7回	完全制覇4級・基本語彙と文法1
第8回	基本語彙と文法2・各種助詞、数詞・助数詞、過去形、尊敬形、単純否定形と不可能形
第9回	基本語彙と文法3・各種活用と変則、接続文、連体形
第10回	基本語彙と文法4・仮定の表現、状況変化の表現、各種語気の表現、動作の先行関係の表現
第11回	韓国語の発音、応用問題1
第12回	応用問題2
第13回	単位認定試験

【評価方法】

出席状況、授業のための準備状況、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

絶対合格のために!! 「ハングル」能力検定試験5級・4級 (小坂伸顕 白帝社)

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国・朝鮮語読解 2

尹 大辰

2～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

身近でわかりやすい実用読解文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の初級過程を総合的に学習し、平易な韓国・朝鮮語を読み、書き、理解し、表現する能力を養成する。

【授業計画】

1,500から3,000語程度の活用語彙、180～250項目ほどの文法力を身につけ、基本的な説明文・広告文などが理解できること、簡単な文章が正しく書けること、そして韓国語能力試験の2級、ハングル能力検定試験の3級に受かることを目指す。

- 第1回 授業の概要説明
- 第2回 初出勤、受動動詞、謙讓動詞、引用あるいは伝聞の表現、
- 第3回 順杯、平行動作と逆接の語尾「- (으) 면서」、 「ㅁ」変則、動詞の過去の連体形
- 第4回 会食、補助動詞、引用文縮約形
- 第5回 業務報告、推量・勧誘の表現、敬語体の依頼と命令
- 第6回 整理と発展「北韓山で」、漢字音を覚える、音の変化、模擬試験
- 第7回 韓国の文化・風習、表現練習、中間試験
- 第8回 再会(1)、婉曲・感嘆・非難の語尾表現、進展の語尾表現、会話文の縮約形
- 第9回 再会(2)、曖昧形(반말체) 文の疑問・命令・勧誘表現、意思表示の表現
- 第10回 日本の取材(1)、「ㄷ」変則、目的の表現、義務・必要性の表現
- 第11回 日本の取材(2)、判断あるいは同意の表現、間接疑問、曖昧形(반말체) 文
- 第12回 整理と発展「同僚紹介」、漢字音を覚える、連体形の色々、模擬試験
- 第13回 単位認定試験

【評価方法】

出席状況、授業のための準備状況、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

総合韓国語3 (油谷幸利・南相環、白帝社)

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国・朝鮮語会話 2

チョ スルソップ

2～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

使用頻度の多い実用会話体の例文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の初級過程を総合的に学習し、平易な韓国・朝鮮語を聞きとり、理解し、応対する能力を養成する。

【授業計画】

1,500から3,000語程度の活用語彙、180～250項目ほどの文法力を身につけ、ホテルでの予約、銀行での口座開設などの日常生活の簡単な会話を可能にし、そして基本的な説明文・広告文が理解できるようにする。それにより、平易な語句を用いてのハングル会話を楽しむと同時に、韓国語能力試験の2級、ハングル能力検定試験の3級に受かる。

- 第1回 授業の概要説明、そこは行かないでおきましょう(거기는 가지 맙시다.)
- 第2回 週末には何をしましたか(주말에는 무엇을 했어요?)
- 第3回 またお電話いたします(다시 전화하겠습니다.)
- 第4回 料理とか旅行です(요리나 여행이에요.)
- 第5回 資料を探しに一緒に行きませんか(자료 찾으러 같이 갈래요?)
- 第6回 韓国料理ができますか(한국 음식을 만들 수 있어요?)
- 第7回 韓国の歌、表現練習、まとめ、中間テスト
- 第8回 何をしようと思っていますか(뭐 하려고 합니까?)
- 第9回 どこにいらっしゃいますか(어디에 계십니까?)
- 第10回 バスカ地下鉄に乗っていきます(버스나 지하철을 타고 가요.)
- 第11回 過ぎた水曜日からです(지난 수요일부터 그랬어요.)
- 第12回 このバックはいい感じ(이 가방 얼마야?)
- 第13回 単位認定試験

【評価方法】

出席状況、授業のための準備状況、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

初歩の韓国語会話(曹述燮・李正子・金賢珍)

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国語能力試験対策 2

尹 大辰

2～4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

韓国語能力試験の2級あるいはハングル能力検定試験の3級に合格することを目標に定めた授業である。ねらいの試験に必ず合格するために、既出問題および新出予想問題のドリル式練習、ポイントの解説、語彙・文法リストの作成などで構成される。

【授業計画】

ねらいの試験で要求される1,500から3,000語程度の活用語彙とその語彙量に相当する180～250項目ほどの文法力を着実に身につけるために、基礎表現、発音、読解と活用表現などを模擬試験をとおして習得していく。聞き取り、書き取りの試験対策も平行する。

- 第1回 授業の概要説明、3級完全制覇1・基本語彙と文法2
- 第2回 基本語彙と文法2、韓国語文の日本語訳
- 第3回 各種動詞、各種形容詞、韓国語文の日本語訳
- 第4回 尊敬形と上称形、命令・勧誘・否定の表現、禁止の命令形
- 第5回 各種連体形、各種助動詞、各種接統詞、時制の表現、選択・許容の表現
- 第6回 試しの表現、可能・不可能の表現、過去の経験の表現
- 第7回 韓国の歌、表現練習、まとめ、中間テスト
- 第8回 意志・意図・計画の表現、決心の表現、依頼・要求の表現
- 第9回 各種否定の表現、禁止の勧誘形、理由・条件の表現、感動・独白・感嘆の表現、未来推量・意志の表現、伝聞
- 第10回 直接話法と間接話法1
- 第11回 直接話法と間接話法2
- 第12回 直接話法と間接話法3、韓国語と漢字、韓国語の発音、まとめ
- 第13回 単位認定試験

【評価方法】

出席状況、授業のための準備状況、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

絶対合格のために!! 「ハングル」能力検定試験3級(小坂伸顕 白帝社)

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国・朝鮮語読解 3

尹 大辰

2～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

わかりやすい実用読解文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の中級過程を総合的に学習し、日常生活に必要な一般的な韓国・朝鮮語を読み、書き、理解し、表現する能力を養成する。

【授業計画】

3,000から4,000語程度の活用語彙、240～300項目ほどの文法力を身につけ、辞書を引いて新聞、雑誌などを読んである程度理解でき、簡単な手紙を読んだり書いたりするなどの平易な文章による意思伝達が可能であること、そして韓国語能力試験の3級または4級、ハングル能力検定試験の準2級または3級に受かることを目指す。

- 第1回 授業の概要説明
- 第2回 日本語案内放送、「ㄱ」変則、感動・独白・感嘆の表現
- 第3回 日韓間の親近感、引用・伝聞の表現、勧誘表現、引用文連体形、回想連体形
- 第4回 板門店、理由・原因の表現、同等・比喩の表現、仮定の表現、譲歩の表現
- 第5回 韓国映画、「ㄷ」変則、推量の表現
- 第6回 整理と発展「海底トンネルへの期待」、漢字音を覚える、同等・比喩表現
- 第7回 韓国の文化・風習、表現練習、中間試験
- 第8回 PCバン、「ㅁ」変則、前置き・逆接の語尾、用言の連用形
- 第9回 東大門市場、選択の表現
- 第10回 コリアンタウン、文章の省略形、疑問詞の不定用法、曖昧形(반말체) 文と敬語体
- 第11回 あかすり、用言の名詞形、可能・不可能の表現、思い込みの表現、「ㄷ」変則
- 第12回 整理と発展「祝杯」、漢字音を覚える、音の変化
- 第13回 単位認定試験

【評価方法】

出席状況、授業のための準備状況、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

総合韓国語3 (油谷幸利・南相環、白帝社)

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国・朝鮮語会話3

チョ スルソップ

2～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

使用頻度の多い実用会話体の例文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の中級過程を総合的に学習し、日常生活に必要な一般的な韓国・朝鮮語を聞きとり、理解し、応対する能力を養成する。

【授業計画】

3,000から4,000語程度の活用語彙、240～300項目ほどの文法力を身につけ、電話で簡単な会話ができるなどの日常言語生活において語彙の不便がなく、よく使われる言葉をゆつくり聞けば十分理解できるほどのハングル会話を楽しむと同時に、韓国語能力試験の3級または4級、ハングル能力検定試験の準2級または2級に受かることを目指す。

- 第1回 授業の概要説明
- 第2回 人参茶の味は (인삼차 맛이 어때?)
- 第3回 メロドラマがすぎ (멜로 드라마를 잘 봐.)
- 第4回 スニーカーが楽です (운동화가 더 편안하지!)
- 第5回 犬のほうが可愛い (강아지가 더 귀여워.)
- 第6回 ワインをよく飲む (와인을 즐겨 마셔.)
- 第7回 韓国の歌、表現練習、まとめ、中間テスト
- 第8回 「マンナム」って歌える (만남이라는 노래 부를 수 있어?)
- 第9回 バラを送るの (장미를 선물 해.)
- 第10回 泳ぎに行く (수영하러 가!)
- 第11回 本当のことを言うと… (실은….)
- 第12回 パンソリの世界 (판소리의 세계)
- 第13回 単位認定試験

【評価方法】

出席状況、授業のための準備状況、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

大学指定テキスト。未定

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国語能力試験対策3

尹 大辰

2～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

韓国語能力試験の3級または4級あるいはハングル能力検定試験の準2級または2級に合格することを目標に定めた授業である。ねらいの試験に必ず合格するために、既出問題のおよび新出予想問題のドリル式練習、ポイントの解説、語彙・文法リストの作成などで構成される。

【授業計画】

ねらいの試験で要求される3,000から4,000語程度の活用語彙とその語彙量に相当する240～300項目ほどの文法力を着実に身につけるために、発音、読解、注意すべき用言とその用例、活用表現などを模擬試験をとおして習得していく。聞き取り、書き取りの試験対策も平行する。

- 第1回 授業の概要説明、各種発音ルール
- 第2回 受身、使役形、形容詞の動詞化表現、動詞の名詞化表現、読解・カッパの語源
- 第3回 読解・韓国と日本の文化比較、結婚後の複雑な親族呼称、韓国の朝は忙しい
- 第4回 各種活用表現1
- 第5回 各種活用表現2、注意すべき用言とその用例1
- 第6回 注意すべき用言とその用例1、慣用表現、まとめ、中間テスト
- 第7回 模擬試験1、解答と解説
- 第8回 模擬試験2、解答と解説
- 第9回 模擬試験3、解答と解説
- 第10回 聞き取り・書き取り模擬試験1、解答と解説
- 第11回 聞き取り・書き取り模擬試験2、解答と解説
- 第12回 聞き取り・書き取り模擬試験3、解答と解説
- 第13回 単位認定試験

【評価方法】

出席状況、授業のための準備状況、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

ハングル能力検定試験準2級合格をめざして (李昌烈 白帝社)

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

情報技術基礎 I

西荒井学 他

1年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

情報技術に関する基礎的かつ実践的な知識ならびに技法を習得する。このため、基本的なハードウェア構成および各周辺機器の機能や特徴をはじめ、ソフトウェアの役割、情報社会の特質や問題点にも触れながら、一般的な情報関連知識ならびに情報倫理観を育てる。特に、情報技術の基礎として不可欠なネットワーク利用技術ならびにデータ処理操作技術について、コンピュータ実習を通じて学習する。

【授業計画】

1. コンピュータの歴史、原理
2. 情報の表現（2進数、16進数）
3. ハードウェアの仕組みとソフトウェアの役割
4. 情報社会と情報倫理1（ネットワーク犯罪）
5. 情報社会と情報倫理2（情報セキュリティ、知的所有権）
6. 情報収集と分析
7. 情報ツールとマナー
8. インターネット基本操作1（電子メール）実習
9. インターネット基本操作2（WWW）実習
10. EXCEL基本操作1 実習
11. EXCEL基本操作2 実習
12. EXCEL基本操作3 実習
13. EXCEL基本操作4 実習

当該科目については、科目履修前に情報技術に関するテストを実施し、受講者を初級クラスと上級クラスに分け、授業を実施していく。また、講義とコンピュータ実習とを約半々の割合で授業を進行していく。コンピュータ実習を伴うため、授業への出席は不可欠な要素である。特に、コンピュータ活用科目の「情報技術基礎III」、「ネットワーク技術入門」、「プログラミング入門」の履修を予定している学生は必ず受講しておくこと。また、実習の際にはフロッピー・ディスク（またはMO）が必要になる。

【評価方法】

出席状況、学期末試験ならびに各コンピュータ実習課題提出内容によって評価する。

【テキスト】

情報技術基礎I（愛知淑徳大学情報教育センター編、共立出版）

情報技術基礎II

西荒井学 他

1年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

情報技術の基礎となる基本ソフトウェアならびに応用ソフトに関する知識ならびに技法を習得する。また、情報の処理能力や創造力を培うだけでなく、情報の表現方法や表現手段について、コンピュータ実習授業を通して学習していく。このため、基本的な文書書式、文書表現の方法や特徴をはじめ、実際にプレゼンテーション・ツールを利用した発表の手段や方法についても学習する。情報技術基礎Iと同様、今後のより専門的な情報技術に関する知識ならびに技能習得に向けての礎を築く、基盤となる授業科目である。

【授業計画】

1. Windows基本操作1（キー・タイピングを含む）実習
2. Windows基本操作2 実習
3. WORD基本操作1 実習
4. WORD基本操作2 実習
5. WORD基本操作3 実習
6. WORD基本操作4 実習
7. プレゼンテーションの概要
8. POWERPOINT基本操作1 実習
9. POWERPOINT基本操作2 実習
10. POWERPOINT基本操作3 実習
11. 総合課題（プレゼンテーション資料作成1）実習
12. 総合課題（プレゼンテーション資料作成2）実習
13. 情報発信の管理と運用

当該科目については、情報技術基礎Iと同じく、受講者を初級クラスと上級クラスに分け、授業を実施していく。また講義とコンピュータ実習とを約半々の割合で授業を進行していく。コンピュータ実習を伴うため、授業への出席は不可欠な要素である。特に、コンピュータ活用科目の「情報技術基礎III」、「ネットワーク技術入門」、「プログラミング入門」の履修を予定している学生は必ず受講しておくこと。また、実習の際にはフロッピー・ディスク（またはMO）が必要になる。

【評価方法】

出席状況、学期末試験ならびに各コンピュータ実習課題提出内容によって評価する。

【テキスト】

情報技術基礎II（愛知淑徳大学情報教育センター編、共立出版）

情報技術基礎III

上原 衛 他

1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

情報技術基礎I、情報技術基礎IIを踏まえ、Windowsの高度操作、WORD、EXCELの高度操作、ACCESSの基本操作を学び、より高度で広範囲な情報技術の知識とスキルを習得する。当授業では、レポートや論文作成、ビジネス文書や表作成などを想定して、実践的なノウハウをコンピュータ実習によって学習する。

【授業計画】

1. デスクトップの高度操作
2. ファイルの高度操作
3. ネットワークの操作
4. 学術文書、ビジネス文書の操作（WORD）
5. ビジネス情報処理（EXCEL）
6. マクロ操作（1）
7. マクロ操作（2）
8. ACCESSの概要
9. ACCESSの基本操作（1）
10. ACCESSの基本操作（2）
11. ACCESS総合演習（1）
12. ACCESS総合演習（2）
13. まとめ

【評価方法】

コンピュータ実習を中心に授業を進行する。授業を欠席すると実習内容が理解できなくなるので出席が不可欠である。出席状況、学期末試験、課題内容によって評価する。なお、コンピュータ活用科目の「情報技術基礎I」と「情報技術基礎II」で習得した知識、技術が必要となる。

【テキスト】

情報リテラシーの応用（伊東俊彦他著、近代科学社）

ネットワーク技術入門

三和義秀 他

1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

ネットワーク（network）という言葉は、人間を中心とする情報交換の仕組みとして使われたり、コンピュータを中心とする情報通信の仕組みにおいて使われたりしているが、両者には「情報のやり取り」という一義的な目的が存在し、ネットワークを流れるデータは人間の行動を左右する必要不可欠な情報となっている。本授業では、コンピュータネットワークに関する理論と技術の両側面における基礎知識を習得し、ホームページの作成、およびCGIプログラミングの実習によって、ネットワークの基本的な考え方、意義、活用方法、有効性を体得する。

【授業計画】

1. ネットワーク理論の基礎知識（1）：ネットワークの仕組みとその意義
 2. ネットワーク理論の基礎知識（2）：情報量と通信速度、プロトコル
 3. ネットワーク技術の基礎知識（1）：LANの仕組み
 4. ネットワーク技術の基礎知識（2）：サーバの種類と仕組み
 5. ネットワーク技術の基礎知識（3）：IPアドレスとファイアウォール
 6. HTMLとホームページ（1）：HTMLの仕組み
 7. HTMLとホームページ（2）：基本タグの設定、ハイパーリンクの設定、画像の表示
 8. HTMLとホームページ（3）：サウンドの再生と動画の再生、ファイルの管理方法
 9. CGIプログラミング（1）：CGIの仕組みとPerlプログラミングの基礎知識
 10. CGIプログラミング（2）：エディタとFTP、パーミッションの設定
 11. CGIプログラミング（3）：formタグによるデータ入力フォームの作成
 12. CGIプログラミング（4）：環境変数、関数、文字列変換
 13. セキュリティと情報倫理：セキュリティ対策と情報倫理の意味と必要性
- この授業では、コンピュータ活用科目の「情報技術基礎I」、「情報技術基礎II」で習得した知識、技術が必要になる。

【評価方法】

出席回数、課題提出、期末試験によって総合評価を行う。

【テキスト】

ネットワークリテラシー（三和義秀著 共立出版）

プログラミング入門

三和義秀 他

2・3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

システム開発における基本技術であるプログラミング技術について、BASICまたはC言語を用いてその基礎知識を習得する。このため、プログラミング言語が持つ特徴ならびに機能の学習からはじめ、データ処理におけるアルゴリズムについての考え方、ならびに最終的なコーディング作業に至るまでの一連のプログラミング工程について学習する。なお、プログラミングに関する理解は、実際のプログラミング作業を経験していくことが不可欠であることから、コンピュータ実習を並行して行う。

【授業計画】

1. システム開発におけるプログラミング
2. プログラミング言語の概要
3. プログラミングの基礎、手順
4. アルゴリズムとフローチャート
5. データ構造とデータ型
6. 順次構造
7. 選択構造
8. 繰り返し構造(1)
9. 繰り返し構造(2)
10. 配列の操作
11. 関数の利用
12. 事務計算
13. 技術計算

講義とコンピュータ実習とを約半々の割合で授業を進行していく。またコンピュータ実習を伴うため、授業への出席は不可欠な要素である。また、実習の際にはフロッピー・ディスクまたはMOが必要になる。

【評価方法】

出席状況、学期末試験ならびに各コンピュータ実習課題提出内容によって評価する。

【テキスト】

第1回目の授業にて指定する

情報数学入門

親松和浩 他

2・3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

情報の整理、分析、加工といった処理には、基本的な数学的技術の習得が不可欠である。この講義では、高等学校での数学の復習から始めて、情報処理プログラミングに必要な論理数学、情報量と計算量評価、グラフィック処理で必要となる代数幾何の基礎を学ぶ。

【授業計画】

1. 命題と制御処理
2. 集合と写像
3. データの表現法と2進法
4. 情報量/計算量の評価
5. 三角関数
6. 2次元ベクトル
7. 2次元図形の表現法
8. 行列
9. 2次元図形の変換
10. 3次元ベクトル
11. 3次元図形の表現法
12. 3次元図形の変換

【評価方法】

出席状況、学期末試験、課題レポートの提出内容によって評価する。

【テキスト】

第1回目の授業にて指示する

CG入門

川澄未来子 他

2・3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

コンピュータグラフィックス(CG)を含むデジタルコンテンツ制作に関する基礎知識と基礎技術を習得する。CGを効果的に使用した画像・映像は、産業、科学、映画、ゲーム、芸術、教育など多くの分野にみられる。本講では、デジタルコンテンツを使ったコミュニケーションやプレゼンテーションの基本から具体的な表現・制作技術にいたるまで概説する。

【授業計画】

画像・映像やスライド教材などを活用した講義を中心に、時にはコンピュータ実習や課題制作を交えて進める。扱うトピックは次のとおりである。

1. コミュニケーションと情報
2. プレゼンテーション
3. Webにおける情報デザイン
4. 映像制作
5. コンピュータグラフィックス1:基礎編
6. コンピュータグラフィックス2:アニメーション編
7. 表現の基礎
8. 技術の基礎

【評価方法】

出席状況、受講態度、課題提出、試験結果などから総合的に評価する。

【テキスト】

『ビジュアル情報表現』—デジタル映像表現・Webデザイン入門—
(CG-ARTS協会)

人工知能入門

高橋信明 他

2・3年 前・後期 選択 2単位

【授業の概要】

人工知能とは何か、その基本的な考え方ならびに基本技術および情報処理について、その基礎知識を習得する。知識工学という言葉から類推されるように、工学的色彩が高い分野であることから、最も基礎的な内容に範囲を絞り、出来る限り理解しやすい形で授業を進行していく。そのため、システム事例や技術応用例に触れていくと共に、今後の技術展開や今後の応用分野についても触れていくこととする。

【授業計画】

1. 人工知能の基本原則と考え方
2. 知識と知識表現
3. 述語論理と導出原理
4. 問題解決
5. 探索法とアルゴリズム
6. プロダクションシステム
7. 意味ネットワーク
8. 推論
9. 自然言語処理
10. 人工知能用言語
11. エキスパートシステム
12. ニューラルネットワーク
13. 人工知能の応用と展望

【評価方法】

出席状況、学期末試験ならびに各コンピュータ実習課題提出内容によって評価する。

【テキスト】

第1回目の授業にて指示する

情報処理技術特殊Ⅰ

中野雅晴

1～4年 前期集中 選択 2単位

【授業の概要】

基本情報技術者試験合格のための教育科目である。

情報技術全般の基礎知識を活用し、情報システム開発においてプログラムの設計・開発を行うとともに、将来高度な技術者をを目指す者として、以下の知識・能力を身につける。

- 1) 情報技術全般に関する基本的な用語・内容の知識
- 2) 上位技術者の指導のもとにプログラム設計書を作成する能力
- 3) プログラミングに必要な論理的思考能力
- 4) プログラムのテスト手法を理解し実施する能力

【授業計画】

- ステップ1 コンピュータ科学基礎
- ステップ2 データベース技術
- ステップ3 コンピュータシステムの開発と運用
- ステップ4 ネットワーク技術
- ステップ5 情報と経営
- ステップ6 セキュリティと標準化

【評価方法】

出席状況・小テストなどで評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

情報処理技術特殊Ⅱ

中野雅晴

1～4年 前期集中 選択 2単位

【授業の概要】

ソフトウェア開発技術者試験合格のための教育科目である。

情報システム開発のソフトウェア開発技術者として、外部仕様に基づいて内部設計・プログラム設計・プログラム開発を行い、高品質なソフトウェアを開発するための、以下の知識・能力を身につける。

- 1) ネットワーク、データベース、システム構成などの情報技術に関する全般的な知識と、上位技術者の指導のもとに情報システムの設計ができる能力
- 2) 内部設計書・プログラム設計書の作成能力
- 3) プログラミングに必要な高度の論理的思考能力
- 4) ネットワーク、データベースなどに関する実装技術と知識
- 5) プログラムのテスト手法を熟知し、単体テスト・結合テストの計画と管理が行え、テストの実施についてはプログラム開発要員を指導できる能力

【授業計画】

- ステップ1 コンピュータ科学基礎上級
- ステップ2 コンピュータシステム上級
- ステップ3 システムの開発と運用
- ステップ4 ネットワーク技術
- ステップ5 データベース技術
- ステップ6 セキュリティと標準化

【評価方法】

出席状況・小テストなどで評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

情報処理技術特殊Ⅲ

黒部晃一

1～4年 前期集中 選択 2単位

【授業の概要】

「画像情報技能検定試験CG部門（CG検定）」の2級合格を目標として、その対策を会得する。2級問題は、3級レベルのCGに関する総合的な知識の他に、厳密な理論的知識をも要求されるので、VCによるCGプログラミングのサンプルを解説することでそれを理解する。

【授業計画】

配布するサブテキストに基づいて、講義方式で行う。

1. CG概論、CG検定試験2級対策
2. 各種CGツールの紹介、そのデモンストレーションと作例紹介
3. VisualC++によるGUIプログラミング
4. VisualC++によるインターフェースの設計
5. 平成15年度前期CG検定2級試験問題の検証と分析
6. 平成15年度前期CG検定2級試験問題の検証と分析
7. 平成15年度後期CG検定2級試験問題の検証と分析
8. 平成15年度後期CG検定2級試験問題の検証と分析
9. 平成14年度前期CG検定2級試験問題の検証と分析
10. 平成14年度後期CG検定2級試験問題の検証と分析
11. 演習
12. まとめ

【評価方法】

出席状況で評価

【テキスト】

技術編 CG標準テキストブック（画像情報教育振興協会）
平成16年度版 CG検定2級問題集（画像情報教育振興協会）

【参考文献・資料】

- 入門コンピュータグラフィックス（画像情報教育振興協会）
- 基礎から学ぶVisualC++プログラミング（山岡祥 CQ出版社）

情報処理技術特殊Ⅳ

黒部晃一

1～4年 前期集中 選択 2単位

【授業の概要】

「画像情報技能検定試験CG部門（CG検定）」の1級合格を目標として、その対策を会得する。1級問題は、CGプログラミングのスキルを要求されるので、自ら発案するテーマに基づいたプログラミングの実習を行う。

【授業計画】

前半は講義方式で、後半は主に実習形式で行う。

1. CG検定試験1級の概要と対策
2. VisualC++によるGUIプログラミング
3. 平成15年度CG検定1級試験問題（マークシート）の検証と分析
4. 平成15年度CG検定1級試験問題（記述式）の検証と分析
5. 平成15年度CG検定1級試験問題（二次試験）の検証と分析
6. 平成15年度CG検定1級試験問題（二次試験）の検証と分析
7. 平成15年度CG検定1級試験問題（三次試験）の検証と分析
8. 平成15年度CG検定1級試験問題（三次試験）の検証と分析
9. 自ら提議したテーマに基づいたプログラミング実習
10. 自ら提議したテーマに基づいたプログラミング実習
11. 自ら提議したテーマに基づいたプログラミング実習
12. 自ら提議したテーマに基づいたプログラミング実習、まとめ

【評価方法】

出席状況で評価

【テキスト】

技術編 CG標準テキストブック（画像情報教育振興協会）
平成16年度版 CG検定1級問題集（画像情報教育振興協会）

【参考文献・資料】

- コンピュータグラフィックス理論と実践
（J.D.Foley、A.v.Dam、S.K.Feiner F.Hughes オーム社）
- 基礎から学ぶVisualC++プログラミング（山岡祥 CQ出版社）

医療福祉論

高橋俊彦

1年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

医療、保健、福祉を人権尊重という人間学的立場から統合する医療福祉学の基本的概念と社会的役割、その実践について学ぶ。

【授業計画】

講義を中心としてときに討論の時間も作る予定

- 第1回 医療福祉の概念
- 第2回 医療福祉の歴史
- 第3回 社会保障制度
- 第4回 医療制度
- 第5回 医療保障制度
- 第6回 医療費、国民の健康、医療行政
- 第7回 介護保険制度
- 第8回 介護保険と医療保険
- 第9回 医療福祉における人権保障
- 第10回 医療福祉の援助対象者
- 第11回 医療福祉援助の方法
- 第12回 医療ソーシャルワーカーの業務
- 第13回 医療福祉の今後の展望と課題
- 第14回 まとめ
- 第15回 期末試験

【評価方法】

おもに期末試験（筆記）による。場合によってレポートによることもある。

【テキスト】

現代医療福祉概論（児島美都子・成清美治 学文社）

【参考文献・資料】

講義の中で紹介することもある。

医療貢献関係法規

初谷良彦

1年 後期 必修（言語・視覚） 選択（福祉） 2単位

【授業の概要】

社会福祉事業の概要、法制、サービス体系の理解、種々の福祉関連職種との連携などについて学び、社会福祉の全体像について学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 医療の法学の概要と医事法における方法論
- 第2回 医師法
- 第3回 医療法
- 第4回 保険医療機関規則
- 第5回 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律
- 第6回 臓器移植法
- 第7回 医療訴訟に関する法律（民法・刑法・刑事訴訟法）
- 第8回 生命の始まりと生命の終わりに関する法律（民法・刑法・母体保護法等）
- 第9回 医療過誤事件の解決方法
- 第10回 レセプト・カルテの開示問題
- 第11回 告知と説明義務
- 第12回 先端医療技術の法的規制
- 第13回 尊厳死・安楽死
- 第14回 医療倫理
- 第15回 期末試験

【評価方法】

主として期末試験の成績によって評価する。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業の際、随時紹介する。

コミュニケーション障害論

西村辨作

1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

視覚、聴覚、言語、肢体、高次脳機能などに生じる諸障害が、コミュニケーション能力とどのように関連しているのかについて、障害発生のメカニズム、障害の特性を中心に理解し、さらにそれらに対する有効なエイドのあり方について学ぶ。

【授業計画】

講義形式による。資料プリントを毎回配布する。ビデオ教材も使用する。

- 第1回 コミュニケーションについて
- 第2回 人間の言語行動の特徴
- 第3回 子どもの発達障害（ビデオ）
- 第4回 認知発達のみちすじ
- 第5回 心理社会的な成長
- 第6回 こころの組み立てと防衛機制
- 第7回 自閉症（ビデオ）
- 第8回 知的障害
- 第9回 軽度発達障害
- 第10回 構音障害
- 第11回 失語症（ビデオ）
- 第12回 聴力障害
- 第13回 障害児を持つ家族
- 第14回 補助代替コミュニケーション
- 第15回 まとめ

【評価方法】

レポートにより評価する。（毎回出席を調査する。欠席回数が多い場合には失格となる。）

【テキスト】

ことばの障害入門（西村辨作編 大修館書店）

【参考文献・資料】

適宜プリントを配布する。

公衆衛生学概論

棚橋昌子

2年 後期 必修（視覚） 選択（福祉・言語） 2単位

【授業の概要】

生活環境の変化により、大気・水等の環境汚染や運動不足・飽食による糖尿病等の生活習慣病が問題となっている。医療保健統計から公衆衛生の現状を学び、健康を保持・増進する視点から、疾病予防対策をたてる公衆衛生の理論と実践について学習し、保健医療対策の現状を理解する。

【授業計画】

- 第1回 健康の定義、健康の理解
- 第2回 公衆衛生の歴史
- 第3回 疾病構造の変化
- 第4回 生活習慣病（1）悪性新生物
- 第5回 生活習慣病（2）循環系疾患
- 第6回 感染症の疫学
- 第7回 保健統計（1）人口・出生・死亡
- 第8回 保健統計（2）疾病統計
- 第9回 栄養と食生活
- 第10回 地域保健福祉（1）母子保健
- 第11回 地域保健福祉（2）高齢者保健
- 第12回 文明の発展と疲労
- 第13回 文明の発展と健康（1）
- 第14回 文明の発展と健康（2）
- 第15回 健康づくり対策

【評価方法】

出席状況とレポートの総合評価

【テキスト】

未定
毎回プリントを配布する

【参考文献・資料】

公衆衛生学入門（吉永文隆編著 南山堂）
国民衛生の動向（厚生統計協会）

【授業の概要】

保健・医療・福祉の統合を進める最近の動向を踏まえて、地域や職域等における保健福祉の現状を理解する。特に母子保健・高齢者保健は住民の身近な問題として、地域保健法により地域密着型となり、地域福祉との接点が大きくなった。具体例により保健福祉の課題とあり方を学習する。

【授業計画】

- 第1回 保健福祉サービスの最近の動向
- 第2回 保健と福祉の接点1 保健からみた福祉
- 第3回 保健と福祉の接点2 福祉からみた保健
- 第4回 保健と福祉の接点3 生活の中の保健福祉
- 第5回 地域保健法
- 第6回 地域住民のニーズ1 母子の保健福祉
- 第7回 地域住民のニーズ2 高齢者の保健福祉
- 第8回 地域住民のニーズ3 職域と地域の連携
- 第9回 行政の保健福祉対策
- 第10回 保健福祉統計
- 第11回 保健と福祉の統合をめざす試み1
- 第12回 保健と福祉の統合をめざす試み2
- 第13回 保健と福祉の統合をめざす試み3
- 第14回 現代の保健福祉の課題
- 第15回 まとめ

【評価方法】

出席状況及びテストの総合評価とする

【テキスト】

使用しない

【参考文献・資料】

- 保健医療福祉の統合（前田信雄著 勁草書房）
- これからの地域保健（厚生省健康政策局監修 中央法規出版）
- 保健福祉学概論（日本保健福祉学会編 川島書店）

【授業の概要】

まず、人体の基本的な構造や機能について学習する。そして、臨床医学の各分野、すなわち内科学、外科学、整形外科、精神・神経科学、小児科学、産婦人科学などの基礎を学習する。また、医学的リハビリテーションの考え方、医学的リハビリテーションにおける診断と評価及びその具体的展開について学習する。

【授業計画】

目 標

- 1 人体の基本的な構造や機能について理解する。
- 2 臨床医学の各分野の概要について理解する。
- 3 医学的リハビリテーションの概要について理解する。

内 容

- 1 人体の構造・機能
 - 1) 人体の構成 2) 細胞と組織 3) 皮膚 4) 骨格 5) 骨格筋
 - 6) 脳・神経系 7) 感覚器 8) 内分泌腺 9) 血液 10) 循環器系
 - 11) リンパ系と免疫 12) 呼吸器 13) 消化器 14) 泌尿器系
 - 15) 体液の恒常性 16) 生殖器 17) 生殖と発生
- 2 一般臨床医学の概要
 - 1) 内科学
 - 2) 外科学
 - 3) 整形外科
 - 4) 精神・神経科学
 - 5) 小児科学
 - 6) 産婦人科学
- 3 医学的リハビリテーションの概要
 - 1) リハビリテーションの定義、障害の概念と対象の変遷
 - 2) 医学的リハビリテーションにおける診断と評価
 - 3) 医学的リハビリテーションの具体的展開

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する

【テキスト】

新版 社会福祉士養成講座13 医学一般（中央法規）

【授業の概要】

救急医療と救急医学、救急処置、ショックと生体反応、重症救急患者の管理、救急医療と脳死等のトピックスの学習を通して、医療の原点ともいえる救急救命医学の基礎について学ぶ。

【授業計画】

目標

1. わが国の救急医療システムを理解する。
2. 救急初期診療における診療指針について理解する。
3. 重症患者の症状と初期治療について理解する。
4. 救急医療のトピックスについて考察する。

内容

1. わが国の救急システム
 - 1) 初期救急医療体制
 - 2) 第二次救急医療体制
 - 3) 第三次救急医療体制
 - 4) メディカルコントロール体制
2. 救急初期診療における診療指針
 - 1) 全身観察
 - 2) トリアージ
 - 3) BLSとACLS
 - 4) 集中治療
3. 重症患者の症状と初期治療
 - 1) ショック
 - 2) 意識障害
 - 3) けいれん
 - 4) 呼吸困難
 - 5) 胸痛
4. 救急医療のトピックス
 - 1) 脳死と臓器移植
 - 2) インフォームドコンセント
 - 3) 医療事故と医療過誤

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポートおよび授業後の小テストを総合して評価する。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業の際、随時紹介する。

【授業の概要】

加齢に伴う身体、生理、心理の変化について理解し、特に老年期に障害をきたすことの多い各種疾患について、それらの病態障害像について理解し、それらに対する治療、援助のあり方について学ぶ。

【授業計画】

目標

1. 加齢現象を理解する。
2. 加齢に伴う疾患を理解する。
3. 加齢に伴う精神面の諸問題を理解する。
4. 死の受容について考える。

内容

1. 脳卒中（脳出血、脳梗塞）
2. 糖尿病
3. 癌
4. 虚血性心疾患
5. 痴呆症
6. 現代における老人の役割
7. 現代における死の変容

【評価方法】

出席状況、筆記試験およびレポートで評価する。

【テキスト】

これからの老年学—サイエンスから介護まで
(井口昭久編 名古屋大学出版会)

精神医学概論

(福祉貢献学科5・6) 太田龍朗

1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

心を病むとは、どのようなことなのか。さまざまな精神障害や精神状態をどのように理解するか、そして、どのような治療や援助が求められているのか等について考える。また、神経症、心身症、うつ病（躁うつ病）、パーソナリティ障害、妄想障害、統合失調症、その他精神医学に含まれる広範な領域について学習する。

【授業計画】

概論：第1回	精神医学とは（概説、歴史、成因、分類）
第2回	症候論と方法論（症状、面接、検査、診断）
各論：第3回	器質性精神障害と高齢者の病
第4回	薬物依存と物質使用による障害
第5回	統合失調症とその関連障害
第6回	気分（感情）障害（躁うつ病）
第7回	神経症と心身症（身体表現性障害）
第8回	生理的・身体的要因による障害（摂食、睡眠、性）
第9回	ライフサイクルと人格および行動の障害
第10回	児童・青年期の精神障害
総論：第11回	薬物療法・心理社会的治療・リハビリテーション
第12回	社会精神医学と地域精神保健
第13～14回	リエゾン精神医学とチーム医療
第15回	期末試験

【評価方法】

おもに期末試験の成績とレポートの提出によって総合的に評価する。

【テキスト】

学生のための精神医学（太田保之・上野武治編集 医歯薬出版）

【参考文献・資料】

新版 精神医学事典（弘文堂）

精神を病むということ（秋元波留夫・上田敏著 医学書院）

精神医学概論

(福祉貢献学科1～4・医療貢献学科) 高橋俊彦

1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

心を病むとは、どのようなことなのか。さまざまな精神障害や精神状態をどのように理解するか、そして、どのような治療や援助が求められているのか等について考える。また、神経症、心身症、うつ病（躁うつ病）、パーソナリティ障害、妄想障害、統合失調症、その他精神医学に含まれる広範な領域について学習する。

【授業計画】

講義方式による。

第1回	精神と身体、精神現象のとらえ方
第2回	正常と異常の考え方、精神障害の原因
第3回	神経症 1) 定義、種類 (1)
第4回	神経症 2) 定義、種類 (2)
第5回	神経症 3) 成因論
第6回	神経症 4) 治療
第7回	心身症
第8回	境界例 1) 概念
第9回	境界例 2) 成因論、治療論、その他のパーソナリティ障害
第10回	気分障害
第11回	妄想性障害
第12回	統合失調症 1) 定義、症状
第13回	統合失調症 2) 治療、処遇
第14回	その他の精神障害
第15回	期末試験

【評価方法】

おもに期末試験（筆記試験）による。レポートの場合もある。

【テキスト】

改訂 大学生のための精神医学（高橋俊彦・近藤三男編 岩崎学術出版）

【参考文献・資料】

青年期（笠原嘉 中公新書463）

【授業の概要】

科学的な方法をもとに検証されたさまざまな人間理解の方法を学び、そのような科学的論点に立脚した心理学理論、特にパーソナリティ理論を学習する。また、医療福祉領域にとって重要な発達心理学的理論から乳幼児期から老年期にいたるまでのそれぞれの発達段階に特有の心理的特長や発達課題について理解する。そうした人間理解の基礎知識を医療福祉関係の領域における応用・適用し、心理的援助技法の概要をも学ぶ。

【授業計画】

目 標

1. 心理学の概要を理解する。
2. 乳幼児期・児童期・青年期・老人期等人間の発達段階のそれぞれの時期に特有な身体的、心理的特徴について理解する。
3. 心理学理論による人間理解とその技法について理解する。
4. 心理的援助技法の概要について理解する。

内 容

1. 人間の心理学的理解
 - 1) 欲求・動機づけと行動
 - 2) 感情・情動
 - 3) 感覚・知覚・認知
 - 4) 学習・記憶・思考
 - 5) 知能・創造性
 - 6) 人格
 - 7) 適応と適応異常
2. 人間の成長・発達と心理
3. 人間理解のための心理学理論と技法
 - 1) 基礎理論
 - 1 精神分析
 - 2 行動分析
 - 2) 測定と診断
 - 1 発達
 - 2 知能
 - 3 性格
4. 心理的援助技法の概要
 - 1) 心理療法（個別面接法・集団面接法）
 - 2) 家族心理療法
 - 3) 行動療法

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

新版 社会福祉士養成講座10 心理学（中央法規）

【授業の概要】

科学的な方法をもとに検証されたさまざまな人間理解の方法を学び、そのような科学的論点に立脚した心理学理論、特にパーソナリティ理論を学習する。また、医療福祉領域にとって重要な発達心理学的理論から乳幼児期から老年期にいたるまでのそれぞれの発達段階に特有の心理的特長や発達課題について理解する。そうした人間理解の基礎知識を医療福祉関係の領域における応用・適用し、心理的援助技法の概要をも学ぶ。

【授業計画】

目 標

1. 心理学の概要を理解する。
2. 人の発達段階のそれぞれの時期に特有な心理的特徴について理解する。
3. 人間理解とその技法について理解する。

内 容

1. 人間の心理学的理解
 - 1) 知覚・認知
 - 1 知覚の成立と諸相
 - 2 社会的認知
 - 2) 自己と他者
 - 1 自己の認識・自己を守る
 - 2 対人認知・対人関係の認知
 - 3 対人関係の発展
 - 3) 欲求・動機づけと行動
 - 4) 適応
2. 発達の心理
3. 人間理解のための心理学理論と技法
 - 1) パーソナリティ理論
 - 1 類型論
 - 2 特性論
 - 3 力動論
 - 2) パーソナリティの査定

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

実験心理学

川嶋英嗣

1年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

実験心理学の科学的位置づけについて理解し、感覚、知覚、認知・学習、生理、情動、行動などの人間の諸能力を実験的に測定する技法やこれまでの知見について学ぶ。

【授業計画】

必要に応じて受講生が参加する簡単な実験をおこなうことで講義内容の理解を深める。

- 第1回 実験心理学の歴史的背景
- 第2回 精神物理学の概要
- 第3回 精神物理学の測定法（1）
- 第4回 精神物理学の測定法（2）
- 第5回 精神物理学の測定法（3）
- 第6回 信号検出理論（1）
- 第7回 信号検出理論（2）
- 第8回 一対比較法（1）
- 第9回 一対比較法（2）
- 第10回 SD法
- 第11回 実験計画法（1）
- 第12回 実験計画法（2）
- 第13回 まとめ（1）
- 第14回 まとめ（2）
- 第15回 試験

【評価方法】

主に出席と期末試験（筆記）により評価する。期中にレポートを提出させた場合は、これを成績評価に反映させる。

【テキスト】

特に指定しない

【参考文献・資料】

実験心理学の基礎（中島義明 1992 誠信書房）
心理測定法への招待—測定からみた心理学入門—（市川伸一編 1991 サイエンス社）

法学

初谷良彦

1年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

「法」のよしあし、その作り方、運用の仕方の良否で、人の生活は幸福にも不幸にもなる。法の目的と国家の責務はまず何よりも基本的人権を尊重し、かつそれを保障することにある。法学は、このような法の精神を明らかにしようとするものである。人間の尊厳性や基本的人権を軸にして法の基礎理論、憲法、民法、行政法の基礎について理解を深める。

【授業計画】

目 標

- 1 社会生活における法の作用や役割について理解する。
- 2 憲法、民法及び行政法の基礎を理解する。
- 3 基本的人権、権利擁護、成年後見制度などを理解する。

内 容

- 1 社会生活と法
- 2 憲法
 - 1) 基本原理
 - 2) 基本的人権
 - 3) 地方自治
- 3 民法
 - 1) 総則
 - 2) 契約
 - 3) 不法行為
 - 4) 親族
 - 5) 相続
- 4 行政法
 - 1) 行政行為
 - 2) 行政不服審査
 - 3) 行政訴訟
 - 4) 情報公開
 - 5) 地方行政組織

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

新版 社会福祉士養成講座12 法学（中央法規）

【授業の概要】

現代社会における経済の変化・情報化社会の進行と国民生活との関わりについて理解する。特に家族の多様化が進み、都市化等による地域社会の変化が著しい現代社会の特徴を学習する。さらにそのような現代社会から生み出される社会問題に対応する社会福祉士の役割を学ぶ。

【授業計画】

目 標

- 1 現代社会の特質について理解する。
- 2 現代社会における家族や地域社会の特徴について理解する。
- 3 現代社会における社会問題について理解する。

内 容

- 1 経済社会の変化と国民の生活及び意識の変化
- 2 現代社会と科学技術
 - 1) 科学技術の展開
 - 2) 現代社会と科学技術
 - 3) 情報化社会と国民生活
- 3 現代社会と専門職
- 4 現代社会における家族
 - 1) 構造及び形態
 - 2) 機能
 - 3) 変化
 - 4) 家族と地域社会
- 5 現代社会における地域社会
 - 1) 都市化と地域社会
 - 2) 過疎化と地域社会
 - 3) 地域社会の社会集団・組織
- 6 現代社会における社会問題

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

新版 社会福祉士養成講座11 社会学（中央法規）

【授業の概要】

保育という言葉の意味の理解に基づき、従来の身体発育・精神発達観の検討を通して、保育の基本に対する理解を深める。さらに、家族の多様化や地域社会の変化、幼保一元化の行政上の動向等、子どもをとりまく生活環境の変化の中で、保育の課題について学習する。

【授業計画】

- | | |
|-------|----------------------|
| 第1回 | 「保育」とは何か。なぜ「保育」を学ぶのか |
| 第2回 | 母体の健康管理 |
| 第3回 | 新生児期の発達と生活 |
| 第4回 | 乳児期の発達と生活 |
| 第5回 | 幼児期の発達と生活 |
| 第6～7回 | 基本的生活習慣の形成 |
| 第8～9回 | 子どもの遊びと文化 |
| 第10回 | 子どもの生活と環境 |
| 第11回 | 親の役割と子どもの人格形成 |
| 第12回 | 集団保育の意義と種類 |
| 第13回 | 子育て支援事業 |
| 第14回 | 子どもの病氣予防と事故防止 |
| 第15回 | 期末試験 |

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

新保育学（岡野雅子ほか著 南山堂）

【参考文献・資料】

授業の際、随時紹介する。

遺伝学

多田萬里子

1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

ヒトの遺伝の基礎をメンデル遺伝から分子遺伝学まで学び、遺伝子・ゲノムから生命の仕組みを理解する。ヒトのメンデル遺伝の特徴、遺伝子の構造とはたらき、情報の伝達と発現、個体発生における遺伝子発現の調節、老化のメカニズム、遺伝子操作などを学び、医療への応用の可能性を社会的視点からも判断できるようにする。

【授業計画】

- 第1回 メンデルの法則 遺伝のルール
- 第2回 染色体 遺伝情報を担う
- 第3回 ゲノム、遺伝子、DNA
- 第4回 遺伝情報の発現 遺伝暗号と形質発現
- 第5回 突然変異 情報はどのように変化するか
- 第6回 体細胞突然変異とがん関連遺伝子
- 第7回 ヒトの生殖 性の決定、発生に関与する遺伝子
- 第8回 ヒトの遺伝性疾患 遺伝のパターン
- 第9回 遺伝性疾患の原因遺伝子の同定と機能
- 第10回 老化と寿命に関する遺伝子
- 第11回 進化 集団と自然選択
- 第12回 免疫遺伝学 抗体の多様性
- 第13回 遺伝子工学 遺伝子进行操作する
- 第14回 まとめ
- 第15回 まとめ

【評価方法】

出席状況、授業内小テスト、期末テストを総合して評価する

【テキスト】

使用せず、講義の要旨は適宜プリントを配布する。

【参考文献・資料】

- ヒトの遺伝学（清水信義監訳 東京化学同人）
- ヒトの遺伝（中込弥男著 岩波新書）
- 遺伝子とゲノム（松原健一著 岩波新書）
- 遺伝子の生物学（石川統一著 岩波書店）

生理学

清水 暁

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

医学・生物学の広範な学問領域を包含する人体生理・生化学の概念を体系的に効率よく学ぶことを目的とする。精緻な身体のおしくみとその機能について、重要な基本的概念を理解し不可欠な基礎的知識を習得すべく、体液・呼吸・栄養・代謝・内分泌・感覚等主として人体の植物的機能の生理機序を中心に学習する。

【授業計画】

- 第1回 イントロダクション（概論）
- 第2～7回 人体の機能系
体液・血液、循環器系、呼吸器系、消化器系、
泌尿器系、生殖系
- 第8～14回 人体機能の調節系
神経系（中枢神経系、感覚系、運動系、自律神経系）
内分泌系
- 第15回 期末試験

【評価方法】

出席状況、受講態度、期末テストを総合して評価する。

【テキスト】

やさしい生理学（岩瀬善彦、森本武利編、南江堂）

【参考文献・資料】

適宜紹介する。

【授業の概要】

講義に連携して、人体成分や細胞についての解剖生理、臨床生化学的手法による観察、定性・定量分析等を交え、身体のしくみと機能の更なる理解を深めるべく学習する。演習テーマとして光学顕微鏡による血球や尿沈渣の観察、分光光度計による血液成分や尿成分の分別定量分析、ホメオスタシスに関わる体成分や血圧、体温変化等についての観察・測定実習を実施する。

【授業計画】

- 第1回 インTRODクシヨソ
- 第2～5回 体液・血液についての講義と実験
血液成分及び酵素の分析
尿成分の分析
- 第6～8回 エネルギー代謝についての講義と実験
栄養所要量の算定
エネルギー摂取量の算定
- 第9～11回 体格、体力、疲労についての講義と実験
身体計測と肥満度
体力テストと全身持久力
- 第12～14回 神経、感覚についての講義と実験
体性感覚
特殊感覚
- 第15回 まとめ

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポートを総合して評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

適宜紹介する。

【授業の概要】

人が自らに与えられた環境の中で、心身ともに健全な生活を営むことができるように、健康の維持と増進を目指し、正しい生活習慣を確立するための手段を実践的に学習する。健康の概念、食習慣、運動習慣等を授業テーマとして取り上げ、望ましい生活条件の追求、生活活動条件の整備について医科学的見地から学ぶ。

【授業計画】

- 以下のテーマを中心に学習する。
- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 健康の定義
 - 第3回 からだの仕組み
 - 第4回 女性とカルシウム
 - 第5回 健康科学実験① 骨密度の測定
 - 第6回 血液の仕組みと働き
 - 第7回 健康科学実験② 血液標本の顕微鏡観察
 - 第8回 貧血を防ぐために
 - 第9回 健康科学実験③ ヘモグロビンの比色定量
 - 第10回 ヒトの血液型
 - 第11回 健康科学実験④ 血液型の判定
 - 第12回 消化と吸収
 - 第13回 肥満と生活習慣病
 - 第14回 健康科学実験⑤ 体脂肪率の測定
 - 第15回 まとめ

授業の進め方は講義を主体に、テーマによりVTRの視聴や、簡単な計測、課題レポートの作成などを行う予定である。

【評価方法】

メモリーシート（授業内容についてのレジュメ）および研究レポートの提出により評価する。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

適時指示する。

基礎生命学

多田萬里子

1年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

遺伝情報、個体の維持、内分泌系、神経系による情報伝達、免疫応答などの多様な生命現象について学ぶ。病気の原因解明や老化の仕組み、遺伝子操作などの最先端の研究成果の紹介を通して、日々進展する生命科学技術が人類の福祉にどのように貢献できるかを学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 人体の成り立ち
- 第2回 栄養素の消化・吸収
- 第3回 血液の働き
- 第4回 生体の恒常性を調節するシステム：内分泌系と神経系
- 第5回 刺激の受容と反応
- 第6回 生命の連続性：遺伝情報の伝達
- 第7回 ヒトの遺伝
- 第8回 ヒトの発生
- 第9回 生体の防御：免疫と疾患
- 第10回 加齢と寿命
- 第11回 病気の成り立ちと予防（1）生活習慣病
- 第12回 （2）感染症
- 第13回 生命科学技術と21世紀の社会
- 第14回 まとめ
- 第15回 まとめ

【評価方法】

出席状況・授業時間内小テスト・期末テストを総合して評価する。

【テキスト】

使用せず。講義の要旨はプリントを配布する

【参考文献・資料】

基礎の生化学（鶴飼篤著 東京化学同人）
ヒトの生物学（太田次郎著 裳華房）
その他 適宜紹介する

医療福祉統計演習 I

（福祉貢献学科） 棚橋昌子 西和久
（医療貢献学科） 西和久 行松慎二

1年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

医療保健福祉分野の統計の見方および分析の基本を学ぶ。独自に収集した資料を適切に集計・分析するために統計解析ソフトの利用法を学習し、分布・平均値・相関等の統計解析の基本を習得する。また、解析結果を正しく解釈、推論する技能を習得する。

【授業計画】

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 データの入力方法（ExcelおよびSPSS）
- 第3回 統計ソフトSPSSによる基本統計量の算出と区間推定
- 第4回 課題演習（1）
- 第5回 2つの母平均の差の検定（1）；独立したサンプルのt検定
- 第6回 2つの母平均の差の検定（2）；対応のあるサンプルのt検定
- 第7回 ウィルコクソンの順位和検定と符号付順位検定
- 第8回 課題演習（2）
- 第9回 一元配置の被験者間分散分析
- 第10回 二元配置の被験者間分散分析
- 第11回 課題演習（3）
- 第12回 2つの母比率の差の検定（1）； 2×2 のカイ二乗検定
- 第13回 2つの母比率の差の検定（2）； $L \times M$ のカイ二乗検定と残差分析
- 第14回 課題演習（4）
- 第15回 まとめ

【評価方法】

平常点（出席状況、受講態度；40点）および授業内課題（4回実施；60点）により評価する。

【テキスト】

SPSSによる統計処理の手順 第4版（石村貞夫著 東京図書）

【参考文献・資料】

よく分かる医療・看護のための統計入門（石村貞夫・萬里小路直樹著 東京図書）
医療・看護のためのやさしい統計学；基礎編（山田覚著 東京図書）

【授業の概要】

表計算ソフトおよび統計解析ソフトを利用して、大量データや多変量データを集約、解析、推論する方法を学ぶ。その中に含まれる複雑な情報を解析する方法、特に多変量解析の基礎を実践的に学ぶ。

【授業計画】

- 第1回～3回 資料分析（データ解析）についてEXCELとSPSSを使い基本統計量から散布図、相関係数を復習する。
- 第4回～5回 多変数の関係を学び、データに最小2乗法を適用した単回帰から重回帰分析によるデータ解析を学ぶ。（EXCEL,SPSS）
- 第6回～8回 カテゴリーデータの解析について臨床アンケート調査の分析を表やクロス表分析、クラスター分析から学ぶ。（SPSSによるシンタックスの実行や解析の結果のグラフ表現）
- 第9回～10回 カテゴリーデータについて分割表の分析からロジスティック回帰分析による因果性の解析まで学ぶ。（これはある人が動脈血圧に罹る確率を年齢、最大血圧、最小血圧、コレステロール、体重等のデータから予測したり、介護認定モデルで介護が必要であるか必要でないかモデルから解析するのに役立ちます。）
- 第11回～12回 カテゴリーデータの多変量解析とくに、正準相関分析、と主成分分析を学ぶ。（SPSS）
- 第13回～14回 因子分析の方法とSPSSによる事例分析
- 第15回 医療データの事例分析

注：SPSSの臨床データはコピー配布しますので3.5インチのフロッピーディスク（2HD 1.3MB）を2枚持参のこと。

【評価方法】

出席状況と実習課題の提出とレポートの提出によって評価する。
毎回講義と実習をしますので欠席しないこと。

【テキスト】

多変量解析について；クラスター分析、正準相関分析、主成分分析、因子分析

指定せず （資料を配布）

【参考文献・資料】

医学・家政・看護のための統計データ解析（小村賢二 杉山書店）

【授業の概要】

人間の能力やパーソナリティなど直接観察測定できない人の心の状態を科学的方法を用いて査定する（心理アセスメント）方法を学ぶ。心理査定の理論、技法、応用などについて学び、医療現場で活用されている諸心理検査の特性や仕組みについて理解し、それを用いて適正な心理アセスメントする技法を習得する。

【授業計画】

目 標

1. 心理アセスメントの理論・方法を学び、具体的例についての適用の仕方を体験する。
2. 心理的アセスメントの技法を修得する。

内 容

1. 心理アセスメント法について
 - 1) 心理査定の理論
 - 2) 心理査定の方法
 - 3) 心理査定法の具体例
2. 心理アセスメント技法と評価
 - 1) 知能検査
 - 2) 性格検査（質問紙法）
 - 3) 性格検査（作業検査法）
 - 4) 性格検査（投影法）

【評価方法】

受講態度・出席回数・レポート・筆記試験等を総合して評価する。

福祉貢献論

高橋俊彦 谷口明広 初谷良彦

オムニバス 1年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

福祉に貢献する人材となるための基礎的な素養を身につけ、福祉を学ぶ意欲や将来のスペシャリストとしての意識を喚起することを目的とする。

(高橋俊彦教授) 精神保健福祉に関する基礎的な課題について概観し、精神科医療・メンタルヘルス領域において精神保健福祉士の役割が重要であることを理解させる。また、学生の日常生活や現代社会の中で問題化しているメンタルヘルスについて具体例に基づき考察し、精神保健福祉を学ぶことの意義を理解させるとともにそれを学ぶ意欲を醸成する。

(谷口明広教授) 各領域における社会福祉に関する基礎的な課題について概観し、社会福祉士や社会福祉について学んだ者がその専門性を活かしていかに社会に貢献しているかを個別的で具体的な実例によって示し、社会福祉を学ぶ意義を理解させるとともにそれを学ぶ意欲を醸成する。

(初谷良彦教授) 普遍的な人間の尊厳についてどうあらねばならないかを講義し、それを基本とする社会のあり方や制度の問題を取り上げ、福祉マインドの基本的な態度を養う。

【授業計画】

(初谷良彦教授)

- 第1回 社会福祉は価値観をもった学問。熱い胸をもって学ぶ
- 第2回 「福祉は人である」という視点
- 第3回 福祉の心- 共感と連帯、ひとりひとりの個人の尊重

(谷口明広教授)

- 第4～5回 高齢者福祉分野における貢献例
高齢者福祉の現状と課題を紹介し、特別養護老人ホームを始めとする関連施設で働く福祉従事者の役割と職務内容を取り上げていきたい。また、公的介護保険の充実により、在宅生活を可能にしてきたケアマネジャーの業務を紹介し、在宅生活を支える人材として貢献している実例を見ていきたいと考えている。内容としては、高齢者が抱えている福祉的課題だけではなく、その家族が問題と感じているものにも焦点を当てていきたい。

- 第6～7回 障害者福祉分野における貢献例
障害者福祉の現状と課題を紹介し、身体障害者療護施設を始めとする関連施設で働く福祉従事者の役割と職務内容を取り上げていきたい。また、支援費制度がスタートし、重い障害をもつ人たちがあっても地域社会で自立した生活が営めるようになった現状において、相談支援事業等で働いている相談員の業務を見ていくことにより、障害者福祉に貢献している人たちを見ていきたい。内容としては、重度障害をもつ人たちの自立生活問題が中心となるが、教育や就労の問題も取り上げていきたい。

- 第8～9回 児童福祉分野における貢献例
児童福祉の現状と課題を紹介し、乳児院や養護施設を始めとする関連施設で働く福祉従事者の役割と職務内容を取り上げていきたい。また、児童福祉の問題は「家族」というものと深い関係性があるので、家族を対象とする業務も紹介していきたい。少子化や離婚の問題が社会問題として取り上げられる現状において、児童福祉の分野で活躍している実例を見ていきたいと考えている。内容としては、児童虐待や放課後の問題を中心に取り上げたい。

- 第10～11回 住みよい「まちづくり」における貢献例
ハートビル法や交通バリアフリー法の制定により、誰もが住みやすい街を築いていこうとする働きかけが顕著になってきている。このような分野における福祉従事者の現状と課題を紹介したいと考えている。「まちづくり」は、建物や乗り物というハード面ばかりではなく、市民の関心や理解というソフト面に対する貢献も、実例をあげて見ていきたい。

(高橋俊彦教授)

- 第12～14回 精神保健福祉法
- 第15回 期末試験

【評価方法】

各担当教員による評価 (レポート・テスト・出席状況等) を総合して評価する。

【参考文献・資料】

必要に応じて参考文献を紹介したり、資料やレジュメを配付する。

福祉貢献基礎演習

杉浦信彦 棚橋昌子 西和久

1年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

大学での授業に主体的に関わる姿勢を確立することを目的に、ゼミ形式の少人数授業を行う。福祉貢献学科の基礎となる文献検索法および文献読み取り、レポート作成の基本、意見の表明と集約技術の基本等を学習する。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2～5回
講義活用法、文献検索法、文献講読の基本、発表の基本、レポート作成の基本 等
- 第6～8回
福祉入門講座 (3回)
- 第9～14回
テーマ研究演習 (6回)
各自が設定したテーマに関するレポートを作成し、発表する。
- 第15回 予備 (学術講演等)

【評価方法】

受講態度・発表・レポート等の総合評価とする。

【テキスト】

授業時に指示する。

【参考文献・資料】

必要に応じ、担当教員から指示する。

フィールドスタディ入門

諏訪真美 棚橋昌子 谷口明広 谷口純世 永田 祐

1年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

福祉貢献学科では、福祉施設のみでなく、広く地域の人と関わることであり、そこに発生する課題を発見し、問題解決に取り組む能力が重視される。施設・地域等のフィールドを準備し、体験レポートを作成し、現場の課題等に取り組む能力を養う。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2～6回 問題と課題の提示
グループに分かれ、担当教員から講義
- 第7回 フィールドの選択
提示されたフィールドから各自選択する
- 第8～10回 フィールド体験
- 第11～12回 フィールド体験発表・意見交換
- 第13～15回 まとめ、レポート提出

【評価方法】

受講態度・発表・レポート等の総合評価とする。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

必要に応じ、担当教員から指示する。

社会福祉原論Ⅰ

見平 隆

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

少子高齢化が進む現代社会において人権尊重・権利擁護・自立支援の視点にたつて社会福祉の意義と制度、歴史と現状を理解する。社会福祉の対象を設定し、福祉援助の形態及び方法、サービス体系及び利用者保護制度のしくみについて学習し、福祉援助を担う専門職としての基礎的知識を習得する。

【授業計画】

目 標

- 1 現代社会における社会福祉の理念と意義について事例や演習形式を活用し理解する。
- 2 社会福祉の対象と援助の形態及び方法について理解する（老人や障害者を中心に介護との関係に十分留意しつつ理解することを含む）。
- 3 社会福祉サービス体系と利用者保護制度の仕組みの概要について理解する。

内 容

- 1 現代社会と社会福祉
 - 1) 社会福祉の理念（人権尊重、権利擁護、自立支援等）とその発達
 - 2) 概念と範囲
 - 3) 役割と意義
- 2 社会福祉対象の把握方法
 - 1) 生活と福祉課題
 - 2) 社会福祉ニーズ
 - 3) ニーズをかかえている人の理解
- 3 社会福祉援助の具体的な形態と方法
 - 1) 社会福祉の援助とは
 - 2) 社会福祉の援助形態
 - 3) 社会福祉援助活動の方法

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

社会福祉原論（蟻塚昌克編著 建帛社）

【参考文献・資料】

社会福祉小六法（ミネルヴァ書房）

社会福祉とキーワード補訂版（平岡公一他編 有斐閣双書）

社会福祉援助技術総論Ⅰ／精神保健福祉援助技術総論Ⅰ

伊藤勝也

1年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

基本的な人間関係形成を図るための方法について学び、社会福祉援助技術の歴史的展開と最近の動向を踏まえ、人権尊重、権利擁護、自立支援等の観点から踏まえた社会福祉サービスと援助活動の関係について学習する（精神障害者を含む）。また、社会福祉サービスの援助技術の共通課題を学ぶ（精神障害者に対する体系を含む）。

【授業計画】

目 標

- 1 基本的コミュニケーションや人の付き合い方などの円滑な人間関係形成を図るための方法について理解する。
- 2 人権尊重、権利擁護、自立支援等の観点から踏まえた社会福祉サービスと援助活動の関係について、理解する（精神障害者に対する福祉サービスを含む）。
- 3 社会福祉援助活動の展開過程を重視しながら、その目的・価値・原則及び体系とそこにおける共通課題について具体的事例も含めて理解する（精神障害者に対する社会福祉援助活動を含む）。
- 4 福祉専門職と専門援助技術の関係について理解する（精神障害に対する専門援助技術を含む）。

内 容

- 1 社会福祉サービスと援助活動（精神障害者を含む）
 - 1) 援助の適用と対象
 - 2) 社会福祉サービスと援助活動
- 2 福祉専門職と専門援助技術の関係（精神保健福祉士を含む）
 - 1) ソーシャルワーカーと専門援助活動
 - 2) ソーシャルワーカーと専門性の構造
 - 3) 専門的な援助関係とコミュニケーション
- 3 社会福祉援助活動の目的・価値・原則及び諸過程と共通課題（精神障害者を含む）
 - 1) 社会福祉援助活動の目的と価値
 - 2) 社会福祉援助活動の原則
 - 3) 社会福祉援助活動の方法と過程
 - 1 医学モデル
 - 2 生活モデル
 - 3 援助開始時の面接（インテーク）と事前評価（アセスメント）
 - 4 援助計画の作成
 - 5 援助活動の実施
 - 6 援助活動の評価
 - 4) 社会福祉援助活動の共通課題
 - 1 契約・介入・課題の意義と方法
 - 2 面接の意義と方法
 - 3 記録の意義と方法
 - 4 評価の意義と方法
 - 5 スーパービジョンの意義と方法
 - 6 自助グループ及びボランティアとの協力
 - 7 ケアマネジメントの意義と方法
- 4 専門援助技術の歴史的展開
 - 1) 社会福祉援助技術の形成
 - 2) 社会福祉援助技術の発展
 - 3) 社会福祉援助技術の理論的動向
 - 4) 専門技術をめぐる動向

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

精神保健福祉士養成講座（5）精神保健福祉援助技術総論（中央法規）

【参考文献・資料】

社会福祉士養成講座（8）社会福祉援助技術論Ⅰ（中央法規）

社会福祉援助技術総論Ⅱ／精神保健福祉援助技術総論Ⅱ

伊藤勝也

1年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

社会福祉援助技術各論、精神保健福祉援助技術各論及び演習、実習への媒介を念頭に置き、社会福祉士・精神保健福祉士としての専門援助技術の体系について講義するとともに、専門援助技術における生活支援のあり方、倫理、他専門職種との連携やチームアプローチの方法について講義する。加えて諸外国における専門援助技術の動向を講義する。

【授業計画】

目 標

1. 社会福祉援助活動における専門援助技術の体系について理解する。
2. 社会福祉援助技術に由来する倫理について理解する。

内 容

1. 専門援助技術の体系及び内容
 - 1) 直接援助技術
 - 1 個別援助技術（ケースワーク）
 - 2 集団援助技術（グループワーク）
 - 2) 間接援助技術
 - 1 地域援助技術（コミュニティワーク）の理論と技術
 - イ 地域援助技術の概念と基本的性格
 - ロ 地域社会の組織化
 - ハ 地域援助技術
 - 2 社会福祉調査法の理論と技術
 - イ 社会福祉調査法の基本的性格と類型
 - ロ 統計調査法における調査技術
 - ハ 事例調査における調査技術
 - 3 社会福祉の運営（ソーシャル・アドミニストレーション）と計画の技術
 - 4 社会計画（ソーシャル・プランニング）
 - 5 その他（ソーシャル・アクション、患者権利擁護、エンパワメント）
 - 3) その他の関連専門援助技術（介護保険法における居宅サービス計画及び施設サービス計画を含む）
2. 社会福祉援助活動の場と専門援助技術
3. 生活支援と専門援助技術
4. 専門援助技術と倫理（精神保健福祉士を含む）
5. 専門援助技術の統合化とチームによる対応（精神保健福祉士を含む）
6. 専門援助技術をめぐる我が国及び諸外国の動向

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

精神保健福祉士養成講座（5）精神保健福祉援助技術総論（中央法規）

【参考文献・資料】

社会福祉士養成講座（8）社会福祉援助技術論Ⅰ（中央法規）

【授業の概要】

障害者福祉一般に通じる理念（基本的価値、障害の概念）、施策、実践課題の基本的理解とそれを土台にした精神障害者の諸課題を学ぶ。とりわけ、偏見・差別といった社会的障壁の下に置かれてきた精神障害者の人権擁護の視点を掘り下げるとともに、社会福祉基礎構造改革、市町村を基盤にした障害者福祉の一元的推進施策下での新しい援助のあり方について理解を深める。併せて、諸課題に対する当事者、地域社会の取り組みの歴史を学ぶことで今日的課題の意義を理解する。

【授業計画】

目 標

1. 障害者福祉の理念と意義及び障害者基本法等全ての障害者に共通の福祉施策の概要について理解する。
2. 精神障害者の人権について理解する。

内 容

1. 障害者福祉の理念と意義
 - 1) 障害者福祉の理念
 - 1 障害者福祉の発達
 - 2 ノーマライゼーション
 - 3 リハビリテーション
 - 4 生活の質 (QOL)
 - 5 生活支援
 - 2) 障害及び障害者
 - 1 障害の概念
 - 2 障害分類 (国際障害分類を含む)
 - 3 精神障害の特性
 - 3) 障害者福祉の基本施策
 - 1 障害者基本法
 - 2 障害者プラン
 - 4) 現代社会と精神障害者
 - 1 精神障害者の概念
 - 2 精神障害者と家族
 - 3 精神障害者と地域社会
 - 4 精神障害者のノーマライゼーション
2. 精神障害者の人権
 - 1) 精神障害者の権利擁護
 - 2) 精神医療における権利擁護
 - 3) インフォームドコンセント
 - 4) 地域社会における精神障害者の人権

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

精神保健福祉士養成講座4 精神保健福祉論 (中央法規)

【授業の概要】

高齢者の精神的・身体的諸特徴や高齢者福祉の理念について理解し、高齢者に対する法、制度、サービスの体系と具体的内容を理解し、関連法についても理解を深めるとともに、高齢者のニーズの把握方法、サービス供給組織と専門職のあり方を学習する。同時に、近年の政策動向を踏まえ、高齢者福祉の課題、今後のあり方を学ぶ。

【授業計画】

目 標

- 1 老人の精神的・身体的特徴や障害について理解するとともに、老人福祉の社会的背景について理解する。
- 2 現代社会における老人福祉の理念と意義について理解する。
- 3 老人の福祉需要の把握方法について理解する。
- 4 老人福祉に関する法 (介護保険法及び老人保健法等を含む) とサービスの体系について理解する。

内 容

- 1 高齢化社会と老人
 - 1) 老化と老人
 - 2) 家族と老人
 - 3) 社会と老人
- 2 現代社会と老人福祉
 - 1) 老人福祉理念の発達
 - 2) 概念と範囲
 - 3) 役割と意義
- 3 老人の福祉需要の把握方法とその具体的内容
 - 1) 把握方法
 - 2) 具体的内容
- 4 老人福祉に関する法の目的、対象及びサービス・給付の体系とその具体的内容
 - 1) 老人福祉法
 - 2) 介護保険法
 - 3) 老人保健法及びその他の関連法規
- 5 老人に対する保健・医療・福祉サービスの現状
 - 1) 在宅サービス
 - 2) 施設サービス

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

新版 社会福祉士養成講座2 老人福祉論 (中央法規)

【参考文献・資料】

高齢者エンパワーメントの基礎 (E.O.コックス、R.J.パーソンズ著 小松源助監訳 相川書房)

障害者福祉論 I

谷口明広

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

現代社会における障害者がおかれている立場と障害者福祉の目標、理念を理解する。特に、リハビリテーション、ノーマライゼーションといった障害者福祉の理念の発達とその意義について講義する。また、障害者の福祉ニーズの把握方法について講義し、近年の政策動向を踏まえながら障害者福祉の達成と今後の課題を学ぶ。

【授業計画】

目 標

1. 現代社会における障害者の概念と障害者の実態を理解するとともに、障害者福祉の社会的背景について理解する。
2. 現代社会における障害者福祉の理念と意義について理解する。
3. 障害者の福祉需要の把握方法について理解する。

内 容

1. 現代社会と障害及び障害者
 - 1) 障害の概念
 - 2) 家族と障害者
 - 3) 社会と障害者
2. 現代社会と障害者福祉
 - 1) 障害者福祉理念の発達
 - 1) リハビリテーション
 - 2) ノーマライゼーション
 - 2) 概念と範囲
 - 3) 役割と意義
3. 障害者の福祉需要の把握方法とその具体的内容
 - 1) 把握方法
 - 2) 具体的内容

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

講義中に指示、資料配布

【参考文献・資料】

障害者福祉論（社会福祉士養成テキストブック）（ミネルヴァ書房）

児童福祉論 I

谷口純世

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

社会の中での子どもの成長及び発達について、また、子どもの養護の方法・体系と、現代社会の中での子ども及びその家庭をとりまく環境についての理解を深める。また、この上で児童福祉の理念と意義、さらに子どもとその家庭のニーズの把握とニーズに対して実施されるサービスの体系及び関係する法体系について学ぶ。

【授業計画】

目 標

1. 現代社会における児童の成長・発達と生活実態について理解するとともに、児童福祉の社会的背景について理解する。
2. 現代社会における児童福祉の理念と意義について理解する。
3. 児童の福祉需要の把握方法について理解する。
4. 児童福祉に関する法とそのサービスの体系について理解する。

内 容

1. 現代社会と児童
 - 1) 人間の成長・発達と児童
 - 2) 家族と児童
 - 3) 社会と児童
2. 現代社会と児童福祉
 - 1) 児童福祉理念の発達
 - 2) 概念と範囲
 - 3) 役割と意義
 - 4) 児童の権利及び児童虐待
3. 児童の福祉需要の把握方法とその具体的内容
 - 1) 把握方法
 - 2) 具体的内容
4. 児童福祉に関する法の目的、対象及びサービス体系とその具体的内容
 - 1) 児童福祉法
 - 2) 母子及び寡婦福祉法
 - 3) 母子保健法
 - 4) その他関連法規

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

授業中に指示する

【参考文献・資料】

授業中に指示する

【授業の概要】

なぜ「社会福祉」に加えてあえて「地域」福祉が重要になるのかという点を出発点に、地域福祉の概念、理念の発達と現状を理解する。また、具体的な地域福祉の推進のための資源（地域福祉の担い手、財源、諸制度と諸組織）と具体的な推進方法（住民の参加や組織化の手法、地域福祉計画の進め方）を概説し、地域福祉推進のための基礎的知識を得ることを目的とする。また、先進的な地域福祉の事例の検討を通じて、具体的な地域福祉推進の手法についても学習する。

【授業計画】

目 標

- 1 地域福祉の理念と内容について理解する。
- 2 地域福祉の推進方法について理解する。
- 3 地域福祉の現状について理解する。

内 容

- 1 現代社会におけるコミュニティと地域福祉
- 2 現代社会と地域福祉
 - 1) 地域福祉理念の発達
 - 2) 概念と範囲
 - 3) 役割と意義
- 3 地域福祉の構成
- 4 地域福祉の推進方法
 - 1) 推進の基本的な考え方
 - 2) 公私関係及び役割分担
 - 3) サービス提供組織とその運営方法
 - 4) マンパワーの構成及びその動員方法
 - 5) 財源の構成とその調達の方法
 - 6) 地域福祉推進の具体的な組織、団体、専門職及びその連携のあり方
- 5 地域福祉の現状

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

授業中に指示する

【授業の概要】

国民の生存権を保障する公的扶助制度について理念・歴史・現状を理解する。特に低所得対策として発達してきた生活保護制度のしくみについて学習し、社会福祉専門職としての役割を理解する。

【授業計画】

目 標

- 1 現代社会における公的扶助の理念と意義について理解する。
- 2 生活保障のしくみと近年の動向について理解する。
- 3 生活保障及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方について理解する。

内 容

- 1 現代社会と公的扶助
 - 1) 公的扶助理念の発達
 - 2) 概念と範囲
 - 3) 役割と意義
- 2 低所得問題対策の概要
- 3 生活保護制度のしくみ
 - 1) 目的
 - 2) 基本原則
 - 3) 保護の原則
 - 4) 保護の種類と内容
 - 5) 保護の機関と実施体制及び財源
 - 6) 保障施設の種類
 - 7) 被保護者の権利及び義務
- 4 生活保障の最近の動向
- 5 生活保障及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方
 - 1) 組織・専門職
 - 2) 連携のあり方

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

公的扶助論（小林迪夫編著 建帛社）

【参考文献・資料】

社会福祉小六法（ミネルヴァ書房）
 社会保障法〔第4版〕（西原道雄編 有斐閣双書）
 はじめての社会保障 第2版（椋野美智子他著 有斐閣アルマ）

【授業の概要】

現代社会と疾病をテーマにして、がん、生活習慣病、各種感染症、エイズ、精神神経疾患、先天性疾病、難病など医療の最前線の概要を学習する。さらに社会環境と健康をテーマに保健医療の現状とその対策について学習する。また、保健医療に関する法律及び関係する専門職についても学習する。

【授業計画】

目 標

- 1 現代社会の代表的な疾患について理解する。
- 2 公衆衛生の概要を理解する。
- 3 保健医療対策の概要を理解する。
- 4 医療法制と保健・医療機関及び専門職について理解する。

内 容

- 1 現代社会と疾病
 - 1) がん、生活習慣病
 - 2) 各種感染症
 - 3) エイズ
 - 4) 精神・神経疾患
 - 5) 先天性疾病
 - 6) 難病
 - 7) その他
- 2 公衆衛生の現状
 - 1) 人口動態
 - 2) 疾病と受療状況
 - 3) 医療関係者
 - 4) 医療施設
- 3 保健医療対策の現状
 - 1) 健康づくり対策
 - 2) 感染症対策
 - 3) 難病対策
 - 4) 臓器移植体制等
 - 5) 痴呆疾患対策
- 4 医事法制と保健・医療機関及び専門職
 - 1) 医療法、医師法、保健師助産師看護師法等、医事法制の概要
 - 2) 保健・医療機関、専門職と福祉専門職の連携のあり方

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する

【テキスト】

新版 社会福祉士養成講座13 医学一般（中央法規）

【授業の概要】

施設中心の介護から在宅介護まで含めて、よりよい介護とは何かを考える。高齢者・障害者等の自立の生活を援助する視点から、介護の目的と原則、健康維持のメカニズムの基本を学習し、看護・介護・家事援助の関連性を理解する。

【授業計画】

目 標

- 1 介護の役割と範囲を理解するとともに、看護・医療及びに家政との関係について理解する。
- 2 具体的な介護の展開過程や介護の実際について演習形式等を活用し理解する。
- 3 身体的及び精神的な変化に対する観察能力を身につけ、それらの変化に速やかに正しく対処できる能力を養い、保健・医療機関、専門職との連携、協力及び必要に応じたその手助けをすることができるようにする。
- 4 病気や遭遇しやすい事故についての知識をもち、それに対する予防措置を講ずることができるようにする。

内 容

- 1 介護の原則、目標、機能及び範囲
 - 1) 介護の原則、目標、機能及び範囲
 - 2) 自立的な生活維持に対する需要と介護の役割
 - 3) 成人期以降、老人・障害者の生活上の需要と介護の役割
 - 4) 健康維持のメカニズム
 - 5) 終末期の介護
 - 6) 介護過程の展開
- 2 介護技法（安全、快適、安寧、健康水準の低下予防等）の基本
 - 1) 住生活環境の安全管理（感染防止）
 - 2) 食事
 - 3) 排泄
 - 4) 衣服の着脱
 - 5) 入浴・身体の清潔と感染防止
 - 6) 移動空間の確保
 - 7) 健康習慣の獲得
 - 8) 体力の維持（運動と機能維持）
 - 9) 自己達成と社会生活の維持（レクリエーションと学習等）
 - 10) 療養時の対応
 - 11) 緊急・事故時の対応
 - 12) 介護家族への生活維持援助
 - 13) 福祉用具の活用
- 3 介護関係維持のための技法
 - 1) 健康や生活の観察技法
 - 2) コミュニケーションの技法
 - 3) 記録と情報の共有化の技法
 - 4) 介護専門職（介護福祉士）と医師・看護師・保健師等医療専門職との連携のあり方
 - 5) 介護専門職とその他の福祉専門職（社会福祉士）との連携のあり方
- 4 介護活動の場に特有な問題と技法
 - 1) 家庭
 - 2) 施設

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する

【テキスト】

社会福祉養成テキストブック12 介護概論（ミネルヴァ書房）

対人コミュニケーション論

永田忠夫

1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

人間相互のコミュニケーション過程を把握する理論や実証された事実を学ぶと共に、相互の人格をより豊かなものにする対人コミュニケーション過程を分析する技能を学ぶ。互いがより豊かな交流関係を持てるようにすることが前提となる対人援助専門職を目指す学生にとって有用な能力を養う授業となる。

【授業計画】

目 標

1. 対人コミュニケーションの基本的概念を学び、日常生活における対人コミュニケーションのスキルについて学ぶ。
2. 自己の対人コミュニケーションのスキルについて査定し、検討する。

内 容

1. コミュニケーションの基本概念
2. 対人コミュニケーションの構成要素とモデル
3. 言語的コミュニケーション
4. 非言語的コミュニケーション
5. 自己を他者に伝えるコミュニケーション
 - (1) 自己開示
 - (2) 自己呈示
6. 他者に働きかけるコミュニケーション
 - (1) 説得的コミュニケーション
 - (2) 「だまし」のコミュニケーション
 - (3) 「取り引き」のコミュニケーション
 - (4) 勢力関係とコミュニケーション
7. 対人関係とコミュニケーション

【評価方法】

受講態度、出席回数、レポート、筆記試験等を総合して評価する。

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

授業時間の中で配布したり、紹介したりする。

社会福祉法制論

初谷良彦

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

社会福祉は、憲法25条の生存権保障による狭義の社会保障＝所得保障機能と深くかかわっているが、しかし社会福祉法制は、金銭給付のみでは充足できない生活要求にこたえるものとしての、いわゆる社会福祉サービスをその内容として持つ。福祉サービスの質の高さの保障のために、権利擁護、苦情解決、契約手続等利用者の手続的権利ないし自己貫徹的権利の制定等人間の尊厳を基底とした社会福祉法制の改革等について学ぶ。

生活衛生学

杉浦信彦

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

日常生活において、ヒトの生命や健康を脅かす目にみえない様々な身体的リスクから身を守り、健康な生活を営むための知識と能力の涵養を目指す。授業においては生活（くらし）の安全を確保することを主眼に、食生活の生物的安全性、化学的安全性、飲料水を含めて安全な生活用水のあり方および疾病予防等について学習する。

対人社会心理学

西和久

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

他者や集団との社会的相互作用のなかで生じる様々な行動を社会心理学的に解釈することを学ぶとともに、社会心理学の知見および視点が日常生活や医療福祉の現場にどのように応用可能かについて理解を深める。具体的には、援助行動、攻撃行動、親和行動、模倣行動、競争行動と協同行動、説得的コミュニケーション、リーダーシップと同調行動、ソーシャル・サポート、ソーシャル・ネットワーク、社会的態度、集団の構造と機能等のトピックに関する代表的な研究例を紹介する。

社会保障論Ⅰ

見平 隆

4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

社会保障の入門として、社会保障制度の成立過程、体系全体の概要を学ぶ。年金保険、医療保険、介護保険、健康保険などの身近な保険制度の概要を学習する。高齢化社会の進行によって、国民年金・厚生年金等の生涯生活保障がどのような影響を受けるか、社会保障の課題を検討する。

社会保障論Ⅱ

見平 隆

4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

国民生活との関連が大きい社会保障制度について、給付と負担の関連の実情などを踏まえ、年金・医療・介護保険についてその詳細を学習する。また、公的施策と民間保険との関連を検討し、課題解決のための総合的な判断力を養う。

高齢者福祉論Ⅱ

神波幸子

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

高齢者福祉の中で福祉専門職（ソーシャルワーカー）が保健・医療・福祉の他職種との連携の中で果たす役割について学習し、高齢者に対する相談援助について具体的事例を検討することから実践的な援助技術を習得する。また、高齢者の生活を支える上で欠かせない住環境、福祉用具について学習する。加えて、近年増大している民間シルバーサービス事業者のサービスについてその特徴や現状についても学ぶ。

【授業計画】

目標

- 1 民間シルバーサービスの社会的意義とその現状について理解する。
- 2 老人福祉及び関連分野の専門職及びその連携のあり方について理解する。
- 3 老人のための地域及び住環境の整備と福祉用具について理解する。
- 4 老人に対する相談援助活動について理解する。

内容

- 1 民間シルバーサービスの役割と意義及びその現状
- 2 老人福祉及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方
 - 1) 組織・専門職
 - 2) 連携のあり方
- 3 老人のための地域及び住環境の整備と福祉用具
 - 1) 地域と住環境の整備（バリアフリーへの対応）
 - 2) 福祉用具
- 4 老人に対する相談援助活動
 - 1) 相談援助活動をすすめるうえでの留意点
 - 2) 具体的事例

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

新版 社会福祉士養成講座2 老人福祉論（中央法規）

【参考文献・資料】

高齢者エンパワーメントの基礎（E.O.コックス、R.J.パーソンズ著 小松源助監訳 相川書房）

障害者福祉論Ⅱ

谷口明広

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

障害者福祉論Ⅰを踏まえ、障害者（障害児、身体障害者、知的障害者、精神障害者）に対する法、制度、サービスの体系と具体的内容を理解し、関連法についても理解を深める。その上でソーシャルワーカーとしての具体的な援助方法、援助組織、関連他職種との連携のあり方について学ぶ。また、こうした相談援助について具体的事例を検討することから実践的な援助技術を習得する。

【授業計画】

目標

- 1 障害者福祉に関する法とサービスの体系について理解する。
- 2 民間活動及び民間サービスの意味とその現状について理解する。
- 3 障害者福祉及び関連分野の専門職及びその連携のあり方について理解する。
- 4 障害者に対する相談援助活動について理解する。

内容

- 1 障害者福祉に関する法の目的、対象及びサービスの体系とその具体的内容
 - 1) 障害者基本法のリハビリテーション体系
 - 2) 障害別福祉サービスの体系と内容
 - 1 障害児
 - 2 身体障害者
 - 3 知的障害者
 - 4 精神障害者
 - 3) 関連法による施策
 - 1 保健・医療
 - 2 教育
 - 3 雇用・就労
 - 4 年金、手当及び経済的負担の軽減
 - 5 住宅・生活環境（バリアフリーへの対応）
- 2 民間活動及び民間サービスの役割と意義及びその現状
 - 1) 民間活動
 - 2) 民間サービス
- 3 障害者福祉及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方
 - 1) 組織・専門職
 - 2) 連携のあり方
- 4 障害者に対する相談援助活動
 - 1) 相談援助活動を進めるうえでの留意点
 - 2) 具体的事例

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

講義内に指示、資料配布

【参考文献・資料】

障害者福祉論（社会福祉士養成テキスト）（ミネルヴァ書房）

児童福祉論Ⅱ

谷口純世

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

児童福祉論Ⅰの基礎的学習をもとに、公民の児童福祉サービスの現状と意味について、またこれらのサービスを担う子ども家庭福祉援助専門職のあり方と、同専門職間・異専門職間での連携のあり方、地域における援助の展開方法や適切な福祉用具の活用について学ぶ。児童福祉における、相談援助・生活援助などさまざまな援助活動のあり方について、事例の活用も含め理解を深める。

【授業計画】

目 標

- 1 民間サービスの社会的意味とその現状について理解する。
- 2 児童福祉及び関連分野の専門職及びその連携のあり方について理解する。
- 3 児童のための地域及び住環境整備と福祉用具について理解する。
- 4 児童に対する相談援助活動について理解する。

内 容

- 1 児童に対する保健・医療・福祉サービスの現状
 - 1) 在宅サービス
 - 2) 施設サービス
- 2 民間サービスの役割と意義及びその現状
- 3 児童のための地域及び住環境の整備と福祉用具
 - 1) 地域及び住環境の整備
 - 2) 福祉用具
- 4 児童福祉及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方
 - 1) 組織・専門職
 - 2) 連携のあり方
- 5 児童に対する相談援助活動
 - 1) 相談援助活動をすすめるうえでの留意点
 - 2) 具体的事例

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

授業中に指示する

【参考文献・資料】

授業中に指示する

社会福祉援助技術各論Ⅰ

神波幸子

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

社会福祉援助技術各論Ⅰにおいては、ケースワーク、グループワークを中心に、その体系と内容、理論と技術を学ぶ。当然その前提として、社会福祉援助活動の展開の過程、目的や価値などの倫理についても学習する。

【授業計画】

目 標

1. 社会福祉援助活動における専門援助技術の体系について理解する（ケースワーク、グループワーク）。

内 容

1. 専門援助技術の体系及び内容
 - 1) 直接援助技術
 - (ア) 個別援助技術（ケースワーク）
 - 1 個別援助技術における過程の意味
 - 2 援助の開始期
 - 3 援助の展開期
 - 4 援助の終結期
 - (イ) 集団援助技術（グループワーク）
 - 1 援助の準備期
 - 2 援助の開始期
 - 3 援助の作業期
 - 4 援助の終結期

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

新版 社会福祉士養成講座9 社会福祉援助技術論Ⅱ（中央法規）

【参考文献・資料】

ソーシャルワークとは何か（ゾフィア・T・ブトゥリム著 川田誉音訳 川島書店）
ケアの本質（ミルトン・メイヤロフ 田村真・向野宣之訳 ゆみ子出版）

社会福祉援助技術各論Ⅱ

谷口明広

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

社会福祉援助技術各論Ⅱにおいては、コミュニティワーク、社会福祉調査法、社会福祉の運営と計画を中心に、その体系と内容、理論と技術を学ぶ。当然その前提として、社会福祉援助活動の展開の過程、目的や価値などの倫理についても学習する。

【授業計画】

目 標

1. 社会福祉援助活動における専門援助技術の体系について理解する（コミュニティワーク、社会福祉調査法）。

内 容

1. 専門援助技術の体系及び内容
 - 1) 間接援助技術
 - 1 地域援助技術（コミュニティワーク）の理論と技術
 - イ 地域援助技術の概念と基本的性格
 - ロ 地域社会の組織化
 - ハ 地域援助技術（ニーズ把握と分析方法、住民による福祉活動の支援方法、社会資源の開発・活用方法、集団および組織・機関の連絡調整方法、記録と評価・その活用方法など）
 - 2 社会福祉調査法の理論と技術
 - イ 社会福祉調査法の基本的性格と類型
 - ロ 統計調査法における調査技術
 - ハ 事例調査における調査技術
 - 3 社会福祉の運営（ソーシャル・アドミニストレーション）と計画の技術
 - イ 社会福祉の計画
 - ロ 地域福祉計画の性格と方法
 - ハ 社会福祉における運営管理の内容と性格
 - ニ 社会福祉行政・施設・社会福祉協議会の運営管理
 - 2) その他の関連専門援助技術（介護保険法における居宅サービス計画及び施設サービス計画を含む）
 - イ ケアマネジメントによる直接援助
 - ロ 記録とスーパービジョン
 - ハ 効果測定と評価

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

社会福祉方法原論 改訂版（ミネルヴァ書房）

社会福祉援助技術演習Ⅰ

神波幸子 谷口明広 谷口純世

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

さまざまな領域、場における具体的な援助事例を取り上げ、具体的な援助場面を設定したロールプレイ形態により、援助技術に関わる講義で学んだ知識を具体化する方法を学ぶ。

【授業計画】

目 標

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得する。
- 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解する。

内 容

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 ソーシャルワーク実践の展開過程
 - 1) ソーシャルワーク実践の展開過程とは何か
 - 2) 各段階についての解説
- 2 社会福祉援助技術演習（演習課題）
 - 1) 問題把握からニーズの確定
 - 2) アセスメントから支援標的・目標設定
 - 3) 支援プログラムの作成から実行
 - 4) モニタリングと評価
 - 5) 再アセスメントと支援の強化
 - 6) 事後評価
 - 7) サービス開発と予防的対応
- 3 演習の総括

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

社会福祉援助技術演習Ⅱ

神波幸子 谷口明広 谷口純世

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

社会福祉援助技術演習Ⅰをさらに発展させ、より困難な事例、さまざまな価値や、倫理が錯綜し、判断が難しい事例などを取り上げ、学生同士の討議を積極的に取り入れながら、援助技術に関わる知識を具体化する方法を学ぶ。

【授業計画】

目 標

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得する。
- 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解する。

内 容

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 演習実施のための枠組み（事例研究）
 - 1) 事例検討による演習
 - 2) グループディスカッション
 - 3) ロールプレイング
 - 4) 分析スケールの活用
 - 5) そのほかの演習の適用例
- 2 ソーシャルワーク実践事例
 - 1) ソーシャルワークの実践事例の検討
- 3 演習の総括

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

精神医学Ⅰ

高橋俊彦

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

精神を患うとはどういうことなのか。最近の精神医学で明らかになった脳および神経の生理を学び、精神障害・精神医学の概念を理解する。同時に精神医療の歴史を学び、精神障害の程度の診断技術の発達および現代の精神医学の課題を理解する。

【授業計画】

目 標

- 1 精神医学、精神医療の歴史を理解する。
- 2 脳および神経の生理・解剖の基礎を理解する。
- 3 精神医学の概念について理解する。
- 4 精神医学診断の基本的な方法について理解する。
- 5 代表的な精神障害について理解する。

内 容

- 1 精神医学、精神医療の歴史
 - 1) 西洋の歴史
 - 2) 日本の歴史
- 2 脳および神経の生理・解剖
 - 1) 神経系の発生と構成
 - 2) 中枢神経系
 - 3) 末梢神経系
- 3 精神医学の概念
 - 1) 精神医学の概念
 - 2) 精神障害の成因と分類
- 4 診断法
 - 1) 診断の手順と方法
 - 2) 精神症状と状態像
 - 3) 心理検査と身体的検査
- 5 代表的な精神障害（その1）
 - 1) 症状性を含む器質性精神障害（老人性痴呆を含む）
 - 2) 精神作用物質使用による精神および行動の障害
 - 3) 精神分裂病、分裂病型障害および妄想性障害
 - 4) 気分（感情）障害
 - 5) 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

改訂 大学生のための精神医学（高橋・近藤編 岩崎学術出版）

【授業の概要】

代表的な精神障害として、老年性痴呆、てんかん、睡眠障害、アルコール関連精神障害、薬物依存その他の身体因性障害、神経症、パーソナリティ障害、摂食障害、気分障害、妄想障害、さらに統合失調症等、医療現場、福祉現場と関連があると予想される精神障害について理解する。また、病院精神医療と地域精神医療との関連等を学習する。

【授業計画】

目 標

1. 代表的な精神障害について理解する。
2. 治療の概要について理解する。
3. 病院精神医学および地域精神医学について理解する。

内 容

1. 代表的な精神障害（その2）
 - 6) 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群
 - 7) 成人の人格および行動の障害
 - 8) 精神遅滞
 - 9) 心理的発達の障害
 - 10) 小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害および特定不能の精神障害
 - 11) 神経系の疾患（てんかんを含む）
2. 治療法
 - 1) 身体的療法
 - 1 薬物療法とその副作用
 - 2 電気ショック療法
 - 2) 精神療法
 - 3) 環境・社会療法
 - 4) 精神科リハビリテーション
3. 病院精神医療および地域精神医療
 - 1) 病院精神医療（身体合併症医療、インフォームドコンセントを含む）
 - 2) 精神科救急医療（インフォームドコンセントを含む）
 - 3) 地域精神医療

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

改訂 大学生のための精神医学（高橋・近藤編 岩崎学術出版）

【授業の概要】

この科目は精神保健における基本的知識について理解する事が目的である。人間のライフサイクル（乳児期・児童期・思春期・青年期・成人期・老年期）の各段階で発達課題を知り、それぞれの精神保健を理解する。また、個人のライフサイクルとともに家庭におけるサイクルを理解し、家族関係の成長・発達を知る。さらに家庭・学校・地域・職場での精神保健活動について理解する。また、地域精神保健に関する関係法規についても学習する。

【授業計画】

目 標

- 1 精神保健についての基本知識について理解する。
- 2 ライフサイクルにおける精神保健について理解する。
- 3 精神保健における個別課題への取り組みと実際について理解する。

内 容

- 1 精神保健についての基礎知識
 - 1) 精神保健の概要
 - 2) 精神保健の意義と課題
- 2 ライフサイクルにおける精神保健
 - 1) 胎児期および乳幼児期における精神保健
 - 2) 学童期における精神保健
 - 3) 思春期における精神保健
 - 4) 青年期における精神保健
 - 5) 成人期における精神保健
 - 6) 老年期における精神保健
- 3 精神保健における個別課題への取り組み
 - 1) 精神障害者対策
 - 2) 老人性痴呆疾患対策
 - 3) アルコール関連問題対策
 - 4) 薬物乱用防止対策
 - 5) 思春期精神保健対策
 - 6) 地域精神保健対策
 - 7) ターミナルケアと精神保健

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

精神保健福祉士養成講座（2） 精神保健学（中央法規）

精神保健学Ⅱ

諏訪真美

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

この科目では、精神保健における基本的知識のもとに、さらに個別の理解を深める事を目的とする。精神障害者対策、老人性痴呆疾患、薬物問題対策、思春期精神保健等の個別課題について学習する。また、社会の変化に基づく精神保健の新しい課題についても学習する。そして地域精神保健活動についてその実際の状況を学習し、関係期間の取り組みを参考にして個別課題の問題解決について考える。

【授業計画】

目 標

- 1 地域精神保健と地域保健について理解する。
- 2 諸外国における精神保健の概要について理解する。
- 3 関連法規および施設について理解する。

内 容

- 1 精神保健活動の実際
 - 1) 家庭における精神保健
 - 2) 学校における精神保健
 - 3) 職場における精神保健
 - 4) 地域における精神保健
- 2 地域精神保健と地域保健
 - 1) 地域精神保健施策の概要
 - 2) 地域保健施策の概要
 - 3) 関係法規
 - 4) 関連施策
- 3 諸外国における精神保健

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

精神保健福祉士養成講座（2） 精神保健学（中央法規）

精神科リハビリテーション学Ⅰ

諏訪真美 長谷川俊雄

オムニバス 2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

この科目では、精神科リハビリテーションの概念および構成を理解することを目的とする。まず精神科リハビリテーションの歴史について学習し、我が国の精神科リハビリテーションの現状について理解する。そして、病院・社会復帰施設・地域におけるリハビリテーションの実際について学習する。さらにそのなかで精神保健福祉士の役割を考え検討する。

【授業計画】

目 標

1. 精神科リハビリテーションの概念について理解する。
2. 精神科リハビリテーションの構成について理解する。
3. 精神科リハビリテーションのプロセスと技術について理解する。

内 容

1. 精神科リハビリテーションの概念
 - 1) リハビリテーションの概念と歴史
 - 2) リハビリテーションの理念、意義と基本原則
 - 3) 精神科リハビリテーションの概念
 - 4) 精神科リハビリテーションの理念と意義
 - 5) 精神科リハビリテーションの基本原則と技法
 - 6) わが国及び諸外国の精神科リハビリテーションの現状
2. 精神科リハビリテーションの構成
 - 1) 精神科リハビリテーションの対象
 - 2) 精神科リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割
 - 3) 精神科リハビリテーションに関わる専門職等との連携
 - 4) 精神科リハビリテーションの施設
 - 1 病院リハビリテーション施設等
 - 2 社会復帰施設及びその他の社会資源（小規模作業所、グループホーム、地域生活支援事業など）
 - 3 精神保健福祉センター及び保健所
 - 4 その他の協力機関、支援団体
 - 5) 精神科リハビリテーションの関連領域
3. 精神科リハビリテーションのプロセス
 - 1) リハビリテーション計画
 - 2) アプローチの方法
 - 1 病院におけるリハビリテーション
 - 2 社会復帰施設及びその他の社会資源におけるリハビリテーション
 - 3 地域におけるリハビリテーション
 - 3) 疾病の経過、ライフサイクルと精神科リハビリテーション

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

精神保健福祉士養成講座3 精神科リハビリテーション学（中央法規）

精神科リハビリテーション学Ⅱ

諏訪真美 長谷川俊雄

オムニバス 2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

この科目では、精神科リハビリテーションについてその技法を具体的に学習し、精神保健福祉士の実践課題を明らかにし、他専門職との連携をはかる能力を養う。作業療法・集団精神療法について学習し、家庭教育プログラムやデイケア・ナイトケアが実際どのように実施されているかの状況やその効果について理解する。そして、精神科リハビリテーションの役割と今後の課題について考える。

【授業計画】

目 標

1. 精神保健福祉士が行うリハビリテーションについて理解する。
2. 精神科リハビリテーションにおける連携について理解する。

内 容

1. 医療機関におけるリハビリテーション
 - 1) 作業療法およびレクリエーション療法
 - 2) 集団精神療法
 - 3) 行動療法
 - 4) 認知行動療法（生活技能訓練を含む）
 - 5) 家族教育プログラム
 - 6) デイケアおよびナイトケア
 - 7) 精神科退院時指導、退院前訪問、訪問看護・指導
2. 精神保健福祉士が行うリハビリテーション
 - 1) 精神保健福祉士が関わる医学的リハビリテーション
 - 1) 集団精神療法における精神保健福祉士
 - 2) 生活技能訓練における精神保健福祉士
 - 3) デイケアおよびナイトケアにおける精神保健福祉士
 - 4) 訪問看護・指導における精神保健福祉士
 - 2) 社会的リハビリテーション
 - 1) 日常生活への適応のための訓練
 - 2) 社会復帰のための相談・助言・指導
3. 精神科リハビリテーションの総合化
 - 1) 地域リハビリテーション
 - 1) 地域ネットワーク
 - 2) ケアマネジメント
 - 3) 地域生活支援事業と訪問援助
 - 4) 家族会および自助グループ
 - 5) ボランティアの育成と活用
 - 2) 職業リハビリテーション
 - 3) 精神保健福祉施策と精神科リハビリテーション

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

精神保健福祉士養成講座3 精神科リハビリテーション学（中央法規）

精神保健福祉論Ⅱ

伊藤勝也

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

精神保健福祉士の意義、役割について理解する。とりわけ、精神保健福祉の歴史上の諸問題とそこでの精神科ソーシャルワーカーの厳しい自己点検の経過を学ぶことで精神保健福祉士の意義を理解する。また、精神障害者の生活状況の把握を出発点にして精神保健福祉士に要求される専門性、倫理について学ぶとともに、精神障害者の社会的障壁からの解放、主体性の尊重といった基本的価値に基づいた各現場での相談援助の実践について学ぶ。

【授業計画】

目 標

1. 精神保健福祉士の理念、意義、対象について理解する。
2. 精神障害者に対する相談援助活動等を理解する。

内 容

1. 精神保健福祉士の理念と意義
 - 1) 精神保健福祉の歴史と理念
 - 2) 精神保健福祉士の意義
 - 3) 精神保健福祉士の対象
 - 4) 精神保健福祉士の専門性と倫理
2. 精神障害者に対する相談援助活動
 - 1) 精神障害者を取りまく社会的障壁（バリアー）
 - 2) 精神障害者の主体性の尊重
 - 3) 相談援助活動の方法
 - 1) 医療施設における相談援助活動
 - 2) 社会復帰施設等における相談援助活動
 - 3) 地域社会における相談援助活動
 - 4) 相談援助活動の事例

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

精神保健福祉士養成講座4 精神保健福祉論（中央法規）

精神保健福祉援助技術各論Ⅰ

諏訪真美 瀧 誠

オムニバス 2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

この科目では、これまで学習してきた精神障害者の疾病および障害についての理解に基づいて、個別援助技術（ケースワーク）・集団援助技術（グループワーク）について理解する事を目的とする。具体的事例について、個別援助（ケースワーク）の計画・実施について考える。さらに集団援助（グループワーク）についても、具体的事例に基づいて、その計画・実施を考え、関係者それぞれの役割を理解する。

【授業計画】

目 標

1. 精神障害者の疾病及び障害に配慮した個別援助技術（ケースワーク）について具体的事例に基づき理解する。
2. 精神障害者の疾病及び障害に配慮した集団援助技術（グループワーク）について具体的事例に基づき理解する。
3. 精神障害者を対象とした地域援助技術（コミュニティワーク）について具体的事例に基づき理解する。

内 容

1. 精神障害者を対象とした個別援助技術（ケースワーク）
 - 1) 疾病及び傷害に配慮した個別援助技術
 - 2) 個別援助技術の実際と適用分野
 - 3) 個別援助技術におけるスーパービジョン
 - 4) 具体的事例検討
2. 精神障害者を対象とした集団援助技術（グループワーク）
 - 1) 疾病及び障害に配慮した集団援助技術
 - 2) 集団援助技術の実際と適応分野（生活技能訓練を含む）
 - 3) 集団援助技術におけるスーパービジョン
 - 4) 具体的事例検討
3. 精神障害者を対象とした地域援助技術（コミュニティワーク）
 - 1) 地域援助技術の概念と基本的性格
 - 2) 地域援助技術の具体的展開
 - 1 ノーマライゼーションの推進と住民参加
 - 2 社会資源の活用と開発
 - 3 地域社会における連携と調整機能
 - 4 家族会、自助グループの支援
 - 5 ボランティア等地域マンパワーの育成と活用
 - 6 地域援助
 - 3) 具体的事例検討

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

精神保健福祉士養成講座（6）精神保健福祉援助技術各論（中央法規）

精神保健福祉援助技術各論Ⅱ

諏訪真美

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

この科目では、精神障害者のケアマネジメント・地域援助技術（コミュニティワーク）について理解することを目的とする。ケアマネジメントの技法について学習し、それを活用した地域援助について理解する。また、具体的事例について、ケアマネジメントの技法を用いて、その援助計画について検討する。これらによって、地域での精神障害者援助の実際について、関係機関の連携・チームアプローチのありかたについて考える。

【授業計画】

目 標

1. 精神障害者ケアマネジメントについて具体的事例に基づき理解する。
2. 精神障害者を対象とした援助技術について具体的事例に基づき理解する。

内 容

1. 精神障害者のケアマネジメント
 - 1) ケアマネジメントの原則
 - 1 ケアマネジメント
 - 2 適応と対象
 - 3 人権への配慮
 - 2) ケアマネジメントの意義と留意点
 - 1 ケアマネジメントの意義と留意点
 - 2 関係機関との連携
 - 3) ケアマネジメントのプロセス
 - 1 受理面接（インテーク）
 - 2 ニーズの把握とその評価
 - 3 目標設定と計画的実施
 - 4 包括的サービスの実現
 - 4) チームケアとチームワーク
 - 5) 具体的事例検討
2. 精神障害者援助と関連専門職との連携
 - 1) チーム医療における精神保健福祉士の役割
 - 2) 専門職等の役割と機能
 - 3) チームアプローチ及び生活支援の理念と精神保健福祉士の役割
 - 4) 協力・連携による包括的保険・医療・福祉サービス

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

精神保健福祉士養成講座（6）精神保健福祉援助技術各論（中央法規）

精神保健福祉援助演習Ⅰ

伊藤勝也

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

精神保健福祉士としての専門的援助技術および精神リハビリテーション技法について、臨床場面を想定して、ロールプレイや事例検討を行い、対人援助者としての心構えや視点を養う。

【授業計画】

目 標

- 1 精神保健福祉士の専門的援助技術及びリハビリテーション技法について、実施指導を中心とする演習形態により具体的事例を取り上げ、個別指導及び集団指導を通してその精度を高めつつ習得する。
- 2 学生自身が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を養成する。

内 容

- 1 精神保健福祉の援助技術
 - 1) 演習課題と到達目標
 - 2) 演習課題と展開方法
- 2 個別援助技術の実践と展開
＜事例検討の意図＞
 - 1) 保健医療施設等におけるケースワーク
 - 2) 社会復帰施設等におけるケースワーク
- 3 集団援助技術の実践と展開
＜事例検討の意図＞
 - 1) 保健医療施設等におけるグループワーク
 - 2) 社会復帰施設等におけるグループワーク
 - 3) セルフヘルプ・グループとグループワーク

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

授業中に指示する

精神保健福祉援助演習Ⅱ

伊藤勝也

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

現場実習を行うにあたって、精神病院等の医療施設および社会復帰施設におけるモデル的な事例を学習し、現場実習での留意事項を学ぶ。また、現場実習終了後に実習記録をもとに問題点の整理をする。

【授業計画】

目 標

- 1 精神保健福祉士の専門的援助技術及びリハビリテーション技法について、実施指導を中心とする演習形態により具体的事例を取り上げ、個別指導及び集団指導を通してその精度を高めつつ習得する。
- 2 学生自身が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を養成する。

内 容

- 1 地域援助技術の実践と展開
＜事例検討の意図＞
 - 1) 保健医療等におけるコミュニティワーク
 - 2) 社会復帰施設等におけるコミュニティワーク
 - 3) 地域組織化とコミュニティワーク
- 2 地域ケア活動の実践と展開
＜事例検討の意図＞
 - 1) チームアプローチによる援助
 - 2) ケアマネジメントによる援助
 - 3) ソーシャルサポート・ネットワーク援助

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

授業中に指示する

ノーマライゼーション論

初谷良彦

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

ノーマライゼーションの原理は、知的障害児・者を「ノーマルな人にする」ことを目的としているのではなく、その障害を共に受容することであり、彼らにノーマルな生活条件を提供することである。この原理は1960年代、北欧で着想され、アメリカで操作的・科学的に深化されたものである。この理念が「国際障害者年」（1981年）の「完全参加と平等」に結実した。近年、高齢者等の領域でも用いられるようになり、社会福祉の基本理念となっている。このようなあたりまえの思想が我々の社会に本当に根づいていくためにはどうしたらよいか考えていきたい。

【授業計画】

- 第1回 ノーマライゼーション原理の理論と展開
- 第2回 バンクーミッケルセンの理論と思想
- 第3回 ニルジェの理論と思想
- 第4回 英国におけるノーマライゼーション原理
- 第5回 北欧（デンマーク、スウェーデン）における法的発展
- 第6回 北アメリカ、ヴォルヘンスベルガーの理論と思想
- 第7回 ノーマライゼーション原理と脱施設化
- 第8回 脱施設化への実践
- 第9回 セルフ・アドボカシー運動
- 第10回 英国における脱施設化の実践
- 第11回 ベリンとニルジェによるヴォルフォンスベルガー批判
- 第12回 ノーマライゼーションの誤解と反論
- 第13回 ノーマライゼーションからQOLの原理へ
- 第14回 知的障害を持つ人のQOL
- 第15回 知的障害を持つ人のQOLの現状と将来

【評価方法】

主として平常点とレポートによって評価する

【テキスト】

プリントを配布する

【参考文献・資料】

ノーマライゼーション原理の研究（中園康夫 海声社）

共生社会論

初谷良彦

1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

「共生」という語は大乗仏教の根本思想「縁起」の世界観に思想的根拠を置いている。欧米の共生論は生物学におけるシンビオシス（symbiosis、共棲）に由来している。わが国では「人間社会における共生」が中心である（例えば、自然環境と人間、障害児・者と健常児・者等々）。日本の共生論は、西欧中心主義であった20世紀を克服する21世紀の世界に発信しうる新しい秩序のキーワードである。共生とは「内輪で仲良く共存共栄することではなく、異なるものにかかれた社会的結合様式を意味する」「他なるもの、異なるものとの共生」の思想である。議論を深めたい。

【授業計画】

- 第1回 共生とは何か
- 第2回 二分法的認識に基づく共生の思想
- 第3回 正義論と共生の課題
- 第4回 共生社会と文化変容
- 第5回 差別と共生
- 第6回 個人主義と自由競争
- 第7回 クオリティ・オブ・ライフの論理
- 第8回 マルティン・ブーバーの哲学
- 第9回 アジアの共生
- 第10回 アイヌにおける差別と共生
- 第11回 共生社会の構成
- 第12回 正義と善
- 第13回 エゴイズム
- 第14回 共生社会に向けて
- 第15回 期末試験

【評価方法】

主として期末試験の成績によって評価する。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

ノーマライゼーションからQOL、共生までの展開と現状に関する研究（三谷嘉明・古屋健・初谷良彦 平成12年度～平成13年度文部省科学研究費補助金基盤研究(C)(2)研究成果報告書）
その他、講義の際、随時紹介する

【授業の概要】

国際社会福祉の理論と実際を理解することを目的とする。概論部分にあたる国際社会福祉の定義やその歴史的展開過程に関する考察と、原理論にあたる国際社会福祉の存立根拠を理解し、各論として国際社会福祉の実践課題（貧困、南北問題、難民問題など）、およびアジアを中心とした発展途上国の社会福祉を概説する。

【授業計画】

目標

1. 「健康」「福祉」の概念及びその変遷を、国際的な動向の中で理解する。
2. 途上国での開発活動の諸事例から、保健、福祉の領域における様々な課題及びアプローチについて理解を深める。
3. 1. 2. を通して、日常生活における身近な福祉課題に対して、洞察を深める。

内容

基本的に、演習形式、小グループによる討議をもとにして進める。

1. 「健康」「福祉」の概念及びその変遷
 - 1) 国際機関が提唱した考え方とアプローチ、及びその背景
 - 2) 実践に基づく理念とアプローチの変容
2. 関連領域における途上国での課題と取り組み
 - 1) 福祉課題と開発
 - 2) 諸機関による課題への対応と地域社会
 - 3) 開発が意味するもの

【評価方法】

出席状況、受講態度及びレポートを総合的に評価する

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業の際、随時紹介する。

【授業の概要】

社会福祉の領域で法や制度にとらわれない新しい領域を創造する活動に焦点を当てる。既存の法制や制度の枠組みの中では「社会福祉」とは認められていない、あるいは認められてこなかった活動は多くの場合、先駆的な個人や組織によって「開発」されてきた。社会福祉と他領域との連携や、多様なニーズに対応するための福祉供給体制のあり方が求められる現代社会においては、こうした視点が不可欠であろう。講義では福祉開発が必要とされる背景、そのための手法、具体的な個人、NPO、ボランティアなど市民の主体的活動による具体例、こうしたイニシアティブを支援する枠組みなどを国内外の事例から取り上げ、福祉開発の理論と実際を理解する。

【授業計画】

目標

1. 社会福祉制度を理解したうえで、制度のみでは対応できない社会福祉のニーズについて理解を深める。
2. こうしたニーズに対応するための方法を理解する。
3. 制度を前提とし、活用するだけの専門職ではなく、ニーズに応じて新しい福祉環境を創造することの重要性を理解する。

内容

1. 現代の社会福祉と福祉開発
 - 1) 現代の社会福祉
 - 2) 社会福祉のニーズと制度
 - 3) ソーシャルワークにおける福祉開発という視点
2. 「開発」のとらえ方
 - 1) 開発とは何か
 - 2) 福祉開発の歴史
3. 福祉開発の主体
 - 1) 専門職と福祉開発
 - 2) ボランティア・NPO・社会運動・当事者組織と福祉開発
4. 福祉開発の方法
 - 1) 福祉開発の方法論
 - 2) 住民・市民、当事者の参加による福祉開発
5. 福祉開発の具体例
 - 1) 事例に学ぶ福祉開発（1）
 - 2) 事例に学ぶ福祉開発（2）
6. 福祉環境を創造する専門職を目指して

【評価方法】

出席、レポート、試験などにより総合的に評価する

【テキスト】

授業時に指示する。

【参考文献・資料】

授業時に指示する。

福祉NPO論

永田 祐

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

非営利組織自体は最近になって出現した組織形態ではない。しかし、近年の「福祉国家の危機」という現象、また個人のライフスタイルやニーズの多様化という現象のもとで、非営利組織は福祉の供給主体としても、個人の自己実現の場としても、そしてまた市民社会を健全なものとするという視点からも、注目されている。講義ではこうした背景を理解し、NPOの社会福祉における役割、こうした組織の抱える諸問題（組織の運営上の問題など組織固有の問題と制度上の問題）、こうした組織を支援するための社会的枠組み、行政機関や企業などとの関係を理解するとともに、今後の福祉社会でNPOが果たす役割について学ぶ。

【授業計画】

目標

1. NPOとはどのような組織であるか、またそうした組織の役割が重視される背景を理解する。
2. 社会福祉の領域におけるNPOの役割を理解する。
3. NPOが活動を展開するために必要な制度を理解するとともに、その運営の特徴を理解する。

内容

1. NPOとは何か
2. 福祉国家とNPO
3. 社会福祉とNPO
 - 1) 日本の社会福祉とNPO
 - 2) 福祉サービスにおけるNPO
 - 3) 社会福祉におけるNPOの展開
4. NPOの運営
 - 1) NPOの運営の特徴
 - 2) NPOの資金調達
5. NPOを支える制度
 - 1) 特定非営利活動促進法（NPO法）
 - 2) 税制
6. 福祉NPOの展開
 - 1) NPOと行政のパートナーシップ
 - 2) NPOと地域福祉・社会福祉協議会
7. NPOの可能性

【評価方法】

出席及びレポートによって評価する。

【テキスト】

授業時に指示する。

【参考文献・資料】

授業時に指示する。

福祉ボランティア論

永田 祐

1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

社会福祉におけるボランティア活動の意義は従来から強調されてきたが、「自己犠牲的な奉仕」という古くからのボランティア活動のイメージは崩れつつある。また、阪神淡路大震災においてボランティア活動の意義が再確認され、関心が高まった。講義ではボランティア活動を広く捉え、寄付行為のような「金銭の」ボランティアも対象に含みつつ、福祉領域におけるボランティア活動の概念、歴史、現状、実際の活動例、こうした組織を支援するための社会的枠組み、行政機関や企業などとの関係について理解し、福祉領域におけるボランティア活動が今後の福祉社会において果たす役割について学習する。

【授業計画】

目標

1. ボランティア活動の歴史やそれを支える思想を理解する。
2. 福祉におけるボランティア活動を対象者との関係性の中から定義することの重要性を理解する。
3. 専門職がボランティア活動を支援したり、機能させるための方法論を理解する。
4. 社会福祉においてボランティアの役割やその可能性を理解する。

内容

1. ボランティアと福祉国家・福祉社会
2. ボランティアの歴史と思想
 - 1) ボランティア活動の歴史
 - 2) ボランティア活動を支える思想
3. 福祉サービスとボランティア
 - 1) 関係性の問題
 - 2) 関係性に基づいたボランティア
4. ボランティア活動の動機
5. ボランティア推進機関
 - 1) ボランティアコーディネートの理論と方法
 - 2) 社会福祉協議会ボランティアセンターの役割
 - 3) 福祉教育とボランティア
 - 4) ボランティアマネジメント
6. ボランティア活動の成果
 - 1) ボランティアによる成長
 - 2) ボランティアからNPOへ 社会へのインパクト
7. ボランティアの可能性

【評価方法】

出席、レポート、試験、授業への参加を総合的に評価する。

【テキスト】

授業時に指示する。

【参考文献・資料】

授業時に指示する。

【授業の概要】

在宅福祉・在宅医療を展開する上で不可欠な援助方法であるケアマネジメントの理論と方法を学習する。ケアマネジメントは介護保険法の施行により、介護保険利用者と医療福祉援助者とを結びつける要となる位置にあり、具体例を通して福祉援助専門職の役割を学ぶ。

【授業計画】

目標

1. ケアマネジメントの基本概念、基礎的な理論を理解する。
2. 介護保険制度など社会福祉制度のなかのケアマネジメントを理解する。
3. ケアマネジメントにおけるアセスメントの視点を養う。

内容

1. 介護保険制度以前のケアマネジメント
2. 介護保険制度と介護支援専門員
3. ケアマネジメントの理解のために
4. ケアマネジメントケアマネジメントの展開技術

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

ケアマネジメント（竹内孝仁著 医業出版株式会社）

【参考文献・資料】

介護支援専門員標準テキスト 財団法人長寿社会開発センター
随時紹介する。

【授業の概要】

「マイノリティに対する偏見と差別」および「マイノリティによる積極的な社会参画」といった現代の問題について理解を深める。「偏見・差別」については、エイズ患者、HIV感染者、障害者等の社会的弱者における事例を取り上げ、偏見・差別の特質と問題点を、心理学的・社会学的視点から理解する。「積極的社会参画」については、心理学における「少数派影響」の知見に基づき、マイノリティがいかにして積極的に社会に関わることが可能なのか、その今日的意義とは何かについて、具体的事例とともに理解を深める。

【授業計画】

- | | |
|---------|---|
| 第1回 | イントロダクション；マイノリティとは何か？ |
| 第2～6回 | マイノリティに対する偏見と差別
1 歴史的背景
2 偏見・差別の心理的メカニズム
3 現代的偏見・差別の事例と問題点 |
| 第7回 | マジョリティからの社会的圧力（同調のメカニズム） |
| 第8～9回 | マイノリティ・インフルエンス（少数派影響） |
| 第10～13回 | アクティブ・マイノリティによる社会的変化（Social Change）の実際 |
| 第14回 | 総合討論 |
| 第15回 | 学期末試験 |

【評価方法】

平常点（出席状況、受講態度）および学期末試験により総合的に評価します。

【テキスト】

毎回レジュメを配布します。

【参考文献・資料】

講義中、適宜紹介いたします。

障害児の教育

堀 正和

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱、自閉症、情緒障害、言語障害、学習障害など、障害をもつ子どもに対する特別支援教育について、その歴史や方法論、教育制度などを学び、障害をもつ人々を支援する方法や態度を身につける。

【授業計画】

目 標

障害を持つ人々を支援する方法や態度を身につける。

内 容

1. 特殊教育から特別支援教育へ
2. 聴覚障害児の教育
3. 視覚障害児の教育
4. 知的障害児の教育
5. 肢体不自由児の教育
6. 病弱児の教育
7. 自閉児、言語障害児、学習障害児等の教育

【評価方法】

出席状況、レポート、テスト等を勘案し、総合的に評価する。

【テキスト】

心身障害児の教育と教材・教具（文部省）

介護技術演習

榎原美佐子

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

介護の対象者とのコミュニケーション技術を学習し、日常生活で必要とされる介護の基本的技術を習得する。この科目は、介護を必要とする対象者の日常生活における身体的援助を中心に基本的介護の理論と技術を習得する。

個々人の持てる力を十分に発揮し、可能な限り自立した生活ができるように援助を行うためにはどうしたらよいか。介護が全人的なケアサービスであることをふまえて、常に主体的に考え、工夫し、対象者および対象者の周囲の環境に働きかけていく姿勢を習得することを目的とする。

【授業計画】

- | | |
|---------|-----------------|
| 第1回 | 社会福祉士と介護技術 |
| 第2～4回 | 寝たきりにさせない為の介護技術 |
| 第5～6回 | 食事のケア |
| 第7回 | 口腔ケア |
| 第8～9回 | 排泄のケア |
| 第10回 | 衣服着脱のケア |
| 第11～12回 | 入浴のケア |
| 第13～14回 | 特定疾患、障害のある人へのケア |
| 第15回 | 試験 |

【評価方法】

出席状況、レポート、筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

- 介護概論（新版社会福祉士養成講座 14 中央法規）
介護技術 1, 2（新版社会福祉士養成講座 12,13 中央法規）
介護基礎学（竹内孝仁著 医師薬出版株式会社）
完全図解 新しい介護（大田仁史、三好春樹著 講談社）

コミュニケーション技能Ⅰ

堀 正和

1年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

視覚障害者について、その障害の種別や程度に応じたコミュニケーション方法を理解するとともに、点字使用者とのコミュニケーション方法の一部である点字について、その基礎的な読み書きの技能を身につける。また、盲聾者における指点字についても理解する。

【授業計画】

目 標

点字を知り、視覚障害者とのコミュニケーションに資する。

内 容

1. 視覚障害概要
2. 点字、点訳の概要
3. 点訳演習
4. 盲聾者のコミュニケーション方法

【評価方法】

点字の読み及び点訳テストにより行う。

【テキスト】

点訳の手引き 第3版 (全国視覚障害者情報提供施設協会)

コミュニケーション技能Ⅱ

堀 正和

1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

聴覚障害者について、その障害の程度や失聴の時期に応じたコミュニケーション方法を理解するとともに、読唇、指文字、日本語対应手話、ネイティブサイナーの手話（日本手話）などについて、それらの基礎的な技能を身につける。

【授業計画】

目 標

手話を知り、聴覚障害者とのコミュニケーションに資する。

内 容

1. 聴覚障害の概要
2. 聴覚障害者のコミュニケーション方法
3. 手話演習

【評価方法】

手話の読み取り及び表現のテストにより行う。

【テキスト】

おぼえようみんなの手話 (飯塚千代子著 国際放映)

レクリエーション療法Ⅰ

鶴原香代子

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

身体を動かすことはストレス発散となり、集団で運動（体操・ゲーム等）することにより、新たなコミュニケーションが生まれる。また、中国伝統技術（ヨガ・マッサージ等）を媒介としたレクリエーション技能を習得することは、福祉貢献の対人援助技能として有用である。

【授業計画】

この授業では、レクリエーション種目の実践を通して、運動の楽しさや必要性を理解し、あわせて安全に活動することを学ぶ。また、性、年齢、体力、技術、障害といった身体的条件が異なる人々の運動の方法を考える。

- 第1回 教室にてガイダンスを行う
 - ・授業の進め方と諸注意
 - ・施設・用具について理解する
- 第2回 からだにやさしいストレッチ
 - ・健康状態を考える
 - ・服装を考える
- 第3回～ 真似てみよう
 - ・まわり（人、動物、物など）を見て真似する
- 第5回～ 身近にある物を使ってみよう
 - ・イスや箱、カゴ、ペットボトルなどを利用して
 - ・ボール、フープ、チューブ、ロープなどを利用して
- 第7回～ レクリエーション種目の実践
 - ・サッカー型、野球型、バレーボール型、バスケット型、ドッジボール型、ラケット型、フライングディスク型、チーム対抗リレー型などから
- 第11回～最終授業まで
 - みんなで工夫してみよう
 - ・年齢やからだの状態に応じた運動について考える

【評価方法】

出席状況、グループワークと参加態度により総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に適宜指示する。
資料としてプリントの配布、ビデオを利用する。

レクリエーション療法Ⅰ

楊 衛平

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

身体を動かすことはストレス発散となり、集団で運動（体操・ゲーム等）することにより、新たなコミュニケーションが生まれる。また、中国伝統技術（ヨガ・マッサージ等）を媒介としたレクリエーション技能を習得することは、福祉貢献の対人援助技能として有用である。

【授業計画】

- 第1回 未病と健康増進
- 第2回 養生と運動療法
- 第3回 人体経絡の構造
- 第4回 気の構成と生理
- 第5回 気の病態と気功
- 第6回 調心調息調身法
- 第7回 ツボの分類記憶
- 第8回 基本手技演習Ⅰ
- 第9回 基本手技演習Ⅱ
- 第10回 ツボ療法の活用
- 第11回 はりと刺絡療法
- 第12回 お灸と温熱療法
- 第13回 症状別の指圧法
- 第14回 健康器具の活用
- 第15回 期末試験

【評価方法】

出席状況、受講態度、実技の能力、レポートなどによって総合的に評価する。

【テキスト】

中国医学・伝統的な運動法・理学療法等の参考資料を配布する。

レクリエーション療法Ⅱ

藤井健仁

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

人間は手足や5感を働かせて創造活動することに喜びを感じる。アートや音楽が人とのコミュニケーションを円滑にし、高齢者や障害をもった人々のQOLを高める役割を果たす。彫刻、織物、音楽等の専門家からレクリエーション技能を学ぶことは、福祉貢献の対人援助技能として有用である。

【授業計画】

- 第1回 造形芸術について
- 第2～5回 立体のためのデッサン基礎（鉛筆、木炭等を画材として使用）
- 第6～11回 立体制作（モデリング、粘土を使用）
- 第12回 作品講評
- 第13～15回 造形芸術と心理（シュルレアリスム等の実験）

【評価方法】

出席を重視。

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

なし

レクリエーション療法Ⅱ

加藤國男

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

人間は手足や5感を働かせて創造活動することに喜びを感じる。アートや音楽が人とのコミュニケーションを円滑にし、高齢者や障害をもった人々のQOLを高める役割を果たす。彫刻、織物、音楽等の専門家からレクリエーション技能を学ぶことは、福祉貢献の対人援助技能として有用である。

【授業計画】

本科目は作業療法を目的とした染織の基礎的かつ応用のできる技法を基本としている。そして現場ですぐに対応できるように身近にあるものを利用して作業を進めていけるように設定している。3・4週で一つずつ達成できるが、技術習得の為の実技が伴い、毎回積み上げてゆく構成である。また持参物など、その都度指示してゆくので欠席する事なく取り組む姿勢が大切である。

- 第1～3回 全体のプログラムの説明及び指を使っての紐編み
- 第4～7回 織枠制作及び織枠を使った織物
- 第8～10回 ステンシルによる型染
- 第11～12回 フェルトメイキング
- 第13～15回 カードウィーピング

【評価方法】

各課題の理解度、受講態度、出席状況等を総合して評価する。

【テキスト】

プリントを配付する。

【参考文献・資料】

- 作業療法技術ガイド（石川・古川編 分光堂）
- 作業——その治療的応用（日本作業療法士協会編 協同医書出版社）
- はじめての織物（荒木峰子著 美術出版）
- 紐を織る（山梨幹子著 美術出版社）
- フェルトメイキング（ジョリー ジョンソン著 青幻社）

レクリエーション療法Ⅱ

林美枝子

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

人間は手足や5感を働かせて創造活動することに喜びを感じる。アートや音楽が人とのコミュニケーションを円滑にし、高齢者や障害をもった人々のQOLを高める役割を果たす。彫刻、織物、音楽等の専門家からレクリエーション技能を学ぶことは、福祉貢献の対人援助技能として有用である。

【授業計画】

- 第1回 音楽療法の歴史的背景
- 第2回 音楽療法の定義・関連領域
- 第3回 福祉レクリエーションにおける音楽活動と音楽療法
- 第4回 音楽療法治療の特性に関する理解
- 第5回 高齢領域における音楽療法
- 第6回 児童領域における音楽療法
- 第7回 成人領域における音楽療法
- 第8回 アセスメントと評価
- 第9回 福祉レクリエーション（音楽）の財の分析
- 第10回 福祉レクリエーション（音楽）の財の選択・開発・アレンジ
- 第11～12回 音楽療法案の作成
- 第13～14回 音楽療法の実際
- 第15回 総合まとめ

【評価方法】

出席状況、授業への参加態度、レポートの成績を総合して評価する。

【テキスト】

音楽療法の基礎（村井靖児著 音楽之友社）

【参考文献・資料】

授業の際、随時紹介する。

社会福祉原論Ⅱ

見平 隆

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

急速な少子高齢化の進行により、社会福祉に対するニーズは多様化し、新たな福祉サービスの提供が必要とされている。社会福祉援助活動の専門性、倫理とは何か、社会福祉関連法規の検討および実施体制を再検討する。社会福祉関係職種の内容を理解するとともに、保健医療等の他専門職との連携のあり方を学習し、新たな課題に対処する能力を養う。また、諸外国の社会福祉制度との比較検討を行うことにより、日本の社会福祉水準を客観的に認識する。

社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ

神波幸子 谷口明広 谷口純世 永田 祐

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

現場実習前については、オリエンテーション、現場体験、現場実習指導者の講和等を通じて現場実習の意義を十分理解させ、その準備を行う。実習中については、巡回指導を通じて社会福祉士としての専門的倫理、価値、知識、技能及び関連知識を応用、展開、活用する能力を得られるよう指導する。

社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ

神波幸子 谷口明広 谷口純世 永田 祐

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

実習中の指導については、社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰの内容を継続して指導する。実習後については、実習記録に基づく実習の振り返りを通じて実習経験を自分のものとするとともに、総括のための報告会を開き、現場指導者、下級生、教員とともに評価を行う。

社会福祉援助技術現場実習Ⅰ

神波幸子 谷口明広 谷口純世 永田 祐

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

現場における実習経験を通して、社会福祉士としての専門知識、技能、関連知識をさらに深めるとともに、それを実際に応用し、活用する能力を高める。また、専門職としての倫理を実習を通じて自らのものとし、体現できるようにする。

社会福祉援助技術現場実習Ⅱ

神波幸子 谷口明広 谷口純世 永田 祐

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

社会福祉援助技術現場実習Ⅰにおける学習をさらに深めるとともに、実習担当者、受け入れ側実習担当者との緊密な連携の下、利用者と関係を作る力、多面的、重層的に問題を捉える力を養い、経験を単なる経験としてではなく専門職種として応用する力が身につくようにする。

福祉の国際比較

永田 祐

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

様々な福祉モデルを代表するような国々の福祉システムをとりあげ、それぞれの国の福祉をリードしている考え方を理解するとともに、そのような基本理念がどのような形で具体化しているかを学ぶ。講義では、比較の手法なども盛り込みつつ、福祉という概念を少し広く捉えて考える。福祉についての各国のありようを理解することを基礎として、福祉モデルの普遍性と多様性を理解し、自国のモデルを相対化することを目的とする。

精神保健福祉論Ⅲ

伊藤勝也

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

精神障害者の医療、保健、福祉に渡る精神保健福祉士法、精神保健福祉法の歴史的意義と関連法を含めた法体系の具体的理解を目指す。また、法に基づいた精神保健福祉諸施策の概要と、立ち遅れが指摘されている医療、福祉サービスの到達点の評価と諸課題を学ぶ。併せて、精神障害者の自立の土台となる雇用・就労、所得保障等関連施策の概要を学ぶとともに関連領域との連携のあり方についての理解を深める。

福祉計画論

小沼春日

3年 前期集中 選択 2単位

【授業の概要】

現在我が国の社会福祉は積極的な「福祉改革」が進められている。このなかで高齢者、児童、障害者については「福祉3プラン」が策定され計画的な推進が図られている。さらに「社会福祉基礎構造改革」に関して社会福祉法が制定され地域福祉計画が法制化された。これらを背景として福祉計画の重要性について理解を深める。

精神保健福祉援助実習Ⅰ

伊藤勝也 諏訪真美

3年 前期 選択 3単位

【授業の概要】

指定施設等での現場実習を通して、これまで学習してきた知識や技術について、その理解を深める。また、精神障害者に対する相談援助、リハビリテーションの技術・能力を身につける。さらに実習を通して、専門職としての職業倫理の向上をめざし、対人援助者としての責任を自覚する。

福祉施設運営論

梅村展子

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

高齢者や児童および障害者を擁護し育成する目的をもつ福祉施設の役割や制度、さらに具体的運営に関わるシステムやマネジメントの課題を学習する。多様なサービスを求める社会的ニーズに対応する施設運営のあり方を模索する。

精神保健福祉援助実習Ⅱ

伊藤勝也 諏訪真美

3年 後期 選択 3単位

【授業の概要】

指定施設等での現場実習を通して、これまで学習してきた知識や技術について、その理解を深める。また、精神障害者に対する相談援助、リハビリテーションの技術・能力を身につける。さらに実習を通して、専門職としての職業倫理の向上をめざし、対人援助者としての責任を自覚する。

福祉と多文化共生

杉本正次

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

経済・情報のグローバル化や冷戦終結後の政治情勢の変化といった状況の下に、国境を越えた地球規模での人間の移動によって、国籍や人種、民族を異にする人びとからなるクロスボーダー社会が出現する一方、一国内部においても、学校や職場、地域などで文化や価値観、生活様式を異にする人びとからなる多様な生活空間が形成されている。こうした現状認識の下に、社会福祉援助技術を用いてこうした多文化共生社会を実現するために何が出来るのかについて具体例をまじえて学ぶ。

住環境コーディネイト論

渥美正子

3年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

高齢者や障害者のQOLを高める視点から生活環境を見直すバリアフリーの段階から、すべての人間が快適に生活するためのユニバーサルデザインへと広がった歴史と意義を理解する。具体的に生活環境の中でユニバーサルデザインを創出する基礎を学習する。

家族関係論

永田忠夫

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代家族の多様性と急速に変化する社会情勢・価値観のなかで、最も基本的ではあるが最も危機をはらんだ家族関係を考察し、理解する。家庭内で交わされる家族成員間の関係を把握・分析する方法を学ぶ。また、家族全体の安定を生み出す要因と不安定さを改善する方法を模索する。

地域環境論

西和久

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

住民参加を進める視点から「住民参加型社会の現状」を理解し、課題を明らかにするとともに、福祉を進める視点からも地域環境を見直していく。具体的には、地域内における住民と社会全体との相互関係を社会心理学的に理解した上で、「環境問題」「医療・健康問題」「福祉問題」等の事例を取り上げ、地域内における住民個人、ボランティア・グループ、行政といった多様な人材が、独自にあるいは相互に連携して、地域環境の問題解決にいかんして関与していけばよいのかについて応用心理学的観点から理解を深める。

公衆衛生論

棚橋昌子

3年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

健康を社会医学の視点から考察する。文明が発展する過程のなかで、国民の健康への影響が明らかになり、半健康状態が一般化している。長寿社会では半健康状態のなかでも快適に生きることは必須の課題である。生活環境と疲労、ストレス対策、生活習慣病を予防するための生活改善等、具体的な事例を通して、公衆衛生の課題を学習する。

健康管理論

杉浦信彦

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

高齢化社会を生きる人々がQOLを維持しつつ生涯にわたって健康で豊かなくらしを営むことができるように、人間の生命を支えるからだの仕組みとその働きを中心に、正しい健康管理のあり方について栄養科学の視点から学ぶ。授業においては食物と栄養素、消化吸収、栄養素の代謝、食習慣病の予防等について栄養生理学的講義を行う。

資料収集法

棚橋昌子 永田忠夫 西和久

3年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

福祉現場において、研究資料を収集する技法の基礎を学習する。さらに収集した資料を解析する技法を習得する。資料収集の方法として質問紙調査、面接調査、仮想ゲームを用いる。研究対象から研究目的を科学的に検証し得るデータ収集と統計的処理をする能力を養う。

文献講読演習

伊藤勝也 杉浦信彦 諏訪真美 高橋俊彦 永田祐 西和久

3年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

専任教員が担当するゼミで、独自のテーマに関する関連分野の参考図書や参考文献の検索方法を学び、基本文献を講読し、福祉貢献研究および卒業論文へと展開する準備を行う。

福祉と人権

初谷良彦

4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

社会福祉の制度や諸サービス自体の実体的内容と、その運営の実際の過程に人権の観念がどれだけ生かされているか。人権保障を打ち出すことにはあまりにも消極的であるといわれる。本当の意味で人権としての社会福祉が実現するにはどのようにしたらよいかについて考える。さらに、自己決定権の法理と適正な手続き的処遇を受ける権利の現状についての分析もする。自己決定権、個人の尊厳、プライバシー等の権利の実効性を確保し、質の高いサービスを保障するためにはどのような仕組みが必要であるかについても学ぶ。

福祉とジェンダー

杉本貴代栄

4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

男女共同参画社会の形成に向け、福祉についてジェンダーの視点からとらえる。福祉の中にあるジェンダーバイアスを制度の中から具体的に取り上げながら、ジェンダーからみた福祉改革の方向とそのあり方を考える。

福祉とセクソロジー

谷口明広

4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

人間の性に関するミニマム・エッセンスを学ぶことを通して、福祉の専門職として必要とされる性的自立と性的共生能力についての基本を理解することを目的とする。また、セクシュアル・マイノリティの人権の実実を学ぶことで、性に関する正しい人権意識をもち、偏見のない援助行動が取れる基盤を作る。

福祉と自助活動

谷口明広

4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

セルフヘルプグループとは、慢性性病や不治の病あるいは障害などをもった人々が社会で自立＝自律してゆくための、病者/障害者を主体として、場合によってはそれ以外の家族やボランティアなどで構成される自助組織である。こうした組織の福祉領域における役割や意義、専門職との連携や援助方法などについて理解する。

コミュニティビジネス論

岡田敏克

4年 後期集中 選択 2単位

【授業の概要】

自己雇用によって生きがいや働きがいを産み出す効果とスモールビジネスを通して地域コミュニティに貢献できるコミュニティ・ビジネスについて理解し、市民起業、まちづくり活動による新しい生き方、働き方を特に福祉の領域に焦点を当てて学ぶ。

東洋的健康論

楊 衛平

4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

西洋医学を基礎として構築されている現代の健康観に対して、東洋医学を基礎とした東洋的健康観の特徴を学ぶ。薬膳料理や漢方薬の成り立ち、気孔や経絡に基づく鍼灸の原理等を具体的に学び、健康維持における有用性を理解する。

医療ソーシャルワーク論

山口みほ

4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

医療ソーシャルワークの歴史と現代の制度を学習する。その上で、事例を通じて制度の利用の仕方および利用者と家族の持つ問題点を理解し、専門職としての援助のあり方を学ぶ。

高齢者医療論

吉田松年

4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

生活習慣病を多く体現すると予想される高齢者の健康状態に配慮し、高齢者の病気との付き合い方はいかにあるべきか、を考える。一方、体力づくりに励む元気な高齢者も増加しており、個人差を念頭において、各自のQOLを高める医療のあり方を学ぶ。

母子医療論

渡邊一功

4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

少子化が進行するなかで、妊娠出産に関する生殖医療から小児医療まで、医療の現実とあり方を学習する。

福祉貢献研究Ⅰ

伊藤勝也 太田龍朗 神波幸子 杉浦信彦 諏訪真美 高橋俊彦
棚橋昌子 谷口純世 永田忠夫 永田祐 西和久

4年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

主に専任教員による少人数ゼミナールである。習得した知識・技術・技能・実習体験を活用して、幅広い視点から福祉貢献の課題を発見し、問題意識を形成する。

福祉貢献研究Ⅱ

伊藤勝也 太田龍朗 神波幸子 杉浦信彦 諏訪真美 高橋俊彦
棚橋昌子 谷口純世 永田忠夫 永田祐 西和久

4年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

「福祉貢献研究Ⅰ」の成果を踏まえて、主体的に具体的な調査または実験等を計画し、専門の研究を深める。ゼミナール指導教員の特徴を生かした授業計画により進行し、学術研究を展開する。

卒業論文

伊藤勝也 神波幸子 杉浦信彦 諏訪真美
高橋俊彦 棚橋昌子 永田忠夫

4年 後期 選択 4単位

【授業の概要】

福祉貢献に関する研究を発展させて卒業論文を作成する。

社会福祉原論Ⅰ

見平 隆

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

少子高齢化が進む現代社会において人権尊重・権利擁護・自立支援の視点にたつて社会福祉の意義と制度、歴史と現状を理解する。社会福祉の対象を設定し、福祉援助の形態及び方法、サービス体系及び利用者保護制度のしくみについて学習し、福祉援助を担う専門職としての基礎的知識を習得する。

【授業計画】

目 標

- 1 現代社会における社会福祉の理念と意義について事例や演習形式を活用し理解する。
- 2 社会福祉の対象と援助の形態及び方法について理解する（老人や障害者を中心に介護との関係に十分留意しつつ理解することを含む）。
- 3 社会福祉サービス体系と利用者保護制度の仕組みの概要について理解する。

内 容

- 1 現代社会と社会福祉
 - 1) 社会福祉の理念（人権尊重、権利擁護、自立支援等）とその発達
 - 2) 概念と範囲
 - 3) 役割と意義
- 2 社会福祉対象の把握方法
 - 1) 生活と福祉課題
 - 2) 社会福祉ニーズ
 - 3) ニーズをかかえている人の理解
- 3 社会福祉援助の具体的な形態と方法
 - 1) 社会福祉の援助とは
 - 2) 社会福祉の援助形態
 - 3) 社会福祉援助活動の方法

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

社会福祉原論（蟻塚昌克編著 建帛社）

【参考文献・資料】

社会福祉小六法（ミネルヴァ書房）

社会福祉とキーワード補訂版（平岡公一他編 有斐閣双書）

社会福祉原論Ⅱ

見平 隆

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

急速な少子高齢化の進行により、社会福祉に対するニーズは多様化し、新たな福祉サービスの提供が必要とされている。社会福祉援助活動の専門性、倫理とは何か、社会福祉関連法規の検討および実施体制を再検討する。社会福祉関係職種の内容を理解するとともに、保健医療等の他専門職との連携のあり方を学習し、新たな課題に対処する能力を養う。また、諸外国の社会福祉制度との比較検討を行うことにより、日本の社会福祉水準を客観的に認識する。

【授業計画】

目 標

- 1 社会福祉の専門性と倫理について理解する。
- 2 社会福祉関係職種の内容について理解する。
- 3 社会福祉の法体系、実施体制及び財政全体の概要について理解する。
- 4 社会福祉を巡る我が国及び諸外国の動向について理解する。

内 容

- 1 社会福祉援助活動における専門性と倫理
 - 1) 精神保健福祉士法の意義と内容
 - 2) 社会福祉士及び介護福祉士法の意義と内容
 - 3) 社会福祉専門職及び機能専門職の専門性と内容
 - 4) 保健・医療等関連分野の専門職との連携のあり方
 - 5) 社会福祉援助活動と倫理
- 2 社会福祉関係法制と実施体制及び財政の概要
 - 1) 社会福祉事業法・福祉六法及び関連法規の内容及び関係
 - 2) 社会福祉の実施体制
 - 3) 社会福祉の財政と費用負担
 - 4) 介護保険と社会福祉の関係
- 3 社会福祉を巡る我が国及び諸外国の動向

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

高齢者福祉論Ⅰ

神波幸子

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

高齢者の精神的・身体的諸特徴や高齢者福祉の理念について理解し、高齢者に対する法、制度、サービスの体系と具体的内容を理解し、関連法についても理解を深めるとともに、高齢者のニーズの把握方法、サービス供給組織と専門職のあり方を学習する。同時に、近年の政策動向を踏まえ、高齢者福祉の課題、今後のあり方を学ぶ。

【授業計画】

目 標

- 1 老人の精神的・身体的特徴や障害について理解するとともに、老人福祉の社会的背景について理解する。
- 2 現代社会における老人福祉の理念と意義について理解する。
- 3 老人の福祉需要の把握方法について理解する。
- 4 老人福祉に関する法（介護保険法及び老人保健法等を含む）とサービスの体系について理解する。

内 容

- 1 高齢化社会と老人
 - 1) 老化と老人
 - 2) 家族と老人
 - 3) 社会と老人
- 2 現代社会と老人福祉
 - 1) 老人福祉理念の発達
 - 2) 概念と範囲
 - 3) 役割と意義
- 3 老人の福祉需要の把握方法とその具体的内容
 - 1) 把握方法
 - 2) 具体的内容
- 4 老人福祉に関する法の目的、対象及びサービス・給付の体系とその具体的内容
 - 1) 老人福祉法
 - 2) 介護保険法
 - 3) 老人保健法及びその他の関連法規
- 5 老人に対する保健・医療・福祉サービスの現状
 - 1) 在宅サービス
 - 2) 施設サービス

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

新版 社会福祉士養成講座2 老人福祉論（中央法規）

【参考文献・資料】

高齢者エンパワーメントの基礎（E.O.コックス、R.J.パーソンズ著 小松源助監訳 相川書房）

高齢者福祉論Ⅱ

神波幸子

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

高齢者福祉の中で福祉専門職（ソーシャルワーカー）が保健・医療・福祉の他職種との連携の中で果たす役割について学習し、高齢者に対する相談援助について具体的事例を検討することから実践的な援助技術を習得する。また、高齢者の生活を支える上で欠かせない住環境、福祉用具について学習する。加えて、近年増大している民間シルバーサービス事業者のサービスについてその特徴や現状についても学ぶ。

【授業計画】

目 標

- 1 民間シルバーサービスの社会的意義とその現状について理解する。
- 2 老人福祉及び関連分野の専門職及びその連携のあり方について理解する。
- 3 老人のための地域及び住環境の整備と福祉用具について理解する。
- 4 老人に対する相談援助活動について理解する。

内 容

- 1 民間シルバーサービスの役割と意義及びその現状
- 2 老人福祉及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方
 - 1) 組織・専門職
 - 2) 連携のあり方
- 3 老人のための地域及び住環境の整備と福祉用具
 - 1) 地域と住環境の整備（バリアフリーへの対応）
 - 2) 福祉用具
- 4 老人に対する相談援助活動
 - 1) 相談援助活動をすすめるうえでの留意点
 - 2) 具体的事例

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

新版 社会福祉士養成講座2 老人福祉論（中央法規）

【参考文献・資料】

高齢者エンパワーメントの基礎（E.O.コックス、R.J.パーソンズ著 小松源助監訳 相川書房）

障害者福祉論Ⅰ

谷口明広

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

現代社会における障害者がおかれている立場と障害者福祉の目標、理念を理解する。特に、リハビリテーション、ノーマライゼーションといった障害者福祉の理念の発達とその意義について講義する。また、障害者の福祉ニーズの把握方法について講義し、近年の政策動向を踏まえながら障害者福祉の達成と今後の課題を学ぶ

【授業計画】

目 標

1. 現代社会における障害者の概念と障害者の実態を理解するとともに、障害者福祉の社会的背景について理解する。
2. 現代社会における障害者福祉の理念と意義について理解する。
3. 障害者の福祉需要の把握方法について理解する。

内 容

1. 現代社会と障害及び障害者
 - 1) 障害の概念
 - 2) 家族と障害者
 - 3) 社会と障害者
2. 現代社会と障害者福祉
 - 1) 障害者福祉理念の発達
 - 1) リハビリテーション
 - 2) ノーマライゼーション
 - 2) 概念と範囲
 - 3) 役割と意義
3. 障害者の福祉需要の把握方法とその具体的内容
 - 1) 把握方法
 - 2) 具体的内容

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

講義中に指示、資料配布

【参考文献・資料】

障害者福祉論（社会福祉士養成テキストブック）（ミネルヴァ書房）

障害者福祉論Ⅱ

谷口明広

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

障害者福祉論Ⅰを踏まえ、障害者（障害児、身体障害者、知的障害者、精神障害者）に対する法、制度、サービスの体系と具体的内容を理解し、関連法についても理解を深める。その上でソーシャルワーカーとしての具体的な援助方法、援助組織、関連他職種との連携のあり方について学ぶ。また、こうした相談援助について具体的事例を検討することから実践的な援助技術を習得する。

【授業計画】

目 標

1. 障害者福祉に関する法とサービスの体系について理解する。
2. 民間活動及び民間サービスの意味とその現状について理解する。
3. 障害者福祉及び関連分野の専門職及びその連携のあり方について理解する。
4. 障害者に対する相談援助活動について理解する。

内 容

1. 障害者福祉に関する法の目的、対象及びサービスの体系とその具体的内容
 - 1) 障害者基本法のリハビリテーション体系
 - 2) 障害別福祉サービスの体系と内容
 - 1) 障害児
 - 2) 身体障害者
 - 3) 知的障害者
 - 4) 精神障害者
 - 3) 関連法による施策
 - 1) 保健・医療
 - 2) 教育
 - 3) 雇用・就労
 - 4) 年金、手当及び経済的負担の軽減
 - 5) 住宅・生活環境（バリアフリーへの対応）
2. 民間活動及び民間サービスの役割と意義及びその現状
 - 1) 民間活動
 - 2) 民間サービス
3. 障害者福祉及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方
 - 1) 組織・専門職
 - 2) 連携のあり方
4. 障害者に対する相談援助活動
 - 1) 相談援助活動を進めるうえでの留意点
 - 2) 具体的事例

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

講義内に指示、資料配布

【参考文献・資料】

障害者福祉論（社会福祉士養成テキスト）（ミネルヴァ書房）

児童福祉論Ⅰ

谷口純世

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

社会の中での子どもの成長及び発達について、また、子どもの養護の手法・体系と、現代社会の中での子ども及びその家庭をとりまく環境についての理解を深める。また、この上で児童福祉の理念と意義、さらに子どもとその家庭のニーズの把握とニーズに対して実施されるサービスの体系及び関係する法体系について学ぶ。

【授業計画】

目 標

- 1 現代社会における児童の成長・発達と生活実態について理解するとともに、児童福祉の社会的背景について理解する。
- 2 現代社会における児童福祉の理念と意義について理解する。
- 3 児童の福祉需要の把握方法について理解する。
- 4 児童福祉に関する法とそのサービスの体系について理解する。

内 容

- 1 現代社会と児童
 - 1) 人間の成長・発達と児童
 - 2) 家族と児童
 - 3) 社会と児童
- 2 現代社会と児童福祉
 - 1) 児童福祉理念の発達
 - 2) 概念と範囲
 - 3) 役割と意義
 - 4) 児童の権利及び児童虐待
- 3 児童の福祉需要の把握方法とその具体的内容
 - 1) 把握方法
 - 2) 具体的内容
- 4 児童福祉に関する法の目的、対象及びサービス体系とその具体的内容
 - 1) 児童福祉法
 - 2) 母子及び寡婦福祉法
 - 3) 母子保健法
 - 4) その他関連法規

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

授業中に指示する

【参考文献・資料】

授業中に指示する

児童福祉論Ⅱ

谷口純世

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

児童福祉論Ⅰの基礎的学習をもとに、公民の児童福祉サービスの現状と意味について、またこれらのサービスを担う子ども家庭福祉援助専門職のあり方と、同専門職間・異専門職間での連携のあり方、地域における援助の展開方法や適切な福祉用具の活用について学ぶ。児童福祉における、相談援助・生活援助などさまざまな援助活動のあり方について、事例の活用も含め理解を深める。

【授業計画】

目 標

- 1 民間サービスの社会的意味とその現状について理解する。
- 2 児童福祉及び関連分野の専門職及びその連携のあり方について理解する。
- 3 児童のための地域及び住環境整備と福祉用具について理解する。
- 4 児童に対する相談援助活動について理解する。

内 容

- 1 児童に対する保健・医療・福祉サービスの現状
 - 1) 在宅サービス
 - 2) 施設サービス
- 2 民間サービスの役割と意義及びその現状
- 3 児童のための地域及び住環境の整備と福祉用具
 - 1) 地域及び住環境の整備
 - 2) 福祉用具
- 4 児童福祉及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方
 - 1) 組織・専門職
 - 2) 連携のあり方
- 5 児童に対する相談援助活動
 - 1) 相談援助活動をすすめるうえでの留意点
 - 2) 具体的事例

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

授業中に指示する

【参考文献・資料】

授業中に指示する

社会保障論Ⅰ

見平 隆

4年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

社会保障の入門として、社会保障制度の成立過程、体系全体の概要を学ぶ。年金保険、医療保険、介護保険、健康保険などの身近な保険制度の概要を学習する。高齢化社会の進行によって、国民年金・厚生年金等の生涯生活保障がどのような影響を受けるか、社会保障の課題を検討する。

【授業計画】

目 標

- 1 現代社会における社会保障の理念と意義について理解する。
- 2 社会保障制度の体系について理解する。
- 3 社会保障の各制度の概要について理解する。

内 容

- 1 現代社会と社会保障
 - 1) 社会保障理念の発達
 - 2) 概念と範囲
 - 3) 役割と意義
- 2 社会保障制度の体系
- 3 社会保障を構成する各制度の目的、対象、給付内容及び財源の概要
 - 1) 年金保険
 - 2) 医療保険
 - 3) 介護保険
 - 4) 労災保険
 - 5) 失業保険（雇用保険）
 - 6) 家族手当（児童手当）
 - 7) 公的扶助
 - 8) その他関連制度

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

社会保障論Ⅱ

見平 隆

4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

国民生活との関連が大きい社会保障制度について、給付と負担の関連の実情などを踏まえ、年金・医療・介護保険についてその詳細を学習する。また、公的施策と民間保険との関連を検討し、課題解決のための総合的な判断力を養う。

【授業計画】

目 標

- 1 我が国の年金保険について熟知する。
- 2 我が国の医療保険について熟知する。
- 3 我が国の介護保険について熟知する。
- 4 我が国の民間保険の概要と公的施策との関係について理解する。
- 5 社会保障の実施体制及び専門職について理解する。

内 容

- 1 我が国の年金保険制度とその具体的内容
 - 1) 国民年金
 - 2) 厚生年金
 - 3) 各種共済組合の年金
 - 4) 障害基礎年金
- 2 我が国の医療保険制度とその具体的内容
 - 1) 国民健康保険
 - 2) 健康保険
 - 3) 各種共済組合の医療保険
- 3 我が国の介護保険とその具体的内容
- 4 公的施策と民間保険
 - 1) 公的施策との関係
 - 2) 現状
- 5 社会保障の実施体制及び専門職

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

公的扶助論

見平 隆

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

国民の生存権を保障する公的扶助制度について理念・歴史・現状を理解する。特に低所得対策として発達してきた生活保護制度のしくみについて学習し、社会福祉専門職としての役割を理解する。

【授業計画】

目 標

- 1 現代社会における公的扶助の理念と意義について理解する。
- 2 生活保障のしくみと近年の動向について理解する。
- 3 生活保護及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方について理解する。

内 容

- 1 現代社会と公的扶助
 - 1) 公的扶助理念の発達
 - 2) 概念と範囲
 - 3) 役割と意義
- 2 低所得問題対策の概要
- 3 生活保護制度のしくみ
 - 1) 目的
 - 2) 基本原則
 - 3) 保護の原則
 - 4) 保護の種類と内容
 - 5) 保護の機関と実施体制及び財源
 - 6) 保障施設の種類
 - 7) 被保護者の権利及び義務
- 4 生活保護の最近の動向
- 5 生活保護及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方
 - 1) 組織・専門職
 - 2) 連携のあり方

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

公的扶助論（小林迪夫編著 建帛社）

【参考文献・資料】

社会福祉小六法（ミネルヴァ書房）
社会保障法〔第4版〕（西原道雄編 有斐閣双書）
はじめての社会保障 第2版（椋野美智子他著 有斐閣アルマ）

地域福祉論

永田 祐

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

なぜ「社会福祉」に加えて「地域」福祉が重要になるのかという点を出発点に、地域福祉の概念、理念の発達と現状を理解する。また、具体的な地域福祉の推進のための資源（地域福祉の担い手、財源、諸制度と諸組織）と具体的な推進方法（住民の参加や組織化の手法、地域福祉計画の進め方）を概説し、地域福祉推進のための基礎的知識を得ることを目的とする。また、先進的な地域福祉の事例の検討を通じて、具体的な地域福祉推進の手法についても学習する。

【授業計画】

目 標

- 1 地域福祉の理念と内容について理解する。
- 2 地域福祉の推進方法について理解する。
- 3 地域福祉の現状について理解する。

内 容

- 1 現代社会におけるコミュニティと地域福祉
- 2 現代社会と地域福祉
 - 1) 地域福祉理念の発達
 - 2) 概念と範囲
 - 3) 役割と意義
- 3 地域福祉の構成
- 4 地域福祉の推進方法
 - 1) 推進の基本的な考え方
 - 2) 公私関係及び役割分担
 - 3) サービス提供組織とその運営方法
 - 4) マンパワーの構成及びその動員方法
 - 5) 財源の構成とその調達の方法
 - 6) 地域福祉推進の具体的な組織、団体、専門職及びその連携のあり方
- 5 地域福祉の現状

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

授業中に指示する

【授業の概要】

基本的な人間関係形成を図るための方法について学び、社会福祉援助技術の歴史的展開と最近の動向を踏まえ、人権尊重、権利擁護、自立支援等の観点を踏まえた社会福祉サービスと援助活動の関係について学習する（精神障害者を含む）。また、社会福祉サービスの援助技術の共通課題を学ぶ（精神障害者に対する体系を含む）。

【授業計画】

目標

- 1 基本的コミュニケーションや人の付き合い方などの円滑な人間関係形成を図るための方法について理解する。
- 2 人権尊重、権利擁護、自立支援等の観点を踏まえた社会福祉サービスと援助活動の関係について、理解する（精神障害者に対する福祉サービスを含む）。
- 3 社会福祉援助活動の展開過程を重視しながら、その目的・価値・原則及び体系とそこにおける共通課題について具体的事例も含めて理解する（精神障害者に対する社会福祉援助活動を含む）。
- 4 福祉専門職と専門援助技術の関係について理解する（精神障害に対する専門援助技術を含む）。

内容

- 1 社会福祉サービスと援助活動（精神障害者を含む）
 - 1) 援助の適用と対象
 - 2) 社会福祉サービスと援助活動
- 2 福祉専門職と専門援助技術の関係（精神保健福祉士を含む）
 - 1) ソーシャルワーカーと専門援助活動
 - 2) ソーシャルワーカーと専門性の構造
 - 3) 専門的な援助関係とコミュニケーション
- 3 社会福祉援助活動の目的・価値・原則及び諸過程と共通課題（精神障害者を含む）
 - 1) 社会福祉援助活動の目的と価値
 - 2) 社会福祉援助活動の原則
 - 3) 社会福祉援助活動の方法と過程
 - 1 医学モデル
 - 2 生活モデル
 - 3 援助開始時の面接（インテーク）と事前評価（アセスメント）
 - 4 援助計画の作成
 - 5 援助活動の実施
 - 6 援助活動の評価
 - 4) 社会福祉援助活動の共通課題
 - 1 契約・介入・課題の意義と方法
 - 2 面接の意義と方法
 - 3 記録の意義と方法
 - 4 評価の意義と方法
 - 5 スーパービジョンの意義と方法
 - 6 自助グループ及びボランティアとの協力
 - 7 ケアマネジメントの意義と方法
- 4 専門援助技術の歴史的展開
 - 1) 社会福祉援助技術の形成
 - 2) 社会福祉援助技術の発展
 - 3) 社会福祉援助技術の理論の動向
 - 4) 専門技術をめぐる動向

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

精神保健福祉士養成講座（5）精神保健福祉援助技術総論（中央法規）

【参考文献・資料】

社会福祉士養成講座（8）社会福祉援助技術論Ⅰ（中央法規）

【授業の概要】

社会福祉援助技術各論、精神保健福祉援助技術各論及び演習、実習への媒介を念頭に置き、社会福祉士・精神保健福祉士としての専門援助技術の体系について講義するとともに、専門援助技術における生活支援のあり方、倫理、他専門職種との連携やチームアプローチの方法について講義する。加えて諸外国における専門援助技術の動向を講義する。

【授業計画】

目標

1. 社会福祉援助活動における専門援助技術の体系について理解する。
2. 社会福祉援助技術に由来する倫理について理解する。

内容

1. 専門援助技術の体系及び内容
 - 1) 直接援助技術
 - 1 個別援助技術（ケースワーク）
 - 2 集団援助技術（グループワーク）
 - 2) 間接援助技術
 - 1 地域援助技術（コミュニティワーク）の理論と技術
 - イ 地域援助技術の概念と基本的性格
 - ロ 地域社会の組織化
 - ハ 地域援助技術
 - 2 社会福祉調査法の理論と技術
 - イ 社会福祉調査法の基本的性格と類型
 - ロ 統計調査法における調査技術
 - ハ 事例調査における調査技術
 - 3 社会福祉の運営（ソーシャル・アドミニストレーション）と計画の技術
 - 4 社会計画（ソーシャル・プランニング）
 - 5 その他（ソーシャル・アクション、患者権利擁護、エンパワメント）
 - 3) その他の関連専門援助技術（介護保険法における居宅サービス計画及び施設サービス計画を含む）
2. 社会福祉援助活動の場と専門援助技術
3. 生活支援と専門援助技術
4. 専門援助技術と倫理（精神保健福祉士を含む）
5. 専門援助技術の統合化とチームによる対応（精神保健福祉士を含む）
6. 専門援助技術をめぐる我が国及び諸外国の動向

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

精神保健福祉士養成講座（5）精神保健福祉援助技術総論（中央法規）

【参考文献・資料】

社会福祉士養成講座（8）社会福祉援助技術論Ⅰ（中央法規）

社会福祉援助技術各論Ⅰ

神波幸子

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

社会福祉援助技術各論Ⅰにおいては、ケースワーク、グループワークを中心に、その体系と内容、理論と技術を学ぶ。当然その前提として、社会福祉援助活動の展開の過程、目的や価値などの倫理についても学習する。

【授業計画】

目 標

1. 社会福祉援助活動における専門援助技術の体系について理解する（ケースワーク、グループワーク）。

内 容

1. 専門援助技術の体系及び内容
 - 1) 直接援助技術
 - (ア) 個別援助技術（ケースワーク）
 - 1 個別援助技術における過程の意味
 - 2 援助の開始期
 - 3 援助の展開期
 - 4 援助の終結期
 - (イ) 集団援助技術（グループワーク）
 - 1 援助の準備期
 - 2 援助の開始期
 - 3 援助の作業期
 - 4 援助の終結期

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

新版 社会福祉士養成講座9 社会福祉援助技術論Ⅱ（中央法規）

【参考文献・資料】

ソーシャルワークとは何か（ゾフィア・T・ブトゥリム著 川田音訳 川島書店）
ケアの本質（ミルトン・メイヤロフ 田村真・向野宣之訳 ゆみ子出版）

社会福祉援助技術各論Ⅱ

谷口明広

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

社会福祉援助技術各論Ⅱにおいては、コミュニティワーク、社会福祉調査法、社会福祉の運営と計画を中心に、その体系と内容、理論と技術を学ぶ。当然その前提として、社会福祉援助活動の展開の過程、目的や価値などの倫理についても学習する。

【授業計画】

目 標

1. 社会福祉援助活動における専門援助技術の体系について理解する（コミュニティワーク、社会福祉調査法）。

内 容

1. 専門援助技術の体系及び内容
 - 1) 間接援助技術
 - 1 地域援助技術（コミュニティワーク）の理論と技術
 - イ 地域援助技術の概念と基本的性格
 - ロ 地域社会の組織化
 - ハ 地域援助技術（ニーズ把握と分析方法、住民による福祉活動の支援方法、社会資源の開発・活用方法、集団および組織・機関の連絡調整方法、記録と評価・その活用方法など）
 - 2 社会福祉調査法の理論と技術
 - イ 社会福祉調査法の基本的性格と類型
 - ロ 統計調査法における調査技術
 - ハ 事例調査における調査技術
 - 3 社会福祉の運営（ソーシャル・アドミニストレーション）と計画の技術
 - イ 社会福祉の計画
 - ロ 地域福祉計画の性格と方法
 - ハ 社会福祉における運営管理の内容と性格
 - ニ 社会福祉行政・施設・社会福祉協議会の運営管理
 - 2) その他の関連専門援助技術（介護保険法における居宅サービス計画及び施設サービス計画を含む）
 - イ ケアマネジメントによる直接援助
 - ロ 記録とスーパービジョン
 - ハ 効果測定と評価

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

社会福祉方法原論 改訂版（ミネルヴァ書房）

社会福祉援助技術演習Ⅰ

神波幸子 谷口明広 谷口純世

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

さまざまな領域、場における具体的な援助事例を取り上げ、具体的な援助場面を設定したロールプレイ形態により、援助技術に関わる講義で学んだ知識を具体化する方法を学ぶ。

【授業計画】

目 標

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得する。
- 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解する。

内 容

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 ソーシャルワーク実践の展開過程
 - 1) ソーシャルワーク実践の展開過程とは何か
 - 2) 各段階についての解説
- 2 社会福祉援助技術演習（演習課題）
 - 1) 問題把握からニーズの確定
 - 2) アセスメントから支援標的・目標設定
 - 3) 支援プログラムの作成から実行
 - 4) モニタリングと評価
 - 5) 再アセスメントと支援の強化
 - 6) 事後評価
 - 7) サービス開発と予防的対応
- 3 演習の総括

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

社会福祉援助技術演習Ⅱ

神波幸子 谷口明広 谷口純世

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

社会福祉援助技術演習Ⅰをさらに発展させ、より困難な事例、さまざまな価値や、倫理が錯綜し、判断が難しい事例などを取り上げ、学生同士の討議を積極的に取り入れながら、援助技術に関わる知識を具体化する方法を学ぶ。

【授業計画】

目 標

- 1 社会福祉の専門援助技術を、具体的な事例や援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により、社会福祉援助技術に関する講義及び現場実習と関連させながら、個別指導ならびに集団指導を通してその精度を高めつつ習得する。
- 2 学生個々人が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を涵養する。
- 3 演習のなかで、具体的に人権尊重、権利擁護、自立支援について理解し、実際に行動できるようにする。さらに、在宅での生活支援も視野に入れて理解する。

内 容

具体的な援助事例を体系的にとりあげるなどして、社会福祉援助技術をその援助過程を含め具体的に理解させるため担当教員による個別指導並びに集団指導のもとで、学生自身が積極的に参加できるようにすすめる。

さらに、基本的なコミュニケーション等を含めた社会福祉援助技術が学生個々人に身につくよう、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を実施する。

- 1 演習実施のための枠組み（事例研究）
 - 1) 事例検討による演習
 - 2) グループディスカッション
 - 3) ロールプレイング
 - 4) 分析スケールの活用
 - 5) そのほかの演習の適用例
- 2 ソーシャルワーク実践事例
 - 1) ソーシャルワークの実践事例の検討
- 3 演習の総括

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

社会福祉援助技術現場実習Ⅰ

神波幸子 谷口明広 谷口純世 永田 祐

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

現場における実習経験を通して、社会福祉士としての専門知識、技能、関連知識をさらに深めるとともに、それを実際に応用し、活用する能力を高める。また、専門職としての倫理を実習を通じて自らのものとし、体現できるようにする。

【授業計画】

目 標

1. 現場体験を通して社会福祉専門職（社会福祉士）として仕事をするうえで必要な「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」の内容の理解を深める。
2. 「専門知識」、「専門援助技術」および「関連知識」を実際に活用し、相談援助義務に必要となる資質・能力・技術を習得する。
3. 職業倫理を身につけ、福祉専門職として自覚にもとづいた行動ができるようにする。
4. 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。
5. 関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を理解する。

内 容

社会福祉援助技術現場実習を実施する。

なお、社会福祉援助技術現場実習が実施される前に、実習までに必要な健康診断、実習先の選定等、実習中の「実習記録ノート」の説明・指導、その他実習実施に関する注意事項等について「事前オリエンテーション」がおこなわれる。

1. 配属実習に際しては、健康診断等の方法により、実習生が良好な健康状態にあることを確認した上で配属させる。
2. 実習先は、巡回指導が随時可能な範囲で選定することとし、実習中の個別指導を十分行うようにする。
3. 「実習記録ノート」については、単なる記録とならない様にあらかじめ学生に指導するとともに、その内容については、個別指導に十分生かすようにする。
4. 実習中においては、次の点に留意して実習を行う。
 - 1 利用者やその関係者、施設・機関・団体等の職員やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係を形成する能力を強める。
 - 2 利用者を理解し、その需要を把握する能力を強める。
 - 3 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）と援助関係を作る能力を強める。
 - 4 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）の問題解決能力を高めるように援助する能力を強める。
 - 5 福祉専門職（社会福祉士）として職業倫理、施設・機関・団体の経営や職員の就業などに関する規定を学び、組織の一員として仕事を計画し、責任を果たす能力を強める。
 - 6 実習生が、当該実習先がコミュニティの中の機関・施設であることを理解するとともに、具体的なコミュニティへの働きかけについて学び、その援助のための能力を強化する。
 - 7 福祉専門職（社会福祉士）のあるべき姿と必要な能力を実際に学び、自己を客観視し、解決すべき自己の課題を明確化し、理解を深める。

【評価方法】

各機関の実習指導者が評価する評価に加えて、実習ノートの記述内容、大学での授業態度や提出物等を総合して評価する。

社会福祉援助技術現場実習Ⅱ

神波幸子 谷口明広 谷口純世 永田 祐

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

社会福祉援助技術現場実習Ⅰにおける学習をさらに深めるとともに、実習担当者、受け入れ側実習担当者との緊密な連携の下、利用者と関係を作る力、多面的、重層的に問題を捉える力を養い、経験を単なる経験としてではなく専門職種として応用する力が身につくようにする。

【授業計画】

目 標

1. 現場体験を通して社会福祉専門職（社会福祉士）として仕事をするうえで必要な「専門知識」、「専門援助技術」及び「関連知識」の内容の理解を深める。
2. 「専門知識」、「専門援助技術」および「関連知識」を実際に活用し、相談援助義務に必要となる資質・能力・技術を習得する。
3. 職業倫理を身につけ、福祉専門職として自覚にもとづいた行動ができるようにする。
4. 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。
5. 関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を理解する。

内 容

社会福祉援助技術現場実習を実施する。

なお、社会福祉援助技術現場実習が実施される前に、実習までに必要な健康診断、実習先の選定等、実習中の「実習記録ノート」の説明・指導、その他実習実施に関する注意事項等について「事前オリエンテーション」がおこなわれる。

1. 配属実習に際しては、健康診断等の方法により、実習生が良好な健康状態にあることを確認した上で配属させる。
2. 実習先は、巡回指導が随時可能な範囲で選定することとし、実習中の個別指導を十分行うようにする。
3. 「実習記録ノート」については、単なる記録とならない様にあらかじめ学生に指導するとともに、その内容については、個別指導に十分生かすようにする。
4. 実習中においては、次の点に留意して実習を行う。
 - 1 利用者やその関係者、施設・機関・団体等の職員やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係を形成する能力を強める。
 - 2 利用者を理解し、その需要を把握する能力を強める。
 - 3 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）と援助関係を作る能力を強める。
 - 4 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）の問題解決能力を高めるように援助する能力を強める。
 - 5 福祉専門職（社会福祉士）として職業倫理、施設・機関・団体の経営や職員の就業などに関する規定を学び、組織の一員として仕事を計画し、責任を果たす能力を強める。
 - 6 実習生が、当該実習先がコミュニティの中の機関・施設であることを理解するとともに、具体的なコミュニティへの働きかけについて学び、その援助のための能力を強化する。
 - 7 福祉専門職（社会福祉士）のあるべき姿と必要な能力を実際に学び、自己を客観視し、解決すべき自己の課題を明確化し、理解を深める。

【評価方法】

各機関の実習指導者が評価する評価に加えて、実習ノートの記述内容、大学での授業態度や提出物等を総合して評価する。

社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰ

神波幸子 谷口明広 谷口純世 永田 祐

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

現場実習前については、オリエンテーション、現場体験、現場実習指導者の講和等を通じて現場実習の意義を十分理解させ、その準備を行う。実習中については、巡回指導を通じて社会福祉士としての専門的倫理、価値、知識、技能及び関連知識を応用、展開、活用する能力を得られるよう指導する。

【授業計画】

目 標

- 1 社会福祉援助技術現場実習の意義について理解する。
- 2 社会福祉援助技術現場実習を通じて、養成施設で学んだ知識、技術等を具体的かつ実際に理解できるようにする。
- 3 実践的な技術等を体得できるようにする。
- 4 福祉に関する相談援助の専門職としての自覚を促し、専門職として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。

内 容

社会福祉援助技術現場実習指導には、下記の内容を含める。

- 1 実習オリエンテーション
 - 1) 実習の目的と意義
 - 2) 実習分野についての情報収集
 - 3) 実習先で必要とされる専門援助技術
 - 4) 人権尊重について
 - 2 視聴覚実習
 - 3 現場体験学習及び見学実習（実際の介護サービスの理解や各種サービスの利用体験等を含む）
 - 4 巡回指導
 - 5 実習記録に基づく実習総括レポートの作成
 - 6 実習の評価全体総括会
(注1) 実習生用「実習指導マニュアル」及び「実習記録ノート」を作成し、実習指導を活用する。
(注2) 実習計画作成については実習指導担当者と協議する。また、実習の評価については、学生の自己評価を考慮しつつ実習指導者と協議して指導・評価を行う。
- ア) 実習前においては、左記の点に留意して個別指導を行う。
- a) 実習生が、実習の意義、目的を理解し、適切な実習計画を作成する。
 - b) 実習生に自己の選択した実習分野と施設について基本的な知識をもたせる。
 - c) 実習生に実習先で必要とされる専門援助技術の基礎について十分理解させる。
 - d) 実習先に個人のプライバシーの保護と守秘義務等について十分理解させる。
- イ) 実習後においては、その実習内容についての達成度を評価し、必要な個別指導を行う。
- a) 配属実習が効果的に行われるよう、実習生と実習担当専任教員が、実習先の実習指導担当者と十分協議して、実習が確実に実施できるよう実習計画を作成する。
 - b) 実習の評価基準を明確にし、評価に際しては実習先の実習指導担当者の評価はもとより、実習生本人の自己評価についても考慮して行う。

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

社会福祉援助技術現場実習指導Ⅱ

神波幸子 谷口明広 谷口純世 永田 祐

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

実習中の指導については、社会福祉援助技術現場実習指導Ⅰの内容を継続して指導する。実習後については、実習記録に基づく実習の振り返りを通じて実習経験を自分のものとするとともに、総括のための報告会を開き、現場指導者、下級生、教員とともに評価を行う。

【授業計画】

目 標

- 1 社会福祉援助技術現場実習の意義について理解する。
- 2 社会福祉援助技術現場実習を通じて、養成施設で学んだ知識、技術等を具体的かつ実際に理解できるようにする。
- 3 実践的な技術等を体得できるようにする。
- 4 福祉に関する相談援助の専門職としての自覚を促し、専門職として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。

内 容

社会福祉援助技術現場実習指導には、下記の内容を含める。

- 1 実習オリエンテーション
 - 1) 実習の目的と意義
 - 2) 実習分野についての情報収集
 - 3) 実習先で必要とされる専門援助技術
 - 4) 人権尊重について
 - 2 視聴覚実習
 - 3 現場体験学習及び見学実習（実際の介護サービスの理解や各種サービスの利用体験等を含む）
 - 4 巡回指導
 - 5 実習記録に基づく実習総括レポートの作成
 - 6 実習の評価全体総括会
(注1) 実習生用「実習指導マニュアル」及び「実習記録ノート」を作成し、実習指導を活用する。
(注2) 実習計画作成については実習指導担当者と協議する。また、実習の評価については、学生の自己評価を考慮しつつ実習指導者と協議して指導・評価を行う。
- ア) 実習前においては、左記の点に留意して個別指導を行う。
- a) 実習生が、実習の意義、目的を理解し、適切な実習計画を作成する。
 - b) 実習生に自己の選択した実習分野と施設について基本的な知識をもたせる。
 - c) 実習生に実習先で必要とされる専門援助技術の基礎について十分理解させる。
 - d) 実習先に個人のプライバシーの保護と守秘義務等について十分理解させる。
- イ) 実習後においては、その実習内容についての達成度を評価し、必要な個別指導を行う。
- a) 配属実習が効果的に行われるよう、実習生と実習担当専任教員が、実習先の実習指導担当者と十分協議して、実習が確実に実施できるよう実習計画を作成する。
 - b) 実習の評価基準を明確にし、評価に際しては実習先の実習指導担当者の評価はもとより、実習生本人の自己評価についても考慮して行う。

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

心理学

永田忠夫

(福祉貢献学科)

1年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

科学的な方法をもとに検証されたさまざまな人間理解の方法を学び、そのような科学的論点に立脚した心理学理論、特にパーソナリティ理論を学習する。また、医療福祉領域にとって重要な発達心理学的理論から乳幼児期から老年期にいたるまでのそれぞれの発達段階に特有の心理的特長や発達課題について理解する。そうした人間理解の基礎知識を医療福祉関係の領域における応用・適用し、心理的援助技法の概要をも学ぶ。

【授業計画】

目 標

1. 心理学の概要を理解する。
2. 乳幼児期・児童期・青年期・老人期等人間の発達段階のそれぞれの時期に特有な身体的、心理的特徴について理解する。
3. 心理学理論による人間理解とその技法について理解する。
4. 心理的援助技法の概要について理解する。

内 容

1. 人間の心理学的理解
 - 1) 欲求・動機づけと行動
 - 2) 感情・情動
 - 3) 感覚・知覚・認知
 - 4) 学習・記憶・思考
 - 5) 知能・創造性
 - 6) 人格
 - 7) 適応と適応異常
2. 人間の成長・発達と心理
3. 人間理解のための心理学理論と技法
 - 1) 基礎理論
 - 1 精神分析
 - 2 行動分析
 - 2) 測定と診断
 - 1 発達
 - 2 知能
 - 3 性格
4. 心理的援助技法の概要
 - 1) 心理療法（個別面接法・集団面接法）
 - 2) 家族心理療法
 - 3) 行動療法

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

新版 社会福祉士養成講座10 心理学（中央法規）

社会学

吉田啓子

1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代社会における経済の変化・情報化社会の進行と国民生活との関わりについて理解する。特に家族の多様化が進み、都市化等による地域社会の変化が著しい現代社会の特徴を学習する。さらにそのような現代社会から生み出される社会問題に対応する社会福祉士の役割を学ぶ。

【授業計画】

目 標

- 1 現代社会の特質について理解する。
- 2 現代社会における家族や地域社会の特徴について理解する。
- 3 現代社会における社会問題について理解する。

内 容

- 1 経済社会の変化と国民の生活及び意識の変化
- 2 現代社会と科学技術
 - 1) 科学技術の展開
 - 2) 現代社会と科学技術
 - 3) 情報化社会と国民生活
- 3 現代社会と専門職
- 4 現代社会における家族
 - 1) 構造及び形態
 - 2) 機能
 - 3) 変化
 - 4) 家族と地域社会
- 5 現代社会における地域社会
 - 1) 都市化と地域社会
 - 2) 過疎化と地域社会
 - 3) 地域社会の社会集団・組織
- 6 現代社会における社会問題

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

新版 社会福祉士養成講座11 社会学（中央法規）

法学

初谷良彦

1年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

「法」のよしあし、その作り方、運用の仕方の良否で、人の生活は幸福にも不幸にもなる。法の目的と国家の責務はまず何よりも基本的人権を尊重し、かつそれを保障することにある。法学は、このような法を明らかにしようとするものである。人間の尊厳性や基本的人権を軸にして法の基礎理論、憲法、民法、行政法の基礎について理解を深める。

【授業計画】

目 標

- 1 社会生活における法の作用や役割について理解する。
- 2 憲法、民法及び行政法の基礎を理解する。
- 3 基本的人権、権利擁護、成年後見制度などを理解する。

内 容

- 1 社会生活と法
- 2 憲法
 - 1) 基本原理
 - 2) 基本的人権
 - 3) 地方自治
- 3 民法
 - 1) 総則
 - 2) 契約
 - 3) 不法行為
 - 4) 親族
 - 5) 相続
- 4 行政法
 - 1) 行政行為
 - 2) 行政不服審査
 - 3) 行政訴訟
 - 4) 情報公開
 - 5) 地方行政組織

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

新版 社会福祉士養成講座12 法学（中央法規）

医学概論 I

森 滋夫

1年 前期 必修(福祉) 選択(言語・視覚) 2単位

【授業の概要】

まず、人体の基本的な構造や機能について学習する。そして、臨床医学の各分野、すなわち内科学、外科学、整形外科、精神・神経科学、小児科学、産婦人科学などの基礎を学習する。また、医学的リハビリテーションの考え方、医学的リハビリテーションにおける診断と評価及びその具体的展開について学習する。

【授業計画】

目 標

- 1 人体の基本的な構造や機能について理解する。
- 2 臨床医学の各分野の概要について理解する。
- 3 医学的リハビリテーションの概要について理解する。

内 容

- 1 人体の構造・機能
 - 1) 人体の構成 2) 細胞と組織 3) 皮膚 4) 骨格 5) 骨格筋
 - 6) 脳・神経系 7) 感覚器 8) 内分泌腺 9) 血液 10) 循環器系
 - 11) リンパ系と免疫 12) 呼吸器 13) 消化器 14) 泌尿器系
 - 15) 体液の恒常性 16) 生殖器 17) 生殖と発生
- 2 一般臨床医学の概要
 - 1) 内科学
 - 2) 外科学
 - 3) 整形外科
 - 4) 精神・神経科学
 - 5) 小児科学
 - 6) 産婦人科学
- 3 医学的リハビリテーションの概要
 - 1) リハビリテーションの定義、障害の概念と対象の変遷
 - 2) 医学的リハビリテーションにおける診断と評価
 - 3) 医学的リハビリテーションの具体的展開

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する

【テキスト】

新版 社会福祉士養成講座13 医学一般（中央法規）

医学概論Ⅱ

太田由枝

1年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

現代社会と疾病をテーマにして、がん、生活習慣病、各種感染症、エイズ、精神神経疾患、先天性疾病、難病など医療の最前線の概要を学習する。さらに社会環境と健康をテーマに保健医療の現状とその対策について学習する。また、保健医療に関する法律及び関係する専門職についても学習する。

【授業計画】

目 標

- 1 現代社会の代表的な疾患について理解する。
- 2 公衆衛生の概要を理解する。
- 3 保健医療対策の概要を理解する。
- 4 医療法制と保健・医療機関及び専門職について理解する。

内 容

- 1 現代社会と疾病
 - 1) がん、生活習慣病
 - 2) 各種感染症
 - 3) エイズ
 - 4) 精神・神経疾患
 - 5) 先天性疾病
 - 6) 難病
 - 7) その他
- 2 公衆衛生の現状
 - 1) 人口動態
 - 2) 疾病と受療状況
 - 3) 医療関係者
 - 4) 医療施設
- 3 保健医療対策の現状
 - 1) 健康づくり対策
 - 2) 感染症対策
 - 3) 難病対策
 - 4) 臓器移植体制等
 - 5) 痴呆疾患対策
- 4 医事法制と保健・医療機関及び専門職
 - 1) 医療法、医師法、保健師助産師看護師法等、医事法制の概要
 - 2) 保健・医療機関、専門職と福祉専門職の連携のあり方

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する

【テキスト】

新版 社会福祉士養成講座13 医学一般（中央法規）

介護概論

芝山章子

1年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

施設中心の介護から在宅介護まで含めて、よりよい介護とは何かを考える。高齢者・障害者等の自立的生活を援助する視点から、介護の目的と原則、健康維持のメカニズムの基本を学習し、看護・介護・家事援助の関連性を理解する。

【授業計画】

目 標

- 1 介護の役割と範囲を理解するとともに、看護・医療及びに家政との関係について理解する。
- 2 具体的な介護の展開過程や介護の実際について演習形式等を活用し理解する。
- 3 身体的及び精神的な変化に対する観察能力を身につけ、それらの変化に速やかに正しく対処できる能力を養い、保健・医療機関、専門職との連携、協力及び必要に応じたその手助けをすることができるようにする。
- 4 病気や遭遇しやすい事故についての知識をもち、それに対する予防措置を講ずることができるようにする。

内 容

- 1 介護の原則、目標、機能及び範囲
 - 1) 介護の原則、目標、機能及び範囲
 - 2) 自立的な生活維持に対する需要と介護の役割
 - 3) 成人期以降、老人・障害者の生活上の需要と介護の役割
 - 4) 健康維持のメカニズム
 - 5) 終末期の介護
 - 6) 介護過程の展開
- 2 介護技法（安全、快適、安寧、健康水準の低下予防等）の基本
 - 1) 住生活環境の安全管理（感染防止）
 - 2) 食事
 - 3) 排泄
 - 4) 衣服の着脱
 - 5) 入浴・身体の清潔と感染防止
 - 6) 移動空間の確保
 - 7) 健康習慣の獲得
 - 8) 体力の維持（運動と機能維持）
 - 9) 自己達成と社会生活の維持（レクリエーションと学習等）
 - 10) 療養時の対応
 - 11) 緊急・事故時の対応
 - 12) 介護家族への生活維持援助
 - 13) 福祉用具の活用
- 3 介護関係維持のための技法
 - 1) 健康や生活の観察技法
 - 2) コミュニケーションの技法
 - 3) 記録と情報の共有化の技法
 - 4) 介護専門職（介護福祉士）と医師・看護師・保健師等医療専門職との連携のあり方
 - 5) 介護専門職とその他の福祉専門職（社会福祉士）との連携のあり方
- 4 介護活動の場に特有な問題と技法
 - 1) 家庭
 - 2) 施設

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する

【テキスト】

社会福祉養成テキストブック12 介護概論（ミネルヴァ書房）

精神医学Ⅰ

高橋俊彦

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

精神を患うとはどういうことなのか。最近の精神医学で明らかになった脳および神経の生理を学び、精神障害・精神医学の概念を理解する。同時に精神医療の歴史を学び、精神障害の程度の診断技術の発達および現代の精神医学の課題を理解する。

【授業計画】

目 標

- 1 精神医学、精神医療の歴史を理解する。
- 2 脳および神経の生理・解剖の基礎を理解する。
- 3 精神医学の概念について理解する。
- 4 精神医学診断の基本的な方法について理解する。
- 5 代表的な精神障害について理解する。

内 容

- 1 精神医学、精神医療の歴史
 - 1) 西洋の歴史
 - 2) 日本の歴史
- 2 脳および神経の生理と解剖
 - 1) 神経系の発生と構成
 - 2) 中枢神経系
 - 3) 末梢神経系
- 3 精神医学の概念
 - 1) 精神医学の概念
 - 2) 精神障害の成因と分類
- 4 診断法
 - 1) 診断の手順と方法
 - 2) 精神症状と状態像
 - 3) 心理検査と身体的検査
- 5 代表的な精神障害（その1）
 - 1) 症状性を含む器質性精神障害（老年性痴呆を含む）
 - 2) 精神作用物質使用による精神および行動の障害
 - 3) 精神分裂病、分裂病型障害および妄想性障害
 - 4) 気分（感情）障害
 - 5) 神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

改訂 大学生のための精神医学（高橋・近藤編 岩崎学術出版）

精神医学Ⅱ

高橋俊彦

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

代表的な精神障害として、老年性痴呆、てんかん、睡眠障害、アルコール関連精神障害、薬物依存その他の身体因性障害、神経症、パーソナリティ障害、摂食障害、気分障害、妄想障害、さらに統合失調症等、医療現場、福祉現場と関連があると予想される精神障害について理解する。また、病院精神医療と地域精神医療との関連等を学習する。

【授業計画】

目 標

1. 代表的な精神障害について理解する。
2. 治療の概要について理解する。
3. 病院精神医学および地域精神医学について理解する。

内 容

1. 代表的な精神障害（その2）
 - 6) 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群
 - 7) 成人の人格および行動の障害
 - 8) 精神遅滞
 - 9) 心理的発達の障害
 - 10) 小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害および特定不能の精神障害
 - 11) 神経系の疾患（てんかんを含む）
2. 治療法
 - 1) 身体的療法
 - 1 薬物療法とその副作用
 - 2 電気ショック療法
 - 2) 精神療法
 - 3) 環境・社会療法
 - 4) 精神科リハビリテーション
3. 病院精神医療および地域精神医療
 - 1) 病院精神医療（身体合併症医療、インフォームドコンセントを含む）
 - 2) 精神科救急医療（インフォームドコンセントを含む）
 - 3) 地域精神医療

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

改訂 大学生のための精神医学（高橋・近藤編 岩崎学術出版）

精神保健学Ⅰ

諏訪真美

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

この科目は精神保健における基本的知識について理解する事が目的である。人間のライフサイクル（乳児期・児童期・思春期・青年期・成人期・老年期）の各段階で発達課題を知り、それぞれの精神保健を理解する。また、個人のライフサイクルとともに家庭におけるサイクルを理解し、家族関係の成長・発達を知る。さらに家庭・学校・地域・職場での精神保健活動について理解する。また、地域精神保健に関する関係法規についても学習する。

【授業計画】

目 標

- 1 精神保健についての基本知識について理解する。
- 2 ライフサイクルにおける精神保健について理解する。
- 3 精神保健における個別課題への取り組みと実際について理解する。

内 容

- 1 精神保健についての基礎知識
 - 1) 精神保健の概要
 - 2) 精神保健の意義と課題
- 2 ライフサイクルにおける精神保健
 - 1) 胎児期および乳幼児期における精神保健
 - 2) 学童期における精神保健
 - 3) 思春期における精神保健
 - 4) 青年期における精神保健
 - 5) 成人期における精神保健
 - 6) 老年期における精神保健
- 3 精神保健における個別課題への取り組み
 - 1) 精神障害者対策
 - 2) 老人性痴呆疾患対策
 - 3) アルコール関連問題対策
 - 4) 薬物乱用防止対策
 - 5) 思春期精神保健対策
 - 6) 地域精神保健対策
 - 7) ターミナルケアと精神保健

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

精神保健福祉士養成講座（2） 精神保健学（中央法規）

精神保健学Ⅱ

諏訪真美

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

この科目では、精神保健における基本的知識のもとに、さらに個別の理解を深める事を目的とする。精神障害者対策、老人性痴呆疾患、薬物問題対策、思春期精神保健等の個別課題について学習する。また、社会の変化に基づく精神保健の新しい課題についても学習する。そして地域精神保健活動についてその実際の状況を学習し、関係期間の取り組みを参考にして個別課題の問題解決について考える。

【授業計画】

目 標

- 1 地域精神保健と地域保健について理解する。
- 2 諸外国における精神保健の概要について理解する。
- 3 関連法規および施設について理解する。

内 容

- 1 精神保健活動の実際
 - 1) 家庭における精神保健
 - 2) 学校における精神保健
 - 3) 職場における精神保健
 - 4) 地域における精神保健
- 2 地域精神保健と地域保健
 - 1) 地域精神保健施策の概要
 - 2) 地域保健施策の概要
 - 3) 関係法規
 - 4) 関連施策
- 3 諸外国における精神保健

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

精神保健福祉士養成講座（2） 精神保健学（中央法規）

精神科リハビリテーション学Ⅰ

諏訪真美 長谷川俊雄

オムニバス 2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

この科目では、精神科リハビリテーションの概念および構成を理解することを目的とする。まず精神科リハビリテーションの歴史について学習し、我が国の精神科リハビリテーションの現状について理解する。そして、病院・社会復帰施設・地域におけるリハビリテーションの実際について学習する。さらにそのなかで精神保健福祉士の役割を考え検討する。

【授業計画】

目 標

1. 精神科リハビリテーションの概念について理解する。
2. 精神科リハビリテーションの構成について理解する。
3. 精神科リハビリテーションのプロセスと技術について理解する。

内 容

1. 精神科リハビリテーションの概念
 - 1) リハビリテーションの概念と歴史
 - 2) リハビリテーションの理念、意義と基本原則
 - 3) 精神科リハビリテーションの概念
 - 4) 精神科リハビリテーションの理念と意義
 - 5) 精神科リハビリテーションの基本原則と技法
 - 6) わが国及び諸外国の精神科リハビリテーションの現状
2. 精神科リハビリテーションの構成
 - 1) 精神科リハビリテーションの対象
 - 2) 精神科リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割
 - 3) 精神科リハビリテーションに関わる専門職等との連携
 - 4) 精神科リハビリテーションの施設
 - 1) 病院リハビリテーション施設等
 - 2) 社会復帰施設及びその他の社会資源（小規模作業所、グループホーム、地域生活支援事業など）
 - 3) 精神保健福祉センター及び保健所
 - 4) その他の協力機関、支援団体
 - 5) 精神科リハビリテーションの関連領域
3. 精神科リハビリテーションのプロセス
 - 1) リハビリテーション計画
 - 2) アプローチの方法
 - 1) 病院におけるリハビリテーション
 - 2) 社会復帰施設及びその他の社会資源におけるリハビリテーション
 - 3) 地域におけるリハビリテーション
 - 3) 疾病の経過、ライフサイクルと精神科リハビリテーション

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

精神保健福祉士養成講座3 精神科リハビリテーション学（中央法規）

精神科リハビリテーション学Ⅱ

諏訪真美 長谷川俊雄

オムニバス 2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

この科目では、精神科リハビリテーションについてその技法を具体的に学習し、精神保健福祉士の実践課題を明らかにし、他専門職との連携をはかる能力を養う。作業療法・集団精神療法について学習し、家庭教育プログラムやデイケア・ナイトケアが実際どのように実施されているかの状況やその効果について理解する。そして、精神科リハビリテーションの役割と今後の課題について考える。

【授業計画】

目 標

1. 精神保健福祉士が行うリハビリテーションについて理解する。
2. 精神科リハビリテーションにおける連携について理解する。

内 容

1. 医療機関におけるリハビリテーション
 - 1) 作業療法およびレクリエーション療法
 - 2) 集団精神療法
 - 3) 行動療法
 - 4) 認知行動療法（生活技能訓練を含む）
 - 5) 家族教育プログラム
 - 6) デイケアおよびナイトケア
 - 7) 精神科退院時指導、退院前訪問、訪問看護・指導
2. 精神保健福祉士が行うリハビリテーション
 - 1) 精神保健福祉士が関わる医学的リハビリテーション
 - 1) 集団精神療法における精神保健福祉士
 - 2) 生活技能訓練における精神保健福祉士
 - 3) デイケアおよびナイトケアにおける精神保健福祉士
 - 4) 訪問看護・指導における精神保健福祉士
 - 2) 社会的リハビリテーション
 - 1) 日常生活への適応のための訓練
 - 2) 社会復帰のための相談・助言・指導
3. 精神科リハビリテーションの総合化
 - 1) 地域リハビリテーション
 - 1) 地域ネットワーク
 - 2) ケアマネジメント
 - 3) 地域生活支援事業と訪問援助
 - 4) 家族会および自助グループ
 - 5) ボランティアの育成と活用
 - 2) 職業リハビリテーション
 - 3) 精神保健福祉施策と精神科リハビリテーション

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

精神保健福祉士養成講座3 精神科リハビリテーション学（中央法規）

精神保健福祉論 I

伊藤勝也

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

障害者福祉一般に通じる理念（基本的価値、障害の概念）、施策、実践課題の基本的理解とそれを土台にした精神障害者の諸課題を学ぶ。とりわけ、偏見・差別といった社会的障壁の下に置かれてきた精神障害者の人権擁護の視点を掘り下げるとともに、社会福祉基礎構造改革、市町村を基盤にした障害者福祉の一元的推進施策下での新しい援助のあり方について理解を深める。併せて、諸課題に対する当事者、地域社会の取り組みの歴史を学ぶことで今日的課題の意義を理解する。

【授業計画】

目 標

1. 障害者福祉の理念と意義及び障害者基本法等全ての障害者に共通の福祉施策の概要について理解する。
2. 精神障害者の人権について理解する。

内 容

1. 障害者福祉の理念と意義
 - 1) 障害者福祉の理念
 - 1 障害者福祉の発達
 - 2 ノーマライゼーション
 - 3 リハビリテーション
 - 4 生活の質（QOL）
 - 5 生活支援
 - 2) 障害及び障害者
 - 1 障害の概念
 - 2 障害分類（国際障害分類を含む）
 - 3 精神障害の特性
 - 3) 障害者福祉の基本施策
 - 1 障害者基本法
 - 2 障害者プラン
 - 4) 現代社会と精神障害者
 - 1 精神障害者の概念
 - 2 精神障害者と家族
 - 3 精神障害者と地域社会
 - 4 精神障害者のノーマライゼーション
2. 精神障害者の人権
 - 1) 精神障害者の権利擁護
 - 2) 精神医療における権利擁護
 - 3) インフォームドコンセント
 - 4) 地域社会における精神障害者の人権

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

精神保健福祉士養成講座4 精神保健福祉論（中央法規）

精神保健福祉論 II

伊藤勝也

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

精神保健福祉士の意義、役割について理解する。とりわけ、精神保健福祉の歴史上の諸問題とそこでの精神科ソーシャルワーカーの厳しい自己点検の経過を学ぶことで精神保健福祉士の意義を理解する。また、精神障害者の生活状況の把握を出発点にして精神保健福祉士に要求される専門性、倫理について学ぶとともに、精神障害者の社会的障壁からの解放、主体性の尊重といった基本的価値に基づいた各現場での相談援助の実践について学ぶ。

【授業計画】

目 標

1. 精神保健福祉士の理念、意義、対象について理解する。
2. 精神障害者に対する相談援助活動等を理解する。

内 容

1. 精神保健福祉士の理念と意義
 - 1) 精神保健福祉の歴史と理念
 - 2) 精神保健福祉士の意義
 - 3) 精神保健福祉士の対象
 - 4) 精神保健福祉士の専門性と倫理
2. 精神障害者に対する相談援助活動
 - 1) 精神障害者をとりまく社会的障壁（バリアー）
 - 2) 精神障害者の主体性の尊重
 - 3) 相談援助活動の方法
 - 1 医療施設における相談援助活動
 - 2 社会復帰施設等における相談援助活動
 - 3 地域社会における相談援助活動
 - 4) 相談援助活動の事例

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

精神保健福祉士養成講座4 精神保健福祉論（中央法規）

【授業の概要】

少子高齢化が進む現代社会において人権尊重・権利擁護・自立支援の視点にたつて社会福祉の意義と制度、歴史と現状を理解する。社会福祉の対象を設定し、福祉援助の形態及び方法、サービス体系及び利用者保護制度のしくみについて学習し、福祉援助を担う専門職としての基礎的知識を習得する。

【授業計画】

目 標

- 1 現代社会における社会福祉の理念と意義について事例や演習形式を活用し理解する。
- 2 社会福祉の対象と援助の形態及び方法について理解する（老人や障害者を中心に介護との関係に十分留意しつつ理解することを含む）。
- 3 社会福祉サービス体系と利用者保護制度の仕組みの概要について理解する。

内 容

- 1 現代社会と社会福祉
 - 1) 社会福祉の理念（人権尊重、権利擁護、自立支援等）とその発達
 - 2) 概念と範囲
 - 3) 役割と意義
- 2 社会福祉対象の把握方法
 - 1) 生活と福祉課題
 - 2) 社会福祉ニーズ
 - 3) ニーズをかかえている人の理解
- 3 社会福祉援助の具体的な形態と方法
 - 1) 社会福祉の援助とは
 - 2) 社会福祉の援助形態
 - 3) 社会福祉援助活動の方法

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

社会福祉原論（蟻塚昌克編著 建帛社）

【参考文献・資料】

社会福祉小六法（ミネルヴァ書房）
 社会福祉とキーワード補訂版（平岡公一他編 有斐閣双書）

【授業の概要】

なぜ「社会福祉」に加えてあえて「地域」福祉が重要になるのかという点を出発点に、地域福祉の概念、理念の発達と現状を理解する。また、具体的な地域福祉の推進のための資源（地域福祉の担い手、財源、諸制度と諸組織）と具体的な推進方法（住民の参加や組織化の手法、地域福祉計画の進め方）を概説し、地域福祉推進のための基礎的知識を得ることを目的とする。また、先進的な地域福祉の事例の検討を通じて、具体的な地域福祉推進の手法についても学習する。

【授業計画】

目 標

- 1 地域福祉の理念と内容について理解する。
- 2 地域福祉の推進方法について理解する。
- 3 地域福祉の現状について理解する。

内 容

- 1 現代社会におけるコミュニティと地域福祉
- 2 現代社会と地域福祉
 - 1) 地域福祉理念の発達
 - 2) 概念と範囲
 - 3) 役割と意義
- 3 地域福祉の構成
- 4 地域福祉の推進方法
 - 1) 推進の基本的な考え方
 - 2) 公私関係及び役割分担
 - 3) サービス提供組織とその運営方法
 - 4) マンパワーの構成及びその動員方法
 - 5) 財源の構成とその調達の方法
 - 6) 地域福祉推進の具体的な組織、団体、専門職及びその連携のあり方
- 5 地域福祉の現状

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

授業中に指示する

社会福祉援助技術総論Ⅰ／精神保健福祉援助技術総論Ⅰ

伊藤勝也

1年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

基本的な人間関係形成を図るための方法について学び、社会福祉援助技術の歴史的展開と最近の動向を踏まえ、人権尊重、権利擁護、自立支援等の観点から踏まえた社会福祉サービスと援助活動の関係について学習する（精神障害者を含む）。また、社会福祉サービスの援助技術の共通課題を学ぶ（精神障害者に対する体系を含む）。

【授業計画】

目標

- 1 基本的コミュニケーションや人の付き合い方などの円滑な人間関係形成を図るための方法について理解する。
- 2 人権尊重、権利擁護、自立支援等の観点から踏まえた社会福祉サービスと援助活動の関係について、理解する（精神障害者に対する福祉サービスを含む）。
- 3 社会福祉援助活動の展開過程を重視しながら、その目的・価値・原則及び体系とそこにおける共通課題について具体的事例も含めて理解する（精神障害者に対する社会福祉援助活動を含む）。
- 4 福祉専門職と専門援助技術の関係について理解する（精神障害に対する専門援助技術を含む）。

内容

- 1 社会福祉サービスと援助活動（精神障害者を含む）
 - 1) 援助の適用と対象
 - 2) 社会福祉サービスと援助活動
- 2 福祉専門職と専門援助技術の関係（精神保健福祉士を含む）
 - 1) ソーシャルワーカーと専門援助活動
 - 2) ソーシャルワーカーと専門性の構造
 - 3) 専門的な援助関係とコミュニケーション
- 3 社会福祉援助活動の目的・価値・原則及び諸過程と共通課題（精神障害者を含む）
 - 1) 社会福祉援助活動の目的と価値
 - 2) 社会福祉援助活動の原則
 - 3) 社会福祉援助活動の方法と過程
 - 1 医学モデル
 - 2 生活モデル
 - 3 援助開始時の面接（インテーク）と事前評価（アセスメント）
 - 4 援助計画の作成
 - 5 援助活動の実施
 - 6 援助活動の評価
 - 4) 社会福祉援助活動の共通課題
 - 1 契約・介入・課題の意義と方法
 - 2 面接の意義と方法
 - 3 記録の意義と方法
 - 4 評価の意義と方法
 - 5 スーパービジョンの意義と方法
 - 6 自助グループ及びボランティアとの協力
 - 7 ケアマネジメントの意義と方法
- 4 専門援助技術の歴史的展開
 - 1) 社会福祉援助技術の形成
 - 2) 社会福祉援助技術の発展
 - 3) 社会福祉援助技術の理論的動向
 - 4) 専門技術をめぐる動向

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

精神保健福祉士養成講座（5）精神保健福祉援助技術総論（中央法規）

【参考文献・資料】

社会福祉士養成講座（8）社会福祉援助技術論Ⅰ（中央法規）

社会福祉援助技術総論Ⅱ／精神保健福祉援助技術総論Ⅱ

伊藤勝也

1年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

社会福祉援助技術各論、精神保健福祉援助技術各論及び演習、実習への媒介を念頭に置き、社会福祉士・精神保健福祉士としての専門援助技術の体系について講義するとともに、専門援助技術における生活支援のあり方、倫理、他専門職種との連携やチームアプローチの方法について講義する。加えて諸外国における専門援助技術の動向を講義する。

【授業計画】

目標

1. 社会福祉援助活動における専門援助技術の体系について理解する。
2. 社会福祉援助技術に由来する倫理について理解する。

内容

1. 専門援助技術の体系及び内容
 - 1) 直接援助技術
 - 1 個別援助技術（ケースワーク）
 - 2 集団援助技術（グループワーク）
 - 2) 間接援助技術
 - 1 地域援助技術（コミュニティワーク）の理論と技術
 - イ 地域援助技術の概念と基本的性格
 - ロ 地域社会の組織化
 - ハ 地域援助技術
 - 2 社会福祉調査法の理論と技術
 - イ 社会福祉調査法の基本的性格と類型
 - ロ 統計調査法における調査技術
 - ハ 事例調査における調査技術
 - 3 社会福祉の運営（ソーシャル・アドミニストレーション）と計画の技術
 - 4 社会計画（ソーシャル・プランニング）
 - 5 その他（ソーシャル・アクション、患者権利擁護、エンパワメント）
 - 3) その他の関連専門援助技術（介護保険法における居宅サービス計画及び施設サービス計画を含む）
2. 社会福祉援助活動の場と専門援助技術
3. 生活支援と専門援助技術
4. 専門援助技術と倫理（精神保健福祉士を含む）
5. 専門援助技術の統合化とチームによる対応（精神保健福祉士を含む）
6. 専門援助技術をめぐる我が国及び諸外国の動向

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

精神保健福祉士養成講座（5）精神保健福祉援助技術総論（中央法規）

【参考文献・資料】

社会福祉士養成講座（8）社会福祉援助技術論Ⅰ（中央法規）

精神保健福祉援助技術各論Ⅰ

諏訪真美 瀧 誠

オムニバス 2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

この科目では、これまで学習してきた精神障害者の疾病および障害についての理解に基づいて、個別援助技術（ケースワーク）・集団援助技術（グループワーク）について理解する事を目的とする。具体的事例について、個別援助（ケースワーク）の計画・実施について考える。さらに集団援助（グループワーク）についても、具体的事例に基づいて、その計画・実施を考え、関係者それぞれの役割を理解する。

【授業計画】

目 標

1. 精神障害者の疾病及び障害に配慮した個別援助技術（ケースワーク）について具体的事例に基づき理解する。
2. 精神障害者の疾病及び障害に配慮した集団援助技術（グループワーク）について具体的事例に基づき理解する。
3. 精神障害者を対象とした地域援助技術（コミュニティワーク）について具体的事例に基づき理解する。

内 容

1. 精神障害者を対象とした個別援助技術（ケースワーク）
 - 1) 疾病及び傷害に配慮した個別援助技術
 - 2) 個別援助技術の実際と適応分野
 - 3) 個別援助技術におけるスーパービジョン
 - 4) 具体的事例検討
2. 精神障害者を対象とした集団援助技術（グループワーク）
 - 1) 疾病及び障害に配慮した集団援助技術
 - 2) 集団援助技術の実際と適応分野（生活技能訓練を含む）
 - 3) 集団援助技術におけるスーパービジョン
 - 4) 具体的事例検討
3. 精神障害者を対象とした地域援助技術（コミュニティワーク）
 - 1) 地域援助技術の概念と基本的性格
 - 2) 地域援助技術の具体的展開
 - 1) ノーマライゼーションの推進と住民参加
 - 2) 社会資源の活用と開発
 - 3) 地域社会における連携と調整機能
 - 4) 家族会、自助グループの支援
 - 5) ボランティア等地域マンパワーの育成と活用
 - 6) 地域援助
 - 3) 具体的事例検討

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

精神保健福祉士養成講座（6）精神保健福祉援助技術各論（中央法規）

精神保健福祉援助技術各論Ⅱ

諏訪真美

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

この科目では、精神障害者のケアマネジメント・地域援助技術（コミュニティワーク）について理解することを目的とする。ケアマネジメントの技法について学習し、それを活用した地域援助について理解する。また、具体的事例について、ケアマネジメントの技法を用いて、その援助計画について検討する。これらによって、地域での精神障害者援助の実際について、関係機関の連携・チームアプローチのありかたについて考える。

【授業計画】

目 標

1. 精神障害者ケアマネジメントについて具体的事例に基づき理解する。
2. 精神障害者を対象とした援助技術について具体的事例に基づき理解する。

内 容

1. 精神障害者のケアマネジメント
 - 1) ケアマネジメントの原則
 - 1) ケアマネジメント
 - 2) 適応と対象
 - 3) 人権への配慮
 - 2) ケアマネジメントの意義と留意点
 - 1) ケアマネジメントの意義と留意点
 - 2) 関係機関との連携
 - 3) ケアマネジメントのプロセス
 - 1) 受理面接（インテーク）
 - 2) ニーズの把握とその評価
 - 3) 目標設定と計画的実施
 - 4) 包括的サービスの実現
 - 4) チームケアとチームワーク
 - 5) 具体的事例検討
2. 精神障害者援助と関連専門職との連携
 - 1) チーム医療における精神保健福祉士の役割
 - 2) 専門職等の役割と機能
 - 3) チームアプローチ及び生活支援の理念と精神保健福祉士の役割
 - 4) 協力・連携による包括的保険・医療・福祉サービス

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

精神保健福祉士養成講座（6）精神保健福祉援助技術各論（中央法規）

精神保健福祉援助演習Ⅰ

伊藤勝也

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

精神保健福祉士としての専門的援助技術および精神リハビリテーション技法について、臨床場面を想定して、ロールプレイや事例検討を行い、対人援助者としての心構えや視点を養う。

【授業計画】

目 標

- 1 精神保健福祉士の専門的援助技術及びリハビリテーション技法について、実施指導を中心とする演習形態により具体的事例を取り上げ、個別指導及び集団指導を通してその精度を高めつつ習得する。
- 2 学生自身が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を養成する。

内 容

- 1 精神保健福祉の援助技術
 - 1) 演習課題と到達目標
 - 2) 演習課題と展開方法
- 2 個別援助技術の実践と展開
＜事例検討の意図＞
 - 1) 保健医療施設等におけるケースワーク
 - 2) 社会復帰施設等におけるケースワーク
- 3 集団援助技術の実践と展開
＜事例検討の意図＞
 - 1) 保健医療施設等におけるグループワーク
 - 2) 社会復帰施設等におけるグループワーク
 - 3) セルフヘルプ・グループとグループワーク

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

授業中に指示する

精神保健福祉援助演習Ⅱ

伊藤勝也

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

現場実習を行うにあたって、精神病院等の医療施設および社会復帰施設におけるモデル的な事例を学習し、現場実習での留意事項を学ぶ。また、現場実習終了後に実習記録をもとに問題点の整理をする。

【授業計画】

目 標

- 1 精神保健福祉士の専門的援助技術及びリハビリテーション技法について、実施指導を中心とする演習形態により具体的事例を取り上げ、個別指導及び集団指導を通してその精度を高めつつ習得する。
- 2 学生自身が自分自身で学習し、考え、主体的に行動する態度を養成する。

内 容

- 1 地域援助技術の実践と展開
＜事例検討の意図＞
 - 1) 保健医療等におけるコミュニティワーク
 - 2) 社会復帰施設等におけるコミュニティワーク
 - 3) 地域組織化とコミュニティワーク
- 2 地域ケア活動の実践と展開
＜事例検討の意図＞
 - 1) チームアプローチによる援助
 - 2) ケアマネジメントによる援助
 - 3) ソーシャルサポート・ネットワーク援助

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

授業中に指示する

医学概論Ⅰ

森 滋夫

1年 前期 必修(福祉) 選択(言語・視覚) 2単位

【授業の概要】

まず、人体の基本的な構造や機能について学習する。そして、臨床医学の各分野、すなわち内科学、外科学、整形外科、精神・神経科学、小児科学、産婦人科学などの基礎を学習する。また、医学的リハビリテーションの考え方、医学的リハビリテーションにおける診断と評価及びその具体的展開について学習する。

【授業計画】

目 標

- 1 人体の基本的な構造や機能について理解する。
- 2 臨床医学の各分野の概要について理解する。
- 3 医学的リハビリテーションの概要について理解する。

内 容

- 1 人体の構造・機能
 - 1) 人体の構成
 - 2) 細胞と組織
 - 3) 皮膚
 - 4) 骨格
 - 5) 骨格筋
 - 6) 脳・神経系
 - 7) 感覚器
 - 8) 内分泌腺
 - 9) 血液
 - 10) 循環器系
 - 11) リンパ系と免疫
 - 12) 呼吸器
 - 13) 消化器
 - 14) 泌尿器系
 - 15) 体液の恒常性
 - 16) 生殖器
 - 17) 生殖と発生
- 2 一般臨床医学の概要
 - 1) 内科学
 - 2) 外科学
 - 3) 整形外科
 - 4) 精神・神経科学
 - 5) 小児科学
 - 6) 産婦人科学
- 3 医学的リハビリテーションの概要
 - 1) リハビリテーションの定義、障害の概念と対象の変遷
 - 2) 医学的リハビリテーションにおける診断と評価
 - 3) 医学的リハビリテーションの具体的展開

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する

【テキスト】

新版 社会福祉士養成講座13 医学一般 (中央法規)

医学概論Ⅱ

太田由枝

1年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

現代社会と疾病をテーマにして、がん、生活習慣病、各種感染症、エイズ、精神神経疾患、先天性疾病、難病など医療の最前線の概要を学習する。さらに社会環境と健康をテーマに保健医療の現状とその対策について学習する。また、保健医療に関する法律及び関係する専門職についても学習する。

【授業計画】

目 標

- 1 現代社会の代表的な疾患について理解する。
- 2 公衆衛生の概要を理解する。
- 3 保健医療対策の概要を理解する。
- 4 医療法制と保健・医療機関及び専門職について理解する。

内 容

- 1 現代社会と疾病
 - 1) がん、生活習慣病
 - 2) 各種感染症
 - 3) エイズ
 - 4) 精神・神経疾患
 - 5) 先天性疾病
 - 6) 難病
 - 7) その他
- 2 公衆衛生の現状
 - 1) 人口動態
 - 2) 疾病と受療状況
 - 3) 医療関係者
 - 4) 医療施設
- 3 保健医療対策の現状
 - 1) 健康づくり対策
 - 2) 感染症対策
 - 3) 難病対策
 - 4) 臓器移植体制等
 - 5) 痴呆疾患対策
- 4 医事法制と保健・医療機関及び専門職
 - 1) 医療法、医師法、保健師助産師看護師法等、医事法制の概要
 - 2) 保健・医療機関、専門職と福祉専門職の連携のあり方

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する

【テキスト】

新版 社会福祉士養成講座13 医学一般 (中央法規)

心理学

永田忠夫

(福祉貢献学科)

1年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

科学的な方法をもとに検証されたさまざまな人間理解の方法を学び、そのような科学的論点に立脚した心理学理論、特にパーソナリティ理論を学習する。また、医療福祉領域にとって重要な発達心理学的理論から乳幼児期から老年期にいたるまでのそれぞれの発達段階に特有の心理的特長や発達課題について理解する。そうした人間理解の基礎知識を医療福祉関係の領域における応用・適用し、心理的援助技法の概要をも学ぶ。

【授業計画】

目 標

1. 心理学の概要を理解する。
2. 乳幼児期・児童期・青年期・老人期等人間の発達段階のそれぞれの時期に特有な身体的、心理的特徴について理解する。
3. 心理学理論による人間理解とその技法について理解する。
4. 心理的援助技法の概要について理解する。

内 容

1. 人間の心理学的理解
 - 1) 欲求・動機づけと行動
 - 2) 感情・情動
 - 3) 感覚・知覚・認知
 - 4) 学習・記憶・思考
 - 5) 知能・創造性
 - 6) 人格
 - 7) 適応と適応異常
2. 人間の成長・発達と心理
3. 人間理解のための心理学理論と技法
 - 1) 基礎理論
 - 1) 精神分析
 - 2) 行動分析
 - 2) 測定と診断
 - 1) 発達
 - 2) 知能
 - 3) 性格
4. 心理的援助技法の概要
 - 1) 心理療法（個別面接法・集団面接法）
 - 2) 家族心理療法
 - 3) 行動療法

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

新版 社会福祉士養成講座10 心理学（中央法規）

社会学

吉田啓子

1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

現代社会における経済の変化・情報化社会の進行と国民生活との関わりについて理解する。特に家族の多様化が進み、都市化等による地域社会の変化が著しい現代社会の特徴を学習する。さらにそのような現代社会から生み出される社会問題に対応する社会福祉士の役割を学ぶ。

【授業計画】

目 標

- 1 現代社会の特質について理解する。
- 2 現代社会における家族や地域社会の特徴について理解する。
- 3 現代社会における社会問題について理解する。

内 容

- 1 経済社会の変化と国民の生活及び意識の変化
- 2 現代社会と科学技術
 - 1) 科学技術の展開
 - 2) 現代社会と科学技術
 - 3) 情報化社会と国民生活
- 3 現代社会と専門職
- 4 現代社会における家族
 - 1) 構造及び形態
 - 2) 機能
 - 3) 変化
 - 4) 家族と地域社会
- 5 現代社会における地域社会
 - 1) 都市化と地域社会
 - 2) 過疎化と地域社会
 - 3) 地域社会の社会集団・組織
- 6 現代社会における社会問題

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

新版 社会福祉士養成講座11 社会学（中央法規）

【授業の概要】

「法」のよしあし、その作り方、運用の仕方の良否で、人の生活は幸福にも不幸にもなる。法の目的と国家の責務はまず何よりも基本的人権を尊重し、かつそれを保障することにある。法学は、このような法の精神を明らかにしようとするものである。人間の尊厳性や基本的人権を軸にして法の基礎理論、憲法、民法、行政法の基礎について理解を深める。

【授業計画】

目 標

- 1 社会生活における法の作用や役割について理解する。
- 2 憲法、民法及び行政法の基礎を理解する。
- 3 基本的人権、権利擁護、成年後見制度などを理解する。

内 容

- 1 社会生活と法
- 2 憲法
 - 1) 基本原理
 - 2) 基本的人権
 - 3) 地方自治
- 3 民法
 - 1) 総則
 - 2) 契約
 - 3) 不法行為
 - 4) 親族
 - 5) 相続
- 4 行政法
 - 1) 行政行為
 - 2) 行政不服審査
 - 3) 行政訴訟
 - 4) 情報公開
 - 5) 地方行政組織

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

新版 社会福祉士養成講座12 法学（中央法規）

医療貢献基礎演習

井脇貴子 加藤正子 西村辨作 宮田 Susanne 吉田 敬

(言語聴覚学専攻)

1年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

専任教員が担当するゼミナールで、言語聴覚障害学、言語聴覚学の基礎的諸概念を学習するとともに、文献、資料の検索法やレポートの作成法など、大学における学習の基礎的技能を習得する。

【授業計画】

講義と演習形式を併用して行う。

- 第1回 言語聴覚士を目指して（役割、国家試験、履修科目、臨床実習など）
- 第2回 大学での学び方（講義と演習の違い、ノートのとり方など）
- 第3回 レポートの書き方（観察、資料の集め方、レポートの作成など）
- 第4回 文献検索法1（Webを利用した資料検索法）
- 第5回 文献検索法2（付属図書館での検索実習）
- 第6回 医療福祉領域で働く専門職の人間の資質について
- 第7回 EBMとNBM（Evidence Based MedicineとNarrative Based Medicine）
- 第8回 言語聴覚士法と倫理規定
- 第9回 テーマ研究演習1
- 第10回 テーマ研究演習2
- 第11回 テーマ研究演習3
- 第12回 テーマ研究演習4
- 第13回 テーマ研究演習5
- 第14回 まとめ1
- 第15回 まとめ2

【評価方法】

出席状況、授業への取り組み、文献研究レポートを総合的に評価する。

【テキスト】

医療福祉学基礎演習テキスト

【参考文献・資料】

言語聴覚士国家試験出題基準（医療研修推進財団 医歯薬出版）

医療貢献基礎演習

川嶋英嗣 川瀬芳克 高橋啓介 高橋伸子 田邊宗子 平井淑江

(視覚科学専攻)

1年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

専任教員が担当するゼミナールで、視能障害学、視覚科学の基礎的諸概念を学習するとともに、文献、資料の検索法やレポートの作成法など、大学における学習の基礎的技能を習得する。

【授業計画】

講義と演習形式を併用して行う。

- 第1回 視覚科学の専攻の特色や目的について説明する。
視能訓練士の国家資格を目指すと共に視覚の基礎研究や視覚障害の研究も重視して有用な人材を育成する。
- 第2回 大学での学び方
- 第3回 レポートの書き方
- 第4回 文献検索法1（Webを利用した資料検索法）
- 第5回 文献検索法2（付属図書館での検索実習）
- 第6回 視能訓練士法と倫理規定
- 第7回 実験と統計処理の基礎
- 第8回 テーマ研究演習1
- 第9回 テーマ研究演習2
- 第10回 テーマ研究演習3
- 第11回 テーマ研究演習4
- 第12回 テーマ研究演習5
- 第13回 テーマ研究演習6
- 第14回 まとめ1
- 第15回 まとめ2

【評価方法】

出席状況、授業への取り組み、レポートを総合的に評価する。

【テキスト】

医療福祉学部基礎演習テキスト

【参考文献・資料】

授業中に随時指示する。

リハビリテーション概論

原田良寛

1年 後期 必修(視覚) 選択(言語) 2単位

【授業の概要】

リハビリテーションとは何か、その言葉の由来、定義、沿革、病気と障害の相違・関係、障害の統計、障害の階層的分類、対策、ノーマライゼーション、インフォームドコンセント、障害者の自己決定権、障害の告知等の学習を通して、リハビリテーションが障害者の全人格的復権を目的とする行為であることを理解する。

【授業計画】

講義方式による。授業中、適宜にプリントを配布する。

- 第1回 「リハビリテーション」とは何か。言葉と定義
- 第2回 「障害者」とは何か。言葉と定義
- 第3回 障害者の歴史と障害者観
- 第4回 調査にみる障害者の実態
- 第5回 障害の告知・受容・リハビリテーション
- 第6回 視覚に障害を持つ人のリハビリテーション
- 第7回 言語障害を伴う人のリハビリテーション
- 第8回 視覚に障害を持つ人の福祉
- 第9回 言語障害を伴う人の福祉
- 第10回 支援費制度と障害者の生活支援
- 第11回 相談援助
- 第12回 リハビリテーションの事例から考える(1)
- 第13回 リハビリテーションの事例から考える(2)
- 第14回 「リハビリテーション」とは、まとめ
- 第15回 期末試験

【評価方法】

おもに期末試験(筆記)により評価する。(毎回出欠席を調査する。欠席回数が多い場合は受験資格を失う。)期中にレポートを提出させた場合は、これを成績評価に反映させる。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

視覚障害リハビリテーション概論(坂本洋一 中央法規出版)
社会生活力プログラム・マニュアル(赤塚光子 中央法規出版)

実験計測演習

川嶋英嗣 高橋啓介 高橋伸子 棚橋昌子

1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

心理物理学研究における刺激や関連の物理量の正確な計測に必要な基礎的事項について理解し、物理計測器や光計測器を、その機能、特性の理解に基づいて正しく活用する技能を学習する。

- (川嶋英嗣講師) 照度の測定
- (高橋啓介教授) 色の測定
- (高橋伸子助教授) 輝度の測定
- (棚橋昌子教授) 音の測定

【授業計画】

受講生を4つのグループに分け、それぞれについて以下のスケジュールで演習を行う。

- 第1回 オリエンテーション(全グループ合同)
- 第2回 測定の基礎(全グループ合同)
- 第3回～第5回
 - Aグループ: 輝度の測定・Bグループ: 照度の測定
 - Cグループ: 色の測定・Dグループ: 音の測定
- 第6回～第8回
 - Aグループ: 音の測定・Bグループ: 輝度の測定
 - Cグループ: 照度の測定・Dグループ: 色の測定
- 第9回～第11回
 - Aグループ: 色の測定・Bグループ: 音の測定
 - Cグループ: 輝度の測定・Dグループ: 照度の測定
- 第12回～第14回
 - Aグループ: 照度の測定・Bグループ: 色の測定
 - Cグループ: 音の測定・Dグループ: 輝度の測定
- 第15回 まとめ

【評価方法】

出席(15点)、演習態度(25点)、レポート(15点×4回)の合計100点満点で、60点以上を合格とする。

【テキスト】

特に定めない。

【参考文献・資料】

必要に応じて、適宜演習中に指示する。

心理実験法演習Ⅰ

川嶋英嗣 高橋啓介 高橋伸子 宮田 Susanne

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

人間の感覚・知覚について、特に視覚、聴覚、触覚の各モダリティに重点を置き、精神物理学的測定法の諸技法を習得する。

【授業計画】

学生は4つのグループに分かれ、各教員の担当する課題をローテイトすることで、すべての課題について学習する。

1 教員は各グループについて、2時限連続の演習を3回担当する。

第1回 オリエンテーション（全学生）

第2回～第13回（グループ別演習）以下の全課題を演習で扱う。

- ・ ミューラー・リヤー錯視：調整法
- ・ 明るさの測定：マグニチュード推定法
- ・ 聴覚閾：信号検出理論
- ・ レミニセンス効果の測定：実験スケジュールの調整
- ・ 対連合学習と系列暗記学習：経験破壊法
- ・ 鏡像描写：知覚・運動協応と両側性転移
- ・ 伝言ゲーム：コミュニケーションによる情報の変容
- ・ 触二点閾：極限法
- ・ 自然会話の観察と記録：行動観察法

第14回・第15回（グループ別演習）

まとめ

【評価方法】

出席（15点満点）、授業態度（13点満点）、各課題のレポート（8点×9＝72点満点）とし、60点以上取得で合格とする。

ただし、2時限で1コマとカウントし、遅刻は認めない。また、3回以上の欠席がある場合は、上記に関わらず不合格とする。

【テキスト】

特に指定しない。必要に応じて、資料を配布する。

【参考文献・資料】

- 心理学のための実験マニュアル入門から基礎・発展へ（利島保（編）北大路書房 1993年）
心理学マニュアル観察法（中沢潤（編）北大路書房 1997年）

心理実験法演習Ⅱ

川嶋英嗣 高橋啓介 高橋伸子 永田忠夫

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

人間の視覚、聴覚、触覚の各モダリティの認知的特性や機能について、実験的に測定、追究する諸技法を習得する。

【授業計画】

学生は4つのグループに分かれ、各教員の担当する課題をローテイトすることで、すべての課題について学習する。

1 教員は各グループについて、2時限連続の演習を3回担当する。

第1回 オリエンテーション（全学生）

第2回～第13回（グループ別演習）以下の全課題を演習で扱う。

- ・ 実体鏡視：マグニチュード推定法
- ・ 味覚の測定：マグニチュード推定法
- ・ 大きさの恒常性：極限法
- ・ 色視野の測定：調整法
- ・ ストループ効果：信号検出理論
- ・ 周波数と音圧の関係：恒常法
- ・ リッカート法：尺度構成法
- ・ SD法：尺度構成法

第14回・第15回（グループ別演習）

まとめ

【評価方法】

出席（15点満点）、授業態度（13点満点）、各課題のレポート（8点×9＝72点満点）とし、60点以上取得で合格とする。

ただし、2時限で1コマとカウントし、遅刻は認めない。また、3回以上の欠席がある場合は、上記に関わらず不合格とする。

【テキスト】

特に指定しない。必要に応じて、資料を配布する。

【参考文献・資料】

- 心理学のための実験マニュアル入門から基礎・発展へ（利島保（編）北大路書房 1993年）
心理学マニュアル質問紙法（鎌原雅彦（編）北大路書房 1998年）

【授業の概要】

情報処理モデルの出現と認知心理学成立の経緯について学び、次に情報処理的アプローチによる人間の視覚認知や聴覚認知、注意、記憶、知識と表象、言語の研究からいくつかの基本的な事項や代表的なモデルを取り上げて学習する。

【授業計画】

目標

1. 人間の情報処理装置としての特性を理解するための基礎的な知識を習得する。
2. 心理学的実験研究の事例をとおして人間の認知に関する科学的研究方法の概要を理解する。

内容

1. 認知心理学の概念（歴史、研究対象、情報処理）
2. 視覚と聴覚の基礎知識
3. 情報の受容
4. パタン認識
5. 記憶（短期記憶）
6. 記憶（記銘）
7. 記憶（検索と忘却）
8. 注意
9. 範疇
10. 知識
11. イメージ
12. 思考

【評価方法】

おもに試験の成績による。
レポートを提出させた場合は、これを成績評価に反映させる。

【テキスト】

特定の教科書は使用せず、必要に応じて資料を配布する。

【参考文献・資料】

参考図書、推薦図書などは授業中に随時紹介する。

【授業の概要】

色彩という心理現象に関する諸現象についてその光学的、及び生理学的背景をもとに理解を深め、色覚の心理メカニズムについて学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 色彩とは
- 第2回 色彩の光学的基礎
- 第3回 スペクトルの観察
- 第4回 照明光源
- 第5回 混色とメタメリズム
- 第6回 色彩の生理学的基礎1：眼球
- 第7回 色彩の生理学的基礎2：網膜から中枢神経系へ
- 第8回 色覚モデル
- 第9回 均等色空間
- 第10回 色彩の心理的現象1：錯視
- 第11回 色彩の心理的現象2：同化と対比
- 第12回 色彩の心理的現象3：主観色
- 第13回 色彩の心理的現象4：順応と恒常性
- 第14回 色彩の心理的現象5：連想とイメージ
- 第15回 期末試験

なるべく多くの実験を供するよう、実習を交えながら講義形式で行う。

【評価方法】

授業中における提出課題、および期末試験を実施する予定

【テキスト】

カラーコーディネーターのための色彩心理入門
(近江源太郎著 日本色研事業株式会社)

【参考文献・資料】

必要に応じ、講義中に指示する。

【授業の概要】

音声情報処理の生理機構、可聴範囲、音の心理物理学、マスキング現象、両耳聴の効果と音源定位、生活環境と聴覚との関係などについて学習する。

【授業計画】

目 標

音と聴覚の関係について知る。

内 容

1. 可聴範囲
2. 音の高さ
3. ラウドネス
4. 音の弁別能力
5. 音色
6. マスキング
7. 臨界帯域
8. 両耳による音知覚
9. 時間的要因

【評価方法】

出席状況、レポート、テスト等を勘案し、総合的に評価する。

【テキスト】

音の世界の心理学（重野純著 ナカニシヤ出版）

【授業の概要】

受精、誕生、成熟、老化、死のすべての過程において人の心身がいかに変化していくかについて理解する。胎児期から老年期までの各発達段階における心理的特徴を理解し、その過程を説明するさまざまな発達理論について学習する。

【授業計画】

目 標

1. 言語聴覚士国家試験、視能訓練士国家試験における発達心理学分野の概略的知識内容（発達理論と発達段階およびその心理的特徴）が理解できる。
2. 特に視覚認知機能の発達について、より専門的に理解し、実践応用できる。

内 容

1. 生涯発達とは何か
 - 1) 定義と背景理論
 - 2) 基本概念と専門用語解説
 - 3) 生涯発達心理学における発達段階
2. 視覚的認識の発達
 - 1) 発現機構
 - 2) 色覚、形態知覚、運動視
 - 3) 「見えないモノを見ること」について
 - 4) 機能衰退のプロセス
3. 視覚的表現の発達
 - 1) 描画の発達
 - 2) 身体的表現の意志疎通過程（コミュニケーション）

【評価方法】

この授業のためのテキストノートを作成し、提出（返却はありませんので、必ずコピーは取って保存してください。）していただきます。A4横書き縦置き左右開きの紐綴じ。手書き、ワープロ、カラー、白黒どちらも可、図表や参考書などの引用は必ず引用文献、出典を明記すること。付録（CDなど）をつけても可。評価基準は以上の条件を遵守した上で、以下の通り。

- D（不可）：一部テキストとして使えない。仮想されるテストに持ち込んでも役に立たない。
- C（可）：授業でどのようなことが教授されたかがわかり、少なくとも重要な項目はすべて明記されている。
- B（良）：Cの評価基準に加えて、授業内容を理解するのに役立つ解説や説明、ポイントの指摘、補足項目もある。
- A（優）：Bの評価基準に加えて、図解や表が多く、きれいで見やすいばかりか、参考関連の内容について授業以上の内容（関連する内容で受講者の関心事）がこのテキストで自主的に学べる。高齢の学習者にも配慮された印字。

【テキスト】

自分で作成していただきます。

【参考文献・資料】

現在未定ですが、随時紹介します。

【授業の概要】

人格理論、発達各期における心理臨床的問題や意識障害、適応障害などについて学び、さらにそれらに対する心理療法やカウンセリングの構造や特性について学ぶ。

【授業計画】

目標

1. 臨床心理学について学び、現代社会に生じる心理臨床的問題、意識障害、適応障害について、そのメカニズムを含め考察する。
2. 人格理論にもとづいた実践である心理療法を学び心理的援助の理解を深める。

内容

1. 「臨床心理士」について（自己紹介）
2. 心理臨床的問題について
 - ・発達段階において考える
乳幼児期、児童期・思春期、青年期、中年期、老年期
 - ・精神障害
3. 人格理論と心理療法
 - ・クライエント中心療法
 - ・精神分析療法
 - ・行動療法
4. アセスメント
5. 他職種との連携

【評価方法】

期末試験によるが、授業への参加関与度を考慮する。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

【授業の概要】

ヒトの環境適応を支える基礎的過程である「学習」の特性、メカニズム、機能について学ぶ。

【授業計画】

- | | |
|--------|-----------------------|
| 第1回 | 学習の生物学的基盤 |
| 第2～3回 | 動物の行動獲得に関する基礎的知見 |
| 第4回 | バヴロフ型条件づけとその形成 |
| 第5回 | バヴロフ型条件づけにおける般化・分化と消去 |
| 第6回 | 試行錯誤学習とオペラント条件づけ |
| 第7回 | オペラント条件づけの種類と強化スケジュール |
| 第8回 | 観察学習とモデリング |
| 第9～10回 | 学習理論の応用 |
| 第11回 | 技能学習 |
| 第12回 | 概念学習 |
| 第13回 | 問題解決 |
| 第14回 | まとめ |
| 第15回 | 予備日・試験日 |

【評価方法】

開講期間中数回の小テストを実施し評価する。進度等によって期末試験を課す。

【テキスト】

特定のテキストは使用しない。必要な資料は授業ごとに配布する。

【参考文献・資料】

- Learning and behavior 4th ed.* 1999 (Chance, P. Brooks/Cole Publishing Company)
 現代学習心理学 1983 (岩本隆茂・高橋憲男 川島書店)
 実験心理学 1984 (大山正 (編) 東京大学出版会)
Psychology of learning and behavior 4th ed. 1995 (Schwartz, B. & Robbins, S. J. W.W.Norton & Company)
 グラフィック学習心理学 2001 (山内光哉・春木豊 (編著) サイエンス社)

【授業の概要】

精神遅滞、自閉症、脳性まひ、学習障害等の発達障害について学習し、それらの障害の発生原因、機序、医学的治療、教育的対応、福祉の支援について理解する。

【授業計画】

- 第1回 発達障害とは
概念 原因
- 第2回 精神発達障害(1)
知的障害
- 第3回 精神発達障害(2)
コミュニケーション障害 学習障害
- 第4回 精神発達障害(3)
注意欠陥障害
- 第5回 精神発達障害(4)
広汎性発達障害
- 第6回 運動発達障害(1)
脳性麻痺
- 第7回 運動発達障害(2)
神経筋疾患
- 第8回 重症心身障害児
- 第9回 発達障害児の医療的ケア(1)
てんかん
- 第10回 発達障害児の医療的ケア(2)
呼吸障害 摂食障害
- 第11回 発達障害児の医療的ケア(3)
栄養障害 消化器疾患 睡眠障害
- 第12回 発達障害児の療育
- 第13回 発達障害児の教育
- 第14回 まとめ
- 第15回 試験

【評価方法】

主に筆記試験による

【テキスト】

発達障害児の医療・療育・教育
(松本昭子・土橋圭子編 金芳堂 ISBNコード: 4-7653-1063-9)

【授業の概要】

言語を生物としてのヒトとの関係でとらえ、言語の単位と構造について理解する。語彙、形態論、統語論、意味論、音韻論、語用論について、基礎的理解を形成し、個別言語として日本語の構造と特徴について学ぶ。さらに、言語と社会、文化との関係についても学習する。

【授業計画】

- 目標
- 1 言語学の概要を理解する。
 - 2 音韻論の基礎を理解し、日本語の音の構造を学習する。
 - 3 形態論の基礎を理解し、日本語の語形成について学習し、さらに日本語の動詞の構造について学ぶ。
 - 4 統語論の基礎を理解し、日本語の文の構造を学習する。また、日本語の統語的特徴を英語と比較しながら学ぶ。
 - 5 意味論の基礎を理解し、日本語の語、句、文の意味について学習する。
 - 6 語用語の基礎を理解する。

内容

- 1 言語と言語学
- 2 音韻論
 - 1) 音素
 - 2) 異音とそのメカニズム
 - 3) 日本語の音韻的特徴
- 3 形態論
 - 1) 形態素
 - 2) 異形態
 - 3) 語形成
 - 4) 日本語の動詞の活用について
- 4 統語論
 - 1) 句構造
 - 2) 句構造規則
 - 3) 日本語の統語的特徴
- 5 意味論
 - 1) 成分分析
 - 2) 意味関係
 - 3) 類義語、多義語、同音異義語
 - 4) 句の意味、文の意味
- 6 語用語

【評価方法】

出席状況、課題、期末試験の成績を総合的に評価する。

【テキスト】

よくわかる言語学入門(町田健、初山洋介 著 バベル・プレス)

【授業の概要】

人間の言語行動の特徴を、心理学の観点から分析した重要な研究を学び、言語操作能力とコミュニケーション能力の特質について理解する。

【授業計画】

講義方式による。授業中、資料をプリントとして配り、理解を深めるための課題を与える。

- | | |
|----------|--------------------------------|
| 第1回 | 人間の言語能力と環境；無数の言語がある理由 |
| 第2回 | 言語の差、コミュニケーションスタイルの差 |
| 第3回 | コミュニケーション・ツールとして見た言語 |
| 第4回 | 言語における創造性 |
| 第5回 | 言語能力対言語運用 |
| 第6回 | 言語の価値：「言語経済学」 |
| 第7回－8回 | 言語の普遍性；パラメータの概念 |
| 第9回 | 臨界期；ピジン・クレオール |
| 第10回－11回 | 機能主義とコネクショニズム |
| 第12回 | 言語使用における差はどのように調査できるか |
| 第13回 | 言語データベースの紹介；コンピュータによる解析：可能性と限界 |
| 第14回 | まとめ1 |
| 第15回 | まとめ2 |

【評価方法】

毎回提出する課題用紙および自由コメント用紙を元に評価。期中に宿題を提出させた場合はこれを評価に含む。欠席回数が多い場合、また課題提出やコメント提出回数が少ない場合は受講資格を失う。

【テキスト】

使用しない。

【授業の概要】

言語発達を各発達段階における知能、認知、社会性、情緒、運動の各能力との関係においてとらえ、各発達段階における言語発達の内容を、音韻、構文、意味、語用などの言語学的視点から理解する。

【授業計画】

講義方式による。授業中、資料をプリントとして配り、理解を深めるための課題を与える。

- | | |
|----------|----------------------------|
| 第1回 | 初期の親子関係；子どもはなぜしゃべり出すか |
| 第2回 | 言語の特殊性：チンパンジーはなぜしゃべり出さないのか |
| 第3回 | 言語獲得の流れ：初めての発声から言語的音声へ |
| 第4回 | 言語獲得の流れ：英語の日本語の初期語彙 |
| 第5回 | 言語獲得の流れ：英語の日本語の初期文法 |
| 第6回 | 言語獲得の流れ：英語の日本語の初期会話 |
| 第7回 | マザリーズ：幼児に対する大人の言語行動 |
| 第8回－9回 | 主な言語獲得モデルの紹介 |
| 第10回 | 言語獲得データベースの紹介 |
| 第11回－12回 | 日本語の言語発達に関する最新研究の紹介 |
| 第13回 | 日本語獲得をどのように測定するか。主な測定法の紹介 |
| 第14回－15回 | まとめ |

【評価方法】

毎回提出する課題用紙および自由コメント用紙を元に評価。期中に宿題を提出させた場合はこれを評価に含む。欠席回数が多い場合、また課題提出やコメント提出回数が少ない場合は受講資格を失う。

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

子どもたちの言語獲得（小林晴美・佐々木正人編 大修館書店）

【授業の概要】

音の物理的特性、音響管の周波数特性、音声産出のメカニズム、言語音の生成と知覚、超分節的要素の音響的特徴について学習する。

【授業計画】

目標

- 1 音声を音響信号として捉えるのに必要な音響学の基本的な考え方を理解する。
- 2 音声の生成や知覚に音響信号がどう関わりをもつか、具体的な音声分析を通して理解する。
- 3 学習した音響理論の知見が人間のコミュニケーションの再現性にどう応用されるか、音声合成や音声認識などの方法論を通して理解を深める。

内容

- 1 音声音響学の研究
 - 1) 音の物理的特性
 - 2) 音声生成の音響理論
 - 3) 信号処理と音響分析 (特にサウンドスペクトログラムを中心として)
- 2 音声の音響特性
 - 1) 現代日本語の母音・子音の音響特性
 - 2) リズム、イントネーションなどのプロソディの音響特性
 - 3) 音響構造変動の諸要因 (方言、年齢、男女差、個人差、文脈など)
- 3 音響学の応用的側面
 - 1) 音声合成の方法
 - 2) 音声認識の方法

【評価方法】

こちらで用意したテーマの中から一つ選んでレポートを書いていただきます。

詳細は授業の中で説明します。

【テキスト】

テキストは特別に指定しません。こちらで準備した資料を配布します。

【参考文献・資料】

音入門ー聴覚・音声科学のための音響学
チャールズ・E. スピークス (著)、荒井 隆行、菅原 勉 (監訳)

音声の音響分析
レイ・D. ケント、チャールズ リード (著)、荒井 隆行、菅原 勉 (監訳)

音声知覚の基礎
ジャック ライアルズ (著)、今富 榎子、菅原 勉、荒井 隆行 (監訳)

音声・聴覚のための信号とシステム
スチュアート ローゼン、ピーター ハウエル (著)、荒井 隆行、菅原 勉 (監訳)

以上の4冊すべて出版社は、海文堂です。

【授業の概要】

レンズ、プリズムの特性の理解および眼球光学系の理解を通して、物理現象としての光学について学習する。

(平野耕治兼任講師) 屈折検査として、検影法の原理、オートレフラクメータ、ケラトメータや角膜形状解析装置の機序を学び、眼鏡、コンタクトレンズ、眼内レンズの役割について学習する。

(鬘柳一夫兼任講師) レンズ、プリズムの理解を深め、眼球光学系の特徴、生理機能、屈折異常等について理解し、調節、輻輳の機能について学ぶ。

【授業計画】

講義方式による。適宜プリントを配布する。また、デジタルプレゼンテーションにより視覚的に内容が理解できるよう努める。

(鬘柳一夫)

- 第1回 生理光学の歴史的展望
- 第2回 角膜およびレンズの役割と調節力
- 第3回 光学収差とプリズム視の視覚順応
- 第4回 網膜像の成立と両眼対応点の幾何学
- 第5回 両眼立体視と視野闘争

(平野耕治)

- 第6回 眼球の構造と屈折に関わる組織
- 第7回 近視・遠視・乱視・老視
- 第8回 屈折検査の原理と実際
- 第9回 角膜形状解析
- 第10回 屈折矯正方法 (眼鏡、コンタクトレンズ)
- 第11回 白内障手術と屈折矯正
- 第12回 角膜屈折矯正手術
- 第13回 まとめ1
- 第14回 まとめ2
- 第15回 期末試験

【評価方法】

講義への出席状況およびレポート、期末試験にて総合的に評価する。

【テキスト】

とくに指定しない。

【参考文献・資料】

講義中に適宜紹介する。

生理光学演習

川瀬芳克 田邊宗子 鬢櫛一夫

1年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

身近な現象の中の光学に関するものについて、その意味を理解し、光の様々な性質を演習を通して理解する。また組み合わせレンズを用いて、眼光学系のシミュレーションを行い、網膜像や調節機能について学習するとともに、屈折異常およびその矯正レンズの役割について理解を深める。さらに、眼鏡レンズやプリズムレンズの種類と適応、日常時の調節と負荷調節の相違、加齢による調節の変化と適切な眼鏡の条件、ハードコンタクトレンズ、ソフトコンタクトレンズ、眼内レンズについて演習によって学習する。

【授業計画】

- 第1回 光の性質、屈折・反射の法則
- 第2回 レンズの種類と結像、自動屈折計による屈折測定の実習
- 第3回 自動屈折計による屈折矯正の実習
- 第4回 レンズ交換法の原理と実習
- 第5回 検影法による屈折値表示と矯正レンズおよびレンズメーターの実験
- 第6回 コンタクトレンズ1 コンタクトレンズの歴史 オフサルメーターの実習
- 第7回 コンタクトレンズ2 ハードコンタクトレンズのフィッティング
- 第8回 コンタクトレンズ3 ハードコンタクトレンズのフィッティングと矯正
- 第9回 調節検査 近点計検査 石原式近点計を用いて
- 第10回 視野の検査
- 第11回 眼球運動の検査
- 第12回 両眼立体視の検査
- 第13回 日常両眼視の検査
- 第14回 まとめ
- 第15回 期末試験

【評価方法】

主に期末試験（筆記）により評価する。ただし、演習を伴うので出欠席も重視する。期間中にレポートを提出させた場合は、これを成績評価に反映させる。

【テキスト】

適宜プリントを配布する。

【参考文献・資料】

視能矯正学（丸尾敏夫・粟屋忍）
眼科検査メモ（澤田惇・千原悦夫・吉田晃敏）

視覚生理学

大庭紀雄 川瀬芳克

オムニバス 1年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

視機能が成立する生理学的メカニズムについて学習する。

（大庭紀雄教授）視機能が成立するためにどのようなメカニズムが働いているのか、視覚入力統合において視器の各部分の活動で、光学的画像が神経信号に変換されて認識されてゆく機構を学ぶ。また、眼球はどのようにして動くのか、どのようにコントロールされて両眼が共同してスムーズに動くのか、眼球運動のメカニズムについても学習する。

（川瀬芳克教授）自覚的視機能検査である、光覚、色覚、形態覚、視野について、その検査法の適用と限界について学び、他覚的視機能検査である電気生理検査、視覚誘発電位（VEP、VECP）、網膜電図（ERG）、眼球電位図（EOG）、視運動性眼振（OKN）、Sclera Search Coil、光電素子法（p-EOG）、筋電図（EMG）について学ぶ。

【授業計画】

（大庭紀雄教授）

講義方式による。プリントの配布、模型や機器の供覧、理解度把握のためのミニテストを行う。

- 第1回 視覚系総論：視覚系の構造機能特性、視覚刺激（インプット）と視覚応答（アウトプット）
 - 第2回 眼光学：結像光学特性、屈折・調節・瞳孔
 - 第3回 生理光学：視力（空間周波数・時間周波数特性）・光覚・暗順応・色覚・視野
 - 第4回 網膜・視路：構造と神経生理機構
 - 第5回 眼球運動、両眼視：眼球運動の成立・制御、眼位・両眼視機能の成立・制御
 - 第6回 眼の植物生理：視覚維持に必要な透明性維持・循環・代謝・眼圧、自律神経
- （川瀬芳克教授）
- 第7回 調節と屈折
屈折の基本とその矯正
 - 第8回 視力
視力との関係をもとにした各種の視力値の特性
 - 第9回 対数視力とその意義
対数視力の概念と計算およびグラフ表示の実際
 - 第10回 logMAR視力とその意義
logMAR視力の概念と計算およびグラフ表示の実際
 - 第11回 視野の概念と検査法
量的視野の概念および動的視野検査法および静的視野検査法
 - 第12回 光覚とその検査法
正常な暗順応過程および検査法
 - 第13回 電気生理検査法
ERG、VEP、EOGの概念
 - 第14回 色覚の学説と色覚異常
三原色説と反対色説。先天性色覚異常の分類と特性
 - 第15回 期末試験

【評価方法】

1. 授業の最初にプレテストを行って、学生がどの程度の知識をもっているかを測定する。
 2. 授業の中間にミニテストを適宜おこなって、学生の理解度を測定する。
- 以上は形成的な評価として教員と学生との相互利便をはかる目的で行うもので評価の参考資料とする。単位認定に際しては、おもに期末試験（筆記試験）により評価する。レポートを提出させた場合はこれも評価に反映させる。

【テキスト】

視能矯正学（丸尾敏夫他編 金原出版）

【参考文献・資料】

視覚の心理学（鳥居修晃著 サイエンス社）
脳と視覚（グレゴリーの視覚心理学）
（リチャード・レ・グレゴリー著 プレイン出版）
動物は世界をどう見るか（鈴木光太郎著 新曜社）

視覚生理学演習

古賀一男 高橋伸子

1年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

視機能が成立するためにはどのようなメカニズムが働いているのか、視器官の各部位の活動で、光学的画像が視覚として認識されてゆく機構を演習形式で学習する。また、診療に使用される機器を実際に使用して、操作に習熟する。さらに、両眼の運動がコントロールされて共同してスムーズに動くメカニズムについても、演習を通してさらに理解を深める。また、「視覚生理学」で学んだ事項を学生同士で、検査者、被検査者となり、それぞれの検査法の実践について、実践的に学習し、理解を深める。

【授業計画】

目標

正確な計測を計画的におこなうことは科学の基礎であり、このことよって正しい理論の組み立てが可能となり、その結果正しい結論を導き出すことができる。本演習ではそのような考えに立脚して視機能の成り立ちと機能を計測する基礎的枠組みを確立させると共に、いくつかの視機能について正しい記録方法を実習を通して習得することを目的とする。

内容

1. 眼球の生理
2. 網膜感度分布の視野計による測定
3. 眼球運動の生理
4. 眼球運動の記録と測定
代表的測定法の留意点・問題点の解説と眼球運動の記録・測定実習
5. 較正 (calibration) と計測データの処理
6. 視機能検査の実際

【評価方法】

出席、期末試験

【テキスト】

眼球運動実験ミニハンドブック (古賀一男著 労働科学研究所出版部 1900円)

【参考文献・資料】

眼の事典 (岩田誠他編 朝倉書店 20000円)
視覚情報処理ハンドブック (日本視覚学会編 朝倉書店 28000円)
眼球運動の実験心理学 (苧坂良二他編 名古屋大学出版会 6500円)
知覚の可塑性と行動適応 (牧野達郎編 プレーン出版 6800円)
新編・感覚・知覚ハンドブック (大山正編 誠心書房)

病理学

今井昌雄

1年 後期 必修(言語) 選択(視覚) 2単位

【授業の概要】

病気の基本パターンを学び、病気の成り立ちと変化の一般的な特徴を理解する。

【授業計画】

講義形式による。

- 第1回 病理総論-1: 病理学とは、細胞・組織障害、再生と修復
- 第2回 病理総論-2: 循環障害、炎症
- 第3回 病理総論-3: 免疫とアレルギー、代謝異常
- 第4回 病理総論-4: 老化と老人病、新生児の病理、先天異常
- 第5回 病理総論-5: 腫瘍
- 第6回 病理各論-1: 循環器系、呼吸器系
- 第7回 病理各論-2: 歯・口腔系、消化器系
- 第8回 病理各論-3: 内分泌器系、造血器系
- 第9回 病理各論-4: 腎・尿路系、生殖器系
- 第10回 病理各論-5: 脳神経系
- 第11回 病理各論-6: 運動器系
- 第12回 病理各論-7: 感覚器系
- 第13回 まとめ1
- 第14回 まとめ2
- 第15回 期末試験

【評価方法】

出席状況、期末試験および期間中の小試験又はレポートにより総合的に評価する。

【テキスト】

カラーで学べる病理学 (渡辺照男編集、NOUVELLE HIROKAWA)

【参考文献・資料】

必要に応じて適宜配布、指導する。

【授業の概要】

系統解剖学的に体壁系と内臓系の2大系統について、それぞれの構成する器官系、器官、組織の形態・構造の特徴、局所的・機能的関連について発生的観点を加えつつ理解するとともに、生体の正常な機能を理解するために、神経や筋の働きを理解し、末梢・中枢シナプスにおける情報伝達、中枢神経系の反射および総合機能について学ぶ。

【授業計画】

講義形式による。

- 第1回 生命とは
- 第2回 生体の防御機構
- 第3回 循環器系
- 第4回 神経系
- 第5回 内分泌系
- 第6回 運動器系
- 第7回 呼吸器系
- 第8回 消化器系
- 第9回 腎・尿路系
- 第10回 生殖器系
- 第11回 予備
- 第12回 予備
- 第13回 まとめ1
- 第14回 まとめ2
- 第15回 期末試験

【評価方法】

出席状況、期末試験および期間中の小試験又はレポートにより総合的に評価する。

【テキスト】

コアテキスト1. 人体の構造と機能 (下正宗他編集、医学書院)

【参考文献・資料】

必要に応じて適宜配布、指導する。

【授業の概要】

脳波の生理学的基礎を理解し、さらに広く大脳皮質における高次機能の局在について学ぶ。また、疾病の診断として、MRI、CT、超音波などの画像診断検査とその適用について学ぶ。

【授業計画】

目 標

各種疾病がどのようにして診断されるかを理解する。

- 1 診断を確定するために必要な検査方法の種類を知る。
- 2 それぞれの疾病に最適な検査法やそれらの実施順序を理解する。
- 3 各種検査方法の評価や考慮すべき問題点を理解する。

内 容

- 1 脳波検査の実際を知る。
- 2 脳波の発生機構について理解する。
- 3 脳波の動態を生理学的な視点から把握する。
- 4 各疾病にそれぞれ特有な脳波所見とその発生機構を知る。
- 5 最近のエレクトロニクスの進展を活用した高度な診断法を概観する。
- 6 超音波検査、CT、MRI、PET、SPECT、シンチスキャンなどコンピュータを駆使した画像診断の原理と活用方法を理解する。

【評価方法】

期末試験(筆記)により評価する。(出欠席を調査する。欠席が多い場合は受験資格を失う。)

【テキスト】

脳波の旅への誘い (市川忠彦著 星和書店)

画像診断全科100疾患 (大井静雄編 エキスパートナース MOOK35 照林社 小学館)

【参考文献・資料】

授業時に紹介する

先天障害学

多田萬里子 野上 宏 山中 昴

オムニバス 1年 後期集中 選択 2単位

【授業の概要】

人類遺伝学の基礎を学び、染色体異常、突然変異遺伝子によって発症する遺伝性疾患を理解する。

(多田萬里子教授) ヒトの遺伝性疾患について遺伝のパターン、疾患の原因となっている遺伝子の同定と変異、遺伝子診断などについて学び、ヒトゲノム解読の医療への貢献について考察する。

(山中昴兼任講師) 染色体異常、遺伝子の異常によって起きる先天性代謝異常や奇形について理解し、主に頭部顔面の病変について学ぶ。また、遺伝性疾患のスクリーニングとカウンセリングについての理解を高める。

【授業計画】

講義形式による。

- 第1回 遺伝学研究の流れ、メンデルからゲノム医学へ
- 第2回 分子遺伝学 ゲノム・遺伝子・DNA
- 第3回 遺伝子の研究法
- 第4回 遺伝性疾患、遺伝のパターン、疾患の原因遺伝子
- 第5回 多因子病、生活習慣病と遺伝子
- 第6回 遺伝子診断と遺伝子治療
- 第7回 奇形学の基本的な理解
- 第8回 染色体異常
- 第9回 胎生環境と形態異常
- 第10回 骨格の先天異常(骨系統疾患)
- 第11回 奇形症候群について
- 第12回 奇形と遺伝カウンセリング
- 第13回 まとめ1
- 第14回 まとめ2
- 第15回 まとめ3

【評価方法】

おもに筆記試験により評価する。(毎回出席調査をし、欠席回数が多い場合は受験資格を失う。) 期間中にレポート提出させた場合は、これを成績評価に反映させる。

【テキスト】

授業時 資料を配布する

【参考文献・資料】

ヒトの遺伝学 (エドリン著 清水信義監訳 東京化学同人)
新先天奇形症候群アトラス (梶井正他編集 南江堂)

内科学

大野竜三

1年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

内科学の位置づけ、内科疾患の原因論とその学問的発展について理解し、臨床上重要な症候群について学ぶ。さらに各論として主要疾患を取り上げ、それらの病態、症状、治療および予後について学習する。

【授業計画】

目標

- 1) まず、体のしくみと機能を学ぶ。
- 2) 病気の多くは、遺伝子に異常がおきて発病することが判ってきたので、基礎として、遺伝子やDNAも勉強する。
- 3) 将来、医療福祉関係者として働く際に、知っておくべきよく見られる病気につき、イラストなどを使いながら、誰にも理解できるように判りやすく講義する。
- 4) 最後の2回は、もっと詳しく知りたい病気やトピックスになっている病気を学生が選び、自主的に勉強して互に発表しながら学習する。

内容

- 第1回 体のしくみ(マクロ)(臓器の種類と機能など)
- 第2回 体のしくみ(ミクロ)(細胞、遺伝子、DNAなど)
- 第3回 生きてゆくための体の機能(血液、血圧、ホルモン、免疫など)
- 第4回 よくみられる心臓の病気(高血圧、動脈硬化、狭心症、心筋梗塞など)
- 第5回 よくみられる呼吸器の病気(風邪、インフルエンザ、花粉症、喘息、肺炎など)
- 第6回 よくみられる胃腸の病気(胃痛、下痢、胃潰瘍、大腸炎、がんなど)
- 第7回 よく見られる肝臓の病気(黄疸、A型肝炎、B型肝炎、C型肝炎、肝臓がんなど)
- 第8回 よくみられる血液の病気(貧血、白血病、悪性リンパ腫など)
- 第9回 糖尿病(症状、診断、治療など)
- 第10回 がん(発生のメカニズム、診断、治療など)
- 第11回 感染症(細菌、真菌、ウイルス、MRSA、SARS、エイズなど)
- 第12回 生活習慣病(種類、予防法など)
- 第13回 もっと詳しく知りたい病気Ⅰ(学生からのリクエストにより選ぶ)
- 第14回 もっと詳しく知りたい病気Ⅱ(学生からのリクエストにより選ぶ)
- 第15回 期末試験

【評価方法】

出席状況、授業への参画姿勢、多肢選択筆記試験の成績を総合して評価する。

【授業の概要】

正常小児の成長発達、小児の栄養について学び、小児と社会の関わりについて理解する。小児の視聴器の形態的および機能的発達について理解し、眼科疾患・言語聴覚疾患の特徴、治療法の簡単なアウトラインを学び、小児眼科検査法についても理解を深める。さらに、重度視力障害児、重度聴覚障害児のリハビリテーションについても学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 小児の成長と発達
- 第2回 小児の栄養
- 第3回 小児の生活と保健
- 第4回 出生前小児科学
- 第5回 新生児疾患
- 第6回 代謝・内分泌・栄養性疾患
- 第7回 消火器・循環器疾患
- 第8回 感染症・呼吸器疾患
- 第9回 血液疾患・腫瘍
- 第10回 アレルギー疾患・膠原病
- 第11回 神経疾患・筋疾患・心身症
- 第12回 泌尿器疾患・寄生虫疾患・事故
- 第13回 看護と救急処置
- 第14回 まとめ
- 第15回 試験

【評価方法】

主に筆記試験による

【テキスト】

最新育児小児病学、改訂第4版、南江堂（ISBN 4-524-21682-0）

【授業の概要】

創傷治癒と移植手術、口唇・口蓋裂、頭蓋・顔面の異常、外相、頭頸部外科手術に伴う変形、機能障害などについて学ぶ。

【授業計画】

目標

- 1 形成外科の概念とその治療対象疾患および形成外科学的アプローチについて理解する。
- 2 口唇口蓋裂の病因、発生、遺伝、病理、治療法につき理解する。
- 3 口唇口蓋裂以外で言語障害を来しうる疾患（頭頸部腫瘍を中心に）を学ぶとともにその形成外科的治療法につき理解する。

内容

- 1 形成外科総論
 - 1) 形成外科とは
 - 2) 形成外科の治療対象、形成外科的治療法
 - 3) 創傷治癒と組織移植
- 2 口唇口蓋裂
 - 1) 概念、発生、病理
 - 2) 形成外科的治療
 - 3) チーム医療
- 3 頭頸部、その他の疾患

【評価方法】

筆記試験またはレポート

【テキスト】

指定無し

【授業の概要】

視覚・聴覚、言語の了解や発語、身体運動・感覚などの脳・神経機能の基礎を学び、脳・神経系の主要症候、疾患について、病状、発現機序、病因、検査法および治療について学ぶ。

【授業計画】

目標

- 1 臨床神経学の概要を理解する。
- 2 言語および視覚機能を中心とした脳・神経系の解剖・機能および、検査・評価法について理解する。
- 3 言語および視覚機能を中心とした脳・神経系の主要症候を理解する。
- 4 言語および視覚機能に関連した脳・神経系の主要疾患および医療現場で知っておくべき脳・神経系疾患の病状、発現機序、病因、Evidence Based Medicine(EBM)に基づく治療について理解する。

内容

- 1 言語および視覚機能を中心とした脳・神経機能の基礎
 - 1) 脳・神経系の解剖
 - 2) 脳・神経系の機能
 - 3) 脳・神経系の検査・評価法
- 2 言語および視覚機能を中心とした脳・神経系の主要症候
 - 1) 意識障害・精神症状・知能障害・睡眠障害
 - 2) 失語・失音症
 - 3) 失行・失認
 - 4) 構音障害・嚥下障害
 - 5) 眼球運動障害・眼振・瞳孔異常・視野障害・眼瞼異常
- 3 言語および視覚機能を中心とした脳・神経系の主要疾患

—病状・発現機序・病因・治療—

 - 1) 脳血管障害
 - 2) 痲呆性疾患・変性疾患
 - 3) 感染症・腫瘍・中毒・代謝性疾患
 - 4) 脊髄・末梢神経・筋疾患
 - 5) 発作性疾患
 - 6) 遺伝性疾患・脱髄疾患・炎症性疾患

【評価方法】

出席状況、受講態度、筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業の際、適宜紹介する。

【授業の概要】

視聴覚系の諸障害に対するリハビリテーションの医学的位置づけや具体的な訓練方法、その効果について学習する。

(上田正子兼任講師) 言語聴覚士のリハビリテーション医学における位置づけを理解するとともに、他職種とのチームアプローチ、障害学、診断学、治療学について理解を深める。

(大庭紀雄教授) 視覚系の代表的な疾患や外傷について、その障害に関する生理学的機序、運動学的機序、高次脳機能学的機序などについて学習する。

(川瀬芳克教授) 視能訓練士のリハビリテーション医学における位置づけを理解するとともに、他職種とのチームアプローチ、障害学、診断学、治療学について理解を深める。

(丹羽英人教授) 聴覚系、発語系の代表的な疾患や外傷について、その障害に関する生理学的機序、運動学的機序、高次脳機能学的機序などについて学習する。

【授業計画】

第1回	聴覚系と発語系のリハビリテーション	1	丹羽 英人
第2回	聴覚系と発語系のリハビリテーション	2	丹羽 英人
第3回	聴覚系と発語系のリハビリテーション	3	丹羽 英人
第4回	リハビリテーション医学と言語聴覚士	1	上田 正子
第5回	リハビリテーション医学と言語聴覚士	2	上田 正子
第6回	リハビリテーション医学と言語聴覚士	3	上田 正子
第7回	視覚系のリハビリテーション	1	大庭 紀雄
第8回	視覚系のリハビリテーション	2	大庭 紀雄
第9回	視覚系のリハビリテーション	3	大庭 紀雄
第10回	リハビリテーション医学と視能訓練士	1	川瀬 芳克
第11回	リハビリテーション医学と視能訓練士	2	川瀬 芳克
第12回	リハビリテーション医学と視能訓練士	3	川瀬 芳克
第13回	視聴覚系のリハビリテーション	まとめ	大庭 紀雄
第14回	期末試験	1	
第15回	期末試験	2	

【評価方法】

視聴覚系の諸障害に対するリハビリテーションの医学的位置づけや具体的な訓練方法、期待される効果について十分に理解しているかどうかを評価する。

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

適宜指示する。

臨床歯科医学・口腔外科学

古川博雄

1年 後期 必修(言語) 選択(視覚) 2単位

【授業の概要】

歯、歯周組織の発生、構造、機能、疾患と、口腔、顎、顔面、顎関節、唾液腺の発生、構造、機能と疾患について学ぶ。また、言語障害と関係のある、種々の口腔機能障害についても学習する。

【授業計画】

講義方式による。授業中、適宜プリントを配布する。

- 第1回 歯科医学の歴史と重要性
- 第2回 歯・歯周組織
- 第3回 口腔ケア
- 第4回 口腔外科学の歴史と重要性
- 第5回 口腔・顎・顔面
- 第6回 顎関節
- 第7回 唾液腺
- 第8回 言語障害と関係ある疾患
- 第9回 言語、咀嚼、摂食障害に対する歯科医学的治療法
- 第10回 歯・口腔・顎・顔面の炎症、腫瘍、嚢胞、外傷と治療後の欠損
- 第11回 中枢性疾患による口腔機能障害
- 第12回 加齢による口腔機能障害
- 第13回 歯科臨床各科の諸業務
- 第14回 言語聴覚士と歯科医師のチームアプローチの重要性
- 第15回 期末試験

【評価方法】

おもに期末試験(筆記)により評価する。(毎回、出欠席を調査する。欠席回数が多い場合は受験資格を失う。) 期中にレポートを提出させた場合は、これを成績評価に反映させる。

【テキスト】

言語聴覚士のための基礎知識 臨床歯科医学・口腔外科学(医学書院)

【参考文献・資料】

標準口腔外科学 第3版(野間弘康・瀬戸皖一 医学書院)
看護のための最新医学講座 第23巻 歯科口腔系疾患(山本悦秀 中山書店)

耳鼻咽喉科学

丹羽英人

1年 前期 必修(言語) 選択(視覚) 2単位

【授業の概要】

耳科学、鼻科学、口腔・咽頭科学、咽頭科学、気管・食道科学について、構造、機能、疾患などについて学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 耳科領域の解剖、生理(1)
- 第2回 耳科領域の解剖、生理(2)
- 第3回 鼻科領域の解剖、生理
- 第4回 咽頭、喉頭科領域の解剖、生理
- 第5回 頭頸部領域の解剖、生理
- 第6回 耳科領域の症候学
- 第7回 鼻科領域の症候学
- 第8回 咽頭喉頭の症候学
- 第9回 耳科領域の疾患の診断学
- 第10回 鼻科領域の疾患の診断学
- 第11回 咽頭喉頭領域の疾患の診断学
- 第12回 頭頸部外科の診断学
- 第13回 耳科領域の疾患の治療
- 第14回 鼻科領域の疾患の治療
- 第15回 咽頭喉頭領域の疾患の治療

【評価方法】

期末試験の成績

【テキスト】

授業の始めに紹介

【参考文献・資料】

授業の中で紹介

音声言語医学

丹羽英人

1年 後期 必修(言語) 選択(視覚) 2単位

【授業の概要】

呼吸・発声・発語器官の各々について、その構造、機能、病態を学び、発声障害、構音障害および摂食・嚥下障害との関連について学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 発声器官—喉頭の解剖
- 第2回 発声器官—喉頭の生理
- 第3回 発声器官—発声機構
- 第4回 音声言語器官の局所解剖(1)
- 第5回 音声言語器官の局所解剖(2)
- 第6回 音声言語器官の生理学(1)
- 第7回 音声言語器官の生理学(2)
- 第8回 音声言語中枢の解剖
- 第9回 音声言語中枢の生理学的機構
- 第10回 構音機構と言語
- 第11回 食道の解剖
- 第12回 食道の生理学(1)
- 第13回 食道の生理学(2)
- 第14回 発声障害と嚥下障害の概論
- 第15回 期末試験

【評価方法】

講義の後に筆記試験

【テキスト】

講義の始めに推薦

【参考文献・資料】

講義の中で推薦

聴覚医学

丹羽英人

1年 前期 必修(言語) 選択(視覚) 2単位

【授業の概要】

聴覚系の構造、機能、検査、病態について、聴覚医学的視点から理解を深める。

【授業計画】

- 第1回 聴覚系の局所解剖
- 第2回 聴覚系の生理学
- 第3回 聴覚障害—伝音系
- 第4回 聴覚障害—感音系
- 第5回 聴覚障害—後迷路系
- 第6回 音響心理学
- 第7回 オーディオメーター
- 第8回 純音聴力検査、マスキング
- 第9回 語音聴力検査
- 第10回 インピーダンスオーディオメトリー
- 第11回 選別聴力検査
- 第12回 他覚的聴覚機能検査
- 第13回 乳幼児聴力検査
- 第14回 後迷路障害の検査、機能性難聴の検査
- 第15回 期末試験

【評価方法】

講義終了後の筆記試験

【テキスト】

講義の始めに推薦する。

【参考文献・資料】

講義の中で推薦。

神経系の解剖・生理・病理

渡邊一功

1年 後期 必修(視覚) 選択(言語) 2単位

【授業の概要】

感覚の認知や統合、判断およびそれに対する反応と中枢神経系の働きとの関係について深く理解し、身体全体における神経系の位置づけを正しく把握し、構成要素を確認したうえで、それぞれの機能を果たすニューロンの部位と連鎖関係を理解する。

【授業計画】

- 第1回 神経解剖学の基礎的事項
- 第2回 四肢・体幹からの知覚伝導路
- 第3回 随意運動のための神経伝導路
- 第4回 大脳皮質下の運動中枢
- 第5回 前庭系・小脳系の伝導路
- 第6回 自律神経系、視床下部
- 第7回 脳神経
- 第8回 聴覚伝導路
- 第9回 視覚伝導路と視覚反射
- 第10回 嗅覚伝導路、網様体系
- 第11回 大脳皮質
- 第12回 髄膜、脳室系
- 第13回 脳血管支配
- 第14回 まとめ
- 第15回 期末試験

【評価方法】

主に期末試験による

【テキスト】

リーブマン神経解剖学、第2版
(山内昭雄訳 MEDSI ISBN ISBN 4-89592-133-6)

神経眼科学

大庭紀雄

2年 前期 必修(視覚) 選択(言語) 2単位

【授業の概要】

神経眼科に関係する視覚路の解剖とその生理および臨床を学習する。神経眼科各論として、視神経疾患、視中枢疾患、視覚連合野疾患、それらに見られる視野障害と検査法、頭蓋内疾患と眼球運動障害、瞳孔異常、眼窩内疾患について学習する。

【授業計画】

- 第1回 神経眼科学の医学における位置づけ
- 第2回 瞳孔の解剖と生理
- 第3回 瞳孔の検査法、瞳孔の病理
- 第4回 視神経の解剖・生理・病理
- 第5回 視交叉部とその近傍の解剖・生理・病理
- 第6回 外側膝状体、視放線、視覚皮質の解剖・生理・病理
- 第7回 視覚連合野の解剖・生理・病理
- 第8回 視覚系異常の検査と治療
- 第9回 眼球運動系の解剖・生理・病理
- 第10回 眼球運動系の異常 1. 外眼筋障害、末梢神経障害
- 第11回 眼球運動系の異常 2. 核上性眼球運動障害
- 第12回 全身疾患と神経眼科
- 第13回 心因性視覚障害
- 第14回 期末試験 1
- 第15回 期末試験 2

【評価方法】

神経眼科学のあらましについて十分に理解しているかどうかを評価する。

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

適宜指示する。

神経眼科学演習

大庭紀雄 田邊宗子

2年 後期 必修(視覚) 選択(言語) 2単位

【授業の概要】

「神経眼科学」の学習内容をベースに、様々な視野検査の手法、EOGや角膜サーチコイルを用いた眼球運動検査法、赤外線電子瞳孔計を用いた瞳孔検査法などの技能を習得する。

【授業計画】

- 第1回 瞳孔の神経眼科学的検査
- 第2回 屈折・調節の神経眼科学的検査
- 第3回 視野検査 1. 動的視野検査
- 第4回 視野検査 2. 静的視野検査
- 第5回 フリッカー融合頻度測定検査
- 第6回 網膜電図検査
- 第7回 眼電位図検査
- 第8回 視覚誘発反応検査
- 第9回 眼球運動検査 1
- 第10回 眼球運動検査 2
- 第11回 眼部写真撮影検査 1. 角膜内皮細胞、前眼部
- 第12回 眼部写真撮影検査 2. 眼底、超音波
- 第13回 眼窩・視路画像検査
- 第14回 期末試験 1
- 第15回 期末試験 2

【評価方法】

神経眼科学の検査について理解しているかどうかを評価する。

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

適宜指示する。

眼疾病学

大庭紀雄

1年 後期 必修(視覚) 選択(言語) 2単位

【授業の概要】

視器の解剖学、生理学、生化学的知識を基礎とし、臨床上重要な眼疾患の病態を把握し、その検査法、治療法の概要について理解を深める。

【授業計画】

講義方式による。視能矯正や視能訓練に必要な眼疾患の成因・検査・治療を網羅するとともに、視覚の発達期や加齢期にみられる重要な疾病を重点的に講義する。

- 第1回 視機能障害1. 視力異常・屈折調節異常
- 第2回 視機能障害2. 視野異常
- 第3回 視機能障害3. 色覚異常・暗順応異常・両眼視異常
- 第4回 外眼部疾患・前眼部疾患・透光体疾患
- 第5回 網膜脈絡膜疾患
- 第6回 視神経疾患・視路疾患
- 第7回 小児眼疾患(先天異常、遺伝病)
- 第8回 加齢眼疾患(白内障、緑内障、加齢黄斑変性、網膜剥離)
- 第9回 全身疾患:糖尿病、高血圧
- 第10回 神経眼科疾患
- 第11回 プライマリケア
- 第12回 外傷、救急疾患
- 第13回 まとめ1
- 第14回 まとめ2
- 第15回 まとめ3

【評価方法】

形成的評価:簡単なプリテスト、ミニテストを随時行う。

授業終了後には、眼疾患についての一般的知識、ありふれた疾患についての診断法と治療法のあらし、小児や高齢者の眼疾患の特徴などについて理解度を測定する。

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

講義のレジメを適宜配布する。

眼科薬理学

大庭紀雄

2年 前期 必修(視覚) 選択(言語) 2単位

【授業の概要】

眼科の診断、治療に用いられる薬物について、一般眼科診療で用いる点眼薬、内服薬、縮瞳薬、散瞳薬および自律神経薬による点眼試験について学習する。さらに、麻酔薬、視能矯正に用いる薬物について、一般の使用注意事項と点眼薬、内服薬についても学習する。

【授業計画】

- 第1回 瞳孔薬(自律神経薬)
- 第2回 屈折・調節検査と薬剤(自律神経薬)
- 第3回 眼圧下降薬(自律神経薬)
- 第4回 抗菌薬、抗ウイルス薬
- 第5回 副腎皮質ステロイド薬
- 第6回 非ステロイド系抗炎症薬
- 第7回 抗アレルギー薬
- 第8回 代謝拮抗薬、免疫抑制薬
- 第9回 検査用薬剤、麻酔薬
- 第10回 眼と投薬 1. 局所投与(点眼、局所注射)
- 第11回 眼と投薬 2. 全身投与
- 第12回 薬剤の副作用、有害効果
- 第13回 薬効評価
- 第14回 期末試験 1
- 第15回 期末試験 2

【評価方法】

眼の薬理学や主要な薬剤について十分に理解しているかどうかを評価する。

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

適宜指示する。

07 年度開講

ロービジョン医学

大庭紀雄 川嶋英嗣 川瀬芳克

オムニバス 4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

ロービジョンの視覚科学的特性、心理社会的側面、および、その評価方法、援助方法について学ぶ。

(大庭紀雄教授) 高齢者と小児におけるロービジョンの病態の違い、ロービジョンの評価法や病歴の聴取法について学ぶ。

(川嶋英嗣講師) ロービジョンの定義や心理社会的側面、視覚特性について理解し、日常生活の行動にその視覚特性がどのように影響しているかについて理解を深める。

(川瀬芳克教授) 光学的・非光学的補装具の選定や遠方視・近方視訓練のテクニックの実際について習得する。また、チーム治療の必要性や、視機能以外の評価法および視覚以外の感覚を利用したリハビリテーションの実際についても習得する。

ロービジョン医学演習

大庭紀雄 川嶋英嗣 川瀬芳克

4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

「ロービジョン医学」での学習内容を踏まえ、各種補装具の選定、取り扱い、遠方・近方視訓練やロービジョンに関わるリハビリテーションの実際を学習する。

音声学・音韻論

出嶋真由美

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

母音、各種子音について、構音（調音）的特徴や音節、プロソディ（韻律的特長）、日本語の音声の種類と特徴について学習する。また、言語音声の基底にある規則とその表示原則について日本語および他の言語の音韻体系を通して学習する。

【授業計画】

目標

- 1 音声学・音韻論の概要を理解する
- 2 日本語音声の調音のしくみを理解する
- 3 日本語音声の音韻体系を理解する

内容

- 1 音声学・音韻論の概要と授業の目的
- 2 音声学：日本語音声の調音
 - 1) 音声の体系的記述
 - 2) 調音のしくみ
 - 3) 日本語音声の特徴
- 3 音韻論：日本語音声の音韻体系
 - 1) 日本語の音韻体系
 - 2) 日本語の音節・モーラ
 - 3) 日本語音声の音韻論的分析
- 4 まとめ

【評価方法】

出席状況、筆記試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

言語発達学特論

宮田 Susanne

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

言語の獲得についての最新の研究成果を紹介し、小児の言語障害へのアプローチを考える視点を形成する。

【授業計画】

- 第1回 初期語彙の発達：英語の日本語の研究の紹介
- 第2-3回 語彙を計る（MCDI）方法とその実習
- 第4回 名詞型・動詞型とは何か？-研究の紹介
- 第5-7回 発話データベース CHILDES の概念と使い方
- 第8回 語彙の豊さを計る方法（TTR、VOCD）
- 第9-10回 動詞活用の発達：獲得順序の計り方；研究の紹介
- 第11-12回 平均発話長（MLU）の使い方；研究の紹介
- 第13回 格助詞の発達：観察と実験で調べる方法；研究の紹介
- 第14-15回 まとめ

【評価方法】

毎回提出する課題用紙および自由コメント用紙を元に評価。期中に宿題を提出させた場合はこれを評価に含む。欠席回数が多い場合、また課題提出やコメント提出回数が少ない場合は受講資格を失う。

【テキスト】

発話データベース CHILDES 入門（宮田Susanne編 ひつじ書房）

【参考文献・資料】

子どもたちの言語獲得（小林晴美・佐々木正人編 大修館書店）

形態論・統語論

出嶋真由美

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

語の単位である語彙の特質と、語の結合による文や句の機能および構造の規則について日本語および他の言語の具体例に基づいて学習する。必要に応じて、代表的な文法理論についても学習する。

【授業計画】

目標

- 1 形態論・統語論の概要を理解する
- 2 日本語の言語事実に理論的分析を与える
- 3 言語の理論的分析の意義を理解する

内容

- 1 形態論・統語論の概要と授業の目的
- 2 日本語の分析
 - 1) 形態論の基礎と日本語の現象
 - 2) 統語論の基礎と日本語の現象
- 3 言語理論の目的と日本語分析の役割
 - 1) 言語理論の目的
 - 2) 日本語分析の理論的貢献
- 4 まとめ

【評価方法】

出席状況、筆記試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に指示する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

意味論・語用論

中野弘三

2年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

記号や言語表現が指し示すものの意味と言語表現とその使用者の関係やコミュニケーション機能について日本語および他の言語の具体例に基づいて学習する。

【授業計画】

- 第1回 意味とは
- 第2回 意味の種類
- 第3回 意味と指示
- 第4回 語の意味関係
- 第5回 語の意味分析
- 第6回 意味の場
- 第7回 言語表現の機能
- 第8回 発話の場での文の意味
- 第9回 ダイクシス
- 第10回 前提
- 第11回 発話行為
- 第12回 会話の含意
- 第13回 日英語の丁寧表現
- 第14回 日英語のぼかし言葉
- 第15回 期末試験

【評価方法】

学期末の試験の成績に宿題の提出状況や出席状況を加味して評価する。

【テキスト】

プリントを使用する。

【参考文献・資料】

- 英語の意味 [テイクオフ英語学シリーズ3] (池上嘉彦ほか著 大修館書店)
語の意味と意味役割 (米山三明・加賀信宏著 研究社)
発話行為 (山梨正明著 大修館書店)

【授業の概要】

言葉の獲得と障害、障害児の発達援助の問題について、特に、コミュニケーションにおける言語機能の側面から理解を深める。

【授業計画】

- 第1回 健常児の会話の初期発達：やり取りのコミュニケーション
- 第2-3回 会話分析の方法
- 第4-6回 相づちの役割とその獲得過程；実習と研究の紹介
- 第7-9回 丁寧語の発達：相手を意識してしゃべる；実習と研究の紹介
- 第10-11回 読み書きの発達：視野を広げる；本と付き合う；作文を通しての自己表現
- 第12-13回 「言語習得の権利」とは？-外国人の子どもの言語実態を考える
- 第14-15回 まとめ

【評価方法】

毎回提出する課題用紙および自由コメント用紙を元に評価。期中に宿題を提出させた場合はこれを評価に含む。欠席回数が多い場合、また課題提出やコメント提出回数が少ない場合は受講資格を失う。

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

授業内で指定

【授業の概要】

「聴覚心理学」で学習した内容をさらに発展させ、高次脳機能と聴覚現象との対応関係について学習する。

【授業計画】

目標

聴覚心理学や言語聴覚障害学の研究領域における基礎的事項を確認しながら、基礎実験及び検査等を実施し、人間の聴覚心理特性や、言語聴覚障害児者の聴覚・言語理解について理解を深めることを目的とする。

内容

1. 聴覚心理学の基礎1 聴覚心理学における生理学的知識
2. 聴覚心理学の基礎2 聴覚心理学における物理学的知識
3. 騒音測定1 騒音測定の方法の理解と実施
4. 騒音測定2 騒音測定の結果と考察
5. カクテルパーティー効果
6. 両耳分離刺激聴と音源定位
7. DAF (Delayed Auditory Feedback) 検査
8. 音響分析1 音声の音響学的特徴
9. 音響分析2 周波数歪音声の聞き取り-聴覚障害児者の聴覚シミュレーション-
10. 発音明瞭度検査1 検査の概要と、言語聴覚障害児者の発音の聞き取り
11. 発音明瞭度検査2 言語聴覚障害児者の発音明瞭度と、一般聴者の了解度
12. 読話理解1 日本語発話における口唇運動の基礎
13. 読話理解2 読話の読み取り実験
14. マクガーク効果
15. 講義のまとめ

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポートの成績を総合して評価する。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業の際、適宜、紹介する。

言語聴覚障害学

井脇貴子 加藤正子 西村辨作 吉田 敬

オムニバス 1年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

言語聴覚障害をもつ患者から得られた観察資料および検査結果をもとに、障害構造の把握法とアプローチ決定の方策について学習する。

【授業計画】

講義方式による。

- 第1回 人間のコミュニケーションの特徴
- 第2回 ことばの獲得
- 第3回 言語聴覚障害の捉え方
- 第4回 自閉症
- 第5回 知的障害
- 第6回 学習障害
- 第7回 構音障害
- 第8回 口蓋裂
- 第9回 聴力障害
- 第10回 人工内耳
- 第11回 失語症
- 第12回 高次神経機能障害
- 第13回 コミュニケーション支援
- 第14回 家族への支援
- 第15回 期末試験

【評価方法】

期末試験により評価する。

【テキスト】

ことばの障害入門（西村辨作編 大修館書店）

【参考文献・資料】

適宜プリントを配布する。

言語聴覚診断学

井脇貴子 加藤正子 西村辨作 吉田 敬

オムニバス 2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

言語聴覚障害について、評価、診断の基礎的理念、聴覚機能、発達、言語機能、音声機能、摂食嚥下機能の各検査について学習する。

【授業計画】

- 第1回 評価・診断の基礎的理念
- 第2回 評価項目
- 第3回 評価の手順 1
- 第4回 評価の手順 2
- 第5回 発声・発語器官の形態と機能の評価と障害の診断
- 第6回 構音の評価と障害の診断
- 第7回 流暢性の評価と障害の診断
- 第8回 言語発達の評価と障害の診断 1
- 第9回 言語発達の評価と障害の診断 2
- 第10回 成人のコミュニケーションの評価と障害の診断 1
- 第11回 成人のコミュニケーションの評価と障害の診断 2
- 第12回 小児の聴覚評価と障害の診断
- 第13回 成人の聴覚評価と障害の診断
- 第14回 まとめ
- 第15回 期末試験

【評価方法】

出席と期末試験

【テキスト】

新版 言語治療マニュアル（伊藤元信、笹沼澄子編 医歯薬出版、2002）

失語症Ⅰ

吉田 敬

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

失語症を理解するために必要な基礎的な神経学的知識を踏まえた上で、失語症研究の歴史、失語の症状、失語症のタイプについて学習する。

【授業計画】

目標

1. 成人における他のコミュニケーション障害と失語症の違いについて理解する。
2. 失語の症状を理解する。
3. 失語症の下位タイプを理解する。
4. 失語症研究の歴史を理解する。

内容

1. 失語症とは、他のコミュニケーション障害との違い
2. 失語症に関する神経系の基礎知識
3. 失語の症状
 - 1) 発話
 - 2) 聴覚的理解
 - 3) 復唱
 - 4) 読解・音読
 - 5) 書字
4. 失語症の下位タイプ
 - 1) 古典的分類
 - 2) その他
5. 失語症研究の歴史

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポートおよび筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業の際、随時紹介する。

失語症Ⅱ

吉田 敬

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

失語症の検査・評価の方法とリハビリテーションについて学習する。

【授業計画】

目標

1. 失語症の臨床における情報収集、検査、評価について理解する。
2. 失語症のリハビリテーションについて理解する。

内容

1. 失語症臨床の概略・基本的態度
2. 情報収集
3. 検査
 - 1) 失語症検査
 - 2) その他の検査
4. 評価
 - 1) 失語症と他のコミュニケーション障害の鑑別
 - 2) 失語症のタイプ分類、重症度の判断
 - 3) その他
5. リハビリテーション
 - 1) 訓練計画
 - 2) 言語機能へのアプローチ
 - 3) 実用コミュニケーション能力へのアプローチ
 - 4) 環境へのアプローチ、失語症者の社会参加
6. 他職種・他機関との連携

【評価方法】

出席状況、受講態度、レポートおよび筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業の際、随時紹介する。

言語発達障害Ⅰ

西村辨作

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

小児の言語発達障害の臨床に必要な知識と技能を習得するために、構音障害、発声障害、吃音について、その評価、診断の手続きと治療法について、発達の視点から学習する。

【授業計画】

- 第1回 言語発達の評価
- 第2回 養育者の面接
- 第3回 行動観察
- 第4回 言語能力検査
- 第5回 発達検査
- 第6回 知能検査
- 第7回 関連諸検査
- 第8回 前言語期の支援
- 第9回 単語獲得期の支援
- 第10回 文形成期の支援
- 第11回 会話能力の支援
- 第12回 読み書き技能の支援
- 第13回 保育場面での支援
- 第14回 教育現場での支援
- 第15回 期末試験

【評価方法】

期末試験により評価する。

【テキスト】

言語発達とその支援（岩立志津夫・小椋たみ子編 ミネルヴァ書房）

【参考文献・資料】

適宜プリントを配布する。

言語発達障害Ⅱ

西村辨作

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

乳幼児からの発達障害、聴覚障害によって生じた、言語・コミュニケーション障害について、適切な評価を行うための知識と技能を習得するために、乳幼児期、学童期の発達像を小児言語発達学、小児聴覚医学に基づいて学習する。

【授業計画】

- 講義形式で行う。
- 第1回 ことばの遅れの原因
 - 第2回 自閉症Ⅰ
 - 第3回 自閉症Ⅱ
 - 第4回 自閉症Ⅲ
 - 第5回 知的障害Ⅰ
 - 第6回 知的障害Ⅱ
 - 第7回 知的障害Ⅲ
 - 第8回 読み書き障害Ⅰ
 - 第9回 読み書き障害Ⅱ
 - 第10回 読み書き障害Ⅲ
 - 第11回 家族支援Ⅰ
 - 第12回 家族支援Ⅱ
 - 第13回 療育・教育機関との連携
 - 第14回 補助代替コミュニケーション
 - 第15回 まとめ

【評価方法】

期末試験により評価する。

【テキスト】

Dyslexia (Landau, E., Scholastic Inc., 2004)

【参考文献・資料】

適宜プリントを配布する。

【授業の概要】

吃音の定義、吃症状、吃に関する検査、間接的訓練、直接的訓練、メンタリハーサル、環境調整などについて学ぶ。

【授業計画】

目標

1. スピーチに見られる非流暢性について理解する。
 2. 吃音と診断するための評価法と治療法を演習も含め学ぶ。
 3. 事例やセルフヘルプグループに所属する吃音者の講話から吃音者の心理を学ぶ。
- そのことから、コミュニケーション障害の広さと支援の深さを理解する。

内容

1. 吃音とは何か
正常な非流暢性との比較
2. 症状
 - 1) 言語症状
 - 2) 症状の進展過程
3. 吃音の発生と病因論
4. 評価・診断
 - 1) 情報の収集
 - 2) 吃音に関する諸検査
 - 3) その他の関連検査
5. 治療・訓練（指導）
 - 1) 治療法
 - 2) 幼児期の治療
 - 3) 学童期の治療
 - 4) 成人の治療
6. 吃音者への理解
セルフヘルプグループ

【評価方法】

レポート、小テスト、期末テスト

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

- 吃音（日本聴能言語士協会講習会実行委員会編 協同医書2001）
 吃音（都築澄夫 建帛社 2000）
 成人のコミュニケーション障害（笹沼澄子監 大修館1998）

【授業の概要】

発声の生理、物理的特性、その調節、さらに音声障害の定義、器質性音声障害、機能性音声障害について学ぶ。音声の検査、評価・診断法について具体的に理解し、また音声障害の治療、無喉頭音声、気管切開への対応、音声障害患者の社会復帰を学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 音声障害の検査法
- 第2回 音声障害の診断
- 第3回 音声障害とその治療—喉頭の基質的障害
- 第4回 音声障害とその治療—前進障害に伴う音声障害
- 第5回 音声障害とその治療—機能性発声障害
- 第6回 音声障害とその治療—音声障害の治療
- 第7回 言語障害—言語障害の種類
- 第8回 言語障害の検査
- 第9回 言語発達遅滞
- 第10回 機能的構音障害
- 第11回 口蓋裂に伴う言語障害
- 第12回 難聴による小児言語障害
- 第13回 失語症
- 第14回 嚥下障害
- 第15回 期末試験

【評価方法】

期末試験による。

嚥下障害

長谷川和子

2年 前期集中 必修 2単位

【授業の概要】

摂食・嚥下機能の発達と衰退、摂食・嚥下障害の発生メカニズム、摂食・嚥下の検査・評価、治療・訓練（間接訓練、直接訓練など）について学ぶ。

【授業計画】

目標

- 1 正常の摂食・嚥下機能、およびその発達と衰退について、体験学習を行いながら理解する。
- 2 摂食嚥下障害の発生機序、評価・治療などについて、事例を通してまた実技を行いながら理解する。

内容

- 1 口腔顔面の機能的活動
- 2 食べるということ
- 3 摂食嚥下の正常過程
- 4 解剖と生理
- 5 発達と加齢
- 6 嚥下障害の病態
- 7 嚥下障害の分類
- 8 評価
- 9 治療
- 10 マネージメントとチームアプローチ

【評価方法】

出席状況とレポートによる評価を行う

構音障害 I

加藤正子

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

構音障害の概念と理論的基礎、構音障害の検査と評価について学習する。さらに、運動障害性構音障害について、その発生の原因・分類、発声発語器官の形態と機能の検査、神経学的検査、話し言葉の特徴と検査、評価・訓練、発話補助手段、耳鼻咽喉科との連携について学習する。

【授業計画】

目標

1. 構音・音韻の概念と基礎知識を学ぶ。
2. 構音障害のメカニズムを学び、実際に音を産生することで理解する。
3. 構音障害の評価法と治療法を演習形式で学ぶ。

内容

1. 構音・音韻の概念
 - 1) 正常構音
 - 2) 構音障害
2. 基礎知識
 - 1) 構音器官の解剖と機能
 - 2) 構音の基礎となる音声学
3. 音韻の発達
 - 1) 音韻の知覚発達
 - 2) 音韻発達
4. 構音障害に影響を及ぼす要因
5. 構音障害の分類
 - 1) 子どもに見られる構音障害
 - 2) 口腔器官の形態異常に伴う構音障害
 - 3) 運動障害性（神経疾患に伴う）構音障害
6. 評価と診断
 - 1) 構音検査・音韻分析
 - 2) 構音に関連する諸検査
7. 治療
 - 1) 治療の原則
 - 2) 治療の方法
8. 音韻意識の評価と治療

【評価方法】

レポート、小テスト、期末テスト

【テキスト】

特に使用せず

【参考文献・資料】

構音と音韻の障害（船山美奈子・岡崎恵子監訳 協同医書2000）
articulation and phonological disorders
(J.E.Berthal, N.W.Bankson, Allyn & Bacon 2004)

聴覚障害Ⅰ

井脇貴子

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

聴覚障害に関わる知識の習得と、それに基づく技能を習得し、聴覚障害の原因として発達上に生ずる諸問題について理解を深める。

【授業計画】

目標

主に小児の聴覚障害について学習する。乳幼児聴力検査、小児聴覚障害の原因・種類、聴覚障害児の発達、聴覚障害児の検査と評価、聴覚障害児の指導・訓練について知識を深めると共に検査法についても実践的に学習し、理解を深める。

内容

1. 聴覚系の成熟と聴覚機能の発達
2. 聴覚障害の早期発見と療育
3. 検査法の種類と適用
聴性行動反応聴力検査 (BOA)・条件詮索反応聴力検査 (COR)・ビープシヨウ検査・遊戯聴力検査
他覚的聴覚検査 (聴性誘発反応検査、耳音響放射検査)
4. 新生児聴覚スクリーニング
5. 小児聴覚障害の原因と種類
遺伝性・胎生期性・周生期性、後天性
伝音性・感音性・混合性
6. 聴覚障害児の心理面・行動面の発達、情緒・社会性の発達
7. 聴覚障害児の言語能力・コミュニケーションの発達
8. 関連情報の収集
9. 検査と評価
言語、言語的・非言語コミュニケーションの検査と評価
発声・発語の検査と評価
知能の検査と評価
行動・情緒・パーソナリティ・社会性などの検査と評価
10. 聴覚障害児の指導・訓練プログラムの立案 (コミュニケーション・モードの選択を含む)
保育・育児指導
コミュニケーション指導
言語指導
聴能訓練と聴覚学習
発声・発語指導
文字指導
11. 関係機関の連携とチームアプローチ

【評価方法】

1. 出席
2. 演習課題のレポート
3. 授業中のミニテスト

【テキスト】

1. 聴覚検査の実際 (日本聴覚医学会編集、立木孝監修、南山堂、3400円)
2. 言語聴覚士のための聴覚障害学 (喜多村健、医歯薬出版、4200円)

【参考文献・資料】

1. 音遊びの聴覚学習 (徳島県立聾学校編、高橋信雄監修、学苑社、2500円)
2. 子どもの聴覚障害訓練ガイドライン (立石恒雄・木場由紀子編集、医学書院、3675円)

聴覚障害Ⅱ

井脇貴子

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

聴覚機能の診断に必要な聴覚医学的な考え方について理解し、各種聴覚機能検査の原理とその実際について学び、検査から診断にいたる具体的な方法について学習する。

【授業計画】

目標

主に成人の聴覚障害について学習する。成人聴力検査、成人聴覚障害の種類と特性、成人聴覚障害の検査と評価、成人聴覚障害の指導・訓練について知識を深めると共に検査法についても実践的に学習し、理解を深める。

内容

1. 検査法の種類と適用
純音聴力検査
気導聴力検査
骨導聴力検査
自記オーディオ
語音聴力検査
語音聴取閾値検査 (語音了解閾値検査)
語音弁別検査
中耳機能検査 (インピーダンスオーディオメトリー等)
内耳機能検査 (SISI等)
マスキング
他覚的聴力検査
2. 成人聴覚障害の種類と特性
先天性難聴
後天性難聴 (中途失聴・老人性難聴等)
3. 関連情報の収集
4. 検査と評価
聴取・読話・発声発音・文字言語能力・コミュニケーション・心理面・行動面・社会性など・その他
5. 成人聴覚障害者の指導・訓練プログラムの立案
聴能訓練
読話指導
文字言語能力向上の指導
コミュニケーション指導
高齢者の指導
重複障害者の指導
6. 聴覚障害をサポートする各種機器
7. 環境調整
8. 相談・助言
9. 関係機関の連携とチームアプローチ

【評価方法】

1. 出席
2. 演習課題のレポート
3. 授業中のミニテスト

【テキスト】

1. 聴覚検査の実際 (日本聴覚医学会編集、立木孝監修、南山堂、3400円)
2. 言語聴覚士のための聴覚障害学 (喜多村健、医歯薬出版、4200円)

【参考文献・資料】

1. 言語聴覚療法シリーズ5 聴覚障害Ⅰー基礎編 (山田弘幸・佐場野優一編著、建帛社、2400円)
2. 言語聴覚療法シリーズ6 聴覚障害Ⅱー臨床編 (山田弘幸・佐場野優一編著、建帛社、2400円)
3. アドバンスシリーズ コミュニケーション障害の臨床7 聴覚障害 (日本聴能言語士協会講習会実行委員会編集、協同医書出版社、4000円)

神経言語学

吉田 敬

3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

言語活動と高次脳機能との関連について、神経科学的側面から理解する。高次脳機能障害を背景とする言語聴覚障害の種類、発現メカニズム、評価法などについて学ぶ。

聴覚障害Ⅲ

井脇貴子

3年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

聴覚機能の診断に必要となる聴覚医学的な考え方について理解し、特に小児の特性について注目し、聴覚機能検査の原理とその重要性について学び、検査から診断にいたる具体的方法について学習する。また、補聴器適合の方法についても学習する。

高次脳機能障害

渡邊一功

3年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

脳損傷による言語以外の動作、認知、記憶などの高次脳機能の障害の症状および、それらの評価、リハビリテーションについて学習する。

聴覚障害Ⅳ

井脇貴子

3年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

聴覚補償の原理、聴覚支援システムの実際、人工内耳について学び、適用にいたる具体的方法について学習する。また視覚と聴覚との両者に障害を持つ場合の聴覚補償、リハビリテーションについて、評価と指導の具体的方法について学習する。

言語発達障害Ⅲ

岩田吉生

3年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

発達障害、聴覚障害によって生じる言語・コミュニケーション行動の障害を評価し、個々の対象に応じたリハビリテーション・プログラムの立案、実施法について学ぶ。

言語聴覚臨床実習Ⅰ

井脇貴子 加藤正子 西村辨作 丹羽英人 吉田 敬

3年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

実際の言語聴覚臨床に接し、コミュニケーション障害を持つ人が抱える問題、病院・施設の機能、言語聴覚士の役割、患者への接し方、障害スクリーニング技法、臨床報告の作成、関連職種との連携方法等について学ぶ。

構音障害Ⅱ

加藤正子

3年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

機能性構音障害のメカニズム、音韻発達および構音の発達から評価・訓練計画・訓練方法について学ぶ。さらに、器質性構音障害について、まひ性、形態性の障害への評価、訓練、医学的治療について学習する。

言語聴覚臨床実習Ⅱ

井脇貴子 加藤正子 西村辨作 丹羽英人 吉田 敬

3年 後期 必修 5単位

【授業の概要】

臨床実習施設において評価実習を行う。具体的には、対象者に実際に接し、検査等によって評価・言語病理学的診断をするために必要な情報収集を行い、結果を分析し、対象者の問題を障害の各側面から把握する。

言語聴覚学研究Ⅰ

井脇貴子 加藤正子 西村辨作 丹羽英人 吉田 敬

3年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

専任教員が担当するゼミナールで、言語聴覚学の領域における独自のテーマについて、文献研究、実験、調査を通して、専門的知識を深め、問題意識を習得する。

言語聴覚学研究Ⅱ

井脇貴子 加藤正子 西村辨作 丹羽英人 吉田 敬

3年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

専任教員が担当するゼミナールで、言語聴覚学の領域における独自のテーマについて、「言語聴覚科学研究Ⅰ」で習得した問題意識をさらに発展させ、学術研究として展開する準備を行う。

言語聴覚臨床実習Ⅲ

井脇貴子 加藤正子 西村辨作 吉田 敬

4年 前期 必修 6単位

【授業の概要】

各種臨床実習施設の実習指導者の下に総合実習を行う。講義・演習で学んだ知識・技能・態度を実際の臨床に適用し、言語聴覚士としての基本的な臨床能力を習得する。具体的には、対象者に実際に接し、評価・言語病理学的診断から訓練・治療、社会参加への支援にいたる言語聴覚臨床の全プロセスについて実践的に学ぶ。

言語聴覚学研究Ⅲ

井脇貴子 加藤正子 西村辨作 丹羽英人 吉田 敬

4年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

専任教員が担当するゼミナールで、言語聴覚学の領域における独自のテーマについて、「言語聴覚科学研究Ⅰ・Ⅱ」の成果を踏まえ、学術研究を展開する。

言語聴覚学研究Ⅳ

井脇貴子 加藤正子 西村辨作 丹羽英人 吉田 敬

4年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

専任教員が担当するゼミナールで、言語聴覚学の領域における独自のテーマについて、「言語聴覚科学研究Ⅲ」の成果に基づき、それを卒業研究として展開する。

卒業論文

井脇貴子 加藤正子 西村辨作 丹羽英人

4年 後期 必修 4単位

【授業の概要】

「言語聴覚学研究Ⅰ～Ⅳ」の成果を卒業論文の形にまとめ、提出する。

視覚認知総論

高橋伸子

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

パタン認知、視覚的注意、視覚システムの階層構造、視覚イメージと心的表象、視覚システムと言語システムの相互作用について、具体的なトピックスを紹介しつつ、人間の視覚情報処理の基礎過程について理解を深める。

【授業計画】

- 第1回 視覚の時空間特性1
- 第2回 視覚の時空間特性2
- 第3回 形の知覚1
- 第4回 形の知覚2
- 第5回 形の知覚3
- 第6回 時空間相互作用
- 第7回 運動の知覚1
- 第8回 運動の知覚2
- 第9回 運動の知覚3
- 第10回 視覚記憶
- 第11回 視覚と他感覚の相互作用
- 第12回 視覚的注意1
- 第13回 視覚的注意2
- 第14回 まとめ1
- 第15回 まとめ2

【評価方法】

出席状況および筆記試験の成績により評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献・資料】

- 錯覚のワンダーランド (鈴木光太郎著 関東出版社)
- 視覚の情報処理 (K.T.スピアー・S.W.レムクール著 サイエンス社)

視覚心理総論

高橋啓介

2年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

ゲシュタルト心理学からギブソンの視空間論までについて、具体的なトピックスを通して、視知覚の基本的な特性とそのメカニズムについて学習する。

【授業計画】

- 第1回 知覚の体制化1
- 第2回 知覚の体制化2
- 第3回 明るさの知覚
- 第4回 色覚1
- 第5回 色覚2
- 第6回 色の知覚
- 第7回 奥行き知覚1
- 第8回 奥行き知覚2
- 第9回 両眼視1
- 第10回 両眼視2
- 第11回 視空間知覚1
- 第12回 視空間知覚2
- 第13回 まとめ
- 第14回 単位認定試験1
- 第15回 単位認定試験2

【評価方法】

出席30点満点、単位認定試験70点満点とし、60点以上取得で合格とする。ただし、4回以上の欠席の場合は、得点に関わらず不合格とする。

【テキスト】

特に指定しない。必要に応じて、ハンドアウトを配布する。

【参考文献・資料】

- 視覚の冒険－イリュージョンから認知科学へ (下條信輔 産業図書 1997年)
- 眼はなにを見ているか－視覚系の情報処理 (池田光男 平凡社 1988年)
- どうして色は見えるのか－色彩の科学と色覚 (池田光男・芹沢昌子 1992年)

視能矯正学総論

川澄未来子 都築欣一 平井淑江

オムニバス 1年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

視能矯正学の枠組みを理解し、系統的な視能矯正を構築するための基礎的技術を学習する。

(川澄未来子兼担助教授) 正常な眼球の働きや両眼視機能の基礎、外眼筋の作用とその法則、両眼共同運動、輻輳・開散と調節、ホロプターとVieth-Mullerの円、Panumの融像感覚圏等について学ぶ。

(都築欣一兼任講師) 斜視の分類と病因論、弱視の成因と治療法について学ぶ。

(平井淑江教授) 小児視力の発達と特性や斜視に伴う網膜対応の異常や患眼の抑制について学習する。

【授業計画】

第1回	視能矯正学の歴史と視能訓練士	平井
第2回	眼の光学的特性	川澄
第3回	眼球の調節過程	川澄
第4回	眼球運動	川澄
第5回	三次元立体視と両眼視	川澄
第6回	小児の視機能の発達と 視覚の感受性期間	平井
第7回	斜視の分類と病因 その1	都築
第8回	斜視の分類と病因 その2	都築
第9回	斜視の治療	都築
第10回	弱視の成因と治療 その1	都築
第11回	弱視の成因と治療 その2	都築
第12回	斜視や弱視の感覚適応：抑制	平井
第13回	網膜対応：正常と異常	平井
第14回	単位認定試験(1)	
第15回	単位認定試験(2)	

【評価方法】

出席状況、授業態度、レポート課題、単位認定試験で総合的に判断する。

【テキスト】

視能矯正理論と実際(弓削経一他：編 金原出版)

【参考文献・資料】

適宜紹介

視能矯正学各論Ⅰ

大庭紀雄 平井淑江

オムニバス 1年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

人の眼位や両眼視機能と眼球運動との関係を機能解剖学的に学習する。
(大庭紀雄教授) 外眼筋の基礎解剖と神経生理、輻輳および開散の生理と病態、両眼視機能の中枢神経機構について理解を深める。

(平井淑江教授) 両眼視機能の正常像と病態像について学ぶ。

【授業計画】

講義方式による。検査機器やビデオを適宜使用する。学生の理解度を測定し、講義にフィードバックする目的でプリテストとミニテストを適宜行う。

第1回	両眼視機能の基礎 1. 眼高・外眼筋・眼球運動機構	大庭
第2回	両眼視機能の検査法 1. 眼位、眼球運動	平井
第3回	両眼視機能の基礎 2. 両眼視の神経機構、発達と劣化	大庭
第4回	両眼視機能の検査法 2. 同時視、融像、立体視、対応	平井
第5回	視能矯正： 両眼視訓練	平井
第6回	機能的弱視 1. 定義、成因、病型	大庭
第7回	機能的弱視 1. 検査法：小児の視力検査と固視検査	平井
第8回	機能的弱視 2. 検査、診断、治療	大庭
第9回	機能的弱視 2. 屈折矯正と眼鏡、遮蔽法	平井
第10回	心因性視覚障害の成因・症候・治療	大庭
第11回	心因性視覚障害の検査	平井
第12回	眼球運動異常、麻痺性斜視、眼振の成因・症候・治療	大庭
第13回	眼球運動異常、麻痺性斜視、眼振の検査	平井
第14回	単位認定試験 1	
第15回	単位認定試験 2	

【評価方法】

視能矯正、視能訓練の概念と基本知識を理解し、実地に応用できるかどうかを測定する。

出席状況、授業態度、期末試験を加点法で評価する。

【テキスト】

視能矯正学(丸尾敏夫・粟屋忍 金原出版)

【参考文献・資料】

適宜紹介

視能矯正学各論Ⅱ

都築欣一 平井淑江

オムニバス 2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

弱視、斜視の病態の検査と方法について学習する。
(都築欣一兼任講師) 弱視、斜視の病態の総合評価ができる技能を習得する。
(平井淑江教授) 弱視、斜視の病態の検査と方法を、入力、統合、出力系の順に学習する。

【授業計画】

第1回	偽斜視と斜視	平井
第2回	外斜視	都築
第3回	外斜視の分類と検査法	平井
第4回	内斜視	都築
第5回	Krimsky法、Hirshberg法	平井
第6回	上下斜視	都築
第7回	AV型斜視・交代性上斜視の検査	平井
第8回	麻痺性斜視	都築
第9回	Bielshwsky test と Perks の 3 step test	平井
第10回	弱視その1	都築
第11回	斜視弱視・不同視弱視の検査	平井
第12回	弱視その2	都築
第13回	屈折性弱視・径線弱視	平井
第14回	まとめ	平井
第15回	単位認定試験	平井

【評価方法】

出席状況、授業態度、レポート課題、単位認定試験で総合的に判断する。

【テキスト】

視能矯正理論と実際(弓削経一他編 金原出版)
視能矯正学(丸尾敏夫 栗屋忍)

【参考文献・資料】

適宜紹介

視能矯正学各論Ⅲ

平井淑江 矢ヶ崎悌司

オムニバス 2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

弱視の病態、発症メカニズムとその検査について学習する。
(平井淑江教授) 機能・器質弱視の病態を検査する意義、原理、方法、検査理論について学習する。
(矢ヶ崎悌司兼任講師) 弱視の各種病態と発症メカニズムを学び鑑別診断法について理解を深める。

【授業計画】

第1回	弱視の定義と病態生理
第2回	弱視の分類と鑑別診断
第3回	斜視弱視
第4回	不同視弱視
第5回	微少斜視弱視
第6回	屈折異常弱視
第7回	経線弱視
第8回	形態覚遮断弱視
第9回	器質弱視・難治症例
第10回	固視検査
第11回	両眼視機能検査
第12回	まとめI
第13回	まとめII
第14回	単位認定試験(1)
第15回	単位認定試験(2)

【評価方法】

出席状況・受講態度・レポート及び筆記試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

視能矯正学(金原出版)

視能検査学総論

大庭紀雄 川瀬芳克 平井淑江

オムニバス 1年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

視覚機能の検査の基礎について学習する。

(大庭紀雄教授) 主訴や眼症状によって進めていく検査の具体的プロセスについて学習する。

(川瀬芳克教授) 電気生理の原理と方法について学ぶ。

(平井淑江教授) 視能矯正での基礎となる視能検査の原理、特性、実施の概要について学ぶ。

【授業計画】

講義方式による。視能矯正や視能訓練に必要な諸検査の目的・機器・検査法・評価を講義する。

授業中、検査機器やビデオを供覧して学習効果を高める。

第1回	検査の進め方：面接（インタビュー）との検査計画の策定	大庭
第2回	機能検査 1-1 視力・屈折・調節	平井
第3回	機能検査 1-2 視力・屈折・調節	平井
第4回	機能検査 2-1 瞳孔・光覚・順応・視野・色覚	大庭
第5回	機能検査 2-2 瞳孔・光覚・順応	平井
第6回	機能検査 2-3 視野・色覚	平井
第7回	機能検査 3-1 眼球運動・両眼視	大庭
第8回	機能検査 3-2 眼球運動・両眼視 の検査	平井
第9回	形態検査：細隙灯顕微鏡、眼底	大庭
第10回	電気生理学検査 I ERG, VEP, EOGの原理	川瀬
第11回	電気生理学検査 II 検査法の実際	川瀬
第12回	特殊検査：画像検査1（角膜内皮、蛍光眼底検査、OCT、SLO）	大庭
第13回	特殊検査：画像検査2（超音波、X線、CT、MRI）	大庭
第14回	全身検査	大庭
第15回	単位認定試験	

【評価方法】

さまざまな病状を把握するために、諸種検査法の目的を理解して過不足なく策定できるかどうかを重点的に評価する。出席率・小テスト・単位認定試験で総合的に評価する。

【テキスト】

適宜プリント配布

【参考文献・資料】

現代の眼科学（金原出版）

眼科診療プラクティス18 眼科機器とデータの読み方（文光堂）

眼科検査メモ（南江堂）

視能検査学各論 I

川瀬芳克 田邊宗子

オムニバス 2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

視覚機能を評価する諸検査の具体的方法について学習する。

(川瀬芳克教授) 眼球運動検査、斜視角の測定、両眼視機能検査、輻輳、AC/Aなどの各検査法について学習する。

(田邊宗子講師) 視力検査、屈折調節検査、眼鏡、コンタクトレンズの検査、眼位などの各検査について学ぶ。

【授業計画】

第1回	視力検査1
第2回	視力検査2
第3回	屈折調節検査1
第4回	屈折調節検査2
第5回	眼鏡
第6回	コンタクトレンズの検査
第7回	眼位・眼球運動1
第8回	眼位・斜視角の測定1
第9回	眼位・斜視角の測定2
第10回	両眼視機能検査1
第11回	両眼視機能検査2
第12回	両眼視機能検査3
第13回	輻輳・AC/A
第14回	まとめ
第15回	期末テスト

【評価方法】

主に期末試験により評価する。ただし、授業の出欠席も重視し、期間中にレポート提出・小テストをした場合は、これも成績評価に反映させる。

【テキスト】

視能矯正（弓削経一編 金原出版）

視能矯正学（栗谷忍 丸尾敏夫 金原出版）

眼科検査メモ（澤田惇 吉田晃敏 南光堂）

斜視・弱視の診断検査法（山本裕子 医学書院）

視能検査学各論Ⅱ

川瀬芳克 田邊宗子 玉置明野

オムニバス 2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

「視能検査学各論Ⅰ」を踏まえ、さらに視覚機能を評価する諸検査の具体的方法について学習する。

(川瀬芳克教授) 視野検査(静的・動的視野・両眼開放視野・中心視野)、フリッカー検査などについて学習する。

(田邊宗子講師) 眼圧検査、涙液・涙道検査、瞳孔の検査、眼底写真撮影などについて学習する。

(玉置明野兼任講師) 色覚検査について学習する。

【授業計画】

- 第1回 量的視野の理論
- 第2回 動的量的視野検査の実際(実習1)
- 第3回 動的量的視野検査の実際(実習2)
- 第4回 静的量的視野検査法の理論
- 第5回 その他の視野検査法
- 第6回 色覚のメカニズム: 先天色覚異常の分類、後天色覚異常(先天異常との違い)
- 第7回 検査法: 仮性同色表、Panel-D-15、ランタンテスト、アノマロスコープ
- 第8回 先天色覚異常の遺伝: 杆体一色型色覚、錐体一色型色覚、先天赤緑異常
- 第9回 診断後の説明および指導
- 第10回 眼圧検査
- 第11回 涙液・涙道検査
- 第12回 瞳孔検査
- 第13回 眼底写真撮影
- 第14回 まとめ
- 第15回 期末試験

【評価方法】

主に期末試験(筆記)により評価する。ただし、出欠席も重視し、期間中にレポートを提出させた場合は、これも成績評価に反映させる。

【テキスト】

- ・眼科検査メモ(澤田惇他編 南江堂)

【参考文献・資料】

- ・新編画像解析ハンドブック(高木幹雄他監修 東京大学出版会)
- ・先天色覚異常の検査と指導(市川一夫他 金原出版)
- ・眼科New Insight 1「視覚情報処理」(若倉雅登編 メジカルビュー社)
- ・眼科診療プラクティス66巻「色覚の考え方」(北原健二編 文光堂)

視能検査学各論Ⅲ

川瀬芳克 佐橋一浩 玉置明野

オムニバス 2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

視覚機能を評価する諸検査のうち、近年その重要度を増している新しい検査法について知見を深める。

(川瀬芳克教授) 電気生理検査。

(佐橋一浩兼任講師) 網膜断層撮影(OCT)。

(玉置明野兼任講師) 超音波検査。

【授業計画】

- 第1回 超音波検査法の原理: 光干渉法との違いも含め
- 第2回 Bモード測定の意義と方法: 後眼部およびUBM
- 第3回 Aモード測定の意義と方法: 眼軸長およびパキメトリー
- 第4回 眼内レンズ度数決定: 白内障手術における超音波検査の重要性
- 第5回 電気生理検査の留意点
- 第6回 ERG検査手技(実習)
- 第7回 各種疾患におけるERG波形
- 第8回 EOG検査手技(実習)
- 第9回 VEP検査手技(実習)
- 第10回 網膜断層撮影(光干渉断層計: OCT)の原理
- 第11回 検査手技Ⅰ: 測定法
- 第12回 検査手技Ⅱ: 測定法の実際(実習)
- 第13回 臨床応用: 各種疾患への応用
- 第14回 まとめ
- 第15回 期末試験

【評価方法】

主に期末試験(筆記)により評価する。ただし、出欠席も重視し、期間中にレポートを提出させた場合は、これも成績評価に反映させる。

【テキスト】

- ・眼科検査メモ(澤田惇他編 南江堂)
- 適宜プリントを配布する。

【参考文献・資料】

- ・最新眼科超音波診断法(太根節直編 診断と治療社)
- ・新超音波医学 1 医用超音波の基礎(日本超音波医学会編 医学書院)
- ・絵でみる超音波(長井裕 伊東紘一 南江堂)
- ・眼科診療プラクティス1巻「眼内レンズの使い方と実際」(白井正彦編 文光堂)
- ・小切開創白内障手術(大鹿哲郎 医学書院)

視能障害学総論

大庭紀雄 平井淑江

オムニバス 1年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

様々な視能障害について概観し、視能障害に対する基本的な理解を深める。
(大庭紀雄教授) 視力障害、視野障害、両眼視機能の障害をもたらす疾患について、その予防と治療について学ぶ。

(平井淑江教授) 成人の視能障害や加齢による視覚障害と社会適応について学ぶ。

【授業計画】

講義はビデオや体験学習も取り入れて視覚障害の認識を深める

第1回	視力異常・視野異常・色覚異常	大庭
第2回	視力障害の等級とその実際	平井
第3回	視野障害の等級とその実際	平井
第4回	色覚障害とその対応	平井
第5回	屈折異常・調節異常・両眼視機能異常	大庭
第6回	不等像視・老視・複視・抑制	平井
第7回	外眼部・前眼部疾患、透光体疾患（白内障）	大庭
第8回	網膜・視神経・視路疾患	大庭
第9回	加齢性眼疾患	大庭
第10回	神経眼科疾患（瞳孔異常・眼球運動異常）	大庭
第11回	眼疾患の治療学（光学矯正、薬物療法、物理療法、外科療法）	大庭
第12回	ロービジョンとリハビリテーション	平井
第13回	視能障害とその支援のあり方	平井
第14回	期末試験1	
第15回	期末試験2	

【評価方法】

さまざまな重要な眼疾患について適切な知識を習得し理解を深めたかどうかを評価する。

出席状況、授業態度、レポート、期末試験で総合判定する。

【テキスト】

現代の眼科学

【参考文献・資料】

適宜指示する。

視能障害学各論Ⅰ

伊藤照子 佐藤美保

オムニバス 2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

視覚の発達の特性とその障害について理解を深める。

(伊藤照子兼任講師) 視覚障害児の社会への適応について学ぶ。

(佐藤美保兼任講師) 乳幼児の視覚の発達を阻害する因子とその予防と治療、小児の失明や視野障害をもたらす疾患について学習する。

【授業計画】

第1回	小児視機能の発達	佐藤
第2回	視機能評価1	伊藤
第3回	視機能評価2	伊藤
第4回	ロービジョン症例の紹介1	伊藤
第5回	ロービジョン症例の紹介2	伊藤
第6回	非光学的補助具の紹介	伊藤
第7回	非光学的補助具の実習	伊藤
第8回	小児視機能発達障害	佐藤
第9回	光学的補助具の紹介	伊藤
第10回	弱視疑似体験	伊藤
第11回	その他の補助具	伊藤
第12回	小児眼疾患の予防と治療	佐藤
第13回	関係法規	伊藤
第14回	単位認定試験	伊藤
第15回	まとめ	

【評価方法】

出席日数・授業態度・認定試験等で総合的に判断する。

【テキスト】

特になし

【参考文献・資料】

適宜紹介

視能障害学各論II

川嶋英嗣

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

視覚障害児・者の障害の特性や心理社会的側面について学習し、現状と課題について理解を深め、障害の特性に応じた教育的支援、福祉的支援のあり方について考察をおこなう。

【授業計画】

必要に応じて受講生が参加する簡単な実験をおこなうことで講義内容の理解を深める

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 視角
- 第3回 コントラスト1
- 第4回 コントラスト2
- 第5回 視覚の空間特性1
- 第6回 視覚の空間特性2
- 第7回 視覚の時間特性
- 第8回 グレア1
- 第9回 グレア2
- 第10回 中心視と周辺視1
- 第11回 中心視と周辺視2
- 第12回 読みの有効視野
- 第13回 まとめ1
- 第14回 まとめ2
- 第15回 試験

【評価方法】

出席状況、受講態度、試験の成績を総合して評価する

【テキスト】

特に指定しない

【参考文献・資料】

授業で指示する

視能訓練学総論

大庭紀雄 田邊宗子 行松慎二

オムニバス 1年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

視能訓練の対象となる症例を鑑別し、視能訓練の基礎と適応について学ぶ。
(大庭紀雄教授) 器質的疾患と機能弱視との鑑別法及び感染症に対する対応と眼科の救急疾患について学ぶ。

(田邊宗子講師) 神経回路網を構築させる訓練療法の作用機序について学習し、視覚発達の促進や種々の視覚障害に対する矯正指導、管理の立場から必要な知識と技術を習得する。

(行松慎二兼任講師) 視覚系の神経生理学的特性について理解を深める。

【授業計画】

講義方式による。

(大庭紀雄教授)

- 第1回 視覚の発育と成長と成熟と老化
- 第2回 眼の先天異常
- 第3回 眼の遺伝病
- 第4回 眼の感染症

(行松慎二兼任講師)

講義方式による。授業中、適宜プリントを配布する。

- 第5回 網膜での信号受容と処理
 - 第6回 明暗の知覚の神経生理学的基礎
 - 第7回 中枢視覚神経系での信号処理
 - 第8回 色覚の生理学的基礎
- (田邊宗子講師)
- 第9回 視能訓練の最初の一步屈折矯正。
 - 第10回 正確な屈折検査のための調節麻痺剤に関する知識と検査の実際。
 - 第11回 眼位と両眼視。斜視の診断。
 - 第12回 弱視の治療。
 - 第13回 斜視手術前後における視能矯正。
 - 第14回 まとめ
 - 第15回 期末試験

【評価方法】

主に期末試験で評価する。ただし出欠席も重視する。

期間中にレポート、及び小テストを行なった場合は、これも成績評価に反映させる。

【テキスト】

プリントを配布する。

斜視・弱視の診断検査法 (山本裕子 医学書院)

【参考文献・資料】

視能矯正学 (丸尾敏夫 粟屋忍編 金原出版)

視能矯正—理論と実際— (弓削経一他編 金原出版)

視能訓練学各論Ⅰ

平井淑江

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

弱視訓練、治療の目的、原理、適応、訓練の効果評価法、治療判定の基準について学習する。

【授業計画】

- 第1回 弱視の訓練と治療の基本的概念
- 第2回 小児視力の発達と特性
- 第3回 現病歴・既往歴・家族歴
- 第4回 固視検査1. 他覚的検査
2. 自覚的検査
- 第5回 中心固視・偏心固視・偏心視、固視不良
- 第6回 屈折検査・矯正眼鏡・コンタクトレンズの選択
- 第7回 遮蔽法
- 第8回 光学的・薬理的遮蔽法
- 第9回 弱視の訓練器具と効果判定
- 第10回 訓練計画：治療基準と治療期間
- 第11回 ケーススタディ
- 第12回 訓練計画の評価
- 第13回 まとめ(1)
- 第14回 まとめ(2)
- 第15回 単位認定試験

【評価方法】

出席状況・レポート・単位認定検査等で総合的に判断する。

【テキスト】

視能矯正マニュアル(メデイカル英出版)

視能訓練学各論Ⅱ

田邊宗子 三宅三平

オムニバス 2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

斜視の病理学的理解とその矯正法について学ぶ。
(田邊宗子講師) 斜視の視能矯正、光学的矯正などについて学ぶ。
(三宅三平兼任講師) 斜視の発症メカニズム、先天性、後天性斜視の診断と手術、薬物療法などの治療について学ぶ。

【授業計画】

- 第1回 眼鏡による視能矯正1(田邊)
- 第2回 プリズムについて1(臨床に使えるプリズム：プリズムを用いた検査におけるプリズム使用上の注意点)(三宅三平講師)
- 第3回 眼鏡による視能矯正2(田邊)
- 第4回 プリズムについて2(臨床に使えるプリズム：プリズムを用いた治療におけるプリズム使用上の注意点)(三宅三平講師)
- 第5回 両眼視機能(田邊)
- 第6回 眼科疾患と治療に関する視機能変化について1(三宅三平講師)
- 第7回 網膜対応異常1(田邊)
- 第8回 眼科疾患と治療に関する視機能変化について2(三宅三平講師)
- 第9回 網膜対応異常2(田邊)
- 第10回 斜視・手術の種類と利点と欠点、先天性・後天性斜視の診断と治療1(三宅三平講師)
- 第11回 斜視の訓練1(田邊)
- 第12回 斜視・手術の種類と利点と欠点、先天性・後天性斜視の診断と治療2(三宅三平講師)
- 第13回 斜視の訓練2(田邊)
- 第14回 まとめ
- 第15回 期末テスト

【評価方法】

主に期末試験により評価す。ただし、授業の出欠席も重視し、期間中にレポート提出・小テストをした場合は、これも成績評価に反映する。

【テキスト】

プリントを配布する。(三宅三平講師、田邊)
斜視・弱視の診断検査法(山本裕子 医学書院)(田邊)

【参考文献・資料】

視能矯正(弓削経一編 金原出版)
視能矯正学(粟谷忍、丸尾敏夫編 金原出版)

視覚認知特論

高橋伸子

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

形態視、色彩視、立体視、運動視のメカニズムについて理解を深め、脳の視覚情報処理全体の中で、これらの視覚モジュールの位置づけについても考察する。

視覚心理特論

高橋啓介

3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

錯視現象、知覚的恒常性、両眼立体視、奥行き知覚について、これまでの実験的研究の知見に基づきながら理解を深めることを通して、逆光学推論系としての視覚の特性とメカニズムについて考察する。

視能矯正学各論Ⅳ

増井透

3年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

視覚の脳機能の問題について理解を深め、視覚情報処理機構の特性と、種々の視覚障害との関連性、さらに高次脳機能障害や学習障害と視覚障害との関連性について学習する。

視能検査学各論Ⅳ

大庭紀雄 川瀬芳克 平井淑江

オムニバス 3年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

視覚機能の検査方法および検査結果の読み取りについて、さらに理解を深め、有効な視能矯正を行うための判断能力を習得する。

(大庭紀雄教授) 主要な病態因子の位置づけについて学ぶ。

(川瀬芳克教授) POSで検査結果を分析する技法について学ぶ。

(平井淑江教授) 入力系検査を基に、統合系、出力系の基本的な検査法の知識と技術を習得する。

視能訓練学各論Ⅲ

田邊宗子

3年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

両眼視獲得訓練、融像訓練、網膜対応異常の矯正訓練について、その原理、適応、方法について学習する。

視能訓練学各論Ⅳ

大庭紀雄 川瀬芳克 渡邊一功

オムニバス 3年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

様々な視覚障害について幅広く理解するとともに、それらに対する訓練方法、支援方法について学ぶ。

(大庭紀雄教授) 眼球震盪症の病理学的特性とその治療、訓練について学ぶ。

(川瀬芳克教授) 高齢者、ロービジョンなどにおける視覚障害の特性とその訓練法について学習する。

(渡邊一功教授) 学習障害、高次脳機能障害に基づく視能障害について学習する。

視能矯正学実習Ⅰ

伊藤照子 川瀬芳克 田邊宗子 平井淑江

3年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

臨地実習に先立ち、これまでの学習内容について、実習を通してさらに確実な定着を図るとともに、臨床スタッフとして適切な行動が取れるように、臨地実習において留意すべき点について学習する。

視能矯正学実習Ⅱ

伊藤照子 川瀬芳克 田邊宗子 平井淑江

3年 後期 必修 7単位

【授業の概要】

大学病院、総合病院、その他眼科臨床施設において少人数制で臨地実習を行い、患者への対応の仕方を含めて眼科一般及び生理学的検査、視能矯正学的検査や訓練等を体験し、習得する。複数の実習医療機関をローテイトすることにより、各医療機関での特色を知り、検査手技や治療方針についても様々な手法や考え方があることを学び、将来視能訓練士・視能の専門家として歩んでいくために必要な、広い視野を身につけるとともに臨地実務体験を積む。

視覚科学研究Ⅰ

川嶋英嗣 高橋啓介 高橋伸子 平井淑江

3年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

専任教員が担当するゼミナールで、視覚科学の領域における独自のテーマについて、文献研究、実験を通して、専門的な知識を深め、問題意識を習得する。

視覚科学研究Ⅱ

川嶋英嗣 高橋啓介 高橋伸子 平井淑江

3年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

専任教員が担当するゼミナールで、視覚科学の領域における独自のテーマについて、「視覚科学研究Ⅰ」で習得した問題意識をさらに発展させ、学術研究として展開する準備を行う。

07 年度開講

視能矯正学実習Ⅲ

伊藤照子 川瀬芳克 田邊宗子 平井淑江

4年 前期 必修 7単位

【授業の概要】

大学病院、総合病院、その他眼科臨床施設において少人数制で臨地実習を行い、患者への対応の仕方を含めて眼科一般及び生理学的検査、視能矯正学的検査や訓練等を体験し習得する。複数の実習医療機関をローテイトすることにより、各医療機関での特色を知り、検査手技や治療方針についても様々な手法や考え方があることを学び、将来視能訓練士・視機能の専門家として歩んでいくために必要な、広い視野を身につけるとともに臨地実務体験を積む。社会に出る前の最後の実習としての自覚を持ち基本的な視能矯正の実践技術を自信を持って行えるような能力を養い、患者さんから学ばせて貰っているという謙虚さを身につける。また、医療チームの一員としての責任と自覚を学ぶ。

視覚科学研究Ⅲ

川嶋英嗣 高橋啓介 高橋伸子 平井淑江

4年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

専任教員が担当するゼミナールで、視覚科学の領域における独自のテーマについて、「視覚科学研究Ⅰ・Ⅱ」の成果を踏まえ、学術研究を展開する。

視覚科学研究Ⅳ

川嶋英嗣 高橋啓介 高橋伸子 平井淑江

4年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

専任教員が担当するゼミナールで、視覚科学の領域における独自のテーマについて、「視覚科学研究Ⅲ」の成果に基づき、卒業研究として展開する。

卒業論文

大庭紀雄 高橋啓介 高橋伸子 平井淑江

4年 後期 必修 4単位

【授業の概要】

「視覚科学研究Ⅰ～Ⅳ」の成果を卒業論文の形にまとめ、提出する。

教職入門

後口伊志樹

1年 前期・後期集中 必修 2単位

【授業の概要】

本講義は、教員という職業がどのような意義を持っているのか、学校での教師の職務と役割がどのようなものであるかを、学生の被教育体験を生かしながら具体的に解説する。職務の個々の内容について、現在の中学高校の実態を踏まえて詳説する。その上で、今日の学校が抱えている問題解決の方途や、中教審、教課審の答申を学び、求められている教師像を明らかにすることによって教職につかどうか、自らの適性を見極めて決定するための情報と機会を提供したい。

【授業計画】

- 1 教育現場はいま
- 2 教師像の変遷
- 3 現代の理想的教師像
 - (1) 教科指導者としての教師
 - (2) 特別活動の指導者としての教師
 - (3) 教師とカウンセリング
 - (4) 学級経営者としての教師
 - (5) 教師と校務
 - (6) 共生社会における教師の仕事
- 4 市民としての教師
- 5 子どもの未来を開く魅力ある人間としての教師
- 6 まとめ

【評価方法】

レポート、期末考査及び出席率を総合する。

【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

教師論

佐藤実芳

3・4年 選択 2単位

【授業の概要】

日本における明治維新以降の教員養成制度について、教員免許・資格、教員に求められていた資質等の歴史を学習する。

多様化と個性化、国際化、情報化、高学歴化等の現代社会の急激な社会変化の中において期待される教員像を求め、学生の被教育体験を交えて模索することによって、教職への理解を深め、目的意識をもって教職への道を歩む人材の育成を目指す。

【授業計画】

1. 日本における教員養成の制度
 - (1) 教員養成の歴史と現在 (2) 教職課程の仕組 (3) 教員の採用
2. 教師について考える
 - (1) 教科指導 (2) 生徒指導 (3) 教員の研修
3. 種々な教師に学ぶ

【評価方法】

課題の提出、学習態度、出席状況などにより、総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

教育原理

佐藤実芳

1年 前期・前期集中 必修 2単位

【授業の概要】

高等教育機関への高い進学率を誇っている日本では、教育といえば学校教育を思いうかべることが多いであろう。しかし、学校教育を受けるのは、人生の一時期にしかすぎない。しかも学校教育をめぐる様々な問題が生じている今日、学校とは何か、教育とは何か、そのあるべき姿を真剣に考える必要がある。

本講義では、教育の歴史及び教育思想から現在の教育問題まで幅広く紹介する中で、教育の本質と目的を中心に教育とは何かを考察していく。

【授業計画】

1. 教育とは何か
2. 人間と教育

動物学からみた人間の特殊性/人間の成長と環境/教育の重要性/人間形成の場
3. 教育の本質

注入主義(ソフィスト〜本質主義)/開発主義(ソクラテス〜進歩主義)
4. 教育の目的

教育目的とは/教育目的の歴史の変遷(古代ギリシャ〜現代)
5. 現代の教育

【評価方法】

定期試験、課題の提出、受講態度などにより総合的に評価する。

【テキスト】

資料を配布する。

【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

教育思想史

梅村敏郎

2・3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

教育は、人間の本質的な営みの一つであって、既に古代から哲学者や思想家の考察の対象となってきた。これらの思想は、思想家たちが生きた時代や文化の主要な潮流や思想家自身の思考方法の特徴によって極めて多様な思想や理論が形成された。

この授業では、古代から現代まで各時代を代表するような偉大な教育思想を時代順に辿るのではなく、現代の教育についての基本的な考え方や主要な概念に直接的な影響を与え、そのため現代教育と直接的なつながりを持つと思われる17世紀のコメニウスを出発点として、それ以後今日に至るまで最も重要と考えられてきた教育者たちの思想を取り上げる。

その際、学生はそれらの思想についての他人の解釈や解説を聴くことも必要ではあろうが、むしろそれらの思想と直接に対決することがより大切である。

専門的な研究者にとっては、それらの思想はそれが書かれた元の言語で読まれるべきであろうが、初歩の学生は先ずそれらの書物の良い日本語訳によって、これらの思想に直接触れることが必要である。

【授業計画】

1. 教育思想史を勉強することの意義
2. 教育思想史を17世紀から取り扱う理由
3. コメニウス
4. ルソー
5. ベスタロッチ
6. ヘルバルト
7. フレーベル
8. デューイ
9. 教育思想と教育実践

【評価方法】

評価はレポートの提出、あるいは資料持ち込み自由の筆答試験による。

【テキスト】

特定のテキストは使用しない。

【参考文献・資料】

参考文献は授業中に適宜紹介する。

欧米教育文化史

渡辺かよ子

2・3年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

欧米教育文化史における「近代化」の意味を、子どもの生活の変遷に着目しつつ、比較教育史的に明らかにし、今日の世界の教育文化と教養の問題を検討する。

【授業計画】

1. 欧米教育文化史の視点と課題
2. 中世後期の欧米教育文化とルネサンス、宗教改革
3. 近代教育文化の生誕と展開（啓蒙思想と市民革命、産業革命）
4. 大学の誕生と展開
5. 西洋的教養と学校制度の確立
6. 欧米教育文化と今日の世界の教育

【評価方法】

レポート。

【テキスト】

子どもの教育の歴史（江藤恭二他編 名古屋大学出版会）

【参考文献・資料】

子供とカップルの美術史（森洋子 日本放送出版協会）
歴史のなかの子どもたち（森良和 学文社）
教養の復権（沼田裕之他 東信堂）

教育心理学 I

小池理穂

2年 前期・前期集中 必修 2単位

【授業の概要】

中学・高校生についての理解を深めるために乳幼児期から青年期までの発達の変遷を概観し、発達課題について考えると共に、障害児への理解を通して発達の可能性について考えていく。その上で、教育を受ける側と教育する側との相互の人間関係の中で展開される「教育」の営みについて、学習のメカニズムや動機づけの理論を通して考え、心理学的知見を実践の中に生かしていくことを目的とした。

【授業計画】

1. 教育心理学を学ぶということ
・教育の機能と教育心理学の位置づけ
2. 発達について考える
・生涯発達の視点
・障害の意味と発達可能性
・発達段階と発達課題
・認知の発達
3. 学習の過程を考える
・学習の成立過程
・学習における知識の役割
・学習意欲を育てる
外発的動機づけと内発的動機づけ/原因帰属をめぐって/知的好奇心の喚起/報酬の意味/目標のありかた

【評価方法】

筆記試験またはレポートに加えて、授業への参加関与度を考慮する。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

教育心理学 II

富安玲子

3・4年 選択 2単位

【授業の概要】

人間を発達可能性のある存在として生涯発達の視点から考えながら、一人ひとりが自分の教育観・発達観の基礎づくりをすることを目的にした。自己意識の発達などのプロセスを辿りながら、教育的働きかけとの関わりを考え、今日の問題への理解を深めると共に、自分自身の自己形成のプロセスへの関心も深め、自己理解を促進していくことも視野にいれて学んでいく。

【授業計画】

1. 発達の心理学を学ぶ/発達の心理学から学ぶ
2. 青年期の意味
3. 発達と教育
4. 「自分」の諸相
5. 「自分でない」世界の認識から
6. 第一「反抗」期の意味
7. 自我と他我
8. 他律的規範への順応
9. 第二の誕生
10. アイデンティティの確立
11. 生涯発達の視点と生き方
12. 自分探しの旅と人間関係

【評価方法】

期末試験によるが、授業への参加関与度を考慮する。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

障害児の教育

加藤文子

2・3年 前期 選択 2単位

【授業の概要】

障害児についての基本的理解をし、障害児の教育的環境、福祉施設の役割などの実情を理解する。また、就学指導の仕組みを理解し、特別支援教育の現状と課題を認識する。

【授業計画】

- 1 心身障害児の理解
- 2 心身障害児の種類と程度
心身障害児とは
学校教育で対象とする障害児と児童福祉施設で対象とする障害児
視覚・聴覚・肢体不自由・知的障害・病弱・虚弱児等の程度と発生原因
言語障害・情緒障害・重複障害児の発生原因と教育
- 3 心身障害児の早期教育、後期中等教育の重要性
なぜ早期発見、早期教育が必要か
社会自立に向けた後期中等教育の重要性
- 4 心身障害児の就学指導の仕組み
- 5 まとめ

【評価方法】

出席状況・授業態度・レポート・期末試験の成績により総合的に評価する

【テキスト】

テキストは使用せず。必要に応じて資料を配布する

教育制度

佐藤実芳

1年 後期・後期集中 必修 2単位

【授業の概要】

社会の変化にもなう学校の誕生や変化に基づき、社会において学校教育が果たしてきた役割について考えるとともに、学校教育制度の類型的比較及び学校教育制度の歴史の変遷から、学校教育制度の基本的な事項を理解する。さらに、学校経営や教育行政に関する規定がある教育法規を取り上げ、現在の日本の教育制度の特徴を考察していく。

【授業計画】

1. 教育制度の意義
2. 現代学校教育制度の起源
3. 学校教育制度の類型
4. 日本の学校教育の変遷
5. 現在の日本の学校教育制度と教育行政制度
6. 外国の学校教育制度

【評価方法】

定期試験、課題の提出、受講態度などにより総合的に評価する。

【テキスト】

資料を配布する。

【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

比較教育論

渡辺かよ子

3・4年 選択 2単位

【授業の概要】

進展する国際化・情報化の中にあつて、人間は次世代にどのような夢や願いを託すことができるのか。教育は自らが社会問題であると共に、貧困や不平等などの社会問題に対する有力な解決策でもある。本講では、日本を含む各国の教育と全世界的教育の状況の比較研究を通じて、日本の教育の特徴と現代教育の課題を明らかにしていく。

【授業計画】

1. 比較教育学の基礎理論
2. 社会発展論と教育
3. 近代化と各国の教育制度（識字と就学）
4. 「発展途上」国と「先進」国の教育の実態
5. 近現代日本の教育制度の成立と特徴
6. 文化と教育、異文化交流としての教育
7. 人権としての教育
8. 比較教育と教育改革

【評価方法】

レポート。

【テキスト】

比較教育学の基礎（田中圭治郎編著 ナカニシヤ出版）

【参考文献・資料】

比較国際教育学（石附実編著 東信堂）
世界の学校（二宮皓編著 福村出版）
多文化教育（中島智子編著 明石書店）
学歴社会 新しい文明病（ドーア著 岩波書店）
被抑圧者の教育学（フレイレ著 亜紀書房）
国際歴史教科書対話（近藤孝弘著 中公新書）
世界の教育開発（米村明夫 明石書店）

教育課程

後口伊志樹

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

特定の発達段階にいる子どもを対象として、各レベルの学校がその教育目的・目標を十分に達成するために、子どもにどの種の教科・教材をどのように学習させるか、またどの種の活動をどう体験させるかについての全体的な教育計画である教育課程（カリキュラム）について学習する。

なお、各学校が教育課程を編成する場合に、広範な人間の文化領域のなかから、子どもが学習・体験すべき内容・要件を選択し組織化する原理が何であるかという問題についても焦点をあてる。

【授業計画】

1. 教育課程とは
 - (1) 教育課程の原理と理論
 - (2) 教育課程の構造と種類
 - (3) 教育課程の歴史の変遷
2. 諸外国の教育課程の概観
3. わが国の教育課程
 - (1) 戦前の教育課程の構造
 - (2) 戦後の教育課程の構造
 - (3) 現在の中学校の教育課程の改正の趣旨と構造
 - (4) 現在の高等学校の教育課程の改正の趣旨と構造
4. 総合的な学習の時間の設定の趣旨と具体的な展開
5. まとめ
 - (1) 教育課程研究と教師
 - (2) 望ましい教育課程の展開

【評価方法】

レポート及び期末考査、出席率を総合する。

教育課程

小栗正彦

2年 後期集中 必修 2単位

【授業の概要】

特定の発達段階にいる子どもを対象として、各レベルの学校がその教育目的・目標を十分に達成するために、子どもにどの種の教科・教材をどのように学習させるか、またどの種の活動をどう体験させるかについての全体的な教育計画である教育課程（カリキュラム）を学習する。

なお、各学校が教育課程を編成する場合に、広範な人間の文化領域のなかから、子どもが学習・体験すべき教育内容を選択し組織化する原理が何であるかという問題に焦点をあてて教育課程について考察する。

【授業計画】

1. 教育課程とは
 - (1) 教育課程の原理と理論
 - (2) 教育課程の構造と種類
 - (3) 教育課程の歴史の変遷
2. 諸外国の教育課程の概観
3. わが国の教育課程
 - (1) 戦前の教育課程の構造
 - (2) 戦後の教育課程の構造
 - (3) 現在の中学校の教育課程の改正の趣旨と構造
 - (4) 現在の高等学校の教育課程の改正の趣旨と構造
4. 総合的な学習の時間の設定の趣旨と具体的な展開
5. まとめ
 - (1) 教育課程研究と教師
 - (2) 望ましい教育課程の展開

【評価方法】

レポート及び期末考査、出席率を総合する。

福祉科教育法Ⅰ

堀 正和

3年 選択 2単位

【授業の概要】

福祉教育の変遷や福祉教育の基礎的概念を学び、その上で福祉に関する学科や教科が設置された背景をさぐり、学校教育における福祉教育の諸問題を検討する。そして、福祉教育のあり方・福祉教育の意義と課題・これからの福祉教育の展望を考察する。

【授業計画】

- 1回 福祉教科創設の目的と教科の科目構成
- 2～5回 社会福祉基礎指導演法
(教材研究、指導計画、授業・評価などの方法)
- 6～10回 社会福祉制度指導演法
(教材研究、指導計画、授業・評価などの方法)
- 11～14回 社会福祉援助技術指導演法
(教材研究、指導計画、授業・評価などの方法)
- 15回 単位認定試験

【評価方法】

授業への参加態度と課題の内容点及び単位認定試験の成績により総合的に評価

【テキスト】

高等学校学習指導要領解説－福祉編－（文部科学省）

福祉科教育法Ⅱ

堀 正和

3年 選択 2単位

【授業の概要】

新教科「福祉」について、指導要領の示す内容を検討しつつ、教科「福祉」に関する各科目の指導演法とそのあり方を検討する。教科書をはじめとする教材の問題点、教育課程編成における留意点、他教科や科目間の連携、さらには、福祉科の教師に求められる資質についても検討する。

【授業計画】

- 1～5回 高齢者・障害者介護指導演法
(教材研究、指導計画、授業・評価などの方法)
- 6～8回 社会福祉実習指導演法
(教材研究、指導計画、授業・評価などの方法)
- 9～11回 社会福祉演習指導演法
(教材研究、指導計画、授業・評価などの方法)
- 12～13回 福祉情報処理指導演法
(教材研究、指導計画、授業・評価などの方法)
- 14回 福祉科指導演法の書き方と教育実習の意義
- 15回 単位認定試験

【評価方法】

授業への参加態度と課題の内容点及び単位認定試験の成績により総合的に評価

【テキスト】

高等学校学習指導要領解説－福祉編－（文部科学省）

道徳指導演法

加藤文字

1年 後期・後期集中 選択 2単位

【授業の概要】

道徳とはなにか、わが国の道徳教育の基盤、義務教育における道徳教育の在り方を探求する。その上で、今日の道徳教育に至るまでの歴史の変遷を学び、さらに道徳性の発達理論を考察する。また、道徳指導演の実際についての具体例をとりあげ、その理解を深める。

【授業計画】

- 1 道徳と道徳教育
- 2 児童・生徒を生かす道徳教育
- 3 公教育における道徳教育の歴史
・明治5年学制公布から明治23年教育勅語発布までの過程
・戦後の道徳教育の変遷
- 4 道徳性の発達理論と学校道徳教育
- 5 学校における道徳教育の実際
・道徳教育の目標
・道徳教育の内容
・「道徳の時間」の指導計画、指導案の作成
・「道徳の時間」の指導の実際、VTR視聴
・まとめ

【評価方法】

期末試験の成績に、毎時間の出席状況、授業中の態度、課したレポート内容を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

講義資料を配布

特別活動指導演法

不破民由

1年 前期・後期集中 必修 2単位

【授業の概要】

中学校・高等学校の特別活動の変遷とその具体的な活動として学級活動、ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事についての指導演法を考察、演習する。そのなかで望ましい人間関係、基本的な生活習慣の形成を通して個人及び社会の一員としての在り方、生き方に関する指導の充実を図ることを学習目標とする。

【授業計画】

1. 自由度の高い特別活動の可能性
 2. 特別活動の歴史の変遷
 3. 学級活動
 4. 生徒会活動
 5. 学校行事
(1) 儀式的行事 (2) 学芸的行事 (3) 健康安全・体育的行事
(4) 遠足・集団宿泊的行事 (5) 勤労生産・奉仕的行事 等
- 以上の内容の他に、各自のサークル、ゼミ、学園祭等の大学における活動を題としてとり入れる。

【評価方法】

教回のレポート

【テキスト】

どくどくマンボウ青春記（北杜夫 新潮文庫）

【参考文献・資料】

特別活動（高旗正人・倉田侃司編著 ミネルヴァ書房）
教科外活動を創る（折出健二他編 労働旬報社）
<教育>の誕生
(フィリップ・アリエス 中内敏夫・森田伸子訳 新評社、藤原書店)
<子供>の誕生
(フィリップ・アリエス 杉山光信・杉山恵美子訳 みすず書房)
教養主義の没落（竹内洋 中公新書）
立身出世主義（竹内洋 NHKライブラリー）
立志・苦学・出世（竹内洋 講談社現代新書）
日本の近代12 学歴貴族の栄光と挫折（竹内洋 中央公論新書）
近現代日本の教養論（渡辺かよ子 行路社）
学級経営の歴史（志村廣明 三省堂）
「勉強」時代の幕開け（江森一郎 平凡社）
運動会と日本近代（吉見俊哉他編 青弓社）
教育には何ができないか（広田照幸 春秋社）
近代日本の公民教育（松野修 名古屋大学出版会）
教育に関する私の方法叙説（不和de民由 新風舎）

他

学級経営

前田勝洋

3・4年 選択 2単位

【授業の概要】

学級崩壊、担任不信等学校を取り巻く教育環境が問題となっている今日の教育状況を正しく理解し、学級担任として、どのように生徒に接したらよいか、どのようにして生徒の信頼を回復するのか探求するとともに、楽しい、生き生きとした学級作りを具体的な事例から求めて行きたい。

【授業計画】

小学校・中学校の学級経営事例に学びながら、教師の資質向上を図る方法を探っていきたい。

- (1) 学級づくりと学級こわしの関係
- (2) 生徒理解と学級担任の役割
- (3) 共感的学級経営の実践
- (4) 成就型教育観と参加型教育観
- (5) 学級担任と言葉の問題
- (6) カルテ（個人記録）と一人ひとりを生かす経営

以上のような視点を軸にしなが、互いに事例について意見交換を行うなど、担任教師としての資質を磨きたい。

【評価方法】

毎回の受講感想レポートと「事例に対する意見記述」を中心に行いたい。

【テキスト】

後日、必要に応じて採用し、活用する。

教育方法

東浦信博

2年 後期 必修 2単位

【授業の概要】

今日親も教員も子供の本当の姿が見えなくなり、確かな指導の手だてが見出せず苦悩している。この現状を打破するためには、子供の理解を深め、子供の立場に立って教材を開発し、教育方法を構築し、実践する力量が求められている。

テキストを中心に、ビデオ教材、学生同士の討議を加えた参加型授業形態で行い、教員としての教育的力量を培う教育方法を解明したい。

【授業計画】

1. 人間回復の学力と教師の在り方
 - (1) 中学・高校における学力論と教師論の検討
 - (2) 生徒の思考の発展を目指す授業方法
 - (3) 生徒の自主的な学習を育てる学習指導法
 - (4) 生徒の側に立った学習指導技術
2. 情報機器及び教材の活用方法
 - (1) 情報機器の特色とその効果的な利用方法
 - (2) 視聴覚教材の特色とその効果的な活用方法
 - (3) メディアの進歩と新しいリテラシーの育成方法
3. 学習者にとって個を生かす学習集団とは
 - (1) 多様化した生徒への対応の仕方
 - (2) 中学校における個を生かす学習集団
 - (3) 高等学校における個を生かす学習集団

【評価方法】

資料持込可の論述式定期試験。

【テキスト】

教育の方法、技術を学ぶ。(福村出版 ¥1,700)

教育方法

霜田一敏

2年 前期集中 必修 2単位

【授業の概要】

今日親も教員も子供の本当の姿が見えなくなり、確かな指導の手だてが見出せず苦悩している。この現状を打破するためには、子供理解を深め、子供の立場に立って教材を開発し、教育方法を構築し、実践する力量が求められている。

テキストを中心に、ビデオ教材、学生同士の討議を加えた参加型授業形態で行い、教員としての教育的力量を培う教育方法を解明したい。

【授業計画】

1. 人間回復の学力と教師の在り方
 - (1) 中学・高校における学力論と教師論の検討
 - (2) 生徒の思考の発展を目指す授業方法
 - (3) 生徒の自主的な学習を育てる学習指導法
 - (4) 生徒の側に立った学習指導技術
2. 情報機器及び教材の活用方法
 - (1) 情報機器の特色とその効果的な利用方法
 - (2) 視聴覚教材の特色とその効果的な活用方法
 - (3) メディアの進歩と新しいリテラシーの育成方法
3. 学習者にとって個を生かす学習集団とは
 - (1) 多様化した生徒への対応の仕方
 - (2) 中学校における個を生かす学習集団
 - (3) 高等学校における個を生かす学習集団

【評価方法】

学生の積極的な授業参加と毎時提出するミニレポート、期末に行う論文試験等によって評価する。

【テキスト】

子どもの側に立つ授業論(霜田一敏著 明治図書 2,370円)

生徒指導（進路指導を含む）

後口伊志樹

2年 前期 必修 2単位

【授業の概要】

生徒指導を管理監督、非行の防止といった消極的な視点ではなく、21世紀に生きる青少年の健全な育成を目指すという積極的な視点で考察する。個人の尊厳と人格を尊重した生徒指導により生徒の生きる力を養う生徒指導の在り方を求める。

進路指導においては、その理念及び目的を具体的に学習する。

これらの学習をとおして、生徒指導にあたる教員の在り方及び人間観について具体的に追究する。

【授業計画】

1. 生徒指導
現代社会における構造変化に注目し生徒指導を考える。
 - (1) 社会集団の教育機能の低下と学校における生徒指導の役割
 - (2) 青少年非行と矯正教育
 - (3) 中学校における生徒指導の在り方と留意点
 - (4) 高等学校における生徒指導の在り方と留意点
2. 進路指導
進路指導の基本理念及びその目的を学習する。
 - (1) 進路指導における教員の在り方と留意点
 - (2) 進路に関する情報伝達と進路相談
 - (3) 中学校における進路指導の在り方と留意点
 - (4) 高等学校における進路指導の在り方と留意点

【評価方法】

期末試験の成績と、レポートの評価及び出席率を総合する。

生徒指導（進路指導を含む）

小栗正彦

2年 前期集中 必修 2単位

【授業の概要】

生徒指導を管理監督、非行の防止といった消極的な視点からではなく、21世紀に生きる青少年の健全な育成を目指す。個人の尊厳と人格を尊重した生徒指導により生徒の生きる力を養う生徒指導の在り方を求める。

進路指導においては、その理念及び目的を具体的に学習する。

これらの学習をとおして、生徒指導にあたる教員の在り方及び人間観について具体的に指導する。

【授業計画】

1. 生徒指導

現代社会における構造変化に注目し生徒指導を考える。

- (1) 社会集団の教育機能の低下と学校における生徒指導の役割
- (2) 青少年非行と矯正教育
- (3) 中学校における生徒指導の在り方と留意点
- (4) 高等学校における生徒指導の在り方と留意点

2. 進路指導

進路指導の基本理念及びその目的を学習する。

- (1) 進路指導における教員の在り方と留意点
- (2) 進路に関する情報伝達と進路相談
- (3) 中学校における進路指導の在り方と留意点
- (4) 高等学校における進路指導の在り方と留意点

【評価方法】

期末試験の成績と、レポートの評価及び出席率を総合する。

教育相談（カウンセリングを含む）

富安玲子

2年 後期集中 必修 2単位

【授業の概要】

教育相談の役割が認識されるようになった背景からその必要性を考え、教育相談への理解を深めて実践につなげていきたい。教育相談は生徒一人ひとりに関心をもつところから始まる。そこで生徒理解のあり方や不応行動への対応について考えたい。また、傾聴の大切さを中心にして情報提供や助言の仕方なども含めた面接の進め方を学び、カウンセリングの基礎知識も併せて学んでいく。

【授業計画】

1. 今、なぜ「教育相談」「カウンセリング」か
2. 「自分」は他者との関係の中で育つ
3. 教師・生徒の相互影響過程
4. 生徒理解
5. 学校における教育相談
6. 教育相談の進め方
7. 相談とカウンセリング
8. 適応と不適応
9. 問題行動のとらえ方とその対応
10. 不登校を考える
11. いじめを考える
12. 非行を考える

【評価方法】

期末試験によるが、授業への参加関与度を考慮する。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

教育相談（カウンセリングを含む）

小池理穂

2年 後期集中 必修 2単位

【授業の概要】

教育相談の役割が認識されるようになった背景からその必要性を考え、教育相談への理解を深めて実践につなげていきたい。教育相談は生徒一人ひとりに関心をもつところから始まる。そこで生徒理解のあり方や不応行動への対応について考えたい。また、傾聴の大切さを中心にして情報提供や助言の仕方なども含めた面接の進め方を学び、カウンセリングの基礎知識も併せて学んでいく。

【授業計画】

1. 今、なぜ「教育相談」「カウンセリング」か
2. 教師と生徒の人間関係
 - ・「自分」は他者との関係の中で育つ
 - ・教師・生徒の相互影響過程
 - ・生徒理解
3. 教育相談
 - ・学校における教育相談
 - ・教育相談の位置づけ
 - ・教育相談の特質
 - ・教育相談の進め方
 - ・カウンセリングの基礎
4. 学校という生活環境と適応
 - ・適応と不適応
 - ・問題行動のとらえ方とその対応
 - ・学校への不適応を考える
 - ・非行・いじめを考える

【評価方法】

筆記試験またはレポートに加えて、授業への参加関与度を考慮する。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

カウンセリング

富安玲子

3・4年 選択 2単位

【授業の概要】

我々が人の話を傾聴するとき、その話を自分にとって都合のよいように切り取って聞いているか、反対に自分に都合の悪い部分を切り捨てて聞いているか、という事実がある。そうした事実を体験的に理解し、傾聴について学んでいく。ロジャースのいう受容、共感、自己一致の中でも受容と共感に力点が置かれてきたように思われるので、自己一致の重要性についても考えていきたい。

【授業計画】

「教育相談」での学習を更に進めて、実習を取り入れながら、「聴く」ことの意味と「聴く」人である自分について考えていきたい。

1. 教育相談とカウンセリングを巡って
2. カウンセリングの歴史
3. カウンセリングの人間観
4. カウンセリングの理論
5. カウンセラーに必要な基本的態度・行動
6. 共感的理解のエクササイズ
7. 正確に「聴く」とは
8. カウンセリングの実例
9. 話しやすさの源は聴き上手：かかわり技法
10. 応答訓練
11. ロールプレイ
12. カウンセリングにおける諸問題

【評価方法】

期末試験とロールプレイ・レポートに、授業への出席・関与度を加えて評価する。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

総合演習

小栗正彦 後口伊志樹 加藤文字 佐藤実芳
霜田一敏 富安玲子 渡辺かよ子 羽場俊秀

3年 集中 必修 2単位

【授業の概要】

社会構造や家族構造の変化する現代社会において、青少年をとりまく現実的な課題について分析及び検討することにより、総合的な見地に立って未来に生きる中学生、高校生をどのように教育するか、その方法を探究し、総合的な指導力を備えた教員の育成をめざし、次の7テーマに別れて演習を行なう。(各テーマ20名以内)

- (1) 学校におけるクライシス・マネージメントの問題 (後口伊志樹)
- (2) みんなの学校問題 (小栗正彦)
- (3) 福祉一障害のある人も健全な人も共に生きるコミュニティについて (加藤文字)
- (4) 社会と子育て (佐藤実芳)
- (5) 高齢者福祉の実態と未来 (霜田一敏)
- (6) ジェンダーと教育 (富安玲子)
- (7) 生涯学習における学校 (渡辺かよ子)
- (8) 国際化を考える

【授業計画】

※印は後期日程 (於 星ヶ丘)

1. 全体、各テーマ別 8月5日 ※1月10日
(1) 総合演習とは、これからのすすめ方
(2) 各テーマの概要説明 (各担当者)
(3) 希望テーマ提出、テーマ別編成
(4) 各テーマ別に課題設定と学習法の指導
2. 8月26日 ※2月10日
課題レポートの提出 (必要部数の印刷)
3. 各テーマ別 9月2日 ※2月17日
(1) 課題レポートについて報告 (1人10~15分)
(2) 質疑応答、問題点について討議
4. 各テーマ別 9月9日 ※2月24日
(1) 問題点について分析検討
(2) グループとして課題について整理、代表者の選出
5. 全体 9月16日 ※3月3日
(1) グループ代表者の発表 (1名15~20分)
(2) 担当教員の指導
(3) 感想文の作成と提出

【評価方法】

レポートと感想文、出席状況によって総合的に評価する。

教育実習指導 (介護体験事前指導を含む)

加藤文字

3年 必修 2単位

【授業の概要】

教育実習前の指導として、学校教育全般にわたる基本的理解並びに教育実習の意義、実習生としての望ましい態度・技能を習得する。また、介護体験実習にむけて個人の尊厳、社会連帯の理念に関する認識を深めさせる。

【授業計画】

1. 教育実習の意義と目的
・前年度実習者からのアンケート結果
・「先輩からの一言」
2. 教育実習の内容と方法
・教育実習の領域
・教育実習の方法
3. 教育実習記録
・実習記録の意義
・実習記録の方法
4. 授業研究
・教材研究、教具の意義
・学習理解を深めるための発問・板書の活用方法
5. 教育実習についての全般的諸注意並びに事後指導
6. 介護体験事前指導
・社会福祉施設等の理解と社会連帯の理念
・特別支援教育諸学校教育の理解
・障害児 (者) 介護への心構え
7. 介護体験事後指導
8. まとめ、アンケート実施

【評価方法】

毎時間の授業態度、課したレポート内容、期末試験の結果 (実習・体験評価を参考) により総合的に評価する。

【テキスト】

教育実習指導では使用せず、必要に応じて資料を配布。
介護体験事前指導では、介護体験ガイドブック「フィリア」(全国特殊学校校長会編著 ジアーズ教育新社) 使用。

教育実習 I

加藤文字

4年 選択 4単位

【授業の概要】

教科に関する専門科目及び教職に関する専門科目で学習した成果を実践し、検証する機会である。

実習校での3週間の教育実習を通じて、教師という専門職としての自覚と誇りを高めるとともに、生徒から親愛と信頼の念をもって迎えられる実習生となるよう、努力と工夫をして3年間の成果を存分に発揮してほしい。

【授業計画】

実習校において、教師としての仕事を行う。

(1) 学級担任として

朝の打合せ、STの諸連絡と生徒観察にはじまり、帰りの清掃指導にいたるまでの仕事内容を理解し、生徒指導にあたる。
また、道徳教育、総合的な学習の指導にあたることも学級事務を担当する。

(2) 教科担任として

前半においては、指導教官の授業参観と授業案の作成及び教材の準備を行う。
後半においては、授業案にもとづいて授業を実施し、指導教官の指導と助言をえて、授業をより充実させるよう努める。

(3) 特別活動として

学級活動、生徒会活動、学校行事、クラブ・部活動に積極的に参加する。

【評価方法】

実習校の評価 (生徒指導、学習指導、実習態度) に基づいて評価する。

【テキスト】

「教育実習指導」の授業時に配付の「教育実習記録」を活用する。

教育実習 II

小栗正彦

4年 選択 2単位

【授業の概要】

教科に関する専門科目及び教職に関する専門科目で学習した成果を実践し、検証する機会である。

実習校での2週間の教育実習を通じて、教師という専門職としての自覚と誇りを高めるとともに、生徒から親愛と信頼の念をもって迎えられる実習生となるよう、努力と工夫をして3年間の成果を存分に発揮してほしい。

生涯学習概論

羽場俊秀

3年 選択 2単位

【授業の概要】

現代社会は、情報化、高齢化、生命・健康、環境などの分野において様々な問題に直面している。また、価値観の多様化に対する寛容さが以前にもまして必要とされる時代になってきている。

このような状況下において、諸問題を解決し、人々が主体的に生活していくためには学校教育で身につけた学力を基礎として、広く社会において学び続けることが大切である。学校教育との有機的関連をもった生涯学習に広がりや深まりが求められるゆえんがそこにある。この講義では、学校教育と関連した生涯発達支援としての生涯学習の原理、実践等について具体的な事例をもとに考察する。

【授業計画】

生涯学習理念の成立と発展
生涯学習実践の課題
生涯学習と社会
生涯学習と人間
社会教育の意義
社会教育施設の概要
社会教育の内容・方法・形態
社会教育指導者
総括

【評価方法】

おもに期末試験（筆記）により評価するが、開講中にレポートを課した場合はこれを評価に加味する。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。授業中に参考文献を適宜紹介する。

【参考文献・資料】

なし

国際理解教育論

羽場俊秀

3・4年 選択 2単位

【授業の概要】

日本の近代化の過程において、どのような経路により先進諸国の文明が導入されたかを考察する。その考察を踏まえ、日本の国際化について教育の視点から考察する。そして、どのように国際理解教育を展開すべきかを考えてみたい。

【授業計画】

1. 日本の近代化の過程における外国文明の摂取
 - (1) 近代化への萌芽
 - (2) 海外視察と帰国後の動向
 - (3) 外国人教員の雇用とその教育への影響
 - (4) 技術伝習による日本の産業の近代化
2. 現代の学校教育における国際化
 - (1) 学校教育における国際理解教育
 - (2) 海外留学生等の派遣と受け入れ

【評価方法】

レポートにより評価を行う。

【テキスト】

授業中に紹介する。

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

生涯学習概論

古野有隣

3年 集中 選択 2単位

【授業の概要】

生涯学習という言葉は最近かなり知名度が高くなってきているが、その意味や意義については必ずしも正確に理解されているとはかぎらない。

この講義では生涯学習の意味するところを、その理念の提唱時からの推移の説明ならびに学校教育との連関をまじえて、理解を深めることをねらいとする。また、先の長い人生を持っている自分にとって学校教育を基礎とする、それを含めた生涯学習とは何なのかを考える契機となればとも思っている。

1. 生涯教育の理念～推移を含めて～
 - ユネスコ以降わが国における推移
 - 生涯教育のめざすもの
 - 生涯教育と生涯学習の関係
2. 生涯教育と社会教育・学校教育との関係
 - 生涯教育と社会教育
 - 生涯教育と学校教育
3. 社会教育の内容・方法・形態：学校教育との違いと連関
 - 行政社会教育の主要領域
 - 社会教育の内容・方法・形態
4. 生涯学習関連施設の現状と展望：学校教育との相補性
 - 生涯学習関連施設の範囲
 - 社会教育施設の種類と現状
5. 生涯学習指導者：学校教師を越えて
 - 生涯学習指導者の範囲
 - 生涯学習指導者の役割

【授業計画】

講義。

【評価方法】

テスト。

【テキスト】

資料集（予価500円）を開始時に頒布。

学校経営と学校図書館

小栗正彦

3・4年 前期集中 必修 2単位

【授業の概要】

学校教育における学校図書館の教育的意義を確認し、より効果的な学校図書館の活用を目指し、教職員のみでなく、生徒会及びPTAとの連携を視野に入れた望ましい学校図書館の組織と運営はいかにあるべきかを、次の点に視座をあてて、具体的な成功事例を紹介し学習する。

【授業計画】

1. 学校図書館の理念と教育的意義
 - (1) 学校教育における学校図書館の役割
 - (2) 館種別にみた図書館の世界
2. 学校図書館の発展と課題
 - (1) 学校図書館法の成立と展開
 - (2) 国内外の先進事例
 - (3) レファレンスサービスの実践
3. 教育行政と学校図書館
4. 学校図書館の経営
 - (1) 学校図書館の経営組織のあり方
5. 司書教諭の役割とその問題点
6. 学校図書館メディアの内容と構成
7. 学校図書館活動と社会のつながり

【評価方法】

出席状況及び課題による。

【テキスト】

プリント配布。

学校図書館メディアの構成

中村和夫

3・4年 前期集中 必修 2単位

【授業の概要】

情報化の著しい進展と共に、従来の活字メディア中心の学校図書館は児童生徒の活字離れにより、大きく変容を迫られている。これからの学校図書館は、児童生徒が喜んで利用できるよう、そのニーズに応え、多様なメディアを取り入れなければならない。この点を中心にして、これからの学校図書館のメディア構成を考えてみたい。

【授業計画】

1. 児童生徒が喜んで利用するメディア構成
 - (1) 現在の学校図書館メディアの実態分析
 - (2) 児童会・生徒会図書委員会と学校図書館の資料選定
 - (3) 児童生徒が学校図書館に期待するものは何か
2. 教育課程にマッチしたメディア構成
 - (1) 教養図書中心から教科学習に必要な資料の収集へ
 - (2) 「総合学習の時間」の視点からのメディア構成
 - (3) 「情報」、「オーラル英語」等新しい教科科目への対応
3. 情報化時代にふさわしいメディアの特質の理解
 - (1) ビデオ、DVD、CD等の視聴覚的メディア
 - (2) FD、CD-ROM等の活字メディアに代わるもの
 - (3) Webサイトに代表されるネットワーク系メディアの活用と問題点
4. 学校図書館メディアの組織化
 - (1) 分類の意義と分類作業の基本
 - (2) 目録の種類と目録作業の基本、目録の機械化

【評価方法】

出席状況及びレポート等による。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

学校図書館メディアの構成 (小田光宏編 樹村房)
 分類・目録法入門 (木原通夫・志保田務 新改訂第3版 第一法規)

学習指導と学校図書館

加納篤憲

3・4年 前期集中 必修 2単位

【授業の概要】

学校図書館は、教育に必要な資料を生徒及び教員の利用に供することによって、(1) 学校の教育課程の展開に寄与するとともに、(2) 生徒の健全な教養を育成することを目的としている。

この授業では、(1) の目的を達成するために学校図書館はどのようなものでなければならないかを、蔵書構成や利用指導の現状と実践例、教科学習や総合学習における図書館利用の方法と実践例について学ぶ。

また、司書教諭の役割とこれからの学校教育に占める重要性について学習するとともに、利用指導の図書館実習を体験することによって、司書教諭の仕事への理解を深める。

【授業計画】

1. 教育課程と学校図書館
2. 学習活動を促進する学校図書館——実践例
3. 学校図書館の現状と問題点——蔵書冊数・蔵書構成・図書館利用
4. 各教科・科目の学習指導と図書館——実践例
5. 「総合学習」における図書館利用
6. 図書館利用における学級担任及び生徒図書委員の役割
7. 図書館実習——テーマ学習における司書教諭の指導について
8. 討論——中学・高校時代の経験を踏まえて、学校図書館及び司書教諭の望ましいあり方について考える。

【評価方法】

期末試験、レポートの成績と出席状況を総合して評価。

【テキスト】

自作プリント教材 (付資料)

【参考文献・資料】

特になし

読書と豊かな人間性

梅田卓夫

3・4年 前期集中 必修 2単位

【授業の概要】

現在、児童生徒の読書離れの傾向は拡大し、まったくと言っていいほど本を読まなくなってきた。

児童生徒の読書離れの要因と実態を解明するとともに、学校図書館が「読書と豊かな人間性」の視点に立って、どのような役割を果たすべきかを、具体的な事例を紹介するとともに、一方的な講義に終わることなく、受講者自身の体験も取り入れ、以下のような視座に立った参加型授業を展開する。

【授業計画】

1. 読書のよこび
 - (1) 人はどのようにして読書の楽しみと出会うのか
 - (2) 代表的な先人の読書経験から学ぶもの
 - (3) 受講者自身の学校図書館での本との出会い
2. 人間形成と読書
 - (1) 幼児期における読み聞かせの教育的意味
 - (2) 少年期・青年期の決定的・運命的な読書との出会い
 - (3) 読書における、内省、思索の意義
3. 学校教育における読書指導
 - (1) 教師による本の紹介、読み聞かせ
 - (2) 「十分間読書」「朝の黙読」等の実践例
4. 読書と仲間作り
 - (1) 家庭での読書についての親子の対話
 - (2) 友達同士の読書グループ、読書会
 - (3) 学区図書館を利用した共同研究
5. 読書の技術
 - (1) 情報化時代の読書のあり方
 - (2) 愛読書、好きな作家

【評価方法】

出席状況及びレポートによる。

【テキスト】

使用しない。

【授業の概要】

学校図書館の高度情報化は21世紀には避けて通れない状況である。現在の状況は必ずしも満足はできないが、学校図書館に将来関係すると思われる新しいメディアの運用についての基礎知識と技能は、今後学校図書館の仕事に携わる教員にとって必須だと言える。以上の観点から、次のテーマで実践的な学習を行ない、これからの情報化される学校図書館の効果的な活用を目標とする。

【授業計画】

1. 学校図書館と情報機器
 - (1) 学校図書館におけるコンピュータの役割と活用
 - (2) 学校図書館に設置する情報機器
2. 学校図書館とコンピュータとの関わり
 - (1) 図書検索とコンピュータ (OPAC)
 - (2) インターネットを使用しての資料の収集
3. 学校図書館の情報メディアの活用
 - (1) 視覚メディアとしてのVTR等
 - (2) 聴覚メディアとしてのDVD、CD等
 - (3) 活字メディアに代わるCDRom、マイクロフィルム等

【評価方法】

出席状況及び試験による。

【テキスト】

使用しない。

英語海外セミナーⅠ（米国）

担当者未定

1～4年 前期集中 選択 2単位

【授業の概要】

語学学習と異文化体験を目的とする、アメリカ北東部のウエスト・バージニア大学における海外英語研修プログラム。全学を対象に実施される。参加者は、キャンパス近辺のホテルに滞在し、約3週間の集中授業を受ける。週末のホームステイ、小旅行、現地学生および留学生との交流なども用意されている。出発前に行われる数回のオリエンテーションおよび事前事後のライティング課題なども含めて全てを修了すれば、本学の単位が与えられる。

期間は2月中旬から3月中旬の約1ヶ月、定員は約30名。面接およびTOEICスコアにより選考を行う。

2004年度実施研修プログラムにおける1日（9:00～15:20）の学習内容は、以下の通り：

- 午前 少人数制英会話クラスと総合英語の授業
- 午後 アメリカ文化の授業とプロジェクト（音楽/芸術・ニューズレター作成などのプロジェクトから、各自が興味のある分野を選択し、英語による意見交換を行いつつ仕上げていき、修了パーティーで発表する。）

【授業計画】

この研修は、ウエスト・バージニア大学が本学学生のために用意する特別プログラムである。（全期間の学習および生活面全ての指導は、現地教員およびプログラムスタッフが当たる。期間中、本学教職員は滞在しない。）

【評価方法】

ウエスト・バージニア大学授業担当者の評価および研修前後の課題から総合的に判断する。

【テキスト】

現地にて用意される。

【参考文献・資料】

オリエンテーションで指示する。

英語海外セミナーⅡ（オーストラリア）

NORRIS, Harry T.

1～4年 後期集中 選択 2単位

【Course Content】

Students will be in an English Emersion course with Canberra University. Students will study English and English usage in class, have many English activities out of class and weekly excursions to places of interest around Canberra. Students will home-stay for the entire period in Canberra.

【Schedule】

After welcome and introductions on the first day. Daily schedules will include morning classes with afternoon activities. Wednesday afternoons will be set aside for excursions to places of interest such as a farm, the National gallery and Questacon. The course will conclude with a 2 day excursion to Sydney, including sight seeing and a theatre show.

【Assessment】

Assessment will be based on Canberra University's standards. These standards are based on ability to use English, willingness to try to use English and improvement in English ability.

【Textbooks】

No text, as necessary worksheets will be given.

外国語教育センター主催の韓国・朝鮮語科目は、言活（韓国・朝鮮語）のページを参照ください。

米国 NPO インターンシッププログラム

榎田勝利

1～4年 後期集中 選択 2単位

【授業の概要】

米国ワシントンD.C.にあるCivil Society Consulting Group (CSCG) との共同プログラムとして実施する。米国の民間非営利組織（NPO）でのインターンシップの体験を通して米国社会が抱える深刻な社会問題を理解し、その問題解決の方法を学ぶ。インターンシップの期間中は、一般の米国人の家庭でのホームステイをし、日常生活を体験する。インターンシップの受け入れ場所は、ワシントンD.C.および周辺地域で、学生の関心分野、英語力、専門的知識、経験等を考慮し、受け入れ団体を決める。実践の場を通して、異文化コミュニケーション能力と情報技術能力の向上を図り、学生の将来のキャリア形成の一助ともなる機会を提供する。

（活動可能な分野）老人、児童・青少年、自然・環境、識字教育、障害者、家族、ホームレス、ジェンダー、文化・芸術、スポーツ、バイリンガル教育、外国人支援、国際交流・国際協力、博物館・美術館、図書館、その他。

（米国側協力団体）Civil Society Consulting Group (CSCG)

【授業計画】

（事前研修）インターンシップの活動分野の決定・日米のNPO、ボランティア団体等の現状学習・日本のNPO、ボランティア団体へのフィールドワーク・英会話のトレーニング・米国側ディレクターによる合宿オリエンテーション

（現地プログラム）オリエンテーション合宿・基本的に月曜から金曜までの5日間のインターン・1日特別研修プログラム・インターンシップの体験報告書の作成と提出・評議会、修了式、さよならパーティ

（事後研修）フォローアップ研修、報告書作成

【評価方法】

現地での評価（受け入れ団体、ホストファミリー等と報告書）を考慮し総合評価を行う。

【テキスト】

米国側提出の英文資料

【参考文献・資料】

研修時にその都度資料を提供する

中国語海外セミナーⅠ（中国）

馮富榮

1～4年 後期集中 選択 2単位

【授業の概要】

この授業では、言語実践を通して、言葉を知り、理解し、発信し、理解されることの楽しさを体験することができる。また南京師範大学に滞在して生活することで、中国に対する単なる傍観者・観察者ではなく、客観的な目をもった共感者になることを目指す。

1. 南京師範大学において4週間の中国語研修を行う。
 - ◎ 月曜～金曜の午前中は8:00～11:30まで中国語の授業。日本語のできない先生が中国語で授業するが、分かるのが不思議。内容は会話表現中心。
 - ◎ 午後は課外活動として南京市内見学（中山陵、南京博物館、玄武湖、夫子廟、南京大屠殺記念館など）を通して、南京の風俗、歴史を学び、日本語学科の学生との交流会などを通して中国人同世代の人の考え方や生活を学ぶ。
 - ◎ 夜は予習復習に追われる。みんな教室に集まって、黙々と勉強。
 - ◎ 土曜と日曜は言語実践の日。南京の街へ飛び出そう!
 - ◎ 風光明媚な「瘦西湖」で名高い揚州への一日旅行。
2. 言語文化論Ⅰの講義内容と呼応した5日間ほどの研修旅行。
3. 定員は20名程度。
4. 今年度の2月中旬から3月中旬にかけて実施する。
5. 終了者に2単位を認定する。

【授業計画】

4月のガイダンスで研修の内容などを説明する。後期開講科目であるが、履修登録を必要とせず、参加したことによって単位が取得できる。9月下旬頃、参加募集を掲示に出し、10月中旬頃に参加者を決定する。その後、説明会を2回ほど、オリエンテーションを1回実施する。詳しくは掲示を見る。2月中旬に出発し、3月中旬に帰国する。費用は25万程度。

【評価方法】

引率者は平常点で評価する。

【テキスト】

南京師範大学の研修授業の担当先生が決めるテキストを使用する。

韓国・朝鮮語海外セミナー I (韓国)

チョスルソップ

1～4年 前期集中 選択 2単位

【授業の概要】

韓国語の学習と韓国文化の体験、そして韓国の大学生との交流を目的に設けられた研修です。韓国屈指の名門、ソウルの梨花女子大において実施されます。梨大(イデ)の言語教育院が主催する「韓国語短期過程」に合流する形での韓国語の授業、韓国の文化と社会を理解し体験できるための韓国文化の各講座、韓国の庶民生活がじかに体験できる2泊3日におよぶホームステイ、そしてこの国際時代の未来をともに生きる韓国の若者と一緒に語りあい、活動しあえる日韓学生共同プログラムなどが正規のメイン企画です。その他、ソウル随一の学生街、おしゃれ街として知られる新村での一夏の生活もこの研修の大きな魅力の一つです。

期間：夏期休暇の8月中の3～4週間

内容：

1. 韓国語研修
 - a. 梨大(イデ)の言語教育院が主催する「韓国語短期過程」に合流
 - b. 実生活での意思疎通のための集中的韓国語の学習
 - c. 入門の1段階から最上級の6段階に分けられたクラス編成
 - d. 専門教授陣による自分の能力に見合ったクラスでの研修
2. 韓国文化研修
 - a. 芝居鑑賞
 - b. 板門店の訪問
 - c. ホームステイ(2泊3日)
3. 日韓学生共同プログラム
 - a. 毎週1回程度の頻度
 - b. テーマごとに、韓日の大学生が協同参加で活動する大学生との交流行事
 - c. テーマ、「韓国と日本の大学生活を語る」、「地域探訪(文化財調査)」、「韓国の民俗と礼節」など
4. その他の課外活動

【授業計画】

- 4～5月：ガイダンス、参加者の募集および決定
6～7月：数回の事前研修
8月：現地研修
9～11月：事後研修および報告書のまとめ

【評価方法】

現地教員、プログラムの関連スタッフ、および引率教員の総合評価による。

【テキスト】

現地研修の韓国語教材「Pathfinder in Korean 1,2,3,4,5」(梨花女子大学校出版部)中
その他は特になし

Japan's Global Interface

藤井正志 太田浩司 宮田 Susanne ブイ チトルン
國信潤子 梅田敏文 JOLLY, James A. 石橋善弘

オムニバス 1～4年 後期 選択 2単位

【授業の概要】

本講義は、国際交流・国際協力・国際ビジネスなどのテーマを通して日本の文化や社会の理解を深める。受講対象者は、特別科目等履修生(ただし交換留学による者)・留学生別科生・一定の資格を満たす学部生・大学院生(含む外国人留学生)である。

This omnibus lecture will be conducted in English and introduce students to cultural exchange, international cooperation and international business, and the part Japan plays in these intercultural movements. Along with increasing an awareness of Japan's global interface will come a deeper understanding of Japanese culture and society. This lecture is open to: Special Credit-Auditors (exchange students only)・Students enrolled in the Japanese Studies Program at the Center for Japanese Language and Culture-Undergraduate students, graduate Students and overseas students. (Basic English skills are required.)

【授業計画】

- | | |
|-------------------------|--|
| 1 FUJII, Masashi | Introduction |
| 2 OTA, Hiroshi | Language Use in Japan |
| 3 OTA, Hiroshi | Language Use in Japan |
| 4 MIYATA, Susanne | Intercultural Communication from a Psychological Point of View |
| 5 MIYATA, Susanne | Intercultural Communication from a Psychological Point of View |
| 6 BUI, Chi Trung | Intercultural Communication Through NPO Activities |
| 7 KUNINOBU, Junko | Gender Relations in Japanese Society |
| 8 UMEDA, Toshifumi | Information Technology and Information Ethics |
| 9 UMEDA, Toshifumi | Information Technology and Information Ethics |
| 10 JOLLY, James | Developing International Business Practices |
| 11 JOLLY, James | Developing International Business Practices |
| 12 ISHIBASHI, Yoshihiro | Statistics in Social Sciences |
| 13 ISHIBASHI, Yoshihiro | Statistics in Social Sciences |

【評価方法】

Assessment will be based on attendance and/or a paper.
出席点及び教員ごとにレポートを課し、総合的に評価する。

【テキスト】

To be announced

【参考文献・資料】

To be announced

外国語教育センター主催の韓国・朝鮮語科目は、言活(韓国・朝鮮語)のページを参照ください。

スポーツ特殊講座(ボウリング)

松田秀子

1～4年 前期集中 選択 2単位

【授業の概要】

ボウリングを通して、基礎技術の向上と知識の習得を目標とし、生涯スポーツの実践へとつなげる。

【授業計画】

〔ボウリング〕

1. 期日
実習 平成17年9月7日(水)・8日(木)・9日(金)
12日(月)・13日(火)・14日(水)
計6日間 午前中のみ
2. 説明会 平成17年7月6日(水) 12:30～13:15
実習に必要な諸手続きを行ないますので、必ず参加すること。
3. 場所 星ヶ丘ボウル
4. 実習費 6,000円(平成16年度のものでありますので変更する場合があります。)
5. 定員 60名
6. 内容
 - 1日目 開講式、ボウリング学習の意義と特質、用具説明
 - 2日目 ボウリングの歴史、基本動作
 - 3日目 ボールのコントロール、軌道調整
 - 4日目 アジャスティングの基本と実践、3-2-1理論
 - 5日目 レーンコンディションとボールの曲がり
ストライクアングルの実践練習
 - 6日目 競技会説明、競技会(アメリカン方式3ゲーム)、閉講式

【評価方法】

出席状況と実習中の技術の上達度により総合評価する。

スポーツ特殊講座(スケート)

松田秀子

1～4年 後期集中 選択 2単位

【授業の概要】

スケートを通して、基礎的技術の向上と、知識の習得を目標とし、楽しさを学び生涯スポーツの実践へとつなげる。

【授業計画】

〔スケート〕

1. 期日
実習 平成18年2月8日(水)・9日(木)
10日(金)・13日(月)
14日(火)・15日(水)
計6日間 午前中のみ
2. 説明会 平成18年1月11日(水) 12:30～13:15
実習に必要な諸手続きを行ないますので、必ず参加すること。
3. 場所 名古屋スポーツセンター(大須)
4. 実習費 7,200円(平成16年度のものでありますので変更する場合があります。)
5. 定員 40名
6. 内容
 - 1日目 開講式、床で歩行練習、基本姿勢、氷上歩行・両足滑走
 - 2日目 自然滑走、正しい押し出し
 - 3日目 フォアスケータージョーグ・カーブ滑走
 - 4日目 ストップ、バックスケータージョーグの基本
 - 5日目 クロスステップ、フォアからバックへのターン
 - 6日目 総合練習、実技テスト、閉講式

【評価方法】

出席状況と実習中の技術の上達度により総合評価する。